

観光学部
(2016年度以降入学者用)

観光学研究科

2019年度
履修要項

立教大学

教務事項の伝達について

I 掲示

大学から学生への連絡は、原則として掲示によって行う。掲示を確認しなかったために生じる不利益は、本人の責任となるので、登校時には必ず掲示を確認する習慣をつけること。掲示した事項については学生に伝達したものとみなす。掲示内容に疑問がある場合は、教務窓口で直接問い合わせる。電話や電子メールによる問い合わせには、一切応じない。

種類	設置場所	掲載内容
各学部・研究科掲示板	池袋キャンパス 教務事務センター前	■各学部生・各研究科学生への伝達事項
全学共通科目掲示板		■各学部科目・各研究科科目にかかわる伝達事項
教務全学用掲示板	新座キャンパス 7号館と4号館の間	■全学共通科目にかかわる伝達事項
f-Campus掲示板		■公示・学年暦等全学にかかわる伝達事項 ■f-Campusにかかわる伝達事項
インフォメーションボード	池袋キャンパス 5/8/14号館1階	■全学の休講
	新座キャンパス 1号館1階/4号館2階	■全学の教室変更(2週間分)・学生呼出

II 教務関連ホームページ

●SPIRIT 教務部ページ

⇒ https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/

教務からのお知らせ、履修要項、シラバス・時間割、履修・成績参照、休講情報などが確認できる。

●シラバス・時間割検索

⇒ <https://sy.rikkyo.ac.jp/timetable/>

開講科目のシラバス・時間割・科目コード・科目名・担当者・教室が確認できる。

●履修登録/成績参照/履修登録状況

⇒ <https://r.rikkyo.ac.jp/> (ログイン時のID・パスワードはV-Campusと同じ)

履修登録(抽選登録・科目コード登録)、成績参照および当年度の履修登録状況について確認することができる。

※開講科目の変更内容・各登録システムマニュアルについても閲覧が可能。

III 緊急時連絡

台風の接近等により、授業を平常通り行うことができないと判断した場合は、休講などの特別措置をとることがある。特別措置の内容については、掲示、ホームページ等または電話で確認すること。

[立教大学ホームページ](http://www.rikkyo.ac.jp/)

<http://www.rikkyo.ac.jp/>

[立教大学 Twitter](https://www.twitter.com/rikkyouniv)

<https://www.twitter.com/rikkyouniv>

[立教大学公式Facebookページ](https://www.facebook.com/RikkyoUniversity)

<https://www.facebook.com/RikkyoUniversity>

※試験期間についても前記の措置をとることがある。

※大学の窓口業務、諸施設の利用については、ホームページおよび掲示によって周知する。

2019年度 教務窓口について

学部・研究科等	窓 口	場 所	窓口時間 ^{※1} (授業期間中)
文・経済・理・社会・法・経営の各学部・研究科学生 異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科 (2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者を除く)の学生 グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生 キリスト教学研究科学生	池袋キャンパス 教務事務センター	池袋キャンパス タッカーホール1階	月～金 8:50～17:30 土 8:50～12:30
観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部・研究科学生	新座キャンパス 教務事務センター	新座キャンパス 7号館1階	
ビジネスデザイン・21世紀社会デザインの各研究科学生 異文化コミュニケーション研究科 (2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者)の学生	独立研究科事務室	池袋キャンパス 11号館4階	月～金 12:30～20:30 土 10:00～17:00
法務研究科学生	法務研究科事務室 ^{※2}	池袋キャンパス 11号館4階	月～金 8:50～17:00 土 8:50～12:30
教職・学芸員・司書・社会教育主事課程登録者	池袋キャンパス 学校・社会教育講座 事務室	池袋キャンパス 2号館1階	
	新座キャンパス 学校・社会教育講座 事務室	新座キャンパス 7号館1階	月～金 9:00～17:00 土 閉室

※1 授業期間中の通常窓口時間は上記のとおりである。授業期間とは、春学期・秋学期の授業開始日から最終授業日までをいう（オリエンテーション期間および定期試験期間は除く）。授業期間以外の窓口時間は、原則 月～金9:00～17:00、土9:00～12:30となる。また、特別な場合の窓口時間については、ホームページおよび掲示によって周知する。

※2 学生証・学籍に関する事項は、新座キャンパス教務事務センターにて取り扱う。

2019年度 観光学部・観光学研究科 行事予定 (春学期)

カレンダー 休日・祝日 ☐ 休日・祝日授業日 全日休講日		日程	行事予定	学部	研究科																																										
2019 3 March <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> <tr><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31							28日(木)	成績発表 (Web)	○	○
					1	2																																									
3	4	5	6	7	8	9																																									
10	11	12	13	14	15	16																																									
17	18	19	20	21	22	23																																									
24	25	26	27	28	29	30																																									
31																																															
		27日(水)~29日(金)	履修要項配付	○	○																																										
4 April <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td></tr> <tr><td>28</td><td>(29)</td><td>(30)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>									1	2	3	4	5	6		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	(29)	(30)					3日(水)	英語単位認定試験 試験時間・試験場発表 (予定)	○	
1	2	3	4	5	6																																										
7	8	9	10	11	12	13																																									
14	15	16	17	18	19	20																																									
21	22	23	24	25	26	27																																									
28	(29)	(30)																																													
		2日(火)~11日(木)	4月期 履修登録 期間	科目コード登録期間	○	○																																									
		2日(火)~5日(金)		抽選登録1次申込期間	○																																										
		7日(日)		抽選登録1次結果発表	○																																										
		7日(日)・8日(月)		抽選登録2次申込期間	○																																										
		9日(火)		抽選登録2次結果発表	○																																										
		12日(金) 18:00~		履修登録科目の確認 ★1	○	○																																									
		4日(木)~6日(土)		入学式 ※学部・研究科により異なる	○	○																																									
		10日(水)		春学期・春学期1 授業開始	○	○																																									
		16日(火)・17日(水)		4月期 履修登録 修正期間	○	○																																									
		18日(木) 18:00~		履修登録科目の確認 ★1	○	○																																									
		25日(木)	申し出期限	○	○																																										
		29日(月)	授業日 ★2	○	○																																										
		30日(火)	授業日 ★2	○	○																																										
5 May <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>(4)</td></tr> <tr><td>5</td><td>(6)</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td></tr> <tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr> <tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td></tr> </table>					1	2	3	(4)	5	(6)	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		4日(土)	授業日 ★2	○	○							
			1	2	3	(4)																																									
5	(6)	7	8	9	10	11																																									
12	13	14	15	16	17	18																																									
19	20	21	22	23	24	25																																									
26	27	28	29	30	31																																										
		6日(月)	授業日 ★2	○	○																																										
		11日(土) 3時限以降	補講日 *実施科目発表は5月4日(土)	○	○																																										
		7日(火)~9日(木)	春学期1開講科目 履修中止申請期間	○																																											
		18日(土)	春学期1末試験 実施方法発表 (予定)	○	○																																										
		31日(金)	春学期1 授業終了	○	○																																										

★1 履修登録状況画面 (Web) にて必ず確認すること。

★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

- ・次年度の学年始め行事予定の詳細は1月中旬に各学部等掲示板にて発表する。
- ・各種申込の受付時間については、必ず別途確認すること。

カレンダー ■ 休日・祝日 ◯ 休日・祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定	学部	研究科																																																	
<div style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">6</div> <div style="text-align: center;">June</div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30							1日(土)～7日(金) 1日(土) 1日(土)3時限以降 8日(土) 18日(火)～20日(木) 29日(土)3時限以降	春学期1 レポート提出期間 春学期2 授業開始 補講日 *実施科目発表は5月24日(金) 英語単位認定試験実施 春学期科目(春学期1開講科目を除く) 履修中止申請期間 補講日 *実施科目発表は6月21日(金)	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
日	月	火	水	木	金	土																																															
						1																																															
2	3	4	5	6	7	8																																															
9	10	11	12	13	14	15																																															
16	17	18	19	20	21	22																																															
23	24	25	26	27	28	29																																															
30																																																					
<div style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">7</div> <div style="text-align: center;">July</div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td></tr> <tr><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				1日(月) 15日(月) 19日(金) 2日(火) 13日(土)～19日(金) 20日(土)～26日(金) 20日(土)～31日(水)	英語単位認定試験合格発表 授業日 ★2 春学期・春学期2 授業終了 日程・実施方法・試験場発表(予定) 春学期末試験 最終授業時試験期間 レポート提出期間(春学期1開講科目を除く) 定期試験期間	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○							
日	月	火	水	木	金	土																																															
	1	2	3	4	5	6																																															
7	8	9	10	11	12	13																																															
14	15	16	17	18	19	20																																															
21	22	23	24	25	26	27																																															
28	29	30	31																																																		
<div style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">8</div> <div style="text-align: center;">August</div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> <tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1日(木)～9月19日(木) 27日(火)	夏季休業期間 春学期末追試験 対象者・試験方法・時間割発表	○ ○	○ ○							
日	月	火	水	木	金	土																																															
				1	2	3																																															
4	5	6	7	8	9	10																																															
11	12	13	14	15	16	17																																															
18	19	20	21	22	23	24																																															
25	26	27	28	29	30	31																																															

★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

2019年度 観光学部・観光学研究科 行事予定 (秋学期)

カレンダー	日程	行事予定	学部	研究科																																																
<p>カレンダー</p> <p>■ 休日・祝日 □ 休日・祝日授業日 ▲ 全日休講日</p> <p style="text-align: center;">9 September</p> <table border="1"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30						<p>5日(木) 春学期成績発表 (Web)</p> <p>5日(木)~12日(木) 春学期末追試験 試験期間</p> <p>12日(木) 英語単位認定試験試験時間・試験場発表 (予定)</p> <p>12日(木)~21日(土) 科目コード登録期間</p> <p>12日(木)~15日(日) 9月期 履修登録期間</p> <p>17日(火) 抽選登録1次申込期間</p> <p>17日(火)・18日(水) 抽選登録1次結果発表</p> <p>19日(木) 抽選登録2次申込期間</p> <p>23日(月) 18:00~ 抽選登録2次結果発表</p> <p>19日(木) 履修登録科目の確認 ★1</p> <p>19日(木) 大学院学位授与式・特別卒業式</p> <p>20日(金) 秋学期・秋学期1 授業開始</p> <p>23日(月) 授業日 ★2</p> <p>26日(木)・27日(金) 9月期 履修登録修正期間</p> <p>28日(土) 18:00~ 履修登録科目の確認 ★1</p> <p>10月5日(土) 申し出期限</p>	<p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p>	<p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p>
日	月	火	水	木	金	土																																														
1	2	3	4	5	6	7																																														
8	9	10	11	12	13	14																																														
15	16	17	18	19	20	21																																														
22	23	24	25	26	27	28																																														
29	30																																																			
<p style="text-align: center;">10 October</p> <table border="1"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>▲4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>▲16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr> <tr><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土										1	2	3	▲4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	▲16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			<p>4日(金) 全日休講</p> <p>8日(火)~10日(木) 秋学期1 開講科目 履修中止申請期間</p> <p>14日(月) 授業日 ★2</p> <p>16日(水) 全日休講 (スポーツフェア)</p> <p>19日(土) 3時限以降 補講日 *実施科目発表は10月11日(金)</p> <p>22日(火) 授業日 ★2</p> <p>30日(水) 秋学期1 末試験 実施方法発表 (予定)</p> <p>31日(木)~11月5日(火) 秋季臨時休業期間 (学園祭)</p>	<p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p>	<p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p>
日	月	火	水	木	金	土																																														
		1	2	3	▲4	5																																														
6	7	8	9	10	11	12																																														
13	14	15	▲16	17	18	19																																														
20	21	22	23	24	25	26																																														
27	28	29	30	31																																																
<p style="text-align: center;">11 November</p> <table border="1"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>▲16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>▲26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> </table> <p>※池袋キャンパス開講科目のみ全日休講</p>	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	▲16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	▲26	27	28	29	30	<p>7日(木)・8日(金) 修士論文仮提出期間</p> <p>9日(土) 英語単位認定試験実施</p> <p>15日(金) 秋学期1 授業終了</p> <p>18日(月)~23日(土) 秋学期1 レポート提出期間</p> <p>16日(土) 秋学期2 授業開始</p> <p>16日(土) 秋季入学試験 ※池袋キャンパス開講科目のみ全日休講</p> <p>23日(土) 授業日 ★2</p> <p>23日(土) 3時限以降 補講日 *実施科目発表は11月15日(金)</p> <p>26日(火) 全日休講</p>	<p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p>	<p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p> <p>○ ○</p>							
日	月	火	水	木	金	土																																														
					1	2																																														
3	4	5	6	7	8	9																																														
10	11	12	13	14	15	▲16																																														
17	18	19	20	21	22	23																																														
24	25	▲26	27	28	29	30																																														

★1 履修登録状況画面 (Web) にて必ず確認すること。
★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

・次年度の学年始め行事予定の詳細は1月中旬に各学部等掲示板にて発表する。
・各種申込の受付時間については、必ず別途確認すること。

カレンダー ■ 休日・祝日 □ 休日・祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定	学部	研究科																																												
12 December <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>▲4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>▲23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	▲4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	▲23	24	25	26	27	28	29	30	31					2日(月)	英語単位認定試験合格者発表	○			
	日	月	火	水	木	金	土																																									
	1	2	3	▲4	5	6	7																																									
	8	9	10	11	12	13	14																																									
	15	16	17	18	19	20	21																																									
	22	▲23	24	25	26	27	28																																									
	29	30	31																																													
	3日(火)～5日(木)	秋学期科目(秋学期1開講科目を除く)・通年科目 履修中止申請期間	○																																													
4日(水)	全日休講	○	○																																													
12日(木)	<table border="1" style="width:100%;"> <tr> <td style="width:30%;">秋学期末・ 学年末試験</td> <td>日程・実施方法・試験場発表(予定)</td> </tr> </table>	秋学期末・ 学年末試験	日程・実施方法・試験場発表(予定)	○	○																																											
秋学期末・ 学年末試験	日程・実施方法・試験場発表(予定)																																															
12日(木)・13日(金)	卒業論文提出期間	○																																														
14日(土)3時限以降	補講日 *実施科目発表は12月6日(金)	○	○																																													
23日(月)	全日休講	○	○																																													
24日(火)～1月4日(土)	冬季休業期間	○	○																																													
2020 1 January <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18[※]</td></tr> <tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr> <tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td></tr> </table> ※新座キャンパス開講科目のみ全日休講	日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18 [※]	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		9日(木)・10日(金)	修士論文提出期間		○		
	日	月	火	水	木	金	土																																									
				1	2	3	4																																									
	5	6	7	8	9	10	11																																									
	12	13	14	15	16	17	18 [※]																																									
	19	20	21	22	23	24	25																																									
	26	27	28	29	30	31																																										
	18日(土)	大学入試センター試験 ※新座キャンパス開講科目のみ全日休講	○	○																																												
22日(水)	秋学期・秋学期2 授業終了	○	○																																													
(池袋)16日(木)～22日(水) (新座)11日(土),16日(木), 17日(金),20日(月)～22日(水)	<table border="1" style="width:100%;"> <tr> <td style="width:30%;">秋学期末・ 学年末 試験</td> <td>最終授業時試験期間</td> </tr> </table>	秋学期末・ 学年末 試験	最終授業時試験期間	○	○																																											
秋学期末・ 学年末 試験	最終授業時試験期間																																															
23日(木)～29日(水)	レポート提出期間(秋学期1開講科目を除く)	○	○																																													
23日(木)～2月3日(月)	定期試験期間	○	○																																													
21日(火)	修士論文報告会		○																																													
23日(木)・24日(金)	修士論文審査会・最終試験		○																																													
2 February <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	3日(月)	卒業論文報告会	○			
	日	月	火	水	木	金	土																																									
							1																																									
	2	3	4	5	6	7	8																																									
9	10	11	12	13	14	15																																										
16	17	18	19	20	21	22																																										
23	24	25	26	27	28	29																																										
18日(火)	<table border="1" style="width:100%;"> <tr> <td style="width:30%;">秋学期末・ 学年末追試験</td> <td>対象者・試験方法・時間割発表</td> </tr> </table>	秋学期末・ 学年末追試験	対象者・試験方法・時間割発表	○	○																																											
秋学期末・ 学年末追試験	対象者・試験方法・時間割発表																																															
28日(金)	卒業合格者(在学8学期以上の者)・修了合格者(在学4学期以上の者)発表(Web)	○	○																																													
3 March <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					2日(月)～7日(土)	<table border="1" style="width:100%;"> <tr> <td style="width:30%;">秋学期末・ 学年末追試験</td> <td>試験期間</td> </tr> </table>	秋学期末・ 学年末追試験	試験期間	○	○
	日	月	火	水	木	金	土																																									
	1	2	3	4	5	6	7																																									
	8	9	10	11	12	13	14																																									
	15	16	17	18	19	20	21																																									
	22	23	24	25	26	27	28																																									
	29	30	31																																													
秋学期末・ 学年末追試験	試験期間																																															
13日(金)	成績発表(Web)	○	○																																													
23日(月)	卒業礼拝(新座)	○	○																																													
24日(火)	卒業礼拝(池袋)	○	○																																													
24日(火)・25日(水)	卒業式 ※学部により異なる	○																																														
25日(水)	大学院学位授与式		○																																													

観光学部全学生にかかわる事項

全学共通科目について

総合系科目（全学共通科目）

言語系科目（全学共通科目）

学科ごとの履修規定
カリキュラム

観光学研究科博士課程前期課程

観光学研究科博士課程後期課程

諸規則

個人情報保護

各種案内

教員一覧

案内図

2019年度

履修要項

観光学部
観光学研究科

目次

教務事項の伝達について
教務窓口について
行事予定表

.....
観光学部教育理念・学位授与方針

観光学部全学生にかかわる事項

I	カリキュラムのしくみ	16
	1 カリキュラムのしくみ	
	2 科目ナンバリングについて	
II	授業（学習生活）	21
	1 学期・授業	
	2 授業時間	
	3 休講	
	4 補講	
	5 授業の欠席について	
	6 学校感染症に罹患した場合の措置について	
	7 裁判員制度に伴う場合の措置について	
III-1	履修規定（単位）	24
	1 単位制度	
	2 卒業要件単位	
III-2	履修規定（履修についての注意事項）	25
	1 全体についての注意事項	
	2 演習科目の履修	
	3 各種演習科目の履修	
	4 卒業論文	
	5 他学部・他学科科目	
	6 5大学間単位互換制度（f-campus）による科目の履修	
	7 派遣留学生・認定校留学生の履修	
III-3	履修規定（カリキュラムの一部改定について）	32
	1 科目名の変更	
	2 科目の新設	
III-4	履修規定（単位認定）	33
	1 派遣留学制度による単位認定	
	2 認定校留学制度・観光学部学部間協定校留学プログラムによる単位認定	
	3 入学前に修得した単位の認定	
	4 入学後に他大学等で修得した単位の認定	
IV	学習計画の立て方・アドバイザー	37
	1 学習計画の立て方	
	2 アカデミックアドバイザー・オフィスアワー	
V	履修登録	38
	1 履修登録とは	
	2 履修登録の流れ	
	3 履修届出方法	
	4 登録科目の確認について	
	履修登録状況の確認	
	5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認	

	6 履修中止制度	
VI	試験・成績	50
	1 試験に関する規定	
	2 試験方法	
	3 筆記試験	
	4 口頭試問	
	5 レポート	
	6 追試験	
	7 試験時間重複特別試験	
	8 不正行為	
	9 成績	
VII	卒業に関する事項	63
	1 卒業および学位に関する規定	
	2 最長在学年数	
	3 卒業合否の発表	
	4 卒業の延期（希望留年）	
	5 特別卒業	
VIII	学生証・学籍・学費	65
	1 学生証	
	2 学籍	
	3 休学・復学	
	4 退学	
	5 希望留年（学部4年次生のみ）	
	6 特別卒業	
	7 特別修了	
	8 再入学	
	9 学費	
IX	グローバル教養副専攻	71
	1 グローバル教養副専攻（G副専攻）とは	
	2 G副専攻の全体像	
	3 G副専攻修了のための要件	
	4 G副専攻のコース・テーマ	
	5 G副専攻のコース登録	
	6 海外体験の事前審査・認定申請手続き	
	7 G副専攻の修了証の発行	
	8 4年間のスケジュール・モデルケース	
X	5大学間単位互換制度（通称f-Campus）	80
	1 履修登録	
	2 授業	
	3 試験・成績・単位認定	
	4 学費等	
	5 その他	
XI	社会調査士	82
	1 資格の趣旨	
	2 資格取得の申請方法・場所	
	3 資格取得に必要な科目	

XII	大学院特別進学生制度	84
	1 趣旨	
	2 募集人員	
	3 出願資格	
	4 実施時期と方法	
	5 履修登録上限単位数	
	6 修得単位の扱い	
	7 特別進学生制度利用による大学院進学の内容	
XIII	寄付講座	86
XIV	保険加入について	87

全学共通科目について

全学共通科目とは	全-3
総合系科目について	全-7
1 総合系科目とは	
2 科目群・科目名	
3 履修上の注意	
4 過年度に開講されていた総合系科目	
2019年度総合系科目開講科目一覧	
言語系科目について	全-39
1 言語系科目とは	
2 必修科目に関する特別措置	
3 履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置	
必修科目	全-43
1 英語	
2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）	
3 日本語（文ド専・フ専以外の外国人留学生のみ）	
4 指定年次・学期以後の単位修得方法（英語単位認定試験、英語R、英語ディスカッションの再履修）	
自由科目	全-53
1 自由科目 履修上の注意	
2 自由科目 科目一覧表	
3 グローバル教養副専攻学部展開科目 科目一覧表	

学科ごとの履修規程・カリキュラム（2019年度以降1年次入学者適用）

観光学科	90
交流文化学科	95

学科ごとの履修規程・カリキュラム（2016～2018年度1年次入学者適用）

観光学科	102
交流文化学科	110

観光学研究科にかかわる事項

観光学研究科の教育理念・学位授与方針

科目ナンバリングについて	122
博士課程前期課程	124
Ⅰ 授業（学習生活）	
Ⅱ-1 履修規定（単位）	

II-2 履修規定（履修についての注意事項）	
II-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）	
II-4 履修規定（単位認定）	
III 履修登録	
IV 試験・成績	
V 修了に関する事項	
VI 学生証・学籍・学費	
博士課程後期課程	148

諸 規 則

1 立教大学学則（抜粋）	156
2 立教大学大学院学則（抜粋）	159
3 立教大学学位規則（抜粋）	162
4 観光学部専門教育科目試験規則	164
5 立教大学博士学位申請手続要領（抜粋）	166
6 博士学位論文取扱事務に関する内規（抜粋）	166
7 立教大学大学院学位論文審査手数料規則（抜粋）	166
8 立教大学大学院学費その他納入金内規	167
9 立教大学大学院学生会発表奨励金規程	168
10 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学学生交流に関する覚書	168
11 明治大学・立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書	169

個人情報保護

プライバシーポリシー 立教大学における個人情報の取扱について	173
--------------------------------	-----

各 種 案 内

1 教務部案内	177
2 パソコン教室, 貸出パソコン利用案内	178
3 V-Campus案内	179
4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置	180
5 地震発生時の心得	180
6 台風の接近が予想される場合の措置	180
7 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応	180
8 緊急連絡システムについて	181

教 員 一 覧

専任教員プロフィール	184
担当者一覧（観光学部専門教育科目）	194

案 内 図

専任教員研究室一覧	197
構内案内図・教室案内図（新座キャンパス）	198
構内案内図・教室案内図（池袋キャンパス）	203

こんなときは

観光学部の教育理念

全世界で国境を越えて旅行する人々は、現在年間12億人を上回る。旅行産業は国際収支に大きく関わるだけでなく、ビジネス機会としても重要な存在であることから、「21世紀最大の産業」とも言われている。なかでも観光は人の往来を基盤とするという性質上、国際間、地域間の交流事業としての性格が強く、文化体験の場となるとともに、国際化を進める際の触媒としての役割もますます拡大しつつある。

立教大学観光学部は以上のような状況をふまえ、観光の産業的側面に加えて、その交流的側面や文化事象としての側面を強く認識し、観光の全体像を見据えた幅広い教育・研究活動を展開している。ことに教育面では、観光を多面的にとらえて理論と実践を有機的に結合した教育を行うことで、複眼的視野に立ち、旅行に関わる専門的知識を持つ異文化理解に秀でた国際人の育成を目指しており、ホテル・旅行産業、行政、地域振興・地域開発、国際協力、ジャーナリズムなど観光に関連する様々な分野のリーダーを輩出すべく教育を行っている。

観光学部の淵源は、第二次世界大戦直後の1946年に課外講座として開設された「ホテル講座」に遡ることができ、半世紀をこえる観光教育、ホスピタリティ教育の長い伝統に支えられている。1967年にわが国初の4年制大学の観光教育機関として社会学部観光学科が開設され、1998年には観光学部として独立し現在に至っている。戦後から現在に至るまで、立教大学は観光産業、観光行政などと深く関わり、わが国の観光発展に寄与し続けてきた。こうした経緯をもとに、2006年から従来の観光学科に加え、国際親善や文化交流など観光の持つ交流的側面を教育・研究する交流文化学科を増設し、社会へのさらなる貢献とわが国の観光教育の深化を図っている。

観光学部は現実社会に立脚した教育機関であることから、対象となる「観光」という社会事象との関わりの中で、教育と研究を両立させてきた。

社会学部観光学科が設置された1967年は大衆旅行時代のさなかであり、「産業としての観光」が急拡大した時期であった。こうした社会状況の下で設置された社会学部観光学科が、観光産業を主たる研究対象とし、観光産業経営を軸とする教育を展開したことは十分に社会的意味を持っていた。社会が観光学科を見る目は、ホテル経営、旅行業経営分野におけるわが国を代表する教育機関としてであり、それに応えるべく観光産業に多くの有為な人材を送り出し、わが国の観光事業の発展に寄与してきた。

社会からの「旅」への希求はきわめて強く、観光行動はますます拡大し、「旅」とそれにともなう人の交流や、文化の出会いが企業活動・産業活動の枠を越えて、現在は間違いなく世界最大の社会活動のひとつとなっている。21世紀が観光の時代と呼ばれる理由はここにある。

このような状況に加え、近年、政府や地方自治体の観光への取り組みが活発化している。もちろん基底には経済効果に対する期待があるとはいえ、以前とは明らかに異なる「交流事業」としての比重の増大、都市・地方間の交流人口の増加、あるいは海外との交流による住民意識・国民意識の変革など、これまでになかった効果が重視され始めている。観光学部在籍学生の間にも、海外との交流、あるいは異文化体験、自文化の紹介などに興味を持ち、仕事を通じてそれらを実現したいという希求が高まっている。

こうした社会状況を背景に、観光学部では2学科体制で教育・研究を行っている。観光学科は「経営としての観光」「地域と観光」というテーマを中核に据え、経営学、経済学、各種計画学を基盤にして主に観光の産業としての側面、あるいは、地域事業としての側面を教育・研究する学科であり、交流文化学科は学部設置時に展開した「観光文化コース」を発展させた「文化事象としての観光」、つまり観光の国際性や交流機能に着目してその教育・研究を行う学科である。交流文化学科は社会学、人類学、地理学、文学や言語を基礎として観光の文化への影響を、国際的な地域研究の視点で教育、研究する学科である。両学科とも国際人育成の基礎となる多文化共生能力、コミュニケーション能力の涵養に努め、独自の言語教育プログラムを実施しており、学部として協定を結んだ世界の13大学と教育研究の連携を図っている。更にこれ

らの海外提携大学の協力を得て実施している海外現地教育も年々充実を図っている。

社会事象としての観光が堅調に拡大を続け、観光が社会の中で新しい位置を得てその重要性を増し、さらに社会の観光教育に対するニーズも高度化、多様化しつつあることを考えれば、観光学科、交流文化学科による2学科制は、教育ニーズのみならず社会からの要請にも応えうるもので、国内外の観光教育をリードする新しい教育のあり方であるといえよう。

観光学部長 橋本 俊哉

観光学部 学位授与方針

教育目的

観光関連分野に関する広範囲で高度な学識を持ち、諸問題の解決を担う総合的な判断力と優れたリーダーシップを備えた有為な人材を育成する。

学修成果

「学士（観光学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

1. 観光学全般にわたって基礎的な知識を持ち、特定の分野で論理的な分析ができる。
2. 異文化交流としての観光の意義について理解し、実際に異文化交流を実践できる。
3. 現実の諸問題を解決するための総合的な判断能力を持つ。
4. 現実の状況に対応して適切なリーダーシップを発揮できる。
5. 特に観光学科の卒業生は、「観光産業の経営」または「地域の計画」について専門的な知識と分析能力を持つ。
6. 特に交流文化学科の卒業生は、「異文化交流」または「地域の計画」について専門的な知識と分析能力を持つ。

さらに全学共通科目により、

言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要なとされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。

学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。

多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

学修環境

上記のような学修成果をもたらすために、以下のような学修環境を提供する。

1. 広範囲の観光分野をカバーするオムニバス形式の授業を提供する。
2. 社会科学の基礎科目群の授業を提供する。
3. 少人数形式による演習の授業を提供する。
4. 実業界の経験者による授業・講演の機会を提供する。
5. 外国語による専門科目の授業を提供する。
6. 現場での体験を重要視する「早期体験プログラム」、「言語と文化現地研修」、「観光インターンシップ」などの授業を提供する。
7. 留学や短期訪問など、海外体験を推奨する。

観光学部 全学生に かかわる事項

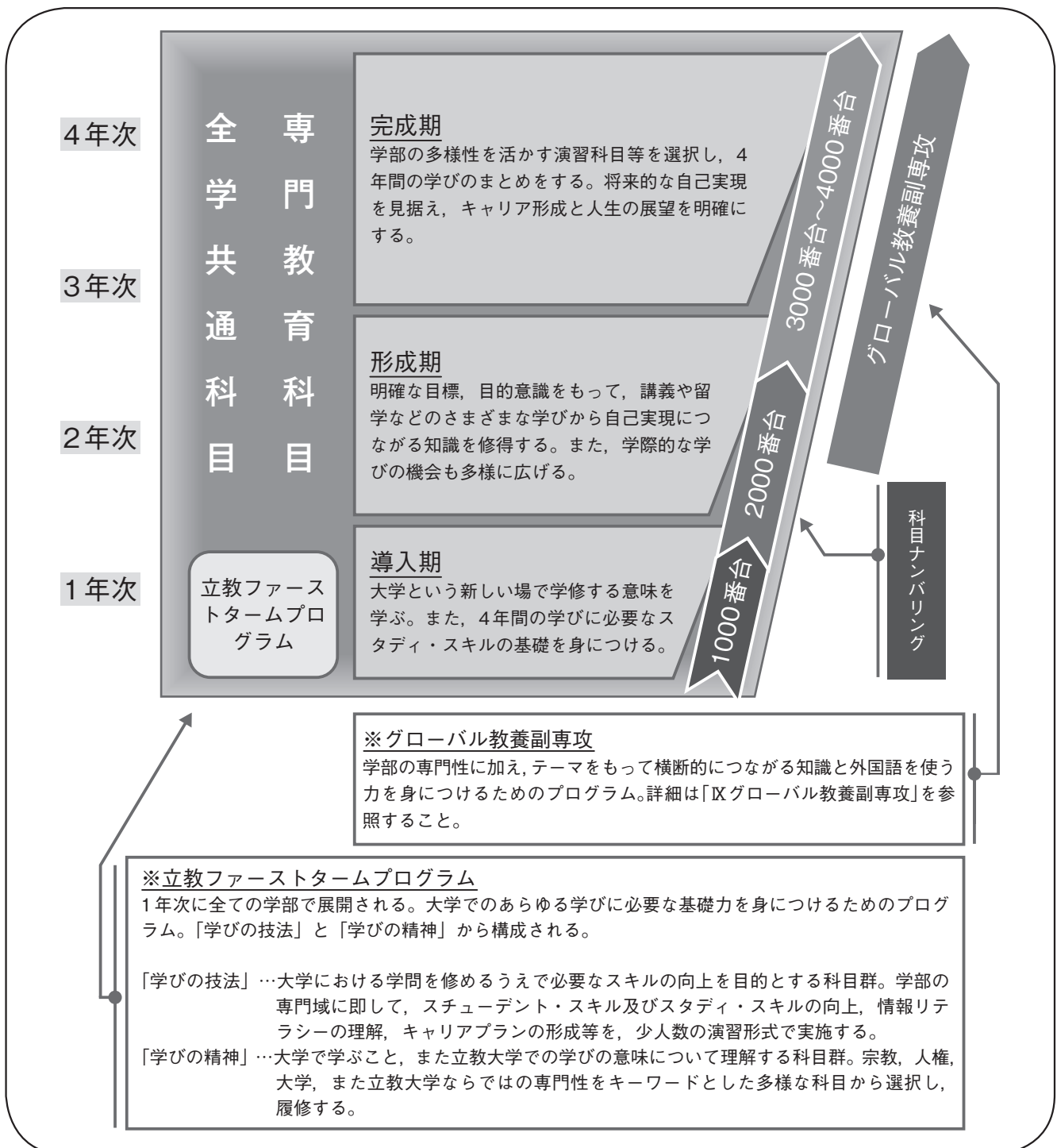
- I カリキュラムのしくみ
- II 授業（学習生活）
- III-1 履修規定（単位）
- III-2 履修規定（履修についての注意事項）
- III-3 履修規定（カリキュラムの一部改訂について）
- III-4 履修規定（単位認定）
- IV ガイダンス・履修相談・アドバイザー
- V 履修登録
- VI 試験・成績
- VII 卒業に関する事項
- VIII 学生証・学籍・学費
- IX グローバル教養副専攻
- X 5大学間単位互換制度（通称 f-Campus）
- XI 社会調査士
- XII 大学院特別進学生制度
- XIII 寄付講座
- XIV 保険加入について

カリキュラムのしくみ

1 カリキュラムのしくみ

本学を卒業するためには、本学の学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。詳細は所属する学科・専修の卒業要件単位表を参照すること。

本学の教育課程（カリキュラム）は、全ての学部において、全学共通科目と専門教育科目による「導入期」「形成期」「完成期」の3つの学修期によって構成され、段階的に学ぶ仕組みになっている。また、科目毎にどの学修期に学ぶことが適切かの目安を示す科目ナンバリングが設定されている。



2 科目ナンバリングについて

立教大学では、2016年度より全学部・研究科で科目ナンバリング制度を導入している。科目ナンバリングとは授業科目に適切な番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を表し、カリキュラムの体系的性を明示する仕組みである。科目ナンバリングを用いて検索をすることで、学びたい分野を探し体系的に履修するための一つのツールとすることができる。また、成績証明書（2016年度以降入学者のみ対象）には修得科目ごとに科目ナンバリングが記載され、体系的に学習した結果を対外的に証明することが可能である。

1. 科目ナンバリングの構成について

本学の科目ナンバリングはアルファベット3文字と数字4文字の構成となっている。

※アルファベット3文字⇒科目の設置学部学科（専修）・研究科を示す。

数字4文字⇒レベル，学問分野・分類等を示す。

アルファベット部分	1000番台	100番台	10番台	1番台
A B C	1	2	3	0
↓	↓	↓	↓	↓
学科・専攻等	レベル	分野	学部自由領域	言語

例として、全学共通科目「学びの精神」科目であれば「CMP1100」のように示される。

他学部等の科目ナンバリングについては、当該学部等の履修要項を参照すること。

2. 全学共通科目のナンバリング

① 科目の設置学部学科（専修）・研究科を示すアルファベット3文字は以下のとおりとなる。

全学共通科目		コード
言語系	英語	LNE
	ドイツ語	LNG
	フランス語	LNF
	スペイン語	LNS
	中国語	LNC
	朝鮮語	LNK
	ロシア語	LNR
	日本語	LNJ
	ポルトガル語	LNP
日本語手話	LNH	
総合系		CMP

I カリキュラムのしくみ

② レベル、専門分野・分類等を示す数字4文字は以下のとおりとなる。

(1) 全学共通科目 言語系科目

◆1000番台（レベルコード）

言語系科目では、以下のとおり分類する。

コード	言語系科目の定義
0000	リメディアル科目：設定なし
1000	導入科目：【英語・言語B共通】言語必修クラスの科目（言語必修再履修クラス、必修科目相当の自由科目を含む）
2000	形成期科目：【英語】言語自由科目 インディペンデント・モジュール、インテンシブ・モジュール、アドバンスト・モジュールの科目、【言語B】基礎科目相当の自由科目
3000	完成期科目：【英語】言語自由科目 オナーズ・モジュールの科目、【言語B】コア科目相当の自由科目

◆100番台（科目の分野を示す）

言語系科目は、アルファベット部分で言語種類の分類を行っているため、100番台は共通で「0」とする。

◆10番台（授業形態を示す）

言語系科目では、授業形態に応じて以下のとおり分類する。

番号	授業形態
00	10人以下の極少人数でコミュニケーションを重視する科目
10	20～40人程度の少人数講義科目
20	eラーニング
30	海外研修

◆1番台（使用言語を示す）

言語系科目では、授業で使用する言語に応じて以下のとおり分類する（学修する言語とは異なる）。

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

(2) 全学共通科目 総合系科目

◆1000番台（レベルコード）

総合系科目では、以下のとおり分類する。

番号	総合系科目
0000	リメディアル科目：該当なし
1000	導入期科目：「学びの精神」、全期科目：「スポーツ実習」
2000	形成期科目：「多彩な学び」（「立教ゼミナール発展編」，「RSLゼミナール型科目」を除く）
3000	完成期科目：「立教ゼミナール発展編」，「RSLゼミナール型科目」（「多彩な学び」として設置）

I カリキュラムのしくみ

◆100番台（科目の分野を示す）

総合系科目では、以下のとおり分類する。

番号	総合系科目
100	人間の探究（「多彩な学び」）、学びの精神
200	社会への視点（「多彩な学び」）、スポーツ実習
300	芸術・文化への招待（「多彩な学び」）
400	心身への着目（「多彩な学び」）
500	自然の理解（「多彩な学び」）
600	知識の現場（「多彩な学び」）

◆10番台（授業形態を示す）

総合系科目では、授業形態に応じて以下のとおり分類する。

番号	授業形態
00	学びの精神、立教ゼミナール発展編、RSLゼミナール型科目、以下を除く講義系科目
10	コラボレーション科目、スポーツプログラム
20	オンデマンド授業科目、スポーツスタディ
30	外国語による日本研究科目
40	立教ゼミナール
50	演習系科目
60	実習系科目

◆1番台（使用言語を示す）

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

I カリキュラムのしくみ

3. 観光学部専門
科目のナンバ
リング

① 科目の設置学部学科（専修）・研究科を示すアルファベット3文字は以下のとおりとなる。

学科等	コード
観光学部共通	TRM
観光学科	TRS
交流文化学科	TRC

② レベル，学問分野・分類等を示す数字4文字は以下のとおりとなる。

◆1000番台（レベルコード）

番号	専門科目
0000	リメディアル科目
1000	入門科目
2000	基礎科目
3000	発展科目
4000	最終学年演習・卒業論文・卒業研究

◆100番台（科目の分野を示す）

観光学部共通（TRMで始まるナンバリング）

番号	
000	総合
100	実務
200	基礎

観光学科（TRSで始まるナンバリング）

番号	
000	総合
100	経営
200	産業
300	地域
400	実務

交流文化学科（TRCで始まるナンバリング）

番号	
000	総合
100	地理
200	文化
300	社会
400	文学
500	国際

◆10番台（設定なし）

番号	
00	

◆1番台（使用言語を示す）

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

1 学期・授業

- 学期 (1) 本学の授業は1年を2学期に分けて行われ、それぞれを春学期、秋学期と呼ぶ。
 (2) 本年度の春学期の授業開始日は2019年4月10日（水）、秋学期の授業開始日は2019年9月20日（金）である。

授業 授業には以下の種類がある。

通年科目	
通年開講科目	春学期・秋学期通して行われるもの
通年他科目	学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期科目	
春学期開講科目	春学期で完結するもの
春学期1開講科目	春学期前半で完結するもの
春学期2開講科目	春学期後半で完結するもの
春学期他科目	春学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期期間外科目	春学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)
秋学期科目	
秋学期開講科目	秋学期で完結するもの
秋学期1開講科目	秋学期前半で完結するもの
秋学期2開講科目	秋学期後半で完結するもの
秋学期他科目	秋学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
秋学期期間外科目	秋学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)

2 授業時間

本学における授業時間は次のとおりである。

〈時限・授業時間〉

時限	1	2	3	4	5	6
授業時間	8:50 }	10:45 }	13:25 }	15:20 }	17:10 }	18:55 }
	10:30	12:25	15:05	17:00	18:50	20:35

経済学研究科，ビジネスデザイン研究科，21世紀社会デザイン研究科のG5，G6時限の授業時間は次のとおりである。

G5時限	18:30～20:10	G6時限	20:15～21:55
------	-------------	------	-------------

3 休講

大学または各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講することがある。

休講掲示 休講は、大学としての決定または科目担当者からの届出があり次第、掲示板（インフォメーションボード）に表示する。

〈掲示板（インフォメーションボード）設置場所〉

池袋キャンパス：5号館1階，8号館1階，14号館1階
新座キャンパス：1号館1階，4号館2階

休講情報 休講情報は、SPIRIT Mobileからも確認することが可能である。

* 休講の掲示がないにもかかわらず、始業時刻後30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）に連絡し、その指示に従うこと。

* 大規模地震の警戒宣言が発令された場合、および台風の接近が予想される場合等、緊急時の休講の措置については、表紙裏および巻末の各種案内を参照すること。

4 補 講

休講等により講義の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがあり、これを補講という。下記の日程を補講日として設定している。

学期	補 講 日 (*1)	発表時期 (*2)	発表場所
春学期	2019年 5月11日 (土)	2019年 5月 4日 (土) 2019年 5月24日 (金) 2019年 6月21日 (金)	池袋キャンパス開講科目： 8号館インフォメーション ボード下(池袋キャンパス) 新座キャンパス開講科目： 各学部掲示板(新座キャン パス) SPIRIT 教務部ページ
	2019年 6月 1日 (土)		
	2019年 6月29日 (土)		
秋学期	2019年10月19日 (土)	2019年10月11日 (金) 2019年11月15日 (金) 2019年12月 6日 (金)	
	2019年11月23日 (土)		
	2019年12月14日 (土)		

*1) この期間以外に補講を行う場合もあるので教員の指示に従うこと。あわせて、上記発表場所も随時確認すること。

*2) 発表後に変更・追加がある場合、随時更新されるので注意すること。

5 授業の欠席について

本学では、学校感染症により出校停止となった場合、裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭する場合以外の事由による欠席は認めていない（いわゆる公欠制度は設けていない）。

6 学校感染症に罹患した場合の措置について

学校感染症第1種・2種に罹患した場合は、出校を停止する。速やかに各教務窓口へ連絡し、指示を受けること。

1. 対象となる
学校感染症
第1種・2種

	疾患名
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウイルス）、中東呼吸器症候群（MERSコロナウイルス）、特定鳥インフルエンザ
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふく）、風しん、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎

2. 授業欠席の
扱い

学校保健安全法によって定められた学校感染症のうち第1種および2種に該当するものに罹患した場合の授業欠席については、以下のとおりとする。

- (1) 学校感染症第1種・2種に罹患したことにより、授業を欠席した学生が、所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。
- (2) 申請手続きは以下のとおりである。

- ① 登校可能となった日を含む7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、「学校感染症第1種・2種に罹患した学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」*1、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」*2とともに、各教務窓口へ提出する。

申請手続科目を確認するため、履修登録状況画面のコピーも提出すること。

*1 罹患開始時と治癒時の診療医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合がある。その場合は、罹患開始時の医療機関が発行する『罹患日記載がある「診断書』』と、治癒時の医療機関が発行する『治癒日と登校可能日の記載がある「診断書』』の2種類をもって「罹患期間事項についての証明」とすることができる。

*2 「治癒証明書」の書式はSPIRIT 教務部ページからダウンロードできる。

- ② 申請者は、各教務窓口にて受付印を押印された申請書および診断書もしくは治癒証明書（コピー）を受取り、各授業時間に担当教員に提出する。

3. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「VI 試験・成績」を確認すること。

7 裁判員制度に伴う場合の措置について

1. 授業欠席の扱い

裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生の扱いについては、以下のとおりとする。

- (1) 裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生が所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。

- (2) 申請手続きは以下のとおりである。

① 裁判員に選任された場合

公判終了日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判員の職務従事期間についての「証明書*」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口へ提出する。

*「証明書」は出頭先の裁判所に申し込み、発行を受けること。

② 裁判員に選任されなかった場合

選任手続期日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判所出頭日の証明*を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口へ提出する。

*裁判所出頭日の証明は出頭先の裁判所で受けることができる。

- ③ 申請者は、各教務窓口にて受付印を押印された申請書類を受取り、各授業時間に担当教員に提出する。

2. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「VI 試験・成績」を確認すること。

履修規定（単位）

1 単位制度

1. 単位制度

大学での学修は、すべて単位制になっている。すべての科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録をし、授業を受け、かつ、試験に合格した場合、当該科目の単位が与えられる。その単位の合計が卒業に必要な単位（卒業要件単位）を満たした者に対して卒業の資格が与えられる。

2. 単位の数え方

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 前述の(1)(2)にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

全学共通科目および観光学部専門教育科目では、計算基準を次のように定めている。

〈全学共通科目〉

言語系	週1回半期の授業で1単位 週2回半期の授業で2単位 ※ただし、英語自由科目、言語Bの自由科目「上級～語」（日本語を除く）は、週1回半期の授業で2単位
総合系	週1回半期の授業もしくは週2回4半期の授業で2単位 ※ただしスポーツプログラムを除く。 「スポーツプログラム～」は週1回半期の授業で1単位

〈観光学部専門教育科目〉

講義・演習科目	週1回半期の授業で2単位
	週2回4半期の授業で2単位
実習科目	週1回半期の授業で1単位
	週1回通年の授業で2単位
卒業論文	6単位

2 卒業要件単位

- (1) 観光学部の卒業に必要な単位数（卒業要件単位）は、各学科の定めるところによる。入学年度によっても異なるので注意すること。

㉞ 所属学科の該当入学年度の履修規定・卒業要件単位表を参照

- (2) 「随意科目」として指定される科目は、卒業要件単位に含めることはできない。

㉞ 随意科目とは、①随意科目として設定している科目と、②科目自体が随意科目というわけではなく、重複履修や教職のために設置している科目等を履修した結果、履修規定により卒業に必要な単位数に算入されない科目の2種類がある。

1 全体についての注意事項

1. 学年配当

- (1) 科目の履修は、原則として、当該科目の配当されている年次において行うものとする。
- (2) 高学年次の者が低学年次に配当されている科目を履修することはできない。
- (3) 低学年次の者が高学年次に配当されている科目を履修することはできない。ただし、資格要件等により、履修が認められる科目についてはこの限りではない。

※配当年次の他に、履修の前提となる条件が定められている場合がある。

*休学した学生の履修の原則について

休学した学生は、在学学期数にかかわらず、年次は4年次まで自動的に進む。この場合、特に学部・学科等で定める場合を除き、進んだ年次の配当科目について履修登録が認められる。

2. 履修登録 上限単位数

- (1) 1年間に履修登録できる単位数は、次の表のように定められている。4月期に履修計画を立てる際に、春学期・秋学期のバランスを考え、偏らないよう注意すること。
- (2) 履修登録をした科目で単位を修得出来なかった科目の単位数も、履修登録上限単位数に含まれる。
- (3) 学校・社会教育講座科目（科目コードが「G」で始まる科目）は、各学期・各年度の履修登録上限単位数には含まない。
- (4) ①通年科目の単位は、半期（春学期・秋学期）それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/2が算入され、4半期（春学期1・春学期2・秋学期1・秋学期2）科目を履修した場合、4半期それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/4が算入される。
②春学期科目・秋学期科目の単位は、4半期科目を履修した場合、4半期それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/2が算入される。
③春・秋学期期間外科目の単位は、年間の履修登録上限単位数に算入される（学期ごとの上限には含まれない）。

〈観光学部 履修登録上限単位数と上限の範囲〉

学年	履修登録上限単位数				上限の範囲		
	通年	春学期		秋学期		履修登録上限に含む	上限に含まない
		春1	春2	秋1	秋2		
1~4年次	44	30	30	16	16	・全学共通科目 ・観光学部専門教育科目 ・他学部科目(教職関連科目含む) ・5大学単位互換制度(f-Campus)科目	・学校・社会教育講座科目 (科目コードがG~で始まる科目)

春1：春学期1，春2：春学期2，秋1：秋学期1，秋2：秋学期2

〈全学共通科目の履修登録上限単位数〉

- ・総合系科目は、全学年において春・秋学期それぞれ6単位以内とする。
- ・言語自由科目（英語）インディペンデント・モジュールの「TOEIC1」, 「TOEIC2」, 「TOEFL2」, 「IELTS」の資格系科目と資格系以外科目の申請上限単位数は、全学年において春・秋学期それぞれ6単位とする。なお、「英語海外文化研修」と「国際交流制度短期英語研修プログラム」は6単位の上限には含まない。

3. 重複履修

科目の名称（番号までを含む）および単位数が同一の科目について、既に単位を修得している場合に学期あるいは年度を変えて再度履修することを重複履修という。

〈全学共通科目〉

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

- (1) 言語系科目必修科目および「英語R」は重複履修をすることはできない。
- (2) 総合系科目、言語系科目自由科目は学期を変えれば重複履修をすることはできる。その場合には、最初に修得した1科目分だけが卒業要件単位として認められ、2回目以降に修得した単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。

〈専門教育科目〉

各科目とも一度単位を修得した科目については、再度重複して履修することはできない。履修した科目の担当者が交替した場合も、これを同一科目とみなす。

4. 同時履修

同一科目（科目名称および単位数が同一の科目）が同一学期内に複数開講されている場合、同時履修は認めない。

また、以下の科目の同時履修は認めない。

「言語と文化現地研修A/B」、 「観光インターンシップA/B」、 「経団連インターンシップ」

5. 同一曜日時限の履修

各科目は、同一曜日時限に2科目以上にわたり履修をすることはできない。授業が集中形式で行われる科目については、実施日時が他の履修科目と一部でも重なる場合は履修することはできない。

6. キャンパス間の移動にかかわる措置

同一日の異なるキャンパスでの授業については、移動の必要上、連続した時限の履修は不可能であるから、その場合の履修登録は認めない。ただし、昼休みをはさむ場合を除く。

実際の移動時間が不足する場合でも自己責任となるので、履修登録の前に移動に要する時間をよく確認すること。

7. 科目の開講について

各科目は、原則として毎年開講されるが、事情によっては開講しない科目もあるので注意すること。

2 演習科目の履修

2～4年次の各年次に設定されている以下の科目は、自由科目である。

「演習（2年）A」「演習（2年）B」

「演習（3年）A」「演習（3年）B」

「卒業研究指導A」「卒業研究指導B」

演習科目は原則として同一年次において、それぞれ1科目（1担当者）に限り履修することができる。「卒業論文」を履修するためには、原則として「卒業研究指導A・B」を履修しなければならない。

1. 演習(2年)A 演習(2年)B

2年次に設定する。「演習（2年）A」については、演習という科目の性格上、各演習の履修者を12～18名程度に限定している。選考は前年度の秋学期中に行う。具体的な選考方法については、10月頃に掲示・Blackboard等を用いて説明する。

・原則として、秋学期科目「演習（2年）B」からの履修登録はできない。

選考に合格したが、翌年度春半期に休学する場合は、選考結果が無効になる。

2. 演習(2年)A →演習(2年) Bへの継続履 修方法等につ いて

「演習（2年）A」から「演習（2年）B」の継続履修・継続履修辞退・新規／移籍方法については以下の通りとする。

1) 継続履修

「演習（2年）A」の履修者は、同一担当者の「演習（2年）B」に自動登録される。ただし、担当教員から継続履修を許可されない場合は自動登録を行わない。これらの継続履修許可・不許可の伝達は7月下旬に掲示にて行う。

また秋学期より休学、派遣留学・認定校留学（休学留学／在学留学）等の学籍異動が生じる場合

も、自動登録を行わない。

2) 継続履修辞退

「演習（2年）A」の履修者が、同一担当者の「演習（2年）B」の継続履修を希望しない（辞退する）場合は、2019年8月30日（金）までに新座キャンパス教務事務センターのレポートボックスに「履修辞退届」の提出を行うこと。「履修辞退届」は、7月から新座キャンパス教務事務センターで配付を開始する。

3) 秋学期からの履修登録

「演習（2年）B」からの新規履修登録は認めない。

ただし、秋学期からの復学、派遣留学・認定校留学（休学留学・在学留学）からの帰国、再入学等で、同一担当者の「演習（2年）A」を修得済みの場合、履修登録を許可することがある。

この条件を満たした者で、秋学期からの履修登録を希望する場合、新座キャンパス教務事務センターにて事前に履修相談を行い、履修登録の説明を受けること。

4) 移籍

「演習（2年）A」から、異なる担当者の「演習（2年）B」への移籍は認めない。

3. 演習(3年)A
演習(3年)B
卒業研究指導A
卒業研究指導B

3年次の演習および4年次の卒業研究指導は、原則的に以下のような「演習（2年）A」「演習（2年）B」からの継続演習として位置づける。

なお、「卒業論文」を履修するためには、原則として「卒業研究指導A・B」を履修しなければならない。

「演習（2年）A」・「演習（2年）B」

→ 「演習（3年）A」・「演習（3年）B」

→ 「卒業研究指導A」・「卒業研究指導B」

4. 演習(3年)A
→演習(3年)B,
卒業研究指導A
→卒業研究指導B
への継続履修
方法等について

「演習（3年）A」から「演習（3年）B」、および「卒業研究指導A」から「卒業研究指導B」への継続履修・継続履修辞退・新規／移籍方法等については、全て「演習（2年）A」から「演習（2年）B」への方法と同様とするので、「前項2.」を参照すること。

5. 学年進行時の科目継続履修方法等について

学年進行時の継続履修・継続履修辞退・新規／移籍方法については以下の通りとする。

1) 継続履修

「演習（2年）B」, 「演習（3年）B」の履修者は、以下の通り、翌年度同一担当者の演習に自動的に登録される。

「演習（2年）B」の履修者 ⇒ 翌年度同一担当者の「演習（3年）A」

「演習（3年）B」の履修者 ⇒ 翌年度同一担当者の「卒業研究指導A」

ただし、担当教員から継続履修を許可されない場合は自動登録を行わない。

これらの継続履修許可・不許可の伝達は2020年1月下旬～2月初旬に掲示にて行う。

また春学期より休学、派遣留学・認定校留学（休学留学／在学留学）等の学籍異動が生じる場合も、自動登録を行わない。

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

2) 継続履修辞退

「演習（2年）B」または「演習（3年）B」の履修者が、同一担当者の「演習（3年）A」または「卒業研究指導A」の継続履修を希望しない（辞退する）場合は、2020年3月26日（木）までに新座キャンパス教務事務センターのレポートボックスに「履修辞退届」を提出すること。

「履修辞退届」は、12月から新座キャンパス教務事務センターにて配付を開始する。

3) 新規/移籍

「演習（2年）B」「演習（3年）B」を履修していない者で、「演習（3年）A」または「卒業研究指導A」への新規の登録を認める場合がある。また、「演習（2年）B」の履修者は、翌年度異なる担当者の「演習（3年）A」に、「演習（3年）B」の履修者は、翌年度異なる担当者の「卒業研究指導A」に移籍の希望を認める場合がある。希望する場合は2020年3月中旬までに新座キャンパス教務事務センターのレポートボックスに指定されたレポート表紙を添付の上、レポート課題を提出すること。レポート題目、担当者等、詳細については12月2日に掲示にて発表する。

4) 復学後の履修登録

春学期からの復学、派遣留学・認定校留学（休学留学／在学留学）からの帰国、再入学等で、同一担当者による低学年次の「演習」を修得済の場合、履修登録を許可することがある。この条件を満たした者で、春学期からの履修登録を希望する場合、新座キャンパス教務事務センターにて事前に履修相談を行い、履修登録に関する説明を受けること。

3 各種演習科目の履修

以下の演習科目は、原則として春学期開講科目（「～A」）履修者は、同一年度の秋学期開講科目（「～B」）に自動登録される。

「観光ビジネスプロジェクトA」→「観光ビジネスプロジェクトB」

「旅行産業演習1（A）」→「旅行産業演習1（B）」

「旅行産業演習2（A）」→「旅行産業演習2（B）」

「宿泊産業演習1（A）」→「宿泊産業演習1（B）」

「宿泊産業演習2（A）」→「宿泊産業演習2（B）」

「観光地研究演習1（A）」→「観光地研究演習1（B）」

「観光地研究演習2（A）」→「観光地研究演習2（B）」

1. 履修登録

「～A」の履修登録方法は科目により異なるので、シラバスまたは掲示を参照すること。

2. 継続履修

「～A」履修者は、同一年度の「～B」に自動登録される。ただし、担当教員から継続履修を許可されない場合は自動登録を行わない。これらの継続履修許可・不許可の伝達は7月下旬に掲示にて行う。

また秋学期より休学、派遣留学・認定校留学（休学留学/在学留学）等の学籍異動が生じる場合も、自動登録を行わない。

3. 継続履修辞退

「～A」履修者が、同一年度の「～B」の継続履修を希望しない（辞退する）場合は、2019年8月30日（金）までに新座キャンパス教務事務センターのレポートボックスに「履修辞退届」の提出を行うこと。「履修辞退届」は、7月から新座キャンパス教務事務センターで配付を開始する。

4 卒業論文

4年次に配当されている「卒業論文」は自由科目である。「卒業論文」を履修するためには、原則として「卒業研究指導A・B」を履修しなければならない。

1. 指導教員

「卒業論文」を選択する場合は、指導教員を定め、承諾を受ける必要がある。原則として「卒業研究指導A・B」の担当教員が指導教員となる。

2. 履修登録

「卒業研究指導B」と共に自動登録される。執筆を希望しない者は、2 演習科目の履修を確認し、「卒業研究指導B」の辞退届を提出すること。

※卒業論文の登録をすることによって、卒業見込みが立たなくなった場合は窓口に出ること。

3. 卒業論文の提出

提出日：2019年12月12日（木）・13日（金）
9：00～17：00（時間厳守のこと）

提出場所：新座キャンパス教務事務センター

形式：A4用紙20枚以上とする。なお、本文の下部中央部に通し頁番号を入れること。（例：—2—）

提出時は、所定の封筒（新座キャンパス教務事務センターで配付）に論文を入れ、必要事項を記入すること。

4. 卒業論文報告会

卒業論文提出後、学部としての卒業論文報告会を行う。提出者は全員報告しなければならない。

提出者は報告が必須であり、やむを得ず欠席する場合は欠席届（新座キャンパス教務事務センターで配付）を提出すること。なお、欠席事由は追試験受験申請時の試験欠席事由に準ずるものとする（「Ⅵ 試験・成績」6 追試験 の項を参照）。

卒業論文報告会（予定）：2020年2月3日（月）

*卒業論文提出に際しての注意

卒業論文は、指定された締切日時後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出にあたっては十分余裕をもって臨み、やむを得ず本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼する等の措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が卒業論文の提出に来られない場合は、当日の窓口時間内にその対応について新座キャンパス教務事務センターに問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合を言う。

※プリンター等、機器の故障は不測の事態に含まれないので注意すること。

5 他学部等科目の履修について

- | | |
|---------------|---|
| 1. 注意事項 | <p>(1) 他学部等科目は、配当年次などによって履修登録ができない場合がある（ただし、先修規定は問わない）。履修登録しようとしてもエラーとなるので注意すること。</p> <p>(2) あらかじめ定められている「他学部学生履修不許可科目」は配当年次が合っても履修できない。対象科目は、当該科目を設置している学部等の掲示板（ただし、池袋キャンパス開講科目については、新座7号館1階脇の移動掲示板）・もしくは履修登録システム（https://rikkyo.ac.jp）で確認しておくこと。</p> |
| 2. 履修登録・履修の可否 | <p>(1) 履修登録方法については、当該学部の履修要項を確認すること。</p> <p>(2) 届け出た他学部等科目は、当該学部等からの承認を受け、はじめて正式に履修許可となる。履修の可否については、教授会審議後、4月期登録では5月下旬に、9月期登録では10月下旬に観光学部掲示板で発表する。</p> <p>△ 不許可となった場合、時間割のその部分は「空き時間」となり、新たな科目の追加によってこれを埋めることはできない。履修登録の際はこの点に留意のうえ登録すること。</p> |
| 3. 修得単位の扱い | <p>他学部等科目を履修し、修得した単位は、所属学科が定める範囲で卒業要件単位にすることができる。</p> |

6 5大学間単位互換制度（f-Campus）による科目の履修

- | | |
|---------|--|
| 修得単位の扱い | <p>5大学間単位互換制度（f-Campus）による科目を履修し、単位を修得した場合、所属学科が定める範囲で専門教育課程の卒業要件単位にすることができる。</p> <p>☞ 「5大学間単位互換制度（f-Campus）」については「X 5大学間単位互換制度（通称 f-Campus）」を参照</p> |
|---------|--|

7 派遣留学生・認定校留学生の履修

派遣留学・認定校留学*が決定した者は、ただちに所属キャンパスの教務窓口で、出国年度・帰国年度の履修について説明を受けること。

※「派遣留学」とは、1. 大学間協定に基づく「派遣留学制度」、2. ケント州立大学留学プログラム、3. セントクラウド州立大学留学プログラム、4. 学部間協定等に基づく海外研修・留学プログラムによる留学をさす。また、「認定校留学」とは5. 認定校留学制度による留学をさす。なお、1～4の制度により留学する学生を「派遣留学生」、5の制度による留学生を「認定校留学生」という。

派遣留学生および認定校留学生は本学の履修科目において、下記の特別措置の対象となる。派遣留学生および認定校留学生以外は、下記の特別措置の対象とはならない。

1. 出国年度の履修と単位修得

留学開始が本学の定める春学期（または秋学期）の試験期間終了後の学生は、「在学留学」・「休学留学」のどちらを選択しても、出国年度の春学期（または秋学期）の科目を履修し、単位を修得することができる。

2. 通年科目の接続

派遣留学生および認定校留学生については、本学における通年科目の履修に関し学年暦の国際的差異による支障がある場合、教授会または研究科委員会の議により、教授会または研究科委員会が認めた科目については、同一の通年科目の出国年度の春学期における履修と帰国年度の秋学期における履修を接続し、通年で履修したものとすることができる。派遣留学・認定校留学が決定し、上記の通年科目の接続を希望する学生は、所属キャンパスの教務窓口で、手続き方法などについて説明を受けること。

注意点

- (1) 「通年科目の接続」は、原則として翌年度の履修に限るものとし、翌々年度に亘ることはできない。
- (2) 個人都合による休学を挟むと「通年科目の接続」は適用されない。

3. 帰国年度の履修登録

(1) 5月末日（秋学期は10月末日）までに帰国届の提出および履修登録をした場合、帰国年度の春学期科目および通年科目（秋学期は秋学期科目）を履修することができる（春学期1開講科目・秋学期1開講科目は、対象外）。ただし、抽選登録科目等、履修登録できない科目もあるので、必ず所属キャンパスの教務窓口を確認すること。

※全学共通科目の抽選登録科目は、科目コード登録対象科目に移行した科目のみ履修することができる。

(2) 以下については、本学部は該当しない。

「在学留学」を選択した学生は留学期間の終了時期が6月以降の場合でも、秋学期授業開始前までに留学期間を終了して帰国届を提出し、学部の許可を得た場合、通年の「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」・「卒業論文」・「卒業論文・卒業制作」・「卒業研究指導演習」・「卒業研究」・「輪講」については特別に履修を認めることがある。

☎ その他、詳細については国際センターが発行する「STUDY ABROAD」を参照すること。

履修規定(カリキュラムの一部改定について)

観光学部では年度毎にカリキュラムの改定を行っており、これにともなって、科目区分ごとの教育内容の質を維持あるいは向上させつつ、順次、科目の追加、廃止等を行う。開講する科目については、当該年度の履修要項にて確認をすること。

1 科目名の変更

下表のとおり、科目名を変更する。

変更年度	学科	旧科目名		新科目名
2017年度	両学科	言語と文化現地研修	⇒	言語と文化現地研修A

2 科目の新設

下表のとおり、科目を新設する。

追加年度	科目名	科目区分
2019年度	観光IT戦略論	学部自由科目
2018年度	MICEの理論と実践	学部自由科目
	ガストロノミー(美食)と観光	
	観光地研究演習1(A)	観光学科 学科選択科目2
	観光地研究演習1(B)	
	観光地研究演習2(A)	
観光地研究演習2(B)		
2017年度	言語と文化現地研修B	学部自由科目

通常の履修による単位修得以外に、下記のとおり、単位が認定される場合がある。詳細は以下の各制度の内容を確認のこと。なお、単位認定の上限は学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」参照）により合計60単位までと定められている（ただし3年次編入学または転部・転科等による単位認定、入学前に本学で修得した単位の認定などについてはこの上限に含まない）。

1 派遣留学制度による単位認定

本学部の学生が、国際交流制度による派遣留学生（在学留学生）として外国の大学で修得した単位は以下のとおり扱う。

㊦ 認定の上限については、「立教大学学則第2章第10条の2第1項から第10条の4第3項」を参照すること。

(1) 在学留学の学生が外国の大学で修得した科目の単位の認定を申し出る場合、下記①～⑥の書類を、派遣留学期間終了後1ヵ月以内に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。派遣留学期間終了後1ヵ月を過ぎると一切受け付けないので注意すること。

- ①立教大学派遣留学生単位認定願
- ②留学先大学・機関等が発行した成績証明書（原本）
- ③留学先大学の学年暦（授業開始日・終了日・試験期間・休祝日を示す書類）
- ④学業成績評価の基準を示す書類（合否の基準が明記されているもの）
- ⑤シラバス等、授業内容がわかる書類

※言語系科目についてはシラバスの提出がない限り単位認定できないため、シラバスがない場合は科目担当教員に事情を説明して必ず作成してもらうこと（科目名・目的・内容・成績評価基準・テキスト・使用言語が記載されたものであり、担当者のサインがあることが望ましい）。

※言語Bの単位認定を希望する場合は、シラバスに加え、授業で使用したテキスト及びノート等授業内容詳細が分かるものを提出すること。

⑥各科目の総授業時間数を示す書類

※シラバス等に記載がない場合は、最終試験を除く授業回数・1回あたりの授業時間・授業実施曜日を示す書類（コーススケジュール、時間割など）

提出された書類に基づき、観光学部および全学共通カリキュラム運営センターが審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。なお、5月末日までの申請受付分が当該年度の特別卒業（9月卒業）判定の対象となり、10月末日までの申請受付分が当該年度の卒業判定の対象となる。

※派遣留学期間後の学籍が休学であっても申請は有効となる。

※申請した単位が認定される以前に退学した場合は、派遣留学単位認定の申請が無効になる。

郵送（書留相当）による派遣留学単位認定申請について

以下の条件すべてに該当する場合は、派遣留学単位認定の申請について郵送（書留相当）で行うことができる。

- ①派遣留学期間終了後、引き続き現地にて研究・勉学等を継続して行う者で、1ヵ月以内に帰国できない者
- ②派遣留学期間終了日以前に、①の内容について所属キャンパスの教務事務センターに申し出た者
- ③大学側からの連絡に回答可能な方法を構築できる者
- ④以下の条件を了解できる者
 - ・ 手続書類の不備がないよう申請すること
 - ・ 手続書類不備については、派遣留学単位認定の申請が無効になる場合があること

(2) 原則、以下の基準により単位数を計算する。

講義：11.25時間＝1単位

語学・実習・体育実技：22.5時間＝1単位

ECTS^{※1}を採用している欧州の大学：ECTS単位数の1/2単位数を算出。但しスペインの大学のみの時間数により換算する。

※1 ECTS：European Credit Transfer System（欧州単位互換制度）

Ⅲ-4 履修規定（単位認定）

- (3) 認定を受けた科目の単位は、自由科目として30単位を限度とし卒業要件単位に算入される。30単位を超えて認定された単位については随意科目とし、卒業要件単位には参入されない。
- (4) 全学共通科目として認定を受けた科目は、全学共通科目および所属学科の履修規定に従い卒業要件単位に算入される。履修区分は、留学先大学の授業内容をもとに決定する。
- (5) 留学による単位認定科目の成績評価は「認定」とする。

2 認定校留学制度・観光学部間協定校留学プログラムによる単位認定

本学部の学生が認定校留学制度または観光学部間協定校留学プログラムにより在学留学中に外国の大学で修得した科目の単位は、国際交流制度による派遣留学生の単位認定に準じて扱う。

観光学部学部間協定校留学プログラムの詳細については、観光学部キャリア・留学サポートセンターに問い合わせること。

3 入学前に修得した単位の認定

入学前に 本学または本 学以外で 修得した単位 の認定

入学前に本学または本学以外の大学・短期大学等で修得した単位および短期大学・高等専門学校の専攻科での学修について、認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。

(1) 申請時期・方法

入学前に修得した単位の認定を申し出る場合、下記①～④の書類を、定められた期日までに所属キャンパスの教務窓口へ提出すること（ただし、本学で修得した科目については、①単位認定申請書のみ、提出すればよい）。入学前の修得単位認定申請は入学時にしか受け付けない。

- ① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配付、SPIRIT 教務部ページからダウンロード可能）
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等、授業内容がわかる書類
- ④ 学業成績評価の基準および授業時間数を示す書類（修得先が、短期大学および高等専門学校の専攻科もしくは海外の機関の場合）

提出された書類に基づき、全学共通カリキュラム運営センターまたは学部が審査を行う。審査においては、学部教員との面談も実施することがある。その結果単位認定を受けられないこともある。

申請期日：2019年4月1日（月）～5日（金） 17：00 面接日程：2019年4月上旬（実施する場合は個別に指示する） 結果通知：2019年4月下旬

(2) 認定対象の範囲

〈全学共通科目〉

一定の基準に基づき、全学共通科目に相当する科目を修得したと認められた場合には、その単位を認定する。なお、認定対象としては、総合系科目相当のもののみを扱い、言語系科目相当のものはこの制度での認定対象としない。ただし、言語必修科目については、一定の実力・学習歴がある場合には、別途履修免除制度による単位認定の可能性はある。履修免除制度の詳細については「全学共通科目 言語系科目 2.必修科目に関する特別措置」を参照のこと。

〈専門教育科目〉

申請に基づき個別に審査、決定する。

(3) 認定科目名・履修区分

〈全学共通科目〉

全学共通科目として認定する場合は、科目名では表示せず、その内容から特定の履修区分に振り替えて認定する。

〈専門教育科目〉

専門教育科目として認定する場合は、その内容から本学開講の科目名に振り替えて認定する。認定

を受けた科目の履修区分は、修得先の授業内容をもとに決定する。

(4) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(5) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定された履修区分に従って卒業要件単位に算入する。

(6) 認定の上限単位数

入学前に本学以外で修得した単位の認定は、学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」）で定められている単位認定の上限60単位に含まれる。

なお、全学共通科目について、総合系科目の卒業要件単位数を超えて単位認定された場合、その単位の扱いは観光学部の卒業要件単位における全学共通科目超過単位の扱いと同様とする。

(7) 認定科目の成績表示

入学前に修得した単位の認定の成績は「認定」とする。

4 入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学（本学以外の大学・短期大学）等で修得した単位について認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。認定対象者は学部1～3年次生で、4年次生は対象外とする。

他大学等の範囲は立教大学学則第2章第10条の2、および第10条の3において規定されているものとする。ただし、海外の大学等での修得単位の単位認定については、派遣留学、認定校留学の認定制度を適用し、本単位認定制度の対象外とする。

(1) 申込時期・方法

入学後に他大学等での修得単位の認定を申し出る場合、事前申請は特に設けず、他大学等での成績確定後に認定の申請を行う。また単位認定の申請は、単位を修得した年度のみ行うことができるものとし、過年度に修得した単位は単位認定の対象外とする。ただし、成績評価が年度を越えて（次年度4月）発表になる科目の場合は、次年度春学期授業開始日までに申請しなければならない。

申請にあたって、下記①～③の書類を、教務窓口へ提出すること。

- ① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配付）
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等、授業内容がわかる書類

提出された書類に基づき、全学共通カリキュラム運営センターまたは学部等が審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。結果は認定作業が完了次第通知するが、成績評価が年度を越えて発表になる科目は履修登録修正期間の初日までに通知する。

(2) 認定対象の範囲

〈全学共通科目〉

全学共通科目に相当する科目を修得したと認められた場合には、その単位を認定する。なお、認定対象としては、総合系科目相当のもののみを扱い、言語系科目相当のものはこの制度での認定対象としない。

〈専門教育科目〉

申請に基づき個別に審査、決定する。

(3) 認定科目名・履修区分

〈全学共通科目〉

全学共通科目として認定する場合は、科目名では表示せず、その内容から特定の履修区分に振り替えて認定する。

〈専門教育科目〉

修得先の授業内容をもとに区分を決定し、修得先の科目名として認定する。

(4) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

Ⅲ-4 履修規定（単位認定）

(5) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定された履修区分に従って卒業要件単位に算入する。また、認定を受けた科目は、単位を修得した年度における本学の履修登録上限単位数の計算に含まれるので、履修計画を立てる際に十分注意すること。

(6) 認定の上限単位数

学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」）で定められている単位認定の上限60単位に含まれるが、「入学後に他大学等で修得した単位の認定」としての上限はない。

なお、全学共通科目について、総合系科目の卒業要件単位数を超えて単位認定された場合、その単位は観光学部の卒業要件単位における全学共通科目超過単位の扱いと同様とする。

(7) 認定科目の成績表示

成績評価は「認定」とする。

1 学習計画の立て方

大学における学習の特徴は、自分で履修計画を立て、受講する科目を選択し、卒業に必要な単位を満たしていく点にある。そのため、時間割は各自異なったものとなる。

学習の成果をあげるためには、たとえば1時間の講義に対して、その倍の時間の予習と復習が必要である。この主旨からすれば、1年間で履修することができる授業科目の単位数にはおのずと限界がある。そこで、履修登録には上限が設定されている。

履修計画を立てるにあたっては、先輩による「履修要項」読み方ナビ（新1年次生対象）の学部ガイダンスに出席し、必要に応じてアカデミックアドバイザーに相談すること。

各ガイダンスで、授業科目や単位修得、履修登録などの説明が行われるので、履修要項を持参のうえ、必ず出席すること。

 1年次生の日程については、『2019年度新入生オリエンテーション行事表』を参照のこと。

2 アカデミックアドバイザー・オフィスアワー

1. アカデミック
アドバイザー

アカデミックアドバイザー制度は、学生一人ひとりに対して担当者（専任教員）を定め、本学における学習全般に関する助言・指導や情報提供を行う制度である。アカデミックアドバイザーは学生にとって身近な相談相手となるので、学習に関する悩みや相談がある場合には、気軽に連絡を取ること。アカデミックアドバイザーの相談時間は、各アドバイザーのオフィスアワーの時間とする。

〈観光学部アカデミックアドバイザー〉

年次	アカデミックアドバイザー担当者
1年次	「観光調査・研究法入門」のクラス担任が各自のアカデミックアドバイザーとなる。
2年次	「演習（2年）」の担当教員が各自のアカデミックアドバイザーとなる。 ※「演習（2年）」を履修していない者は1年次のアカデミックアドバイザーが継続して担当する。
3年次	「演習（3年）」の担当教員が各自のアカデミックアドバイザーとなる。 ※「演習（3年）」を履修していない者は1年次のアカデミックアドバイザーが継続して担当する。
4年次	「卒業研究指導」の担当教員が各自のアカデミックアドバイザーとなる。 ※「卒業研究指導」を履修していない者は1年次のアカデミックアドバイザーが継続して担当する。

また、アドバイザー教員が研究休暇等により担当できない場合は、学科長がこれに代わる。

2. オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれの専任教員^{*}が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

オフィスアワーの時間帯は履修要項の「専任教員プロフィール」を参照すること。

※ランゲージセンター教育講師のオフィスアワーの一覧は全学共通科目掲示板にて各学期はじめに発表する。

※兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間等を利用し質問すること。

履修登録は、学生がその年度に自分が履修しようとする科目を届け出る手続きであり、学習計画の出発点となるものである。定期試験期間の試験は、全学共通科目、観光学部専門教育科目、学校・社会教育講座科目いずれも同一期間内に、1時限目から5時限目まで行われる。そのことも考慮して、無理のない履修計画を立て、登録してほしい。

学生は自己の責任において履修する科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければならない。履修登録をしていない科目は、授業に出席し、また試験を受けても、当該科目の単位を修得することはできない。履修登録は、年2回、4月に春学期科目と通年科目、9月に秋学期科目を届け出る。登録のあとには、履修登録状況画面が更新されるので、必ず内容を確認すること。登録科目に変更の必要がなければ履修登録は完了する。

履修登録届出時期

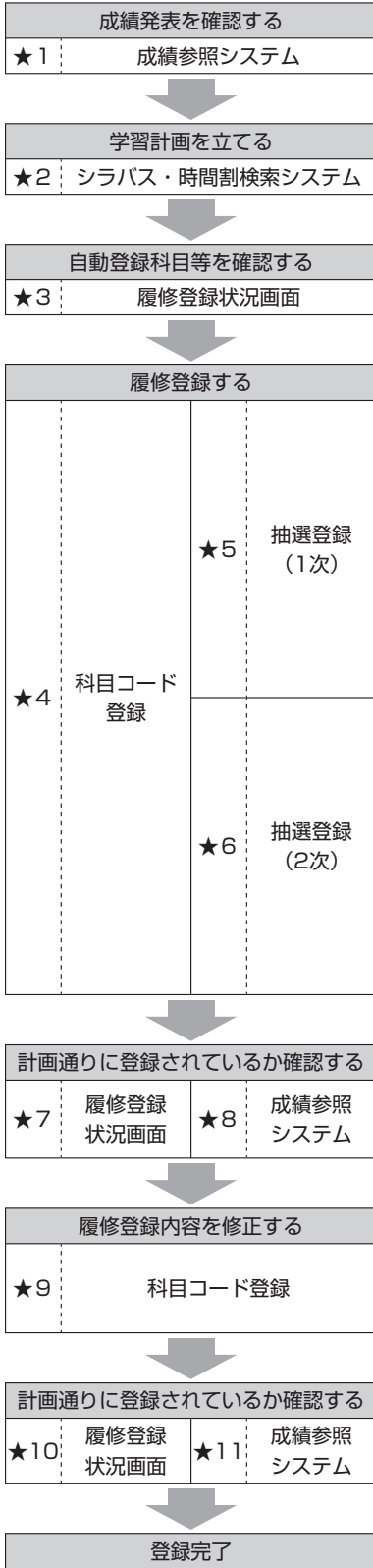
履修登録届出時期と対象科目は以下の通り。

- 4月期 ⇒ 春学期科目、通年科目
- 9月期 ⇒ 秋学期科目

※春学期期間外科目、秋学期期間外科目については履修登録届出時期が異なるので、別途確認すること。

2 履修登録の流れ

2019年度 履修登録スケジュール



	春学期	秋学期
★1 成績発表	3月13日(水) 10:00	9月5日(木) 10:00
★2 シラバス・時間割検索システムHP公開	3月19日(火)	
★3 履修登録状況画面の更新	3月30日(土) 18:00	9月5日(木) 10:00
★4 科目コード登録期間①	★5 抽選登録期間(1次)	4月2日(火)、3日(水) 各日11:00~26:00
		9月12日(木)、13日(金) 各日11:00~26:00
抽選1次履修許可者発表 履修登録状況画面の更新	4月4日(木)~5日(金) 4日11:00~17:00、 4日20:00~5日17:00 ※4日17:00~20:00は休止	9月14日(土)~15日(日) 14日11:00~15日17:00
★4 科目コード登録期間②	★6 抽選登録期間(2次)	4月7日(日)~8日(月) 7日11:00~8日15:00
抽選2次履修許可者発表 履修登録状況画面の更新	4月7日(日) 11:00	9月17日(火) 11:00
★4 科目コード登録期間③	4月9日(火) 18:00	9月17日(火)、18日(水) 17日11:00~18日15:00
	4月9日(火) 18:00~26:00	9月19日(木) 18:00~26:00
	4月10日(水) 11:00~26:00	9月19日(木) 18:00~26:00
	4月11日(木) 11:00~18:00	9月20日(金) 11:00~26:00
	4月11日(木) 11:00~18:00	9月21日(土) 11:00~18:00
★7 履修登録状況画面の更新	4月12日(金) 18:00	9月23日(月) 18:00
★8 成績参照システムの更新	4月13日(土) 10:00	9月24日(火) 10:00
★9 履修登録修正期間	4月16日(火) 11:00~26:00	9月26日(木) 11:00~26:00
	4月17日(水) 11:00~18:00	9月27日(金) 11:00~18:00
★10 履修登録状況画面の更新	4月18日(木) 18:00	9月28日(土) 18:00
★11 成績参照システムの更新	4月20日(土) 10:00	10月1日(火) 10:00

各履修届出方法の詳細については、次頁以降を必ず確認すること。

3 履修届出方法

履修登録には科目の性格によって、自動登録、「その他」登録、抽選登録、科目コード登録の方法がある。届出方法がそれぞれ異なるので、指示に従うこと。抽選登録、科目コード登録の届出は履修登録システム (<https://r.rikkyo.ac.jp/>) により行うこと。このシステムは大学内のコンピューター教室の他、自宅等からもアクセス可能だが、ブラウザの種類、バージョン等により一部使用できない場合もある。

1. 自動登録

(1) 対象科目

〈全学共通科目〉

言語系科目の必修科目（全学共通科目言語系科目必修科目の項を確認すること）。

〈観光学部専門教育科目〉

学科目表の科目コード欄に「自動登録」と記されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 大学であらかじめ登録しているため、履修登録に関する手続きは一切不要である。
- ② 配当年次に自動登録される必修科目を修得できずに再履修する場合は、次の年度も自動登録される。
※全学共通科目言語A（英語）の必修科目については全学共通科目言語系科目必修科目「4. 指定年次・学期以後の単位修得方法（英語単位認定試験，英語R，英語ディスカッション再履修）」の項を確認すること。
- ③ 自動登録科目の取り消しは原則として認めない。
- ④ 同一科目が複数の担当教員に分かれる場合、授業開始日前に履修登録状況画面で担当教員を確認すること。

2. 「その他」登録

(1) 対象科目

〈全学共通科目〉

下表のとおり。

〈全学共通科目対象科目〉

	科目	注意事項
総合系科目	GL101, GL111, GL102, GL201, GL202, GL301, GL302 国際協カリテラシー アクティブ・リサーチ1 アクティブ・リサーチ2 国連ユースボランティア 陸前高田プロジェクト 海外インターンシップ1 海外インターンシップ2	全学共通科目総合系科目「3, 履修上の注意」を参照のこと。
言語系科目	英語海外文化研修 ドイツ語海外言語文化研修（中級, 上級） フランス語海外言語文化研修（中級, 上級） スペイン語海外言語文化研修（中級, 上級） 中国語海外言語文化研修（中級, 上級） 中国語海外言語文化研修春（中級, 上級） 朝鮮語海外言語文化研修（中級, 上級） 国際交流制度短期英語研修プログラム（ビクトリア夏ESL2, ハワイ夏ESL1, ダブリン夏ESL3, ダブリン春ESL3, シドニー春ESL3, ビクトリア春ESL2, ハワイ春ESL1）	全学共通科目言語系科目自由科目「2, 自由科目 科目一覧表」を参照のこと。

※総合系科目「海外インターンシップ1・2」、言語系科目「国際交流制度短期英語研修プログラム」については、2017年度より履修登録上限単位に算入される。

〈観光学部専門教育科目〉

学科目表の科目コード欄に「その他」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修の取消はできない。
- ③ 選考・選抜のための提出書類の届出方法、届出期間、選考の有無、結果の発表は科目により異なるので、履修要項の該当頁を参照すること。
- ④ 総合系科目の「その他」登録および抽選登録における申請上限単位数は、各学期6単位である（ただし、「国連ユースボランティア」科目を履修する場合を除く）。また「海外インターンシップ

1・2」科目の登録上限の扱いについては、「全学共通科目について」の「3 履修上の注意」11. 海外インターンシッププログラムについて」を参照すること。

3. 抽選登録

(1) 対象科目

〈全学共通科目〉

総合系科目は「2019年度総合系科目開講科目一覧」、言語系科目は「自由科目 科目一覧表」を参照すること。

〈観光学部専門教育科目〉

学科目表の科目コード欄に「抽選登録」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 履修可否は、履修登録システムで発表する。履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修登録の取消はできない（ただし全学共通科目総合系科目は2次申込終了後に科目コード登録対象となった科目については科目コード登録期間および履修登録修正期間に取消・変更が出来る）。
- ③ 1次申込において抽選定員に達しなかった科目のみ、2次申込受付を行う。
- ④ 必修科目などすでに登録されている科目や、抽選登録申込期間後に登録を予定している科目と重複する曜日・時限には、抽選登録科目の申込を行わないこと。
- ⑤ 総合系科目の抽選登録における1次申込の申請上限単位数は、各学期6単位である。2次申込時においては、1次申込で履修を許可された科目の単位数を含め6単位である。
- ⑥ 言語自由科目（英語）：インディペンデント・モジュール科目の「TOEIC1」, 「TOEIC2」, 「TOEFL2」, 「IELTS」の資格系科目と資格系外科目の申請上限単位数は、各学期6単位とする。なお、「英語海外文化研修」と「国際交流制度短期英語研修プログラム」は6単位の上限に含まれない。

抽選登録期間内は、何度でも申請科目の確認、修正ができる。

4. 科目コード登録

(1) 対象科目

〈全学共通科目〉

総合系科目で抽選登録の結果、定員を満たさなかった科目（※一部科目を除く）は対象科目となる。なお、申請上限単位数は、「その他」登録・抽選登録科目を含め各学期6単位である。

〈観光学部専門教育科目〉

履修登録方法が、自動登録、「その他」登録、抽選登録以外の科目。

※5大学間単位互換制度による他大学科目は、科目コード登録では登録できない。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 科目コード登録と同時期に抽選登録の申込を行うが、全学共通科目については、科目コード登録期間が4月期は2019年4月9日（火）から、9月期は2019年9月19日（木）からとなる。なお科目コード登録対象科目は履修登録システムで発表する。
- ② 病気等やむを得ない理由により、期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。また、疑問がある場合は、事前に所属キャンパスの教務窓口で相談してから手続きすること。
- ③ 届出科目が確定したら、「登録内容送信」ボタンを必ずクリックし、届出内容およびエラー状況を確認すること。
- ④ 科目コード登録期間内に、「エラー」の無い状態で完了すること。エラーが出た際は【エラーメッセージと対処法】を参照すること。
- ⑤ 科目コード登録期間中に、登録が正常に行われたことを確認するために、「履修登録」画面に再

V 履修登録

度ログインし、登録内容を確認すること。

- ⑥ 「履修登録」画面は、科目コード登録期間あるいは履修登録修正期間以外は使用できない。
- ⑦ 履修登録修正期間後、「履修照会」画面に申請内容が反映されるので、申請内容を必ず確認すること。
- ⑧ 科目コード登録で届け出る科目が1科目もない場合も、科目コード登録期間内にアクセスして、大学に届け出ている連絡先が正しいかを確認すること。

科目コード登録期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。

4 登録科目の確認について

1. 登録科目の確認方法について

履修登録の内容は、履修登録状況画面により確認できる。これらが正規の登録科目となるため記載事項の誤りの有無を確認すること。更新日程は履修登録システムで確認すること。

また、履修登録の内容と併せて、成績参照画面の更新結果（履修登録後に単位計算した結果）も確認すること。更新日程等詳細は、成績参照システムで確認すること。

Blackboard及びSPIRIT Mobile (mobile V-Campus) の時間割は正式な登録科目の確認には使用できないので注意すること。

〈履修登録状況画面の表示内容と更新日〉

履修登録状況画面は、教務の窓口に提示する際の資料として使用できる。

履修登録状況画面の確認

履修登録状況画面は、履修登録された科目が曜日・時限順に表示されている。下部に「エラー科目」として記載されているものは無効となり、登録されていない（ただし「～上限オーバー」エラーを除く）。

記載事項に誤りがある場合、「～上限オーバー」などのエラー表示がある場合は、5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認を参照し、所定の期間内に手続きをとること。

【表示方法】

- 履修登録システムにアクセスする。
- メニューから『履修登録状況画面』をクリックする (Aの①)。
- 『⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン』をクリックする (Aの②)。
- ログイン画面が表示されるので、V-CampusID (学生番号) とパスワード (V-Campusと同じ。新入生については、学生証等交付の際に配付される) でログインする。
- 履修登録状況画面が表示される。(B)

A

メニュー
履修登録
(抽選登録・科目コード登録)
履修登録状況画面
履修中止
成績参照

⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン
②↑ここをクリック

B

必ず一番下までスクロールして、エラー表示が出ていないかチェック

予定している科目がすべて正しく登録されているかをチェック

更新日	更新時間
9月6日(火)	11:00(予定)
9月17日(土)	11:00(予定)
9月19日(月)	21:00(予定)
9月22日(木)	18:00(予定)
9月28日(水)	21:00(予定)

全学共通	専修	専修	その他	その他
4(12)	17(36)	0(0)		0(0)

曜日	時限	科目コード	科目名	担当教員	学期	教室
火	2-2	BX199	エンvironmental Science	2 野崎 隆	秋学期	
火	4-4	BX144	公共経済学Ⅱ	2 高橋 崇	秋学期	
火	5-5	BX176	流通産業と政策	2 藤嶋 博之	秋学期	
火	2-2	BX025	外国語Ⅰ-英A	2 太田 寛之	春学期	550
水	3-3	FA136	音楽の文化とことば	2 山本 真	春学期	5121
水	4-4	FE131	生物の多様性	2 多田 多恵子	春学期	0501
水	5-5	FX114	仏教文化	2 藤 真樹	春学期	4411
木	3-1	BX184	都市政策論Ⅰ	2 田島 寛希	春学期	8101
木	1-1	BX185	都市政策論Ⅱ	2 田島 寛希	秋学期	8101
木	2-2	BX082	経済政策論A (経済)	4 大友 敏明	通年	7102
木	1-1	BX139	経済政策論Ⅰ (経済)	2 櫻井 公人	春学期	D301
木	2-2	BX055	環境政策論Ⅰ	2 藤嶋 博之	春学期	5210
木	2-2	AT304	文字情報Ⅱ	2 本間 信隆	秋学期	8202
木	3-3	BX104	文芸経済学Ⅱ	2 伊藤 隆広	秋学期	4402
木	4-4	BX102	文芸経済学Ⅰ	2 吉川 崇也	秋学期	8201

! **重要** 履修登録状況画面・成績参照画面の記載事項について誤りの有無を必ず確認すること。

注意 履修登録の誤りや、エラー表示への対処は、履修登録修正期間に履修登録システムで行うこと。

2. 登録の完了
履修登録状況画面を確認した結果、修正する必要がない（自分が履修する予定の科目がすべて間違いなく記載されている）場合、登録は完了となる。
3. 登録の無効について
履修登録状況画面でエラー表示された科目に対して所定の期間内に履修登録修正の手続きをしなかった場合、その届出科目は無効となり、本年度の履修はできない。したがって授業に出て試験を受けても無効となる。
なお、「～上限オーバー」エラーに対して所定の期間内に手続きを行わなかった場合には大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除する。
ⓧ履修登録修正期間以外の修正は原則として認めない。

5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認

1. 履修登録の修正
修正対象となる科目は「科目コード登録」で登録した科目に限られる。また、科目コード登録の科目であれば、新たな科目の追加も可能である。
履修登録状況画面の表示内容を確認し、登録内容の修正が必要な場合は、履修登録修正期間に履修登録システムで手続きを行うこと。
なお、エラー表示された科目は、登録無効となっている（ただし、「～上限オーバー」エラーを除く）。
2. 修正についての注意点
(1) 履修登録状況画面上に記載され、登録無効となった科目については、エラーになった理由を調べ、エラーへの対処を行うこと。【エラーメッセージと対処法】を参照すること。
(2) 履修登録修正期間内に、エラーの無い状態で完了すること。
履修登録修正期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。
(3) 履修登録修正期間後の修正は原則として認めない。期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。
3. 履修登録修正結果の確認
(1) 履修登録修正期間に届出科目の修正を行った者は、履修登録状況画面で履修登録内容の修正手続きが正しく行われたかを確認すること。履修登録状況画面に記載されている科目が履修登録修正者の正規登録科目となる。したがって、必ず記載事項の誤りの有無を確認すること。
(2) 履修登録システムや履修登録状況画面上でエラー表示のまま修正しなかった科目は登録無効となり、削除されている。また、「～上限オーバーエラー」が発生したまま修正しなかった場合は、大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除している。各自が行った修正手続き終了時点の申請状況は申し出期限までに履修登録システムの履修照会画面で確認すること。
4. 申し出期限
履修登録の内容に関する疑問がある場合は、下記の申し出期限までに申し出ること。ただし、新たに科目を追加ならびに取消すことはできない。

時期	申し出期限	申し出場所
4月期	2019年4月25日（木）17：30	所属キャンパスの 教務窓口
9月期	2019年10月5日（土）12：30	

申し出の際には以下2点を持参すること。

- ① 履修登録状況画面のコピー
- ② 履修登録システムの履修照会画面のコピー

「履修照会画面」には、履修登録システムで、各自が行った手続き終了時点の申請状況が、各学期の申し出期限まで表示される。

5. 登録の無効について

履修登録状況画面の確認を怠り、届け出たつもりの科目が正しく履修登録されていなかった場合、その科目は無効であり、本学期または本年度の履修はできない。したがって授業に出ても試験を受けても無効となる。

V 履修登録

【エラーメッセージと対処法】

履修登録状況画面 「エラー科目」欄の表示	エラーメッセージへの対応について
[A] 校地移動時間不足	池袋キャンパス開講科目と新座キャンパス開講科目、池袋キャンパス開講科目と明治大学開講科目、新座キャンパス開講科目と明治大学開講科目の授業は1時限分（または昼休み分）の移動時間が必要です。なお、新座キャンパス開講科目と明治大学開講科目などにおいて、実際の移動時間が不足する場合でも自己責任となるので、登録の前に移動に要する時間を必ず確認してください。※明治大学開講科目は全学共通科目です。 ⇒連続した時限では履修登録できませんので、一方を削除し、どちらか一方のみ登録してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
[B] 人数制限科目	この科目は科目コード登録では登録できません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[C] 履修対象者以外	履修できる学生は学部・学科・年次・クラス・入学年度などによって決まっており、該当しない学生は履修できません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[D] 同時履修不可	同一年度または同一学期に複数登録できない科目です。 ⇒履修要項を確認して、一科目のみ登録してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
[E] 履修要件単位の不足	この科目を履修するためには、履修要項に示されている要件を満たす必要があります。 ⇒要件（別の特定の科目を履修中または修得済でなければ登録できない等）を満たすことができるか確認して、対処（追加・変更・削除）してください。
[F] 履修登録単位数不足	この科目を履修するためには、履修要項に示されている要件を満たす必要があります。 ⇒要件（****を～単位同時に登録が必要）を満たすことができるか確認して、対処（追加・変更・削除）してください。
[G] 講座未登録課程の履修	学校・社会教育講座の各講座課程（教職課程、学芸員課程、司書課程、社会教育主事課程）に登録していない学生は、各講座で開講されている科目を履修登録することができません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[H] 重複履修不可	この科目は、単位修得後に再び履修登録することが認められていません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[J] 同一内容科目履修不可	履修要項の規定を確認してください。 ①科目名が異なっている科目の間で「同時に履修登録することはできない」場合 ⇒一方の科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。 ②「すでに修得済の場合は、もう一方の科目を履修登録できない」場合 ⇒登録できませんので、エラー表示科目を削除してください。
[K] 同一科目（担当）不可	すでに修得した科目（科目名・担当教員ともに同じ科目）について再度の履修が認められない場合は、該当科目を履修登録することができません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[L] グループ科目の超過	この科目群は登録できる単位数が制限されていますので、履修要項の規定を確認してください。 ⇒現在エラー表示中の科目を含めて再度確認し、指定の単位数になるように科目を選択しなおして、超過している単位数分の科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、同じグループに該当する他の科目を削除してください。
[N] 履修科目上限オーバー	学科・学年により全学共通科目と専門教育科目等の合計の履修登録単位数に上限単位数（科目数）が決まっています。それより多い単位数（科目数）の履修登録はできません。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。 ★【Q】エラーも同時に表示されている場合の注意★ 全学共通科目（科目コードFA****～FE****, FH****～FI****, FV****）の上限単位数も超過している場合は、まず、全学共通科目のうち、科目コード登録により登録した科目から、削除してください。
[O] 専門教育上限オーバー	専門教育科目について履修登録できる上限単位数（科目数）が決まっています。それより多い単位数（科目数）の履修登録はできません。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。
[P] 内部科目コードの重複	開講曜日・時限あるいは担当者などが異なる場合でも、同一内容の科目として規定されている科目は、1科目しか履修登録することはできません。 ⇒同一科目となるいずれかの科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
[Q] 全学共通（全カリ）総合系科目上限オーバー	全学共通科目（科目コードFA****～FE****, FH****～FI****, FV****）は、各学期の登録上限単位数（*）が決まっています。 *合計6単位までです。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。
[R] 今年度休講	この科目は今年度休講です。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[S] 科目コードなし	この科目コードの開講科目はありません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[T] 曜日・時限の重複	同じ曜日・時限に開講されている科目は、同時に1科目しか履修登録することができません。 ※G5限・G6限は5限・6限と授業時間が一部重複しているため注意すること。 ⇒科目コード登録により登録した科目を削除してください。
[U] 必修科目未届け	今年度または今学期（まで）に修得しなければならない必修科目が、履修登録されていません。 ⇒履修要項で確認し、科目コード登録で登録する科目の場合は、画面上から追加してください。科目コード登録以外の登録方法が指示されている場合は、所属キャンパスの教務窓口で質問してください。

V 履修登録

履修登録状況画面 「エラー科目」欄の表示	エラーメッセージへの対応について
【V】登録時期エラー	9月期に登録する科目（秋学期科目）は、4月期に履修登録できません。同様に、4月期に登録する科目（通年科目、春学期科目）は、9月期に履修登録できません。履修要項で学期を確認してください。 ⇒エラー表示科目を削除してください（科目コードを誤って入力していた場合は、確認して入力しなおしてください）。
【W】外部科目コードの重複	同じ科目コードを複数届け出することはできません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【X】講座履修条件エラー	学校・社会教育講座において、その科目を履修するために必要な条件が定められていますが、その条件を満たしていません。もう一度履修要項と登録内容を確認してください。不明な点がある場合は、学校・社会教育講座事務室窓口で質問してください。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【Y】履修許可条件エラー	この科目を履修するためには履修要項に示されている必要な条件を満たす必要があります。 ⇒要件（別の特定の科目を履修中または修得済でなければ登録できない等）を満たすことができるか確認し、対処（追加・変更・削除）してください。

6 履修中止制度

1. 履修中止制度とは
履修登録を行った科目について、大学の定める一定期間に本人からの申請により、履修を中止することを認める制度である。
履修中止申請を行った科目については、当該学期の授業の出席、試験等の受験、単位の修得はできない。また、履修中止単位数分の新たな履修登録は認められない。
2. 申請した科目の扱い
履修中止を申請された科目は、以下のように扱われる。
(1) 成績評価：評価対象とはならず、成績通知表には「Q（履修中止）」と表示される。また、成績証明書には、科目名、成績評価とも記載されない。
(2) 履修登録上限：上限単位数に算入される。
(3) 追加登録：当該学期開講科目の追加登録は認められない。
(4) GPA：計算対象とならない。
3. 履修中止申請対象とならない科目
履修登録科目のうち、以下の科目は履修中止申請が認められない。ただし、観光学部専門教育科目・全学共通科目に限り、長期療養等の事由により、審査のうえ正当であると認められた場合は、この限りではない。事由の提示にあたっては、事実の確認できる証明書類を提出すること。
(1) 必修科目
(2) 他大学で開講している科目（例：f-Campus等）
(3) 集中講義形式で開講する科目
(4) 実習料等授業実施にあたっての費用を別途徴収している科目
専門教育科目 「早期体験プログラム」「言語と文化現地研修A/B」
全学共通科目 「英語海外文化研修」「ドイツ語海外言語文化研修」
「フランス語海外言語文化研修」「スペイン語海外言語文化研修」
「中国語海外言語文化研修」「中国語海外言語文化研修春」
「朝鮮語海外言語文化研修」「ビクトリア夏ESL2」「ハワイ夏ESL1」
「ダブリン夏ESL3」「ダブリン春ESL3」「シドニー春ESL3」
「ビクトリア春ESL2」「ハワイ春ESL1」「GL301」「国際協力リテラシー」
「アクティブ・リサーチ1」「国連ユースボランティア」「陸前高田プロジェクト」
「海外インターンシップ1」「海外インターンシップ2」
「RSL-コミュニティ（埼玉）」「RSL-コミュニティ（池袋）」
「RSL-ローカル（南魚沼）」「RSL-グローバル（フィリピン）」
「RSL-プロジェクト・プランニング」
学外で集中して実施するスポーツ実習
(5) 特に定める科目
専門教育科目 「観光インターンシップA/B」「経団連インターンシップ」「演習（2年）A/B」
「演習（3年）A/B」「卒業研究指導A/B」「卒業論文」「旅行産業演習1・2(A)/(B)」
「宿泊産業演習1・2(A)/(B)」
「観光地研究演習1・2(A)/(B)」
「観光ビジネスプラン（演習）1・2」「観光ビジネスプロジェクトA/B」
全学共通科目 ①言語系科目の言語自由科目（「英語R」を含む）
②総合系科目
・「学びの精神」のうち以下に挙げる科目
「GL101」
・「多彩な学び6. 知識の現場」の全科目
・「スポーツプログラム」「スポーツスタディ」の全科目
学校・社会教育講座 「中・高教育実習」「高校教育実習」「中・高教育実習事前指導」「高校教育実習事前指導」「(各)教科教育法演習2」「特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法」

V 履修登録

「特別活動の理論と方法(A)」 「教職実践演習(中・高)」 「博物館実習(館園実習)」
「見学・学内実習」 「図書館実習」 「図書館実習(司書教諭)」 「社会教育演習」

4. 申請期日

(1) 申請期間

申請期間は履修中止を希望する科目によって異なる。下表を参照し、所定の期間に申請すること。

申請対象科目	申請期間
春学期1開講科目	2019年5月7日(火)～9日(木) 17:00
春学期科目 (春学期1開講科目を除く)	2019年6月18日(火)～20日(木) 17:00
秋学期1開講科目	2019年10月8日(火)～10日(木) 17:00
秋学期科目 (秋学期1開講科目を除く) 通年科目	2019年12月3日(火)～5日(木) 17:00

※受付時間11:00～26:00(締切日は11:00～17:00)

入院等により申請期間に申請できない場合は、原則として申請締切日以前に所属キャンパスの教務窓口へ連絡すること。連絡があった場合には、観光学部教授会において審査されるので、追試験受験申請書提出時に準じ、事実を確認できる書類を提出すること。

(2) 申請手続き

履修登録システムよりアクセスし、履修中止申請画面より申請手続を行うこと。

〈手続内容〉

履修中止申請の対象となる科目が表示されているので、中止する科目について、**中止する**ボタンをクリックし、「履修中止申請状態」欄に「履修中止申請中」と表示されたことを確認すること。

(3) 履修中止処理結果の確認

履修中止を行った科目は、下記の日程で成績参照システムで確認できる。履修中止処理が行われた科目の成績欄には、「Q」と表示される。

申請対象科目	公開日
春学期1開講科目	2019年5月13日(月)
春学期科目 (春学期1開講科目を除く)	2019年6月24日(月)
秋学期1開講科目	2019年10月14日(月)
秋学期科目 (秋学期1開講科目を除く) 通年科目	2019年12月9日(月)

1 試験に関する規定

観光学部専門教育科目の試験に関しては、巻末の「観光学部専門教育科目試験規則」もあわせてよく読んでおくこと。他学部および学校・社会教育講座科目の試験に関しては、その科目が設置されている学部等の履修要項および掲示に従うこと。

1. 試験の種類と
実施時期

(1) 定期試験

講義終了後に期間を定めて行う試験。

- ① 春学期末試験——春学期科目に対する試験
※春学期1開講科目は筆記試験を実施しない。
- ② 秋学期末・学年末試験——秋学期科目および通年科目に対する試験
※秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

◎全学の定期試験期間は、以下のとおり定められている。

- 専門教育科目，全学共通科目，学校・社会教育講座科目とも，同一の定期試験期間で行う。
- 1日5時限の試験を実施し，各時限とも，全科目同一時刻に試験を開始する。（各時限の試験終了時刻は，科目の設置学部等により，また科目により異なる。）

☞試験は授業と同じ曜日・時限に実施されるとは限らない。

試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）をよく確認すること。

〈2019年度 定期試験期間（全学）〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年7月20日（土）～7月31日（水）	2020年1月23日（木）～2月3日（月）

(2) 最終授業時試験

春学期末，秋学期末・学年末の最終授業時に行う試験。

※春学期1開講科目，秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

(3) 追試験

入院その他やむを得ない事由によって，最終授業時試験および定期試験を受験できなかった場合に実施する試験（いずれも試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に，筆記試験もしくは口頭試問として発表され，追試験対象科目に指定された場合に限る）。

☞ 6 追試験 の項を参照のこと。

(4) 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）に実施する試験。

☞ 7 試験時間重複特別試験 の項を参照のこと。

(5) 英語単位認定試験

英語単位認定試験は全学共通科目言語系科目言語A必修科目（英語ディスカッション1・2を除く）の不足単位の修得を目的とし，以下の期日に行う試験。その詳細については別途定める（全学共通科目 言語系科目 4 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったら の項を参照）。

〈2019年度 英語単位認定試験実施日〉

春学期	秋学期
2019年6月8日（土）	2019年11月9日（土）

2. 受験資格・受験資格の喪失・出校停止

- (1) 受験資格
 在学中の者であって、かつ当該科目について履修登録を完了している者のみ、受験資格がある。
- (2) 受験資格の喪失
 次のいずれかに該当する者は、受験資格を喪失し、受験した場合はその答案、レポート等は無効となる。
- ① 学生証または臨時学生証のいずれも不携帯の者*¹
 - ② 当該試験期間中に休学中・停学中の者
 - ③ 出席その他、当該科目の担当教員があらかじめ指示した受験資格要件を欠く者
 - ④ 派遣留学・認定校留学中の者*²
- *1 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問と発表された受験に関してのみ適用される。
- *2 ケント州立大学およびセントクラウド州立大学の秋学期派遣留学生は、秋学期末・学年末試験を受験することはできない。また同様に、当該科目の授業期間中に派遣留学・認定校留学し、定期試験期間に帰国していた場合においても、受験資格が無い派遣留学・認定校留学がある。詳細は所属キャンパスの教務窓口へ問い合わせること。
- (3) 出校停止による受験不可
 次に該当する者は、出校停止となるため、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問と発表された試験の受験はできない。追試験の受験を希望する場合は、追試験の申請をすること。出校停止期間中に受験した場合、その試験は無効となる。
- 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、レポート試験と発表された試験については「5 レポート 2 提出方法 (1) レポート試験」の項を参照すること。

インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種に罹患中の者（「II 授業（学習生活）6 学校感染症に罹患した場合の措置について」の項を参照）。

2 試験方法

1. 試験方法

- (1) 試験は、筆記、レポートあるいは口頭試問によって実施する。ただし科目によっては、試験によらず平常点によって成績評価する場合もある。
- ⚠️各科目の成績評価方法・基準は、シラバスの記載内容によるが、履修者数、教室などの条件により、やむを得ず変更する場合もある。シラバスの変更については、変更内容を各学部等掲示板およびホームページ上のシラバスにも示すので、確認すること。
- 試験（筆記・レポート・口頭試問）についての詳細は、「2. 試験方法発表」における発表内容が最終的な試験方法の指示となるので、必ず確認すること。
- ⚠️試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）において発表された、筆記試験を欠席した場合、または「レポート試験」と発表されているレポート（「5 レポート」の項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。
- (2) 次の科目は、試験を行わず評価するものとし、試験方法発表掲示（「2. 試験方法発表」の項を参照）を行わない。

演習（2年）A/B、演習（3年）A/B、卒業研究指導A/B、卒業論文
 観光研究指導演習A/B、修士論文指導演習A/B、観光研究演習A/B、修士論文

〈全学共通科目〉全ての言語教育科目 スポーツ実習（スポーツスタディ・スポーツプログラム）
 立教ゼミナール1～5 立教ゼミナール発展編1～5 GL101
 多彩な学び「6. 知識の現場」の全ての科目

VI 試験・成績

(3) 次のテスト等は、平常点として扱う。

- ① 学期中随時実施される、筆記による小テスト・中間テスト、学期末の最終テスト（学期末に実施されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては筆記試験とは発表されないもの）
- ② 学期中随時課されるレポート、学期末に課されるレポート（学期末に課されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においてはレポート試験とは発表されないもの）
- ③ 学期中に随時実施される口頭試問、学期末の口頭試問（学期末に実施されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては口頭試問とは発表されないもの）
- ④ 全学共通科目言語系科目において実施される筆記によるテスト、口頭試問等は全て平常点として扱う。

2. 試験方法発表

試験方法は、下記の日程で掲示（新座1号館2階、池袋キャンパスは11号館1階エントランスホール）、ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2019年度 試験方法発表（予定）〉

春学期1末	2019年5月18日（土）10：00
春学期末・春学期2末	2019年7月2日（火）10：00
秋学期1末	2019年10月30日（水）10：00
秋学期末・秋学期2末・学年末	2019年12月12日（木）10：00

3 筆記試験

筆記試験には、定期試験期間内に行われるもの、および最終授業時に行われるものがある。

1. 試験の時間割

・試験時間

(1) 観光学部専門教育科目および全学共通科目の定期試験時間は、通常の授業とは異なり70分である。

〈定期試験期間内筆記試験 試験時間〉

時限	1	2	3	4	5
試験時間	9：10	11：00	13：20	15：10	17：00
	10：20	12：10	14：30	16：20	18：10

* 科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

* 他学部科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該学部等の履修要項、試験時間割発表掲示を確認すること。

〈最終授業時筆記試験 試験時間〉

通常授業時間内（Ⅱ授業（学習生活）2 授業時間 の項を参照）で行われる。

* 科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

* 他学部科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該学部等の履修要項、試験時間割発表掲示を確認すること。

☞ 交通機関の遅れなどにより、試験の開始・終了時刻が遅くなる可能性があるため、試験当日の行動予定を立てるに際して、そのことを考慮しておくこと。

(2) 試験方法等

- ① 試験方法・試験日程・時間割・試験場は、掲示（新座1号館2階、池袋キャンパスは11号館1階エントランスホール）ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）
- ② 試験日程には、予備日が設けられている。予備日とは、定期試験期間内筆記試験および最終授業時筆記試験において、災害等、突発的な事情により試験を実施することができなくなった場合の代替日を示す。予備日に代替された科目、予備日の試験日程については、随時試験掲示およびホームページ上で発表するので、必ず確認すること。

- ③ 受験者は、必ず指定された教室で受験すること。
- ④ 試験は、授業時の教室と異なる教室で行うことがあるので注意すること。
2. 筆記試験受験時の学生証携帯義務
- (1) 学生証（または臨時学生証）を携帯しない場合は、いかなる理由があっても受験できない。
- (2) 受験中は、学生証（または臨時学生証）を机上の試験監督者の見やすい位置に明示しておかなければならない。
- (3) 学生証を紛失・破損した場合や、劣化により顔写真が不鮮明となった場合は、直ちに所属キャンパスの教務窓口で再交付を受けること。
- (4) 試験当日、学生証を忘れた者は所属キャンパスの教務窓口で「臨時学生証」の発行を受けること。
臨時学生証 発行手数料500円・2日間有効・写真不要
 *試験当日に入金できない場合は、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせすること。
3. 試験場への入退室
- (1) 定期試験期間内観光学部専門教育科目筆記試験の受験者は試験時間開始の15分前までに試験場前の廊下に集合し、試験場入口で指定された場所に着席すること。
- (2) 定期試験期間内全学共通科目筆記試験の受験者は試験時間開始の10分前までに試験場に入室すること。
- (3) 最終授業時筆記試験の受験者は授業開始時刻までに試験場に入室すること。
- (4) 試験開始後15分までの遅刻については、試験監督者が許可した場合に受験を認める。
- (5) 交通機関等の遅延による遅刻者であって、交通機関発行の遅延証明書を持参した者は、試験開始後15～30分までの遅刻については試験監督者が許可した場合に限り、受験を認める。
- (6) 上記(5)において、やむを得ず「遅延証明書」を持参しなかった者については、試験場で「交通機関遅延状況説明書」に必要事項を記入した上で、試験監督者の許可を得て受験することができる。（監督者から指定された期日までに、交通機関発行の遅延証明書の提出が必要となる）
- (7) 試験開始後30分を経過しなければ退室することができない。また、原則として試験終了前10分間は、退室することができない。
- (8) 交通機関の大幅な遅延、事件、事故などのため試験時間に遅れそうな場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。
4. その他
- (1) 解答用紙および試験出席票に記入する所属、学年、学生番号、氏名は、特に指示のないかぎりペンまたはボールペンで記入すること。
- (2) 学生番号・氏名が未記入の答案は無効とする。
- (3) 当該科目の履修登録を行わない者は、受験資格を持たない。万一受験した場合は、その答案は無効とする。
- (4) 受験した科目の解答用紙および試験出席票、試験問題は、白紙であっても氏名等を記入して、必ず提出すること。
- (5) 携帯電話等の通信機器類は、試験場での使用を認めない（試験方法に「すべて持込可」とされた科目の場合も使用不可）。また、同機器類の時計・電卓としての使用も認めない。
- (6) 筆記用具は筆入れから出すこと。筆記用具・学生証（臨時学生証）以外のものは、当該科目について特に許可されているものを除き、かばん等に入れて、指定された場所に、試験開始前におくこと。
- (7) 受験中は、学生同士の会話、物の貸借を一切禁ずる。

4 口頭試問

定期試験として行う口頭試問の詳細については、掲示（新座1号館2階、池袋キャンパスは11号館1階エントランスホール）ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する試験方法発表にて確認すること。（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）

本学部は実施しない

5 レポート

レポートを作成する場合の注意事項は後述の「レポート・論文作成時のルールについて」も参照すること。

1. レポート

- (1) レポートには下記の2種類がある。
- ① 試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）において「レポート試験」と発表され、レポート提出期間に提出するレポート
 - ② 最終授業時など、①以外の方法・時期に提出するレポート
- (2) 上記(1)～①におけるレポートの提出日時、提出場所、題目の発表
- 提出日時、提出場所、題目は、試験方法と同時に、掲示（新座1号館2階、池袋キャンパスは11号館1階エントランスホール）、ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する。（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）

2. 提出方法

- (1) レポート試験
- 試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）で指定された期日・場所に、専用のレポート表紙を綴じ付け、レポート提出証を添えて提出すること。※一部webで受付する場合もある。試験方法発表にて詳細を発表するので注意すること。
- ① 指定期日後は、理由の如何にかかわらず一切受け付けないので十分注意すること（後述「レポート・論文等の提出に際しての注意」も参照）。
 - ② レポートは、同一科目につき複数提出することはできない。万一、複数提出された場合は、最初の1件のみを採点の対象とする。また、一度提出されたレポートの返却はしないので、不備がないか十分確認のうえ提出すること。
 - ③ レポートの用紙は、特に指定のない限りA4判の用紙を使用すること。
 - ④ レポート表紙とレポート提出証（いずれも専用のもの）の配付開始時期は、試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）により指示する。
 レポート表紙……A4サイズで科目設置学部等により色が異なる
 レポート提出証……レポート表紙と同色
 - ⑤ レポート表紙、レポート提出証は、ペンまたはボールペンで必要事項を記入すること。
 - ⑥ レポートとレポート表紙はホチキスで2箇所以上綴じること。
 - ⑦ 提出されたレポートは、レポート表紙の整理記号欄の記入内容により採点されるので、記入間違いや他科目と表紙を付け間違えないよう十分注意すること。
 - ⑧ レポート表紙に、学生番号・氏名が未記入のレポートは無効とする。
 - ⑨ 当該科目の履修登録を完了していない者はレポート提出資格を持たない。万一レポートが提出された場合は、そのレポートを無効とする。
 - ⑩ 病気、その他やむを得ない事情により本人が提出できない場合には、代理人による提出を認める（以下「レポート・論文等の提出に際しての注意」参照）。
 - ⑪ 学校感染症第1種または第2種に罹患した場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口連絡をして指示を受けること（以下「レポート・論文等の提出に際しての注意」参照）。

レポート・論文等の提出に際しての注意

レポート・論文等は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出にあたっては十分余裕をもって臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼する等の措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が提出期限までにレポート・論文等の提出に来られない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合を言う。

*プリンター等、機器の故障は不測の事態に含まれないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生のレポート・卒業論文・修士論文の提出について

上記に該当した場合は、以下の指示に従うこと。

1. 上記の提出物の提出期間において本人が出校停止中である場合は、代理人を立て、当該の期間内に提出することを原則とする。

代理人による不備は、依頼した本人の責任となる。

2. 1. において代理人を立てることができない場合は、締め切り時刻以前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。

(以下のすべてに該当する場合、後日の提出を認めることがある)

- ① 上記2. に該当する学生であること。
- ② 医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」の提出によって、締切日当日に学校感染症に罹患して出校停止中であった事実が証明できること。
- ③ 「出校可能となった日の翌日（窓口対応可能日）」に提出すること。

(2) レポート試験以外のレポート

- ① 各自で表紙をつけ、表紙には、必要事項（科目名・科目担当教員名・所属学部・学科・年次・学生番号・氏名）を必ず記入すること。
- ② 紙媒体以外の提出方法による場合も、上記必要事項を必ず明記すること。
- ③ その他の提出方法については、科目担当教員の指示に従うこと。科目担当教員へ提出するよう指示されたレポートは直接科目担当教員に手渡すこと。

レポート・論文作成時のルールについて

皆さんは、さまざまな授業でレポートや論文を書く機会があると思います。授業の中で指示されて書くレポートや期末試験の代わりに書くレポート、討論会のために作成する論文や卒業論文など、その性質はさまざまですが、どのレポートや論文にも共通なルールがいくつかあります。その一つが、他人が書いたものを写して、あたかも自分が書いたかのように装ってはいけない、というルールです。

これは、元の文章や図表が書物のものであっても、Web上のデータのものであっても、友人のレポートであっても同じです。たとえその文章が著作権を放棄したもので、リンクフリーのサイトに載っているものでも同じです。問題は、元の文章の性格ではなく、他の人の成果を自分の成果であるかのように装ってはいけない、ということなのです。このような他人の成果を盗む行為は「盗用」や「剽窃（ひょうせつ）」と呼ばれます。

もちろん、他の人がこれまで積み重ねてきた研究の業績を自分のレポートや論文に全く利用してはいけないということではありません。独りよがりにならないためには、従来の研究の成果に大いに学ばなければなりません。他人の業績のアイデアを利用することもあるでしょうし、他人の作った文章や図表などを引用して説明を行う場合もあるでしょう。

ただし、こうした利用や引用にはルールがあります。他の人のアイデアや文章、図表などを用いるときには、それがもともと誰の成果なのかを明記するというルールです。このルールをないがしろにすれば、悪気のあるなしにかかわらず「盗用」や「剽窃」になってしまうのです。

具体的な表記の仕方については授業で学びますが、一般的には次の通りです。

- ・引用対象が文章なら、その文章を「 」で囲み、他の部分と区別する。
- ・その対象の出典を明記する。

【例】【図書の場合】 著者名、『書名』、出版社、発行年、ページ

【雑誌論文、記事の場合】 筆者名、「論文名」、『雑誌名』、巻、号、発行年月、ページ

【ホームページの場合】 URL、取得年月日

【新聞記事の場合】 新聞紙名、朝夕刊の区別、号数、第何面か

これ以外にも表記の仕方にはいろいろなバリエーションがあります。そうした表記の方法や、そもそも論文やレポートでどのくらいの引用をすべきなのかといった点については教員の指導に従ってください。

盗用や剽窃は文章を書く場合にはもっとも恥ずべき行為のひとつであり、研究者がこうしたことを行えば研究者生命を失いかねない程の大問題になります。皆さんのレポートや論文についてもこうした盗用・剽窃がなされないように適切に指導することと、こうした行為が行われたときには厳しく対処することが全学の教員で合意されています。

レポートや論文は他の人の成果を調べて書き写したり、カットアンドペーストのみで作ったりするものではありません。さまざまな研究成果やデータをルールに則って利用しつつ、最終的に自分の考えや主張を論じることで完成するものです。他者の成果には十分に敬意を払い、ルールを守って論文やレポートを作成するようにしましょう。

6 追試験

入院その他やむを得ない事由によって春学期末試験または秋学期末・学年末試験を受験できなかった者で、追試験受験申請書を提出した者に対しては、審査の上追試験の受験を許可することがある。

☞ 「観光学部専門教育科目試験規則」第4章を参照のこと。

1. 対象科目

追試験の対象となる科目は、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問として発表され、追試験対象科目に指定された、最終授業時試験科目および定期試験科目である。

- * 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、追試験対象科目として指定されなかった科目は、追試験の対象とはならない。
- * その他授業時間内に科目担当教員が任意に実施する小テスト・中間テスト・最終テストは、追試験の対象とはならない。それらが実施された授業日に欠席した場合は、科目担当教員の指示に従うこと。

2. 受験申請書

追試験受験申請書を、履修登録状況画面のコピーと別表の証明書を添付の上、試験実施日の翌日から1週間以内（翌週の同じ曜日まで。締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に所属キャンパスの教務窓口に提出すること。

追試験受験申請書は、所属キャンパスの教務窓口で交付する。

(SPIRIT 教務部ページからもダウンロード可能。)

- * 入院等により期間内に追試験受験申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口に連絡し、指示に従うこと。特に、学校感染症（第1種または第2種）に罹患した場合は、速やかに連絡し、指示を受けること。
- * 所属キャンパスとは異なるキャンパスで履修した科目の追試験受験申請書は、当該科目の開講キャンパス窓口に提出すること。ただし、所属キャンパスで履修した科目を同時に申請する場合はその限りではないので、事前に所属キャンパスの教務窓口に相談すること。

3. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、下記の日程で掲示（新座7号館1階移動掲示板、池袋キャンパスは11号館1階エントランスホール）、ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2019年度 追試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年8月27日（火）10：00	2020年2月18日（火）10：00

- * 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスにて行う。

4. 追試験実施期間

追試験は、次の期間に実施する。

〈2019年度 追試験 実施期間〉

追試験実施方法	春学期末	秋学期末・学年末
筆記試験 口頭試問	実施期間： 2019年9月5日（木）～12日（木）	実施期間： 2020年3月2日（月）～7日（土）
レポートによる追試験	提出期間： 2019年9月5日（木） ～10日（火）16：00	提出期間： 2020年3月2日（月） ～4日（水）17：00

- * 追試験の実施は当該科目の開講キャンパスにて行う。

5. 追試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3 筆記試験** に準じる。

なお、追試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

〈別表：追試験受験申請書添付書類〉

	試験欠席事由	添付すべき証明書類 <small>事由によっては、立教大学が記入用紙を作成する場合はある</small>
(1)	入院またはそれに準ずる登校不能（風邪・下痢等の一時的な疾病は含まない）ただし、必修科目、先修科目については欄外*を参照	入院先機関の発行する入院証明書 ^{注1)}
(2)	インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種の罹患による登校不能 ^{注2)}	医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」 ^{注3)} 、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」 ^{注4)}
(3)	忌引（保証人、配偶者および3親等以内の血族または姻族に限る）（法事は含まない） ^{注5)}	本人と保証人の署名・捺印のある書類（様式は自由、本人との続柄を明記）およびその事実を明らかにするもの（死亡に関する公的証明書もしくは会葬礼状等）
(4)	交通機関の30分以上の遅延	交通機関発行の遅延証明書
(5)	重大な災害による登校不能	官公庁発行の被災証明書
(6)	学校・社会教育講座の各種実習・体験等	実習・体験期間証明書
(7)	就職試験（就職試験の日程が変更できない場合に限る。セミナー、複数企業の合同説明会、OB・OG訪問等は含まない）	本人が受験したことを証明する受験先機関発行の証明書（就職試験の場所、日時を明記、社印が押印されていること）
(8)	他大学大学院入学試験	受験票のコピー
(9)	日本代表としてのスポーツ公式競技への参加	派遣元団体が大学に宛てた公文書
(10)	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭、または裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭の場合、出頭した裁判所での出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」、裁判員に選任された場合、裁判員職務従事期間についての「証明書」
(11)	上記10事項に準ずる事由 ^{注6)}	

* 必修科目については、医師の診断書がある病気・けがによる登校不能についても欠席事由とする。

注1) 上記(1)の場合の入院証明書・医師の診断書は、試験を欠席した日の入院・病気・けがを証明する内容であること。

注2) 上記(2)に該当した場合には、速やかに所属キャンパスの教務窓口につながり指示を受けること。なお、罹患中に試験を受験した場合には、その試験は無効となる。

注3) 上記(2)に該当した場合の医師の診断書において、罹患時と治癒時の受診医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合があるので注意が必要である。受診医療機関を変更する場合は、罹患時に受診した医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」を必ず取得しておくこと。こうすることにより、罹患時に取得した「診断書」と治癒時に受診した医療機関が発行する「治癒日と登校可能日の記載がある『診断書』」の2種類をもって「罹患期間についての証明」とすることが可能となる。

注4) 上記(2)に該当した場合の「治癒証明書」の書式は、SPIRIT 教務部ページからダウンロードすること。

注5) 3親等以内の血族または姻族とは次を指す。

血族—父母・子、祖父母・兄弟姉妹・孫、曾祖父母・伯叔父母・甥姪・曾孫

姻族—配偶者の父母・子の配偶者・配偶者の子（配偶者の前婚における子など）、配偶者の祖父母・配偶者の兄弟、姉妹・孫の配偶者・配偶者の孫（配偶者の前婚における孫など）・兄弟姉妹の配偶者、配偶者の曾祖父母・配偶者の伯叔父母・配偶者の甥姪・曾孫の配偶者・配偶者の曾孫（配偶者の前婚における曾孫など）・甥姪の配偶者・伯叔父母の配偶者

注6) 原則として、事前の届出に対して審査を行うので、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

7 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）は、試験時間重複特別試験を実施する。その場合は、原則として、他学部等の科目を定期試験期間内で受験し、自学部科目を特別試験において受験すること。

1. 受験申請書

受験希望者は、試験日時発表後から試験実施期間開始の1週間前までに、試験時間重複特別試験受験申請書を履修登録状況画面のコピーを添付の上、所属キャンパスの教務窓口に提出すること。ただし、試験時間が変更されたことによって試験時間に重複が生じた場合は、試験実施日の翌日から2日以内に試験時間重複特別試験受験申請書を所属キャンパスの教務窓口に提出すること。

2. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、下記の日程で掲示（新座7号館1階移動掲示板、池袋キャンパスは11号館1階エントランスホール）、ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2019年度 試験時間重複特別試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年8月27日(火) 10:00	2020年2月18日(火) 10:00

* 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスにて行う。

3. 実施期間

試験時間重複特別試験は、次の期間に実施する。

〈2019年度 試験時間重複特別試験 筆記試験・口頭試問実施期間〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年9月5日(木)～12日(木)	2020年3月2日(月)～7日(土)

〈2019年度 試験時間重複特別試験 レポート提出期間〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年9月5日(木)～10日(火) 16:00	2020年3月2日(月)～4日(水) 17:00

* 試験時間重複特別試験の実施は当該科目の開講キャンパスにて行う。

4. 試験時間重複特別試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3** 筆記試験 に準じる。

なお、試験時間重複特別試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

8 不正行為

試験は、学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。

1. 退室命令

試験中に不正行為とみなされる行為が発見された場合、不正行為者は、試験場から直ちに退出を命ぜられる。

2. 受験資格の喪失

- (1) 受験中に不正行為を行った者は、不正行為以降の全学共通科目、他学部科目等を含むその期の全科目の受験資格（レポート提出資格等を含む）を失う。
- (2) 英語単位認定試験を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末・学年末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績はすべて不合格となる。

3. 当該試験期間の成績

不正行為者の当該試験期間の成績は以下の通りとする。

- (1) 定期試験期間内筆記試験科目、最終授業時筆記試験科目については、すでに受験した科目を含む全科目の成績を不合格とする。
- (2) 春学期末または秋学期末・学年末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した

VI 試験・成績

英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。

- (3) レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目等、原則として定期試験期間内筆記試験、最終授業時筆記試験以外の方法のみによって成績評価を実施する科目については、不正行為以前の成績評価は有効とする。

4. 処分の決定

- (1) 不正行為者の処分は、その者の所属する学部教授会がこれを決定する。
 (2) 処分は、訓告・停学・退学の3種類とする。不正行為の処分は、原則として停学とする。
 (3) 処分決定後は、不正行為以降全ての受験資格を喪失する。

9 成績

1. 成績評価

授業科目の成績は以下の基準に従い、S、A、B、Cを合格、D、欠を不合格とする。

⊙単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。

〈成績の評価〉

評価		GP <small>注1)</small>	評価基準	成績証明書 の表示
合格	S (100~90点)	4	当該科目の目標をほぼ完全に達成していると認められる	S
	A (89~80点)	3	当該科目の目標を十分に達成していると認められる	A
	B (79~70点)	2	当該科目の目標の基幹部分は達成しているものと認められる	B
	C (69~60点)	1	当該科目の目標のうち最低限は達成していると認められる	C
不合格	D (59~0点)	0	当該科目の目標に及ばない	F
	欠席	0	試験未受験等により評価できないもの <small>注4)</small>	
履修中止 <small>注2)</small>	Q	—	所定の期日までに履修中止の手続きをしたもの <small>注3)</small>	表示 されない

注1) 「4. GPA」の項参照

注2) 「V 履修登録 6 履修中止制度」の項参照

注3) 成績確定前に、休学したものおよび在学留学したものも含む。

注4) 筆記試験・口頭試問を欠席した場合、また試験発表掲示にレポート試験と発表されているレポート（5 レポートの項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

次のように表示される科目もある。(GPA^{注1)}算出対象外)

評価	成績証明書
合格	合
不合格	H
認定	認

注1) 「4. GPA」の項参照

VI 試験・成績

2. 成績の発表

成績は下記の日程で成績参照システムに発表する。電話・メールによる成績の問い合わせには一切応じない。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

〈成績の発表〉

春学期科目	2019年度在籍者 (特別卒業[9月卒業]申請者を含む)	2019年9月5日(木)
秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年2月28日(金)
	2020年度在籍者	2020年3月13日(金)
	2020年度在籍者 (2020年度の新年次での発表)	2020年3月28日(土)

〈追試験結果の発表〉

春学期科目	2019年度在籍者 (特別卒業[9月卒業]申請者を含む)	2019年9月23日(月)
秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年3月13日(金)
	2020年度在籍者	

3. 成績評価調査の申請

成績評価調査制度は、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、の確認を求めるとのものであり、成績の再考を求めるとのものではない。調査の申請にあたっては、「成績評価調査申請書」にその理由を詳しく記入し、下記の期間内に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

* 「成績評価調査申請書」は所属キャンパスの教務窓口で配付する。

〈成績評価調査申請書提出期間〉

2019年度 春学期科目	特別卒業(9月卒業)申請者	2019年9月5日(木) ~9日(月) 16:00
	2019年度在籍者 (特別卒業[9月卒業]申請者を除く)	2019年9月5日(木) ~10日(火) 16:00
2019年度 秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年2月28日(金) ~3月2日(月) 12:30
	2020年度在籍者 (2019年度卒業合格 発表対象者を除く)	2020年3月13日(金) ~17日(火) 12:30

申請期限は遵守すること。

入院等により、期間内に成績評価調査申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示に従うこと。

4. GPA

(1) GPA (Grade Point Average)

GPAとは、履修した各科目の成績評価に対してそれぞれポイント (GP) を定め、当該期間の成績の平均値を示す成績評価結果の表示方法の一つである。GPAは、不合格科目も含め、学期ごと、学年ごとの値が算出されるので、学生が自分の学修の履歴や到達度を把握することができ、学習の促進に効果的な成績評価方法である。米国をはじめ海外の多くの大学が採用しており、留学や海外の大学院への進学を希望する場合には、提出が求められるものでもある。

(2) GPA算出方法

下記計算式によりGPAを求める。

* 小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で、表示する。

$$\frac{S\text{の修得単位数} \times 4 + A\text{の修得単位数} \times 3 + B\text{の修得単位数} \times 2 + C\text{の修得単位数} \times 1}{\text{GPA算出対象科目の総履修登録単位数 (D・欠を含む)}}$$

⊙ 個々の学生のGPA値に関する問い合わせには応じない。

(3) GPA算出対象

① GPA算出対象科目

成績評価が、S・A・B・C・D・欠 と表示される科目とする。

② GPA算出対象外科目

- ◇ 履修中止を申請した科目
- ◇ 単位認定科目 (3年次編入や留学等により単位認定され成績評価が「認」と表示される科目)
- ◇ 学校・社会教育講座の科目
- ◇ 成績評価が 合・不 で表示される科目

(4) GPA値の表示形式

- ◇ 成績証明書には、通算のGPAを表示する。
- ◇ 前頁「2. 成績の発表」の成績参照システムでの成績発表においては、通算のGPAの他、履修年度ごと、学期ごとのGPAを表示する。

* 通年科目については、秋学期科目に含めてGPAを計算し、表示する。

1 卒業および学位に関する規定

観光学部に4年以上在学して、所定の単位を修得した者には、学士（観光学）の学位を授与する。

なお、本学の卒業年月日は、当該年度3月31日付とする。

*休学などによる学修中断の期間は、この在学年数には数えられない。詳細は、「VII 学生証・学籍・学費 2 学籍」を参照。

2 最長在学年数

本学における最長在学年数は8年とする。これを超えて在学することはできない。なお、3年次に編入学または転部・転科・転専修した者は6年、2年次に転部・転科したものは7年とする。

3 卒業合否の発表

卒業合否は2020年2月28日（金）に成績参照システムにて発表する。在学8学期目以降の4年次生は必ず本人が卒業の合否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

☎電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない。

4 卒業の延期（希望留年）

1. 希望留年とは

卒業に必要な所定の単位を修得した後も本学に留まり、勉学を継続するため在学（留年）を希望する場合、所定の受付期間に、所定の書式（希望留年願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて留年することができる。この場合、卒業は翌年度末まで認められない。この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。許可された場合、当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入することになる。なお、特別卒業を申請し、許可された場合、9月19日付で卒業となる。特別卒業に関しては次頁「5 特別卒業」を参照。

2. 希望留年願の配付

配付期間 2019年12月2日（月）8：50～2020年3月13日（金）17：00

配付場所 教務窓口（巻頭参照）

3. 希望留年願の受付と許可者発表

受付期間 2020年2月28日（金）10：00～3月13日（金）17：00

*受付期間以外の申請はっさい受け付けないので注意すること。

*この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。

受付場所 教務窓口（巻頭参照）

許可者発表 2020年3月18日（水）

成績参照システムに発表する。

発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

5 特別卒業

1. 特別卒業（9月卒業）とは

「特別卒業（9月卒業）」とは、以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属学部が行う卒業判定で合格した場合、年度途中の9月19日付で卒業することができる制度である。

〈特別卒業（9月卒業）申請条件〉

1. 所定の受付期間に、所定の書式（特別卒業願）によって保証人連署をもって願出していること
2. 学部学生であること
3. 申請時において、在学8学期目以降の学生であること^{*1}
4. 申請時において、所属学部等の卒業に必要な単位を、修得または修得見込^{*2}であること
5. 申請学期において、在学中であること^{*3}
6. 申請時において、当該年次の「学費^{*4}その他の納入金」の全額または分納1を納めていること

この願出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。特別卒業願を提出し特別卒業を許可された場合の「学費^{*4}その他の納入金」は、学費^{*4}その他の納入金の2分の1額とする。

※1：休学中の期間は、在学年数ならびに在学学期数に含まれない。

※2：当該年度春学期科目の修得により、所属学部等の卒業に必要な単位を修得する見込がある学生。

※3：休学中・停学中でないこと。

※4：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※5：特別卒業を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が特別卒業の申請条件として納入すべき金額に不足する場合は、特別卒業願を受理しない。

2. 特別卒業願の配付

配付期間 2019年6月1日（土）8：50～7月15日（月）17：30

配付場所 教務窓口（巻頭参照）

3. 特別卒業申請受付と許可者発表

受付期間 2019年7月1日（月）8：50～7月15日（月）17：30

*受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。

*この願出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。

受付場所 教務窓口（巻頭参照）

許可者発表 2019年9月5日（木）

成績参照システムに発表する。

発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

4. 特別卒業式

2019年9月19日（木）

時間については、許可者発表日にあわせて成績参照システムに発表する。

1 学生証

1. 学生証

学生証は、立教大学の学生であることを証明するものである。学生証は、プラスチックカードと通学定期乗車券発行控がセットになっている。請求があった場合にはいつでも提示できるよう、常に携帯すること。

2. 学生番号について

学生番号は固有の番号で、在籍中および卒業後も変わることはない。各種手続きの際に必要なもので正確に覚えること。

1	9	A	A	1	2	3	Z
入学年度		入学時の 学部・学科等 (研究科・専攻)		個人番号			

3. 有効期間

学生証の有効期限は在籍期間中である。ただし次の場合は学生証（プラスチックカードと通学定期乗車券発行控）を返却しなければならない。

- (1) 卒業・修了・退学・除籍などで学籍を失ったとき。
- (2) 紛失等により再交付を受けたのち、前の学生証が見つかったとき（前の学生証を返却すること）。

4. 貸与・譲渡の禁止

学生証は学生本人を証明する大変重要なものである。学生証を他人に貸与、または譲渡することは固く禁止されており、違反した学生は本学では懲戒の対象となる。なお、複写物の貸与・譲渡についても同様の扱いとなる。

5. 紛失・破損したとき

学生証を紛失・破損した場合や劣化により顔写真が不鮮明な場合は、直ちに教務窓口（巻頭参照）へ届け出ること。

再交付（再交付手数料2,000円*）は2日後（窓口閉室日を除く）になる。

*劣化により顔写真が不鮮明な場合は、現在の学生証と交換（再交付手数料は不要）。

2 学籍

1. 学籍とは

学籍とは、本学に入学することによって取得されるものであり、本学の学生（在籍者）であることを意味する。本学を卒業・修了・退学・除籍となった場合は学籍を喪失する。

2. 在籍と在籍期間

在籍とは、本学に学籍が存在することをいい、その期間を在籍期間という。休学期間は在学年数に算入されないため、在籍期間は、在学状態の期間（在学期間）に休学状態の期間（休学期間）を加えた期間となる。

3. 修業年限と最長在学年数

本学を卒業・修了するために必要な年数（大学院学生の場合は標準的な年数）のことを修業年限という。学部学生が本学を卒業するためには、4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。ただし、最長在学年数を超えて在学することはできない。修業年限と最長在学年数は以下の表のとおりである。

Ⅷ 学生証・学籍・学費

	修業年限	最長在学年数 ^{*1}
学部学生	4年 ^{*2}	8年 ^{*2}
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	2年	4年
博士課程後期課程の大学院学生	3年	6年
専門職学位課程の大学院学生（法務研究科）	3年	6年

※1：休学期間は最長在学年数には算入されない。休学については「**3** 休学・復学」を参照すること。

※2：編入学、学内転部、転科または転専修制度を利用した学生については、教務窓口にて確認すること。

4. 在学年数と在学学期数

学部学生の修業年限である「4年以上在学して」を学期に置き換えると、「8学期以上在学して」となり、以下の表のとおりである。

大学院学生についても、所属研究科が定める学位授与の要件において必要とされる在学年数を在学学期数に置き換える場合は、学部学生に準ずる。

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期

注意 2009年度以前に休学している学生の2019年4月時点の在学学期数については、教務窓口にて確認すること。

3 休学・復学

1. 休学とは

病気その他やむを得ない事由により満2ヶ月以上就学することができないときは、所定の受付期間に、所定の書式（休学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて当該学期間休学することができる。休学中の期間は在学年数に算入しない。なお、休学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

兵役のために休学する場合は例外措置が適用になる場合があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

休学期間は理由の如何を問わず、休学願を提出した時期により以下の表のとおりとする。2学期以上にわたって休学するときは、学期ごとに定められた休学願提出期間内に改めて休学願を提出することが必要である。

休学学期	休学願提出時期	休学期間
2019年度春学期	2019年2月1日（金）～5月31日（金）	2019年9月19日（木）まで
2019年度秋学期	2019年8月1日（木）～12月3日（火）	2020年3月31日（火）まで

2. 復学について

休学した者は、休学期間終了後、自動的に復学となる。なお、復学の時期は以下のとおりである。

復学時期

■2019年度春学期を休学した場合の復学日 ⇒ 2019年9月20日

■2019年度秋学期を休学した場合の復学日 ⇒ 2020年4月1日

3. 休学学期と年次の扱いについて

休学中の期間は在学年数に算入しないと同時に、在学学期数にも算入しない。ただし、2010年度以降に休学制度を利用した場合、在学学期数にかかわらず年次は学部学生の場合4年次まで自動的に進む。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次 ^{※3}	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ※2	9学期 ※1

※1・2：卒業の時期については、「4. 卒業・修了の時期について」を参照すること。

※3：学部学生が4年次に卒業できなかった場合は、再度4年次生として在籍することとなる。

注意 2009年度以前の休学は、休学期間にかかわらず年度単位の休学なので注意すること。
2010年度以降は学期単位の休学となるが、2009年度以前に休学した年度について、遡って学期単位の休学とはみなさない。

2009年度以前に休学している学生の2019年4月時点の在学学期数については、教務窓口にて確認すること。

4. 卒業・修了の時期について

(1) 学部学生

休学した学生の卒業も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で8学期以上在学となる場合は、特別卒業を申請し許可を受けることにより9月19日付で卒業することができる。詳細は「Ⅶ卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

なお、休学中に卒業・特別卒業はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ※2	9学期 ※1

※1：通常の卒業時期は秋学期の終了日である。

※2：特別卒業を申請し許可された場合の卒業時期は春学期の終了日である。

(2) 博士課程前期課程学生

休学した学生の修了も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で4学期以上在学となる場合は、特別修了を申請し許可を受けることにより9月19日付で修了することができる。詳細は「修了に関する事項」を参照すること。

なお、休学中に修了・特別修了はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～2学期目を休学し、2年次春学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	休学	2学期	3学期	4学期 ※2	5学期 ※1

※1：通常の修了時期は秋学期の終了日である。

※2：特別修了を申請し許可された場合の修了時期は春学期の終了日である。

5. 利用回数の上
限について

休学制度の利用回数には上限が設けられている。いかなる理由においても上限回数を超過して休学することはできない。学期の初めから休学した場合でも学期の途中から休学した場合でも、いずれも1回として計算される。なお、上限回数は通算の休学回数である。2学期間連続して休学した場合や、1学期以上の在学期間をはさみ2学期間休学した場合は、休学回数は2回となる。

	休学制度を利用 できる回数	2007年度以前に 休学制度を利用した回数
学部学生	8回	上限回数に算入しない
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	4回	
博士課程後期課程の大学院学生	6回	
専門職学位課程の大学院学生（法務研究科）	4回	

※1：学内転部、転科または転専修制度を利用し、学部、学科または専修が変更になった場合、変更前の休学回数は変更後の学部、学科または専修に引き継がれる。なお、転部、転科または転専修前の休学が2007年度以前の場合はその限りではない。

※2：本学を退学後、再入学した場合、退学前の休学回数は引き継がれる。なお、退学前の休学が2007年度以前の場合はその限りではない。

※3：本学を卒業・修了・退学した後、選抜試験に合格し、入学（※2の再入学を除く）した場合は、過去に休学した回数は引き継がれない。

注意 2008年度と2009年度に休学した学生の上限回数について

2008年度と2009年度の休学については、2010年度より休学が従来の年度単位から学期単位の制度に変更されたことにともない、年度単位の回数を学期単位の回数に換算する。2008年度または2009年度のいずれかの年度を休学した場合は2回、2008年度と2009年度の両方を休学した場合は4回となるので注意すること。

6. 休学願の配付
・提出先につ
いて

提出時期

■2019年度春学期を休学する場合

⇒ 2019年2月1日（金）9：00～5月31日（金）17：30

■2019年度秋学期を休学する場合

⇒ 2019年8月1日（木）9：00～12月3日（火）17：30

配付・提出場所

教務窓口（巻頭参照）

7. 休学許可通知
について

休学願を提出し各学部等教授会又は各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して休学許可通知を郵送する。休学の許可についてはこの通知で確認すること。在籍料（「9. 休学中の学費について」参照）等、休学中にかかる諸経費の支払いは、休学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

8. 就学の間い合
わせについて

休学している学生に対して、「就学間い合わせ」を郵送する^{*1}。引き続き休学を希望する場合は同封の休学願を、退学を希望する場合は同封の退学願を、必ず締切期日までに提出すること。締切期日は同封の書簡にて指示する。休学願または退学願を提出しない場合は、休学期間終了後、「2. 復学について」に示す日付をもって自動的に復学となるので注意すること。

休学学期	就学間い合わせの 送付時期 ^{*2}	就学間い合わせの 回答締切	回答時の提出書類		
			休学	退学	復学
2019年度春学期	2019年7月末	2019年8月下旬	休学願	退学願	手続不要
2019年度秋学期	2020年1月末 ^{*4}	2020年2月中旬			

- ※1：保証人住所宛に郵送する。
- ※2：兵役のために休学する場合は例外措置が適用になる場合があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。
- ※3：自己都合で休学した学期の後、間をあげずに派遣留学又は認定校留学に出発する場合は就学問い合わせを送付しない。
- ※4：2020年1月末時点で当該年次に納入すべき学費及び在籍料の全額または一部が未納の場合、就学問い合わせは当該年次に納入すべき所定の学費及び在籍料の全額を納入した後に発送する。

9. 休学中の学費について

休学願を提出し休学を許可された場合、当該休学学期間の在籍料を除く学費^{※1}を免除する。在籍料は、在籍保証、在籍管理事務の経費として所属学部（学科・専修）・研究科に係らず1学期につき60,000円を、休学した学期ごとに徴収する。なお、休学を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が休学時に納入すべき金額に満たない場合は、これを徴収する。

休学学期	学費		
	春学期	秋学期	当該年次
春学期	在籍料 (60,000円)	学費の1/2 (在籍料含む) ※2	学費の1/2 (在籍料含む) + 在籍料 (60,000円)
秋学期	学費の1/2 (在籍料含む) ※2	在籍料 (60,000円)	
春学期・秋学期	在籍料 (60,000円)	在籍料 (60,000円)	在籍料 (120,000円)

- ※1：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。
- ※2：学費の1/2（在籍料含む）とは、1年間に支払う学費の1/2額を意味する。
- ※3：授業料は在籍料120,000円（半期60,000円）を含むものとする。
- ※4：その他の納入金は、休学を許可された場合であっても所定の金額を徴収する。

4 退学

1. 退学とは

病気その他の事由により退学しようとする場合は、所定の受付期間に、所定の書式（退学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けなければならない（学生証を返却のこと）。なお、退学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

2. 提出時期と学費の減免について

退学願を提出し退学を許可された場合、退学願を提出した時期により学費^{※1}その他の納入金の一部を次のとおり減免する。なお、退学を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が退学願を提出した時点で退学時に納入すべき金額に不足する場合は、退学願を受理しない。

退学願提出時期	減免額
2019年5月31日（金）まで	学生健康保険互助組合費を除く全額（在籍2年目以上） ^{※2}
2019年12月3日（火）まで	学費その他の納入金の1/2（在籍料含む）
2020年3月31日（火）まで	無し ^{※3}

- ※1：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。
- ※2：法務研究科の大学院学生については学生健康保険互助組合費および法科大学院生教育研究賠償責任保険を除く全額（在籍2年目以上）。
- ※3：当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入しなければならない。

- | | |
|-----------------------|--|
| 3. 退学願の配付
・提出先について | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">配付・提出場所</div> 教務窓口（巻頭参照） |
| 4. 退学許可通知
について | 退学願を提出し各学部等教授会又は各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して退学許可通知を郵送する。退学の許可についてはこの通知で確認すること。学費の減免に関する手続きが生じる場合は、退学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。 |

5 希望留年（学部4年次生のみ）

希望留年については「Ⅶ卒業に関する事項 4 卒業の延期（希望留年）」を参照すること。

6 特別卒業

特別卒業（9月卒業）については「Ⅶ卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

7 特別修了

特別修了（9月修了）については「法学研究科にかかわる事項 13 修了に関する事項」を参照すること。

8 再入学

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 再入学とは | 病気その他の理由で退学した者が再入学を希望するときは、所定の書式により、保証人連署をもって願い出て、年度の始め（4月1日付）に再入学を許可されることがある。再入学を申し出る場合は、再入学する前年度の10月初日（初日が窓口閉室日の場合は直後の窓口開室日）から11月末日（末日が窓口閉室日の場合は直前の開室日）までに所定の書式を提出すること。再入学に必要な所定の書式及び手続の詳細については下記まで問い合わせること。 |
| 2. 再入学に関する
問合せ先 | 教務窓口（巻頭参照） |

9 学費

- | | |
|----------------|---|
| 1. 学費通知の
発送 | (1) 口座振替の場合
5月中旬に学費の口座振替のお知らせを、原則保証人宛に発送する。分納1回目分を通知するので、振替日の前金融機関営業日までに資金を準備すること。また、分納1回目納付者には9月上旬 ^{*1} に分納2回目の口座振替のお知らせを発送する。
(2) 振込の場合
学費振込口座の登録がない場合は、振込による納入となる。5月中旬に学費の振込用紙を、原則保証人宛に発送する。分納1回目の振込用紙を同封するので、期限までに納入すること。また、分納1回目納付者には9月上旬 ^{*1} に分納2回目の振込用紙を発送する。
※1：春学期休学者へは発送が1ヶ月ほど遅れ、10月中旬に発送する。 |
| 2. 延納制度 | 経済的な事情により、定められた期限までに納入ができない場合、もしくは資金の用意が難しい場合には、事前に本学SPIRIT学費・奨学金ページから「学費延納願」を申請すること。「学費延納願」を申請し認められた場合には、納入期限を一定の範囲で延期することができる。延納願の提出は、定められた期間のみ認められる。詳細は、各学期に財務部経理課から送付される学費案内を参照すること。 |
| 3. 滞納した場合 | 当該年次に学費の未納がある場合は、除籍となる。 |

1 グローバル教養副専攻（G副専攻）とは

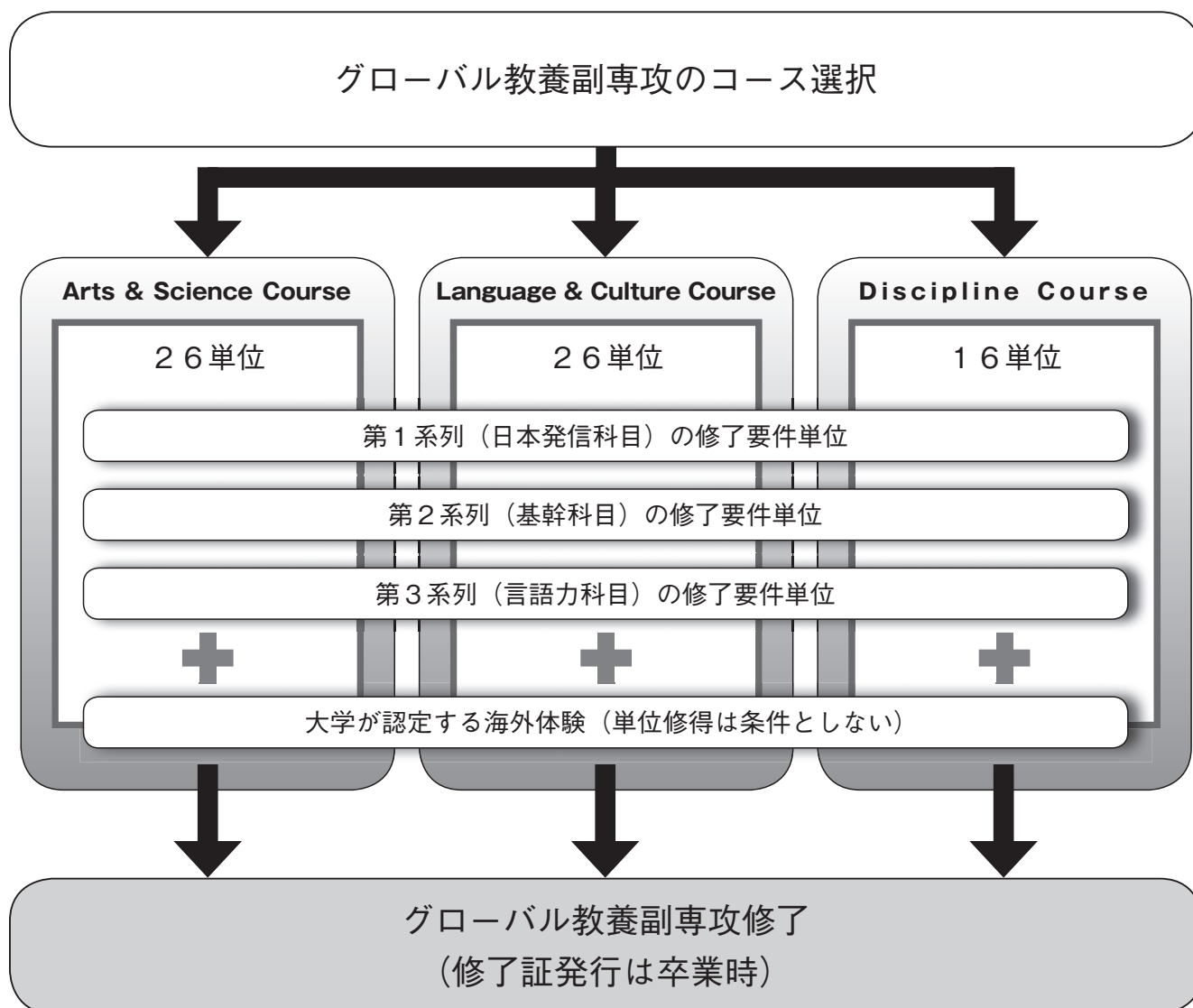
グローバル教養副専攻（以下、「G副専攻」と表記）は、本学の全ての学部学生を対象とし、所属する学部学科や専修の専門性に加えて、複数の分野にわたる知識を一つのテーマに沿って修得し、多面的に物事を捉えて持続的に考え続ける能力を養成するプログラムである。その目標は「専門性に立ち世界に通用する教養人の育成」である。

具体的には、学生自身が目指す海外体験（留学を含む）につながる指定された科目群を体系的に学び、大学が認定する海外体験を行うことが修了要件となっている。

また、所定の修了要件を満たした場合には、大学から修了証が発行される。

詳細はG副専攻Webサイト（<http://s.rikkyo.ac.jp/rmp>）を確認すること。

2 G副専攻の全体像



3 G副専攻修了のための要件

1. 修了要件

G副専攻は、自分が目指す海外体験をイメージしながら、専門の応用につながる多彩な学問領域の中からテーマごとにつながり合う科目を、ルールに従って履修していく。

修了には、大学が認定する海外体験を行い、第1系列から第3系列の科目群から、テーマによって定められた単位数を修得することが必要である。

単位数の詳細は次項以降に記載している。

2. G副専攻の3系列と海外体験について

G副専攻は、以下の3系列と海外体験によって構成されている。

なお、修得した単位は、専門教育科目・全学共通科目ともに所属学科・専修等が定める規定により、卒業要件単位として算入することができる。

3つの系列の修了要件単位数および海外体験の認定基準は、各コースやテーマによって異なる。各コースの修了要件の詳細は、G副専攻Webサイトを確認すること。

(1) 第1系列（日本発信科目）

◆Arts & Science Course, Language & Culture Course

日本について学び、「自己理解」「伝達内容」「異文化との相互敬意」を養う。一部、外国語で行われる科目も対象となる。

◆Discipline Course

〈Teaching Japanese as a Foreign Language〉

母語ではなく、1つの言語としての日本語の特徴について学ぶ。その際、日本語を母語としない人々に効率的に教えるためにはどんな知識が必要かという観点から日本語の特徴を学んでいく。

〈Data Science〉

日本における調査の仕組みや日本の公的統計の利活用を学ぶ。

(2) 第2系列（基幹科目）

◆Arts & Science Course

全学共通科目「多彩な学び」を中心とした科目の中からテーマに沿って履修し、各テーマの学びをより深める。

◆Language & Culture Course

言語Aを中心としたテーマでは、プレゼンテーション、ディスカッション、ライティングなどの英語による学習スキルを養う。言語Bを中心としたテーマでは、「多彩な学び」のうち、当該言語圏に関係した講義科目の履修を通じて、その文化圏や多文化共生への理解を深める。

◆Discipline Course

〈Teaching Japanese as a Foreign Language〉

外国語として日本語を教えるための方法、教材作成法、教室管理、学習者特性による日本語教育などについて実践的に学ぶ。

〈Data Science〉

日本語で展開される統計学や調査理論、多変量解析、データ分析実習系科目により、証拠に基づく意思決定や判断を行うことができるデータ活用力を身に付ける。

(3) 第3系列（言語力科目）

◆Arts & Science Course

全学共通科目の言語系科目、外国語で行われる科目などでの学習を通じ、現地で異文化との接触を経験するために外国語での受信力および発信力を磨く。

◆Language & Culture Course

言語A（英語）を中心としたテーマでは、英語自由科目の履修を通じて、テーマごとの目的に沿

た英語力を獲得する。言語Bを中心としたテーマでは、主に言語自由科目の履修を通じて、当該言語の知識と技能を獲得する。

◆Discipline Course

〈Teaching Japanese as a Foreign Language〉

基本知識やスキルを修得した後、「海外インターンシップ (CIC)」を修了する。海外の大学の日本語教育の現場で実際に学生の前に立って日本語教育を実践することを通して、教室での学びを現場での学びに結びつける。

〈Data Science〉

英語で展開される統計学や調査理論、多変量解析、データ分析実習系科目により、証拠に基づく意思決定や判断を行うことができるデータ活用力を身に付ける。

(4) 海外体験

◆Arts & Science Course, Language & Culture Course, Discipline Course 〈Data Science〉

派遣留学を含む立教大学主催の海外留学プログラム（留学案内『DEPARTURE』を参照）への参加や、その他自主企画による海外渡航（ボランティアや私費による留学など）を行い、帰国後に所定の申請を行うことで認定される場合がある。各コース・テーマ別に認定基準が異なるので、詳細はG副専攻Webサイトを確認すること。

◆Discipline Course 〈Teaching Japanese as a Foreign Language〉

基本知識やスキルを修得した後、「海外インターンシップ (CIC)」を修了することで認定される。

4 G副専攻のコース・テーマ

G副専攻には、以下3つのコースがあり、さらにコースの中に詳細なテーマが用意されている。学修の興味・関心に合わせて、コース・テーマを選択することができる。

※同一科目を重複履修した場合には、最初に修得した1科目のみがG副専攻の修了に必要な単位として認められ、2回目以降に修得した単位は、修了に必要な単位には算入されない。

1. Arts & Science Course

このコースは、全学共通科目総合系科目「多彩な学び」を中心に構成されており、以下の8テーマが用意されている。

1. Global Humanity
2. Global Social Experience
3. Global Art Experience
4. Global Mind
5. Global Studies of Nature and Environment
6. Global Citizenship
7. Global Sports
8. Global Studies of Region

Ⅸ グローバル教養副専攻

テーマ1：Global Humanity

人間としての生き方を見つめ、日本文化・精神性を発信できるようになる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第1カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上 上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)	日本語・外国語	14単位以上
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ2：Global Social Experience

グローバルな視点で社会を読み解く知識と技能を身に付ける。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第2カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上 上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)	日本語・外国語	14単位以上
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ3：Global Art Experience

世界の芸術に触れてグローバルな感性を磨く。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第3カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上 上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)	日本語・外国語	14単位以上
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ4：Global Mind

心身を科学的に理解し、日本人としてのメンタリティを発信できるようになる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第4カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上 上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)	日本語・外国語	14単位以上
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

IX グローバル教養副専攻

テーマ5 : Global Studies of Nature and Environment

地域の環境問題のグローバルなつながりと広がりを見て問題解決の糸口を求める。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第5カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上	日本語・外国語	14単位以上
	上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)		
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ6 : Global Citizenship

ボランティア体験などを通して市民としての自覚を深め, 行動できるようになる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」の実践系指定科目から4単位以上	日本語・外国語	14単位以上
	「多彩な学び」の第6カテゴリを中心とする指定科目から6単位以上		
	上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)		
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ7 : Global Sports

スポーツ文化のグローバルな理念と現実に触れて異文化理解を深める。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「スポーツ実習」から4単位以上	日本語・外国語	14単位以上
	「多彩な学び」第4カテゴリを中心とする指定科目から6単位以上		
	上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)		
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ8 : Global Studies of Region

世界各地の文化, ことば, 社会について理解を深め, 高度な異文化コミュニケーション力を培う。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第1, 2, 3カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上	日本語・外国語	14単位以上
	上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)		
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

Ⅸ グローバル教養副専攻

2. Language & Culture Course

このコースは、全学共通科目言語系科目を中心に、海外体験などとともに構成されており、言語A(英語)を中心としたテーマ1~3と、言語Bを中心としたテーマ4~8が用意されている。

1. Academic Studies in English
2. World Issues in English
3. Communication in English
4. German Language & Culture
5. French Language & Culture
6. Spanish Language & Hispanic Culture
7. Chinese Language & Culture
8. Korean Language & Culture

テーマ1：Academic Studies in English

英語圏の大学へ留学するために必要な英語力とアカデミックスキルを獲得する。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	F科目, 「Japanese Studies through English」	外国語	2単位
第2系列	必修科目から6単位 「English Intensive」, 「Lecture & Discussion」, 「English Communication」 から8単位以上	英語	24 単位
	① 「英語海外文化研修」, 学部提供英語科目, 第3系列以外の英語自由科目 (注1)		
第3系列	② TOEFL 科目群, アカデミックスキル科目群, 「University Lecture」, 「Career Studies」 など (注1)	英語	
海外体験	「英語海外文化研修」, 立教大学主催の海外プログラムから (G副専攻Webサイトを参照。修得した単位は、第3系列の単位数に含める)	英語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

(注1) ①と②を合わせて6単位以上修得すること。

テーマ2：World Issues in English

世界中で起こっていることをリアルタイムで理解し、議論できるようになる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	F科目, 「Japanese Studies through English」	外国語	2単位
第2系列	必修科目から6単位 「English Intensive」, 「Lecture & Discussion」, 「English Communication」 から8単位以上	英語	24単位
	① 「英語海外文化研修」, 学部提供英語科目, 第3系列以外の英語自由科目 (注1)		
第3系列	② 時事英語科目群, アカデミックスキル科目群, 「University Lecture」, 「Career Studies」 など (注1)	英語	
海外体験	「英語海外文化研修」, 立教大学主催の海外プログラムから (G副専攻Webサイトを参照。修得した単位は、第3系列の単位数に含める)	英語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

(注1) ①と②を合わせて6単位以上修得すること。

Ⅸ グローバル教養副専攻

テーマ3：Communication in English

世界を相手に英語で自分の意見を堂々と主張し、発信できるようになる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	F科目, 「Japanese Studies through English」	外国語	2単位
第2系列	必修科目から6単位 「English Intensive」, 「Lecture & Discussion」, 「English Communication」 から8単位以上	英語	24単位
	① 「英語海外文化研修」, 学部提供英語科目, 第3系列以外の英語自由科目 (注1)		
第3系列	② 教養としての英語科目群, Academic Skill 科目群, 「University Lecture」, 「Career Studies」 から (注1)	英語	
海外体験	「英語海外文化研修」, 立教大学主催の海外プログラムから (G副専攻Webサイトを参照。修得した単位は, 第3系列の単位数に含める)	英語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

(注1) ①と②を合わせて6単位以上修得すること。

テーマ4：German Language & Culture

テーマ5：French Language & Culture

テーマ6：Spanish Language & Hispanic Culture

テーマ7：Chinese Language & Culture

テーマ8：Korean Language & Culture

選択した言語の技能を磨くとともに, その言語圏の文化や社会への理解を深める。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	F科目, J科目, 「Japanese Studies through English」	外国語・日本語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」の「～語圏の社会」「～語圏の文化」「～語圏の文学」などから4単位以上	～語・日本語	6単位以上
	「多彩な学び」第1カテゴリを中心とする指定科目から		
第3系列	言語系科目の「～語自由科目」などから8単位以上	～語	10単位以上
	派遣留学や学部等の留学プログラムで修得した単位		
海外体験	～語圏に渡航する大学主催の海外留学プログラム	～語	認定
	～語圏に渡航する大学主催以外の海外留学プログラム (主催団体から参加受講証明書などが発行されるもの)		
修了に必要な総単位数			26単位

※～語は, ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語とそれぞれ読み替える。

3. Discipline Course

学部や学内諸機関が提供する科目を中心に構成され, 2018年度から2つのテーマが開設された。異文化コミュニケーション学部が提供するテーマ1と, 社会情報教育研究センターが提供するテーマ2を以下に示す。詳細はG副専攻Webサイトを確認すること。

1. Teaching Japanese as a Foreign Language (日本語教育学)
2. Data Science (データサイエンス)

Ⅸ グローバル教養副専攻

テーマ1：Teaching Japanese as a Foreign Language（日本語教育学）

外国語としての日本語教育の世界に触れる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	Japan Study Program A, C, D	日本語	4単位
第2系列	日本語学概論A, B 日本語学特論 日本語教授法A, B	日本語	10単位
第3系列	海外インターンシップ（CIC）（注2）	外国語	2単位
海外体験	海外インターンシップ（CIC）（注2） （修得した単位は、第3系列の単位数に含める）	外国語	認定
修了に必要な総単位数			16単位

※異文化コミュニケーション学部 に所属する学生は、Teaching Japanese as a Foreign Language をテーマ登録することはできない。

※外国人留学生が、Teaching Japanese as a Foreign Language をテーマ登録する場合は、日本語プレイスメントテストでJ8以上であることが必要。

※第2系列の科目は異文化コミュニケーション学部の専門科目となる。

（注2）「海外インターンシップ（CIC）」の履修にあたっては、異文化コミュニケーション学部の専門科目である日本語学概論A、B、日本語教授法A、Bの単位修得済であることが履修資格となる。

テーマ2：Data Science（データサイエンス）

グローバル人材に求められるデータ活用力を身に付ける。

系列	主な科目	使用言語	必要単位				
第1系列	全学共通科目「社会調査入門」、 <u>「社会調査の技法」</u> 、学部展開科目（注3）	日本語	4単位以上				
第2系列	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">(2-1) 基礎科目</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">(2-2) 先端科目</td> </tr> <tr> <td>全学共通科目「データ分析入門」、<u>「データの科学」</u>、<u>「数学の世界」</u>、学部展開科目（注3）</td> <td>全学共通科目「多変量解析入門」、<u>「統計情報で社会・経済を診断する」</u>、学部展開科目（注3）</td> </tr> </table>	(2-1) 基礎科目	(2-2) 先端科目	全学共通科目「データ分析入門」、 <u>「データの科学」</u> 、 <u>「数学の世界」</u> 、学部展開科目（注3）	全学共通科目「多変量解析入門」、 <u>「統計情報で社会・経済を診断する」</u> 、学部展開科目（注3）	日本語	8単位以上 （注4）
(2-1) 基礎科目	(2-2) 先端科目						
全学共通科目「データ分析入門」、 <u>「データの科学」</u> 、 <u>「数学の世界」</u> 、学部展開科目（注3）	全学共通科目「多変量解析入門」、 <u>「統計情報で社会・経済を診断する」</u> 、学部展開科目（注3）						
第3系列	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">(3-1) 基礎科目</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">(3-2) 先端科目</td> </tr> <tr> <td>全学共通科目「Introduction to Statistics 1, 2」</td> <td>2019年度開設科目はなし</td> </tr> </table>	(3-1) 基礎科目	(3-2) 先端科目	全学共通科目「Introduction to Statistics 1, 2」	2019年度開設科目はなし	英語	
(3-1) 基礎科目	(3-2) 先端科目						
全学共通科目「Introduction to Statistics 1, 2」	2019年度開設科目はなし						
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定				
修了に必要な単位数			16単位				

（注3）学部展開科目における履修条件（他学部履修の可否、先修規定等）は、科目設置学部の履修規定等に基づく。

（注4）第2系列および第3系列の基礎科目（区分2-1、3-1）から4単位以上、第2系列および第3系列の先端科目（区分2-2、3-2）から4単位以上をそれぞれ修得すること。

5 G副専攻のコース登録

G副専攻修了のためには、事前にコース登録が必要である。コース登録は1年次より可能（2018年度以前1年次入学者は2年次4月よりコース登録が可能）で、登録できるコース数は、一人につき1テーマのみ。ただし、コース変更は可能である。

コースの登録方法など詳細については、G副専攻Webサイトを確認すること。

※2019年度1年次入学者はコース・テーマが仮登録されている。仮登録されているコース・テーマは学部により異なるため、春学期成績発表時にG副専攻システムから確認し、本登録すること。また、仮登録のコース・テーマからコース・テーマを変更したい場合、もしくは登録を削除したい場合は、G副専攻システムから各自手続きを行うこと。

6 海外体験の事前審査・認定申請手続き

海外体験の認定基準は、各コースやテーマによって異なる。海外体験の事前審査、海外体験後の認定には所定の手続きが必要となる。手続きの詳細については、G副専攻Webサイトを確認すること。

7 G副専攻の修了証の発行

G副専攻の修了要件を満たし、修了が認定されると卒業時に大学からG副専攻の修了証が発行される。

8 4年間のスケジュール・モデルケース

年次・学期	1年次		2年次	3年次	4年次	卒業式
	春学期	秋学期				
	導入期	形成期		完成期		
科目群	学びの精神		多彩な学び			学位記
	学びの技法					
	言語必修科目		言語自由科目			
	専門科目					
スポーツ実習					G副専攻修了証	
G副専攻	コース登録		コース変更（希望者のみ） 修了認定申請			
	G副専攻Webサイトや 説明会で情報収集		海外体験の実施			海外体験の申請

上記のスケジュールおよびモデルケースは、あくまで一例であり、コース登録や海外体験の実施などの時期は、学生ごとに異なる場合がある。

※ G副専攻説明会の開催日程などは、G副専攻Webサイトを確認すること。

f-Campusとは学習院大学，学習院女子大学，日本女子大学，早稲田大学，本学の5大学間における単位互換制度である。他大学の提供科目一覧，時間割，シラバス（講義内容），学年暦等は，f-Campusホームページ (<https://www.f-campus.org>)にて確認すること。

1 履修登録

1. 履修資格

2年次生の学部学生（正規学生）。

※ただし，編入学（転部・転科・転専修を除く）した者については，編入学した年度の履修登録はできない。

2. 登録可能単位

本学を除く他の4大学合計で年間12単位まで。ただし，4月期の科目登録において選外となった科目の単位数は，9月期の科目登録における登録可能単位に含まれない。

3. 科目登録・登録結果発表

(1) 科目登録手順

すべてWebサイトにて行う。具体的な科目登録の手順は，f-Campusホームページで確認のこと。

(2) 科目登録期間（2019年度）

時期	登録対象科目	登録期間	結果発表
4月期	春学期科目（春クォーター科目，夏クォーター科目含む※）+通年科目+集中講義科目	3月26日（火）18：00～ 4月1日（月）9：30	4月2日（火） 9：30～
9月期	秋学期科目（秋クォーター科目，冬クォーター科目含む※）+集中講義科目	9月2日（月）12：00～ 9日（月）9：30	9月10日（火） 9：30～

※春クォーター科目，夏クォーター科目，秋クォーター科目，冬クォーター科目はf-Campusシステム上の4半期科目の名称であり，本学の春学期1科目，春学期2科目，秋学期1科目，秋学期2科目がそれに相当する。ただし，授業期間については，その科目を提供している大学の学年暦に従う。

(3) 登録結果発表

f-Campusホームページ上で行う。

※応募者が定員を超過した場合は抽選を行う。

4. 登録の取消

科目登録後の取り消しはできない。万が一本学の登録科目と時限重複した場合は，原則として他大学の科目が優先され，本学の科目は取り消される。実習費等が必要な科目は，履修を放棄した場合であっても納金する必要がある。

5. 履修先大学の特別聴講学生番号の通知

f-Campusホームページによって，登録結果とともに履修先大学の特別聴講学生番号を発表する。他大学での授業出席票や試験等では，この番号が必要となるので，自分で番号を控えるなどして管理すること。

2 授業

授業科目の休講・試験等，授業に関する通知は，f-Campusホームページあるいは掲示板にて確認すること。通知方法は大学によって異なるので注意すること。

交通機関のストライキ・気象警報等にもなう授業の扱いは，履修先大学の基準による。

3 試験・成績・単位認定

他大学履修科目と本学の履修科目の筆記試験時間に重複が生じた場合、原則として他大学履修科目の筆記試験を優先して受験し、本学の履修科目については所定の期間内に試験時間重複特別試験受験申請の手続きを行ったうえで試験時間重複特別試験を受験すること。試験時間重複特別試験受験申請については「Ⅵ 試験・成績 7 試験時間重複特別試験」を参照のこと。

ただし、本学の都合により試験時間重複特別試験を受験できない場合は、科目設置大学の追（未済）試験等を受験できるよう配慮する場合がある。

成績結果は、成績参照システムにて本学科目とあわせて発表する。

他大学で修得した単位は、所属学部の単位認定方法に従い卒業要件単位として認められる場合があるので、各学科の履修規程で確認すること。

4 学費等

協定に基づき、他大学の提供科目を履修する場合、授業料は免除される。ただし、科目により実習費等が必要な場合は自己負担となり、履修を放棄した場合であっても納金する必要がある。

5 その他

1. f-Campus証

科目登録の結果、他大学の履修許可を受けた学生は、所属キャンパスの教務窓口でf-Campus証を受け取ること。f-Campus証が、他大学でのf-Campusの学生であることを証明するものとなる。

2. 施設の利用

協定による特別聴講学生は、履修期間中は履修先大学の定める範囲において、図書館、売店、学生食堂を利用することができる。図書の貸し出しはできない。

その他利用方法等詳細は、各大学の図書館で確認すること。

パソコン教室やLIL自習室、体育施設、保養施設等の施設、および許可された科目の履修に関する事項以外の学生サービス等は利用できない。

1 資格の趣旨

「社会調査士」は、世論や市場動向・社会事象等をとらえる調査能力をもつ人に対して「一般社団法人 社会調査協会」が認定する資格である。社会の実態を把握するための調査について専門的な知識と実施の技能があることを証明するもので、卒業後の進路において調査や分析、企画職・マーケティング職などに就く上で有利になることが期待されている。国内の多くの大学、さまざまな学部や学科において導入されているが、本学部においてもこの資格の対応科目が設置されている。

資格は大学卒業時に資格対応科目の単位をすべて修得していれば申請できるが、それまでに一定の単位を修得することで「キャンディデイト」資格を在学中に申請することもでき、就職活動に際してアピールすることが可能である。資格についての詳細は、社会調査協会のホームページ (<http://jasr.or.jp/>) を参照すること。

2 資格取得の申請方法・場所

資格取得のための試験等は特になく、大学卒業までに資格対応科目のすべてを修得すること、学部を卒業することで資格取得が可能になる。資格申請にあたっては、指定科目の単位修得を証明する書類と、審査・認定手数料を一定の期間内に揃えることが必要である。在学中の「キャンディデイト」資格についても同様であるが、卒業時に「キャンディデイト」資格から正規の社会調査士資格への変更申請をする必要がある。

資格取得の申請や相談については、新座キャンパスメディアセンター窓口または池袋キャンパスの社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi>) で受け付けている。なお、立教大学の学生は「キャンディデイト」資格の申請手数料に関して、一般の大学に比べて減額を受けられる（今年度の申請期間や具体的な手順などについての詳細は、正式決定後に学部掲示板に掲示する）。

3 資格取得に必要な科目

資格取得のためには資格に対応した科目の単位をすべて修得することが必須である。本学部あるいは全学共通科目では社会調査協会が設定したカテゴリ-A～Gに対応する開講科目がある。ただし、EとFについてはどちらか一方の単位を修得すればよい。

XI 社会調査士

社会調査士 カリキュラム	対応科目	単位数	開講学期	配当年次	備考
【A】社会調査の基本的 事項に関する科目	社会調査入門（全学共通科目）	2	春	1・2・3・4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【B】調査設計と実施 方法に関する科目	データ情報処理	2	秋	1・2・3・4	観光学部 抽選登録科目
	社会調査の技法（全学共通科目）	2	秋	1・2・3・4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【C】基本的な資料と データの分析に関する科目	データ分析入門（全学共通科目）	2	春	1・2・3・4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【D】社会調査に必要な 統計学に関する科目	データの科学（全学共通科目）	2	秋	1・2・3・4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【E】多変量解析の 方法に関する科目	多変量解析入門（全学共通科目）	2	秋	1・2・3・4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【F】質的な調査と分析の 方法に関する科目	交流文化フィールドワーク論	2	春	2・3・4	観光学部 科目コード登録科目
【G】社会調査を実際に 経験し学習する科目（※1）	演習（3年）A（※2）	2	春	3	観光学部 その他登録科目
	演習（3年）B（※2）	2	秋		

※1：【G】について

「演習（3年）A」2単位・「演習（3年）B」2単位の計4単位（該当するクラス）を修得すれば資格申請が可能である。ただし、下の※2も参照すること。

※2：「演習（3年）A」「演習（3年）B」は一部のクラスのみがG科目に対応する（前年度科目「演習（2年）A」の募集時に通知する）。さらに資格申請の条件として、それらが同一年度に開講されたものを修得している場合に限る。詳しくは、社会情報教育研究センターまで問い合わせること。

- ・ カテゴリーBは観光学部専門科目、全学共通科目のいずれでもよい。
- ・ 観光学部ではカテゴリーA・C・D・Eが開講されていないので、それらのカテゴリーの科目（ただしカテゴリーEについては次項も参照）は全学共通科目あるいは他学部科目から履修する必要がある。
- ・ 観光学部で開講されるカテゴリーGの「演習（3年）A」「演習（3年）B」で実施する社会調査実習は質的な調査であるため、カテゴリーGの履修前または履修中に、観光学部専門科目であるカテゴリーF「交流文化フィールドワーク論」を履修する必要がある（カテゴリーFを修得すればカテゴリーEの修得は必須ではない）。
- ・ カテゴリーA～Eの全学共通科目はオンデマンド授業（抽選登録科目）なので、履修を希望する場合は「V 履修登録」を参照の上、抽選登録期間に申し込むこと。

資格取得自体は、学部指定の科目の代わりに、同カテゴリーに指定されている他学部・全学共通科目を、学部で修得した他のカテゴリーの科目と組み合わせて申請することも可能だが、卒業に必要な学部の単位と混同しないように注意が必要である。

1 趣旨

本制度は、学部3年次の秋学期に志願者の中から選考により選ばれた学生が、学部4年次に観光学部学生に在籍のままで観光学研究科博士課程前期課程の科目を履修し、博士課程前期課程進学後1年間で課程を修了することができる制度である。通常ならば学部4年間と大学院2年間の計6年間が必要なところを、学部4年間と大学院1年間の5年間で学士と修士の学位が取得できる。

2 募集人員

若干名

3 出願資格

下記の(1)～(5)の条件をすべて満たす者。ただし、出願時まで「休学」または「休学留学」をしたことがある者はその限りではない。

- (1) 2019年度観光学部3年次生（2021年3月に卒業見込みの者）。
- (2) 立教大学大学院観光学研究科への進学を希望する者。
- (3) 3年次春学期までに、観光学部の専門科目（科目ナンバリングがTRM, TRS, TRC, で始まる科目。全学共通科目、他学部科目、5大学間単位互換制度の科目を含まない）を60単位以上修得している者。
- (4) 3年次秋学期までに、卒業要件単位を95単位以上修得見込みの者（学部4年次に博士課程前期課程科目を15単位以上修得する必要があるため）。
- (5) 出願時におけるGPAが2.8以上の者。

* 出願資格について不明な点がある場合は、学部事務5課（新座キャンパス7号館1階）に問い合わせること。

4 実施時期と方法

募集要項の配付：2019年 6月

申請期間：2019年11月

選考期日：2019年12月

選考方法：書類選考・口頭試問

その他詳細は募集要項で確認すること。

5 履修登録上限単位数

学部4年次に履修する大学院科目も、学部4年次の履修登録上限単位数に含む。

6 修得単位の扱い

学部4年次に修得した大学院科目の単位は、学部卒業要件単位に含まない。

7 特別進学生制度利用による大学院進学の内容

下記の(1)～(3)の条件をすべて満たすこと。ただし、「休学」または「休学留学」をしたことがある者、する予定の者はその限りではない。

- (1) 学部4年次において、観光学研究科博士課程前期課程科目のうち「観光研究基礎指導A・B」(4単位)、「観光研究演習A」(1単位)を含めた15単位以上を修得すること。なお、5履修登録上限単位数の通り、大学院科目も学部4年次における履修登録上限単位数に含むため、学部3年次秋学期までに卒業要件単位を95単位以上修得していることが必要となる。
- (2) 原則として学部4年次の秋学期に実施する大学院秋季入試(口頭試問のみ、筆記試験は免除)を受験し合格すること。
- (3) 2021年3月に学部を卒業すること。

寄付講座は、提供企業等の寄付によって成立する講座である。修得単位等、履修に関わる事項はそれが設置される科目区分（学科目表を参照）の他の科目と変わらない。

通常の学内の講義が学術的、理論的なものであるのに対して、寄付講座は、より実際の、実践的な内容を志向している。企業等において第一線で活躍されている方を講師としてお招きし、実際の場面でどのような問題があり、どのような判断が求められているのか、といった形で話して頂く。受講する学生諸君も、自分ならどう判断するか、そこで何を考えなければならないかといった具体的な問題意識をもって、積極的に講義に参加することが求められる。

開講科目

2019年度開講寄付講座

開講 学科	科目名	寄付講座提供者	配当年次
両 学 科	観光ビジネス概論	立教観光クラブ	2～4年次生
	観光地づくり	公益財団法人日本交通公社	3・4年次生
	交通産業特論	株式会社ANA総合研究所	
	経団連インターンシップ	一般社団法人日本経済団体連 合会	3年次生
	MICEの理論と実践	日本コンベンションサービス 株式会社	3・4年次生
	ガストロノミー（美食）と観光	辻調理師専門学校	2～4年次生
	観光IT戦略論	株式会社NTTデータ	2～4年次生

フィールドワークにともなう保険加入について

観光学部では、フィールドワークを積極的に教育に取り入れている。このため、演習など多くの科目で、国内、海外を問わず、日帰りあるいは宿泊を伴った校外での調査等を行う場合がある。大学外でのこうした学習は、学内では得られない知識や経験を身につける貴重な機会であるが、一方で、事前の周到な準備にもかかわらず、思わぬ事故に遭うことや、他人に怪我を負わせたり、他人の財物を損壊して法律上の賠償責任を問われる可能性も否定できない。

そこで、観光学部学生諸君は、本学学生全員が加入する学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）に加え、学生教育研究賠償責任保険（略称「学研賠」）に加入することとする。加入手続きは学部が行い、保険料は学部が全額を負担する。

正課科目において学外活動（正課インターンシップによる学外実習や、教員の指示により学生だけで行う学外での調査等）を行う場合は、あらかじめ書面で活動内容を学部へ届け出ること。また、海外で学外活動を行う場合は、海外での急な病気や怪我の際にキャッシュレス医療サービスや日本からの救援費用などの補償が受けられる、観光学部指定の海外旅行保険への加入を義務付けている。指導教員の指示の下、活動前に必要な手続きをとること。

全学共通 科目について

2016年度以降 1 年次入学者に適用

●全学共通科目とは

立教大学では学生諸君の4年間の学修を支援するためRikkyo Learning Styleというカリキュラムを提供している。それは、諸君が所属する学部・学科・専修での学修が首尾一貫して進められ、諸君を立教大学が目標とする「専門性に立つ教養人」へと育成するために設計されている。その中に重要で不可欠な要素として「全学共通科目」がある。

全学共通科目には必修科目として言語系科目、選択科目として総合系科目、自由科目として言語系科目がある。学部の卒業要件単位数を示した表の科目群名称の後に「(全学共通)」と書かれているのでわかる。それらの全ては、どの学部にも所属していても立教大学生の教養として持ってほしい内容、どんな学問分野にも共通して知識の基礎になる内容、自分の得意分野を社会に出て生かすために必要な道具となる内容、自分の選択した専門分野を補完するための副専攻分野を形成する内容などから成っている。いずれの科目も学生諸君が社会に出た後さまざまな困難を乗り越えて、有為な社会人として生活していける力の源となる大切な内容を含んでいる。全学共通科目の科目群は大まかに以下のように構成されている。

言語系科目：

「言語教育科目A」(必修科目・英語) 上級英語、英語ディスカッション、英語リーディング&ライティング、英語プレゼンテーション、英語eラーニング

「言語教育科目B」(必修科目・初習言語) ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語(文学部・グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生のみ)、日本語(原則、留学生のみ)

「言語自由科目」(自由科目)(必修を終えた後学ぶ、初級から上級に至る言語科目) 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語、ポルトガル語、日本語、日本手話

総合系科目：

「学びの精神」(選択科目) 1年次春学期履修が原則。大学生になるための訓練となる授業。

「多彩な学び」(選択科目) 1年次秋学期から履修開始。専門性に立つ教養形成の核となる科目群。

「スポーツ実習」(選択科目) 1年次春学期から履修可能。健康維持のための運動を体得する科目群。

Rikkyo Learning Styleでは、学生諸君の入学時の目標を4年間で達成するため、あるいは、4年間で明確な目標を持って社会に出るために必要な科目を必要な時期に学べるようにカリキュラムが設計されている。専門分野の知見を確実に身に付け、同時にそれが自分の生きる力になるために、全学共通科目を有効に履修してほしい。そのためのヒントを提示する。

入学した最初の学期(ファースト・ターム)に専門科目「学びの技法」と並行して履修する「学びの精神」は、所属する学科の専門性に近い科目だけでなく、それ以外の分野の科目をも積極的に履修すること。「言語教育科目A」はしっかりと履修し、英語力の増進を図ってほしい。春学期と秋学期に1回ずつ無料で実施される英語力伸長度測定テスト(TOEIC® IP)は毎年必ず受けること。「言語教育科目B」は新しく触れる言語を理解し使える力をつけるだけでなく、日本語と英語の特質を知るための手掛かりとして、知的基盤である言語への知見を深める科目としても有効である。学習到達度を測るための検定試験受験料補助制度もある。「多彩な学び」は専門科目の履修と並行して、2年次、3年次でも、新たな問題意識、関心が芽生えたときに、目的を持って履修すること。「スポーツ実習」では必要なときに健康を維持する力と知見を身に付けてほしい。特定の言語、あるいは知的領域に強い関心を持って、特定の言語の継続学習や特定テーマを掘り下げたいと思ったら、「グローバル教養副専攻」(IX グローバル教養副専攻 の項参照)に登録してほしい。言語系にも総合系にも全学共通科目を中心としたコースがたくさん用意されている。将来のグローバル社会での活躍に備えて、有意義な学修ができるだろう。

次ページ以降の内容をよく読み、これらのヒントを踏まえて、なりたい自分、なるべき自分を目指して、自分を社会に出る有為に活躍できる「専門性に立つ教養人」に育てていくことが期待される。

全学共通カリキュラム運営センターとは：

「全学共通科目」と「グローバル教養副専攻」は全学共通カリキュラム運営センターによって運営されている。全学共通カリキュラム運営センターは学生諸君が所属する全ての学部が協力し合って、アイデアも担当教員も出し合って、全学共通のカリキュラムを運営する組織である。全学共通科目は全ての学部が協力して構想し、実施されているので、他学部教員の担当科目がたくさんある。それらは全て、立教大学の全教員が学部の違いを超えて立教大学の全学生に身に付けてほしいと思う内容を持っており、諸君全ての一人一人に向けて語りかけられている。

総合系科目

2016年度以降1年次入学者に適用

●総合系科目について

- 1 総合系科目とは
- 2 科目群・科目名
- 3 履修上の注意
- 4 過年度に開講されていた総合系科目

●開講科目一覧

1 総合系科目とは

総合系科目の特色 総合系科目は「学びの精神」、「多彩な学び」、「スポーツ実習」の3つの科目群に分かれ、導入期、形成期、完成期のそれぞれの時期に適した科目を履修することが求められる。総合系科目の全体像について、また科目群ごとの目的や特色を理解したうえで計画的な履修を期待したい。

大学に入って早い時期から専門の勉強に過度に没頭してしまうと、青年期に必須である肉体の鍛錬がおろそかになったり、豊かな情操を育む機会が狭まったり、さらには学問的視野狭窄に陥って専門の勉強そのものが頭打ちになったりする可能性も増してくる。そうしたことにならないよう、できる限り多種多様な科目を学生諸君の前に用意することで、学生生活の中で勉強やさまざまな活動の幅を広げる手伝いをしようというのが、立教大学の全学共通科目総合系科目が担っている役割である。

新入生諸君には、各学部の少人数クラスで専門の導入教育を受ける以前に、いわば知識を詰め込むだけの高校までの勉強と、考える力そのものを身に付ける大学での勉強がいかに違うかということ、理解してもらう必要がある。そのために総合系科目の中に設けられているのが「学びの精神」という科目群である。講義というものを受けて、講義内容をしっかりノートにとり自己の思考能力鍛錬の糧としていくという、高校までとは異なる大学での「主体的な学び」の姿勢を身に付けてもらうことを目標としている。そのため、積極的な授業参加を促すさまざまな仕組みが用意されている。

「学びの精神」と後述の「スポーツ実習」のみが1年次春学期から履修でき、他は「多彩な学び」として一括され、1年次秋学期以降の履修となる。「多彩な学び」は、内容によってカテゴリに分かれ、「人間の探究」、「社会への視点」、「芸術・文化への招待」、「心身への着目」、「自然の理解」、6つ目として「知識の現場」が用意されている。「知識の現場」はボランティア活動や海外でのさまざまな実践活動に学生時代に積極的に関わろうとする学生諸君を大学の側から後押しするために、学内のさまざまな部局が主体となって設けている科目である。「多彩な学び」は多様で、この「知識の現場」の大部分と「立教ゼミナール」は少人数科目、他は基本的に講義科目だが、教員は一人とは限らず、複数の教員が教える後述の「コラボレーション科目」もある。言語も基本的には日本語だが、外国語で教える「F科目」がある。さらには、自宅のパソコンで統計を学ぶ「オンデマンド科目」も用意されている。あまりに多様なので目移りするかもしれないと考え、体系的履修を促すため、海外体験を必須とした「グローバル教養副専攻」の仕組みが作られている。「総合系科目」が提供する「Arts & Science Course」という副専攻は、日本文化を外国語で発信できる能力を培うことを目標とし、上記の「F科目」と日本に関することを学ぶ「J科目」、および「多彩な学び」の特定分野を集中的に履修することで、大学での学びを海外体験につなげることができる仕組みになっている。

【注意】

入学年度によって、カリキュラムや履修規定が大きく異なる。各自が適用されるカリキュラムや履修規定を確認のうえ、十分に注意しながら履修すること。

1. 学びの精神

この科目群は本学で学ぶ意味を追究しながら、立教生としてのアイデンティティを掴み、立教大学での学修に円滑に入るよう促すことを目標としている。

科目名
世界史の中のキリスト教
思想を生み出すキリスト教
美術の中のキリスト教
音楽の中のキリスト教
文学を生み出すキリスト教
国際社会の中の宗教
現代社会の中の宗教1
現代社会の中の宗教2
人文学からの学び（文学）
人文学からの学び（思想・教育）
人文学からの学び（史学）
芸術への扉
グローバル経済社会を考える
社会学からの学び
学びの場としての社会
現代文化からみる学び
メディアからみる学び
法と政治の世界
経営学への招待
現代社会と観光
現代社会の諸相
自然科学の探究
身体科学からの学び
現代心理学からの学び
アジア地域での平和構築
グローバル社会での平和構築
大学生の学び・社会で学ぶこと
人権とジェンダー
ライフマネジメントと学生生活
立教大学の歴史
西欧キリスト教社会における大学の誕生
伝統と革新の大学図書館
キャリアデザイン
キリスト教史に学ぶ多文化共生
美と生命について：キリスト教の美学
愛について：キリスト教の倫理と哲学
教養の扉をひらく
GL101（グローバル・リーダーシップ・プログラム）
University Education in the World

学びの精神は、学生諸君が立教大学での学びに円滑に溶け込めるよう、1年次春学期に履修することを前提として設けられた科目群である。立教大学の建学理念にもとづき、宗教や大学、人権に関する科目やグローバル化に対応した科目などを置くとともに、総合系科目として文化・思想・社会・文学・芸術・健康・スポーツ・自然などの多くのカテゴリにまたがる科目を用意した。またそのほとんどが講義科目となっており、成績評価には筆記試験が課されることが原則である。

その目的は、講義を受けた上で、学生諸君がその要点を理解して自らの考えを練り、リアクションペーパーや小レポートでそれを表現するという、高校までの勉強とは異なる大学での講義科目受講の包括的スキルを、1年次春学期のうちに体得することにある。そのため、各科目ではリアクションペーパーを添削して指導するなどの双方向的な講義が行われる場合が多い。さらに学期末に筆記試験を受験することで、大学における学習到達度チェックの仕組みを理解し、自ら主体的に学ぶ姿勢を涵養することも目指している。すなわち学びの精神は、学生諸君に立教大学での基本的な学びのあり方を経験し、理解してもらうために、設けられた科目群なのである。学びの精神を受講することで、学生諸君が立教大学学生の一員としての自覚を持ち、またその大学生生活の順調な滑り出しを果たすことができるものと考えている。

2. 多彩な学び

「学びの精神」において立教大学における基礎的な学習方法を習得したことを前提に、「多彩な学び」では、幅広い学問分野に触れることが期待されている。多彩な学びは「1. 人間の探究」「2. 社会への視点」「3. 芸術・文化への招待」「4. 心身への着目」「5. 自然の理解」「6. 知識の現場」からなる。各科目は学部等の科目提供元ごとに異なる特徴を持っており、学生が4年間で自分の専門以外のさまざまな学問分野に触れ、専門とは異なる正に「多彩な」思考様式や問題意識、知識等を習得することを目的としている。

1 人間の探究

科目名
聖書と人間
聖書考古学
ジェンダーとキリスト教
イスラームの世界
仏教の世界
日本の宗教
「宗教」とは何か
現代社会と人間
哲学への扉
論理的思考法
教育と人間
歴史への扉
地域研究への扉
教育学への扉
多文化の世界
文化を生きたる
現代社会における言葉のもつ意味
日本文化と精神性
人権思想の根源
手話と人権を考える
点字から考える人権
アジアの文化とことば
ヨーロッパの文化とことば
ラテンアメリカの文化とことば
ロシア・東欧の文化とことば
中東の文化とことば
アフリカの文化とことば
イタリアの文化とことば
ドイツ語圏の文化
フランス語圏の文化
スペイン語圏の文化
中国語圏の文化
朝鮮語圏の文化
Japanese Ethnology
World History
立教ゼミナール1
立教ゼミナール発展編1
睡眠文化論
ボランティア論
こっち、あっちの人類学
生・身体・テクノロジー・神
哲学対話 in RIKKYO
バトス・ロコス・エトス

このカテゴリでは、思想・文化・言葉という側面から私たち人間の知に迫っていく。過去に書かれたさまざまな文献を読む、あるいは現代社会に広がるさまざまな事象を集め、そこから考えるという方法が、その中心に位置づけられるだろう。

立教大学の建学の精神を支えるキリスト教については、聖書の内容などを学ぶことによって、その人間観や思想に迫る。古くから人間の生について考えてきた哲学や思想についても、古典の読解などを通して考察を深める。また残された史料に基づき構築されてきた歴史学についても、さまざまな文献を通して理解を深めていく。

もちろんこうした過去の文献に主に依拠した学問ばかりでなく、現代のさまざまな地域で个性的に育かれた地域文化を学ぶ科目や教育・人権といった現代的課題について洞察を深める科目も用意するなど、温故知新の精神を養うと同時に、先端的な知への好奇心をも満足させるよう工夫してある。

これらの科目を広く履修することで、現代人に求められる「教養」とは何かを問い、それをしっかりと自分のものにして欲しい。

2 社会への視点

科目名	科目名
入門・経済教室	パレスチナ問題の歴史と現在
世界経済と日本	Modern Japanese History 1
統計情報で社会・経済を診断する	Modern Japanese History 2
景気・格差問題と統計情報	Japanese Politics and Economy 1
日本国憲法	Japanese Politics and Economy 2
法と社会	Japanese Relations in Asia 1
政治と社会	Japanese Relations in Asia 2
グローバル社会における法と政治	Japanese Society 1
現代のビジネスを学ぶ	Japanese Society 2
企業と社会	Tokyo Studies
現代社会と環境	Saitama Studies
情報と倫理	社会調査入門
近代日本社会と人権	社会調査の技法
メディアと人間	データ分析入門
文化と社会	データの科学
現代社会の解読	多変量解析入門
いのちの尊厳と福祉を考える	デモクラシーとリベラルアーツ
コミュニティをデザインする	Introduction to Statistics 1
観光学への誘い	Introduction to Statistics 2
シティズンシップを考える	Political Sociology
市民活動の組織とマネジメント	Economic Thought
大学と現代社会	University in Modern Society
日本の「多文化」政策を問い直す	Career and University Education in the World
世界の中のロシア	立教ゼミナール2
国際情勢を読み解く	立教ゼミナール発展編2
ドイツ語圏の社会	翻訳・通訳と現代社会
フランス語圏の社会	市民が動く、社会が変わる
スペイン語圏の社会	グローバルシティ・ソウルを読み解く
中国語圏の社会	立教OBOGの「社長の履歴書」
朝鮮語圏の社会	Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題
	より良き隣人へ：日本植民地研究の最前線
	文化の居場所を考える
	現在形の文化活動から考えるジェンダー論
	大衆演劇の世界
	Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題
	「観光立国」と日本の成長・地方創生
	観光学からみた東京

このカテゴリでは、社会という側面から人間の営みに迫っていく。個人と社会、他者との関わり方を、政治・法学・経済学・経営学・社会学などが築いてきた方法を手がかりにして分析することを、目的とする。近年、政治や経済、そして日常生活さえも、それぞれが複雑な仕組みを抱え、その本質を見極めることが難しくなっている。

このカテゴリで学ぶ「社会への視点」とは、「私たちがどのような歴史を作ってきたのか」という過去に学びながら、さらに「これから私たちがどこへ向かおうとしているのか」という、未来にまで含めた視野のなかで物事を見ていこうとするものである。情報と倫理の問題や平和・人権・環境など、私たちに切実な問題についても、このカテゴリで多くを学ぶことができる。これらの科目を履修することで、社会をひとつの視点から見ただけでなく、さまざまな角度から見つめ直していく視点が身に付くことになるだろう。

3 芸術・文化への招待

科目名
文学への扉
表象文化
美術の歴史
美術と社会
音楽の歴史
音楽と社会
美術論演習
音楽論演習
キリスト教美術
キリスト教音楽
日本の美術
日本の音楽
都市と芸術
建築と文化
舞踊論
映像と社会
身体表現と哲学
日本の演劇
ドイツ語圏の文学
フランス語圏の文学
スペイン語圏の文学
中国語圏の文学
朝鮮語圏の文学
Japanese Culture 1
Japanese Culture 2
Japanese Arts A
Japanese Arts B
Culture and Fine Arts
Literature and Society
立教ゼミナール3
立教ゼミナール発展編3
音楽の生まれる場
歌と私と時代と
演芸の世界

このカテゴリでは、人類が生み出してきた文学・美術・音楽・演劇・映像・建築などの作品を対象として、作品の作り手と受け手との緊張をはらんだ関係、あるいは作品を取り巻く社会的諸関係の実相に迫る。文学・芸術の作品に、理性と感性とを総動員して向かい合うことが、その特色である。

このカテゴリに属する科目は、単に作品の創作や実演を目的とするものだけではない。作品が生成される歴史的背景や、それぞれの芸術分野における理論を理解し、一人一人が考察を深めることが求められる。また文学作品などの考察を通じて、作品を生み出した社会に生きる人びとの実態にまで迫ることが必要である。さらには、映画・演劇・美術などの表象文化を多角的に検討することも求められる。こうした多くの要求にかなった科目を配置することで、多彩な学びに相応しい科目を用意した。これら科目の受講により、文化・芸術などの創造・鑑賞を志す学生には、幅広いその土台を提供することになる。

4 心身への着目

科目名
認知・行動・身体
心の科学
パーソナリティの心理
対人関係の心理
心の健康
身体パフォーマンス
ストレスマネジメント
癒しの科学
スポーツの科学
健康の科学
栄養の科学
アンチエイジングの科学
スポーツとメディア
スポーツと社会
スポーツと文化
レジャー・レクリエーションと現代社会
アウトドアの知恵に学ぶ
Japanese Mind
Health and Wellness
立教ゼミナール4
立教ゼミナール発展編4
ストレスから考える私たちの健康

このカテゴリでは、相互に影響しあっている「心」と「身体」の問題を幅広くとらえ、心理学、メディア、健康科学、スポーツ科学の分野から理解を深めていく。コラボレーション科目ではストレスや睡眠関連の分野で幾つかの科目を展開する。

現代社会では、さまざまなストレスのなかで日常生活を送っており、心身の健康がよりよく生きるための重要な要因となっている。健全な身体を有している者でも、心的症状に悩まされることがあったり、規則正しい生活と運動によって自律神経のバランスが取れると、その症状が治ったりする場合がある。心と身体は、このように密接な関わりを持っている。

心身に関わるテーマに、心理学の分野では「認知」、「行動」、「発達」、「心の健康」などの側面から、健康・スポーツの分野では「医学」、「社会学」、「運動学」、「栄養学」などの側面から迫るとともに、映像論、身体論の視点も取り上げる。このように、積極的に心身の問題を掘り下げて理解することを目的としている。

5 自然の理解

科目名
数学の世界
宇宙の科学
生命の科学
物質の科学
身近な物質の化学
化学と自然
化学と社会
行動の科学
生命の歩み
人類の進化
地球の理解
情報科学A
情報科学B
自然環境の保全
生物の多様性
地球環境の未来
自然と人間の共生
脳と心
オーダーメイド医療最前線
大学と科学技術
宇宙から地球のみらいを考える
Science Studies
Nature of the Earth
立教ゼミナール5

このカテゴリでは、人類が今までの歴史の中で得てきた科学的な知識とその基盤、およびそれらが現代の私たちにどのように密接に結びついているのかを考える。

人間は、人類としてこの世界に現れるとすぐに自然を認識し、「我々の住む世界はどのようになっているのか」、「世界を作っている基本的なものは何か」、「世界を支配する法則はどのようなものか」、「なぜ、この世界は多様な生命体で満たされているのか」などの素朴な疑問を持ち続けてきた。そして、長い歴史の中で「自然哲学」を発展させ、これらの疑問に「科学」として答えようと現在でも努力し続けている。自然界で起こっている現象の理解は日々進展し、私たちの世界観は大きく変わりつつある。

それを踏まえてこのカテゴリでは「自然の法則を記述する数学」やその「数学自身の語る世界」、世界とは何かという問いに答えて導き出された「宇宙の構造」、「身近な物質の化学構造と反応」やその構造を支配する「物理の基本法則」、「物質変換の基本原理」、生命現象の中核をなす「遺伝子と生命」および「生命の歴史」、さらには「生物の行動メカニズム」や「生命の多様性」、

「人間と自然との関わり」、「人の心と体の科学」などについて学ぶ。

現代における「自然の理解」の必要性は、理系の仕事に携わる人だけにとどまるものではない。人類が作り出してきたさまざまな物質や技術は毎日の生活に大きな影響を与えており、私たちはこれらの事柄に対して無知ではいられなくなっている。その意味で、私たちにとって自然の理解はますます重要になってきているといえる。

6 知識の現場

このカテゴリでは、大学の内外で作業を行う知的活動を通して、問題解決能力を養うとともに、現場経験から知識が構築されるプロセスに立ち会う。立教大学の社会的な使命や課題を強く意識した全学的な取り組み（プロジェクト）のために設けられている科目群で、学外とくに海外でさまざまな実践活動に携わろうとする学生がそうした活動を学業の一部に取り込むことが可能となるように、「総合系科目」の伝統的なルールの外で、プロジェクトの各担当部局がほぼ独自に科目を編成している。「多彩な学び」は1年次秋学期以降の全学年で所属学部にかかわらず履修できるのが原則だが、「知識の現場」に限っては、「積み重ね型」のカリキュラムであることが多いため、履修できる学部・学年が特定されていたり、先修規定があったり、語学能力等で事前に参加が制限されたりすることがある。多くは人数制限科目であり、単位認定の仕方も「多彩な学び」の他の科目と異なる場合がある。

グローバル・リーダーシップ・プログラム

科目名
GL102 (他者のリーダーシップ開発)
GL111 (Introduction to Leadership)
GL201 (質問力を活用したリーダーシップ開発)
GL202 (Leadership through Inquiry)
GL301 (グローバル・リーダー海外実践)
GL302 (Leadership in a changing world)

「グローバル・リーダーシップ・プログラム」は、権限がなくとも発揮できるリーダーシップを少人数のプロジェクト型学習等を通じて段階的に身に付けるプログラムである。GL111およびGL202、GL301、GL302は英語で開講し、母国語でない環境での経験と講義を通して、グローバルリーダーになるためのリーダーシップスキルと知識を身に付けることを目指す。

「学びの精神」科目として開講しているGL101では、企業（クライアント）から与えられた課題に少人数のチームで取り組み、自分の持ち味を生かしたリーダーシップのあり方に気付く。

「多彩な学び」科目として開講しているGL111は、GL101の英語版であり、英語を用いた環境における自分のリーダーシップに関する気付きとその発揮方法について学ぶ。GL102では、他者のリーダーシップ開発について学ぶ。GL201では、質問力を通したリーダーシップの発揮方法を身に付ける。GL202以降は、英語でのプログラムとなり、GL101、GL201またはGL111等で身につけたリーダーシップを土台として、グローバルに活躍するために必要なリーダーシップを英語で強化する。

「国際協力人材」
育成プログラム

科目名
グローバル・イシュー各論
グローバル共通教養総論
ソリューション・アプローチA (国際人権系)
ソリューション・アプローチB (開発経済系)
ソリューション・アプローチC (人道支援系)
ソリューション・アプローチD (国際システム系)
ソリューション・アプローチE (模擬国連・総合演習系)
ソリューション・アプローチF (強制移転・移住系)
ソリューション・アプローチG (紛争と平和)
国際協カリテラシー
アクティブ・リサーチ1
アクティブ・リサーチ2

立教大学・明治大学・国際大学の三大学により運営・開講される「国際協力人材」の育成を目指す、全て英語による科目を展開するプログラムである。

立教大学、明治大学で開講する各科目は、両校の学生が自由に履修可能であり、授業内でのグループワークやディスカッションにて、両大学の学生が活発に交流することができる。

国際協力に関わる多様なゲスト・スピーカーの招聘を中心とした科目、フィールドワーク型・集中合宿型の科目等、多様な科目を体系的に設置することにより、実践的な英語力と、「国際協力人材」としてのマインドを醸成することを目指す。

国連ユース
ボランティア
プログラム

科目名
国連ユースボランティア

国連ボランティア計画 (UN Volunteers) が大学と連携して、学生を開発途上国へボランティアとして約5ヶ月の間、派遣するプログラムである。

陸前高田
プロジェクト

科目名
陸前高田プロジェクト

被災地の現状を広く知り、復興における課題を共有していくことを目的とし、本学の学部生および大学院生、特別外国人留学生を対象とした、全て英語で開講される課題基盤型学習 (PBL) プログラムである。事前研修、現地研修 (4泊5日)、事後研修の3部構成である。また、スタンフォード大学、香港大学、シンガポール国立大学との協働プログラムである。

海外インターン
シッププログラム

科目名
海外インターンシップ1
海外インターンシップ2

海外における就業体験を通じて、企業を知り、社会の仕組みを理解するとともに、国際的にも活躍できるグローバル人材としての能力を高めることを目指すプログラムである。

立教サービス
ラーニング

科目名
RSL-コミュニティ (埼玉)
RSL-コミュニティ (池袋)
RSL-ローカル (南魚沼)
RSL-グローバル (フィリピン)
RSL-プロジェクト・プランニング

立教サービスラーニング (Rikkyo Service Learning: RSL) は、社会の現場での活動と、教室における学問的学習との結合を目指す実践型の科目群である。特に、形成期科目に位置づけて開講するため、一定期間にわたり、専門機関 (NPO、行政、企業等) の指導の下、さまざまな分野の社会活動等を行い、あわせて理論的学習等 (事前・事後学習) を行うことで単位が付与される。履修登録方法 (抽選登録科目) は、全学共通科目の抽選登録方法による。また各科目の詳細・注意事項は、「シラバス」および「立教サービスラーニングガイド」を必ず確認すること。

スポーツ実習

スポーツ実習の目的は、以下の2点に要約される。

- 1) 健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、スポーツの実践を通じて健康づくり、運動不足の解消、体力の向上を目指す。
- 2) スポーツは言語や国境を越えて人類が今日まで築き上げた文化であり、国際人の基礎教養として、あるいは国際交流の手段として、その役割は大きい。スポーツの文化的側面を理解し、同時にその実践を通じて現代人に必要とされるコミュニケーション能力、バランスのとれた理性的確かな判断力を養成する。

スポーツプログラム

科目名
スポーツプログラム1
スポーツプログラム2
スポーツプログラム3
スポーツプログラム4

「スポーツプログラム1～4」は1単位科目で、スポーツ実践を通して、それぞれの種目の運動技術を高め、その種目を楽しむ素養を身に付ける。実技中心の科目であるが、「運動と栄養」、「トレーニング方法」など、健康の維持増進に関連した講義も併せて行うものとする。加えて、スポーツパーソンシップ、コミュニケーションづくりについても学ぶ。スポーツプログラム4は、集中科目である。

スポーツスタディ

科目名
スポーツスタディ1
スポーツスタディ2
スポーツスタディ3
スポーツスタディ4

「スポーツスタディ1～4」は2単位科目で、スポーツプログラムの目的に加えて、授業全体の3分の1程度の時間を使い、それぞれのスポーツについての講義（「スポーツ文化」、「スポーツ栄養学」、「トレーニングと健康」など）を行う。また、各担当者から課せられるレポートを提出することによって、スポーツ文化、スポーツ科学等に対する理解を深め、同時に健康維持・増進のための方法論を学ぶ。また、身体のハンディキャップの有無に関わらずに受講することができる「アダプトッドスポーツ」を用意している。スポーツスタディ4は、集中科目である。

多彩な学びは、広い範囲の学問分野の全体像を俯瞰できるように、多様な科目群で構成されている。これにより、専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うことを目的としている。

また、多彩な学びでは、各カテゴリの科目紹介にあるような科目が開講されるが、次のような特色のある科目が展開される（科目一覧表には、これらの科目名欄に、科目の特色を示す「F、J、D」などの目印が記されているので、履修計画を立てる際には大いに活用してほしい）。

 外国語による日本研究科目（F科目）

F科目とは外国語（主に英語）による日本研究科目である。日本においてコミュニケーションをするためには日本語能力だけでは不十分であり、経済学、文学などの専門に支えられた思考様式や知識体系があって初めて中身のあるコミュニケーションができるようになる。それと同様、世界中の人とコミュニケーションをするためには、単に言語を学ぶだけでは不十分であり、外国の事情を知っておくことや日本の事情を外国語で伝えられるようになることが求められる。

講義は、基本的に外国語（主に英語）で行われる。授業を履修するにあたって必要とされる英語能力については、各科目のシラバスを確認すること。異文化間のコミュニケーションや日本研究に興味を持つ学生はもちろん、留学を計画している学生にとっても、日本の現状を理解し、発信していく上で、有用な科目である。

外国語による日本研究科目（F科目）

上級（TOEIC® 700点程度以上：演習）

Modern Japanese History 1 Modern Japanese History 2 Japanese Politics and Economy 1
Japanese Politics and Economy 2 Japanese Relations in Asia 1 Japanese Relations in Asia 2 Japanese Society 1
Japanese Society 2 Tokyo Studies Japanese Culture 1 Japanese Culture 2 Saitama Studies

中級（TOEIC® 550点程度以上：講義）

Japanese Ethnology Japanese Arts A Japanese Arts B Japanese Mind Science Studies

📖▶日本語による日本研究科目（J科目）

J科目とは、「多彩な学び」として開講する科目の中で、とりわけ日本の歴史、政治、社会、文学、法律などを日本語で深く学ぶことを目標に据える科目である。この科目を通して、日本の文化・社会・自然などについて改めて学び直し、グローバル教養人にふさわしい日本についての知識を身に付けることを目的とする。

日本語による日本研究科目（J科目）

仏教の世界 日本の宗教 日本文化と精神性 世界経済と日本 日本国憲法
近代日本社会と人権 日本の「多文化」政策を問い直す 日本の美術 日本の音楽 日本の演劇

📖▶オンデマンド授業科目（D科目）

オンデマンド授業科目とは、インターネット上で履修することが可能な授業のことである。履修者は、定められた期間内であれば自分の好きな時間に、自宅や大学のパソコンから授業を受けることができる。

履修者は、講義を受講し、さらに、授業のために用意された電子掲示板システム（BBS）を使って担当教員と履修者との間で質疑応答やディスカッションを行う。

オンデマンド授業科目（D科目）

社会調査の技法 多変量解析入門 データ分析入門 社会調査入門 データの科学 Introduction to Statistics 1
Introduction to Statistics 2

📖▶コラボレーション科目

専攻分野の異なる複数の教員が協力し、特定の主題に個々の学問の枠を超えたさまざまな角度からアプローチし、受講生を巻き込みながら互いに議論を戦わせることで、知的刺激を与えあう場をつくり出そうというのがコラボレーション科目の狙いである。現在の大学のカリキュラムは、言語のほかに早い段階から専門の導入教育を徹底的に行う仕組みになっている。専門教育の内容が日々高度化していく状況を考えれば意義のあることだが、大学生らしい総合的な思考能力を養うという点がおろそかになりがちで、この点を補うために「総合系科目」が作られた。「コラボレーション科目」はこの「総合系科目」の教育目標をそれ自身だけで体現する科目であり、いわば知的栄養失調を解消する万能薬たることを意図している。元々は、立教大学の伝統ともいえる、分野の異なる大学教員が教員室等で交わす雑談や、さらには特に近年若手研究者の間で盛んになってきた「学際的研究」の試みを、そのまま授業にしてみようということで作られた科目である。ゆえに、教壇に立つ教員、ゲスト・スピーカーは特定の分野を背景に持つ研究者であることが原則だが、受講生に身近な主題が選ばれる場合は、経験豊かな社会人や本学の職員、卒業生といった人々も積極的に参加して、議論を盛り上げるのが常である。ネットで断片的な知識ばかり得ている受講生にとって、専門が異なる生身の人間が本気で議論する現場に参加することは自己形成の大きな糧となろう。コラボレーション科目はテーマに応じて1～5カテゴリに位置づけられている。

コラボレーション科目

哲学対話 in RIKKYO 生・身体・テクノロジー・神 より良き隣人へ：日本植民地研究の最前線 文化の居場所を考える
現在形の文化活動から考えるジェンダー論 大衆演劇の世界 歌と私と時代と 睡眠文化論 ボランティア論 翻訳・通訳と現代社会
グローバルシティ・ソウルを読み解く 音楽の生まれる場 こっち、あっちの人類学 立教OBOGの「社長の履歴書」 パトス・ロゴス・エトス
市民が動く、社会が変わる 演芸の世界 Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題 「観光立国」と日本の成長・地方創生 観光学からみた東京
ストレスから考える私たちの健康

📖▶立教ゼミナール

立教ゼミナールは、学生と教員、また学生同士で積極的に議論できるように、少人数で授業が行われる。すべて専任教員が担当し、多彩な学びの1～5カテゴリにまたがるさまざまなテーマが用意されて

いる。

この科目では、異なる学部・学年の履修者たちが、ひとつのテーマをめぐってさまざまな立場から「議論する」ことが可能である。この特徴を生かし、自らの専門領域にとらわれない広い視野を持ち、立場の異なる相手を尊重しながら、自らの意見を論理的に主張できる能力を高めることを狙いとしている。この科目を通して、あらゆる分野の学生に必須の「聞く」「調べる」「考える」「書く」「発表する」といった基本的能力を涵養するとともに、自らの興味・関心を深く掘り下げて欲しい。

なお、立教ゼミナール発展編は、いわゆる超学際的テーマを扱うので、3～4年次生の履修を推奨している。1～2年次生の履修を妨げないものの、大学生生活の完成期に学習することが期待される。

立教ゼミナール

立教ゼミナール1～5 立教ゼミナール発展編1～4

3 履修上の注意

1. 「多彩な学び」科目群の履修について
多彩な学び科目群の履修については、原則1年次秋学期より履修が可能である。9月入学者については、入学した翌春学期より履修が可能である。
2. 履修登録上限単位数
全学年において、「学びの精神」科目群「多彩な学び」科目群「スポーツ実習」科目群を全て合計して春・秋学期それぞれ6単位以内とする（ただし、「国連ユースボランティア」科目を履修する場合を除く）。なお、履修登録上限単位数には、履修登録した科目で、単位を修得できなかった科目も含まれる。また、「海外インターンシップ1・2」科目の登録上限の扱いについては、「11. 海外インターンシッププログラムについて」を参照すること。
4年次生は、秋学期の授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。
3. 履修規定の変更
「海外インターンシップ1・2」科目は、2017年度より履修登録上限単位数に含まれる。単位の扱い等の詳細については、「11. 海外インターンシッププログラムについて」を参照すること。
4. 同一科目の重複履修
「学びの精神」科目群「多彩な学び」科目群「スポーツ実習」科目群の全ての科目に関し、同一科目は、学期を変えれば重複履修することはできる。その場合には最初に修得した1科目のみが卒業要件単位として認められ、2回目以降に修得した単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。なお、成績証明書には履修した全ての科目の成績が記載される。

同一科目とは、科目の名称（番号までを含む）、単位数が同一の科目である。したがって、担当者が同じでも科目の名称が一部でも異なる場合には別科目となる。逆に、担当者、タイトルや授業の内容が異なっても、科目の名称が同じであれば、同一科目であり、2度以上履修した場合には、最初に修得した1科目のみが卒業要件単位となる。

(例) 「グローバル社会における法と政治」〈現代中国の政治を知る〉(倉田 2単位)
「グローバル社会における法と政治」〈法の世界を学ぶ〉(高橋 2単位) } 同一科目
「スポーツスタディ4」〈ネイチャーキャンプ〉(担当者：濁川 2単位)
「スポーツスタディ4」〈スキーA〉(担当者：濁川 2単位) } 同一科目
「現代社会の中の宗教1」〈バイオエシックスとキリスト教と日本社会〉(柳堀 2単位)
「現代社会の中の宗教2」〈古典と文学作品〉(阿部 2単位) } 別科目 (数字が異なるため)

5. 卒業要件とはならない科目
法学部の学生は、「学びの精神」科目群の「法と政治の世界」と「多彩な学び」科目群『2 社会への視点』の「法と社会」「政治と社会」を履修しても卒業要件単位とはならない。また、「日本国憲法」は履修対象外（履修不可）科目となるので注意すること。
社会学部の学生は、「多彩な学び」科目群『2 社会への視点』の「社会調査の技法」「社会調査入門」は履修対象外（履修不可）科目となるので注意すること。
6. オンデマンド科目履修について
履修資格を有するのは休学・在学留学中の学生を除いた学生となる。なお履修に際して注意事項があるので、申込前に<https://spirit.rikkyo.ac.jp/odc/>で必ず確認をすること。
各学期の定められた履修登録期間にオンデマンド科目を登録申請し、履修を許可された者は、下記の期間中にBlackboardにログインをして年度別コース一覧にオンデマンド科目名があることを確認すること。

春学期：4月10日（水）から4月30日（火）まで

秋学期：9月20日（金）から9月30日（月）まで

科目名が確認できない場合は、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）まで連絡をすること。

その後、受講期間になったら受講を開始すること。操作方法は次のURL（<https://spirit.rikkyo.ac.jp/odc/>）にて「オンデマンド受講生用簡易マニュアル」を参照すること。

※一部科目では学期中のスクーリングや期末の定期試験など、Web上での学習以外に大学へ直接出向く必要が生じる場合があるので各科目のシラバスも必ず確認すること。

7. グローバル・リーダーシップ・プログラムの履修について

履修資格

学部学生対象。各科目の履修資格は以下の通りである。

◆「GL102」「GL201」：「GL101（経営学部の学生は「リーダーシップ入門（BLO）」）」の単位を修得済みであること。

※経営学部の学生については、「GL101」の履修は不可。

◆「GL111」：下記の申請基準相当の語学（英語）力を有すること。

- ・TOEIC®（またはTOEIC®IP）700点程度
- ・TOEFL®iBT 75点程度 TOEFL®PBT 540点程度
- ・IELTS 6.0程度

※グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生については、全学共通科目で開講されている「GL111」の履修は不可。

◆「GL202」：「GL111」または「GL201」の単位を修得済みであり、かつ下記の申請基準を満たす語学（英語）力を有すること。

- ・TOEIC®（またはTOEIC®IP）700点以上
- ・TOEFL®iBT 75点以上，TOEFL®PBT 540点以上
- ・IELTS 6.0以上

※グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生については、全学共通科目で開講されている「GL202」の履修は不可。

◆「GL302」：「GL202」の単位を修得済または履修中であること。

履修登録方法

科目の登録は「その他」登録とする。全ての科目の履修にあたって選考を行う。選考方法とスケジュールは以下のとおり。

春学期開講「GL101」履修登録

上記科目の履修を希望する者は、Rikkyo V-CampusのBlackboard (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/blackboard/>) にログインし、年度別コース一覧の「その他」より「GL101（履修申請用）」をクリックのうえ、そこに設定された設問に対応すること。設問の回答をもって、履修を希望したものとする。

申請期間：4月2日（火）10：00～4月5日（金）18：00

※申請期間が短いので注意すること。

選考の結果、履修を許可された者は、4月9日（火）21：00より履修登録システムに「GL101」の情報が表示され、登録確認が可能となる。

春学期開講「GL202」履修登録

上記科目の履修を希望する者は、Rikkyo V-campusのBlackboard (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/blackboard/>) にログインし、年度別コース一覧の「その他」より「GL202（履修申請用）」をクリックのうえ、そこに設定された設問と提出物に対応すること。設問の回答と提出物の提出をもって、履修を希望したものとする。

申請期間 3月19日（火）10：00 ～ 3月25日（月）17：00

選考の結果、履修を許可された者は、4月1日（月）10：00に全学共通科目掲示板に学生番号を掲示する。履修登録システムにおいても登録確認が可能となる。

秋学期開講「GL102」「GL111」「GL201」履修登録

上記科目の履修を希望する者は、Rikkyo V-CampusのBlackboard (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/>)

blackboard/) にログインし、年度別コース一覧の「その他」より「GL102（履修申請用）」「GL111（履修申請用）」「GL201（履修申請用）」をクリックのうえ、そこに設定された設問や提出物に対応すること。設問の回答や提出物の提出をもって、履修を希望したものとす。

申請期間：9月2日（月）10：00～9月6日（金）18：00

選考の結果、履修を許可された者は、9月11日（水）11：00より履修登録システムに「GL102」「GL111」「GL201」の情報が表示され、登録確認が可能となる。

春学期期間外科目および秋学期期間外科目「GL301」履修登録

グローバル教育センターが「GL301」として認定する学外プログラム（8～9月／2～3月に実施）への参加が必要となる。指定プログラムより参加を希望するプログラムを選択し、各自申込手続きを行うこと。プログラムごとの選考を経て参加が決定したのち、下記要領に従い本科目の履修申請書を提出すること。書類審査の上履修者を決定する。

〈春学期〉

説明会：4月中旬～下旬※グローバル教育センターHP等で案内予定

申請期間：5月13日（月）～6月6日（木）

申請書配付・提出場所：グローバル教育センター／新座キャンパス国際センター

履修許可者発表：6月14日（金）10：00（全学共通科目掲示板に掲示）

〈秋学期〉

説明会：10月上旬頃 ※グローバル教育センターHP等で案内予定

申請期間：10月21日（月）～11月21日（木）

申請書配付・提出場所：グローバル教育センター／新座キャンパス国際センター

履修許可者発表：11月29日（金）10：00（全学共通科目掲示板に掲示）

「GL301」は春／秋学期期間外科目として通常の履修登録期間終了後に履修登録を行う科目であり、全学共通科目総合系科目の年間履修登録上限（12単位）に含まれる。詳細の考え方については、「11. 海外インターンシップ・プログラムについて」の「履修登録上限」と同様であるため、必ず確認し履修計画を立てる際には十分に注意すること。

指定プログラム等詳細については、春学期は4～5月、秋学期は9～10月にグローバル教育センターHPで公開し説明会を行う。詳細は募集要項を確認すること。

注意事項

- ①選考の結果、履修が許可されないことがある。
- ②選考のため、面接を行うことがある。その際は科目担当者より直接連絡する。
- ③履修を希望する場合、申請した曜日・時限に他の科目を履修登録システム上で登録しないこと。1次抽選・2次抽選・科目コード登録で他の科目をシステム上で履修登録していた場合、その科目の履修登録が優先されてしまうので注意すること。また、申請時にはシステムの履修登録上限単位数に含まれていないため、十分注意すること。
- ④「GL101」など同一曜日・時限に複数クラスを開講している科目では、任意のクラスに割り当てられる。選考の結果、どのクラスに配当されたか必ず確認すること。
- ⑤履修を許可された者の履修登録は大学が行うので、履修登録状況画面で正しく登録されているか必ず確認すること。

8. 「国際協力人材」育成プログラムの履修について

◆履修にあたっては、グローバル教育センター窓口およびグローバル教育センター提供科目ガイダンスなどで配付している「国際協力人材」育成プログラムパンフレット等を参照のこと。

履修資格

「ソリューション・アプローチA～G」「アクティブ・リサーチ1」の履修については、配当年次が2年次以上となる。

また、「アクティブ・リサーチ1」については、所定の申請書類を提出する必要がある。詳細は下記「履修登録方法」を参照のこと。

履修登録方法

「グローバル・イシュー各論」「グローバル共通教養総論」「ソリューション・アプローチA～G」の登録は抽選登録に準ずる。

履修登録にあたっては、科目が立教大学・明治大学の各キャンパスで開講されているので、キャンパス間の移動時間、また、授業時間の違いを考慮して登録を行うこと。移動時間が不足していた場合でも自己責任となるので注意すること。明治大学開講科目については、開講時間が本学と異なるので、必ずシラバス・時間割検索システムの検索結果一覧「注意」欄で確認のうえ登録すること。

2017年度より、「アクティブ・リサーチ1」と「国際協力リテラシー」「アクティブ・リサーチ2」は原則隔年開講とし、2019年度は「アクティブ・リサーチ1」を開講する。

「アクティブ・リサーチ1」については、「その他」登録となり、所定の用紙での申請が必要となる。申請方法・申請基準・申請期間・選考結果発表については以下のとおり。

◆申請方法：履修を希望する者は、「履修申請書」を提出する。書類はグローバル教育センターの窓口にて配付する。

申請者は、5月15日（水）～5月22日（水）のいずれかの日程で面接を行う可能性がある。面接を行う場合、申請書に記入された連絡先に直接連絡する。

◆申請書配付期間：5月1日（水）～5月14日（火）

◆提出場所：グローバル教育センター窓口へ提出。

◆申請期間：5月7日（火）10：00～5月14日（火）17：00

◆選考結果：5月24日（金）11：00に、全学共通科目掲示板にて発表する。

*注意事項

- ①「アクティブ・リサーチ1」については、選考の結果、履修が許可されないことがある。
- ②「アクティブ・リサーチ1」の履修を許可された者の履修登録は大学が行うので、履修登録状況画面で正しく登録されているか必ず確認すること。
- ③「アクティブ・リサーチ1」の単位については、秋学期他科目となる。各自所属する学部・学科の履修規定により履修登録上限単位数が設定されている場合には、履修計画を立てる際に注意すること。

特別聴講学生証

科目登録の結果、明治大学での開講科目の履修が決定した学生は、特別聴講学生証を春学期は4月27日（土）以降、秋学期は10月8日（火）以降に所属キャンパスの教務窓口にて受け取る。明治大学での授業出席や試験等では、特別聴講学生証が必要となるので、紛失しないよう管理すること。

プログラム修了認定（2016年度以前入学者のみ対象）※2017年度以降入学者は対象外なので、注意すること

本プログラムは「モチベーション・パス」「キャリア・パス」の要件に沿って体系的に学んだ場合、修了認定証が発行される。各パスについては、入学年度に配付されたプログラムのパンフレットを参照すること。パンフレットは、グローバル教育センターにて閲覧可能である。プログラムの修了認定は、本人からの申請により、次の修了要件を全て満たしていると認められる場合に認定する。

<モチベーション・パス>

- ①修了に必要な単位数は10単位以上とする。ただし、重複履修して修得した科目については、最初に修得した1科目分だけがプログラム修了要件単位として認められる。
- ②「グローバル・イシュー各論」および「グローバル共通教養総論」の2科目4単位を必修とする。
- ③「ソリューション・アプローチA～G」のうち3科目6単位以上を修得すること。

<キャリア・パス>

- ①修了に必要な単位数は16単位以上（モチベーション・パス科目10単位以上を含む）とする。ただし、重複履修して修得した科目については、最初に修得した1科目分だけがプログラム修了要件単位として認められる。
- ②モチベーション・パスの修了要件を満たしていること。
- ③キャリア・パス科目のうち、2科目4単位以上を修得すること。

修了申請手続

春学期・秋学期に「モチベーション・パス」「キャリア・パス」の修了要件を満たした学生は、以下の方法・日時で申請を行うこと。修了申請書は、グローバル教育センター窓口にて配付する。

<必要書類>

春学期・秋学期とも以下の2点を提出すること

- ①「モチベーション・パス」「キャリア・パス」修了申請書
- ②成績参照画面のコピー

<申請方法・日程・場所>

申請書配付 春学期修了：9月2日（月）～9月9日（月）
秋学期修了：2020年3月2日（月）～3月13日（金）
申請期間 春学期修了：9月5日（木）～9月10日（火）
秋学期修了：2020年3月13日（金）～3月18日（水）
提出場所 グローバル教育センター窓口
結果発表 春学期修了：9月11日（水）
秋学期修了：2020年3月18日（金）

両学期とも全学共通科目掲示板にて発表する。

*修了証については、結果発表時の掲示の指示に従い受け取ること。

9. 国連ユースボランティアプログラムについて

選考から派遣、帰国までのスケジュール

4月4日（木）17：00	応募締切
4月6日（土）～13日（土）うち数日	日本語および英語による面接審査 ※日程詳細は申請書参照
4月15日（月）頃	本学推薦派遣候補者発表 ※推薦確定後の辞退は認めません。
5月～7月	国連による選考（英語による電話インタビューなど）、 最終合格者決定
8月～9月	最終合格者対象の派遣事前研修（集中講義合宿）[受講必須] ※関東および関西において、計10日間程度
9月～2020年2月	現地派遣
2020年3月	帰国報告会

履修資格

- ①学部学生であること。
- ②2019年度に在学していること（休学していないこと）。
- ③日本国籍を有すること。
- ④2019年9月1日時点で、満20歳以上かつ心身ともに健康であること。
- ⑤次のいずれか一つの英語能力を満たしていること。
TOEFL® ITP500点、TOEFL® iBT61点、TOEIC® 590点、IELTS 5.0点
英語能力を証明する書類の写しを必ず提出すること。
- ⑥開発途上国へ2週間以上の渡航経験を持つことが望ましいが、必須ではない。
- ⑦ボランティア経験があることが望ましいが、必須ではない。

- ⑧円滑に共同作業ができること。
- ⑨基本的なICTスキル（Word/Excel/Power Point）を有すること。
- ⑩全学共通科目言語必修科目に未修得の単位がある場合、申請を認めない。

履修申請方法

4月4日（木）17：00までに、いずれかの事務室に以下の提出書類を提出すること。ただし、留学等の理由により、窓口での提出に支障がある場合は、必ず事前にグローバル教育センターに問い合わせること。

提出場所：池袋キャンパス グローバル教育センター窓口
新座キャンパス 国際センター窓口

提出書類：①申請書

グローバル教育センターホームページ（<https://ghrd.rikkyo.ac.jp/>）よりダウンロードすること。

②成績参照画面のコピー

2018年度までの成績がすべて表示されている成績参照画面を出力し、提出すること。

③英語能力証明書のコピー（TOEIC IP可）

④英文履歴書

グローバル教育センターホームページより参考資料をダウンロードすること。締切日までの完成が困難な場合、後日提出も可とする。

履修登録

国連による最終選考に合格し派遣が決定した学生は、秋学期他科目として大学が「その他」登録を行う。派遣決定後に改めて本科目に関する履修登録申請手続きをする必要はないが、各自必ず当該学期の履修登録状況画面を確認すること。

なお、本科目が履修登録される学期において他科目の履修はできない。

※派遣決定前に履修登録した通年科目の取り扱い

通年科目を履修している場合、その科目は履修が中止された扱いとなり、成績評価は「Q」と表示され単位を修得することはできない。

履修登録上限

本科目を履修する場合、当該秋学期における全学共通科目総合系科目の履修登録上限は特例として12単位とする。

成績

本科目の成績は「合格」または「不合格」とする。

なお、派遣国からの帰国の時期により成績発表の時期が遅れることがある。4年次生については、派遣国からの帰国の時期により、卒業合格者発表（2月下旬）までに本科目の成績評価を確定させることが出来ない場合がある。その場合、追加合格者としての発表（3月中旬）となる。

研修

最終合格者は、8月～9月に計10日間程度、関東および関西において実施される合宿形式の派遣事前研修を必ず受講すること。

その他

・最終合格後および派遣後であっても、国際情勢や現地事情の変化等の事由により派遣中止や途中帰国となる場合がある。

・本科目に関する詳細はグローバル教育センターホームページおよび募集要項で確認すること。

10. 陸前高田プロジェクトの履修について

スケジュール

5月中旬	募集説明会
6月13日（木）17：00	応募締切
6月中旬	面接 ※日程詳細は申請書参照
6月24日（月）頃	参加者決定
7月～8月	事前研修（2回）
9月3, 4日（火, 水）	事前研修（東京）※現地研修直前2日間予定, 海外からの参加者合流
9月5日（木）～9日（月）	現地研修（陸前高田）※4泊5日
9月10, 11日（火, 水）	事後研修（東京）※現地研修直後2日間予定

履修資格

2019年度春学期および秋学期とも在学していること。

履修申請方法

本プログラムは、選考を経て参加者を決定する。

申込期限：6月13日（木）17：00

提出場所：池袋キャンパス グローバル教育センター窓口

新座キャンパス 国際センター窓口

提出書類：①申請書

グローバル教育センターホームページ（<https://ghrd.rikkyo.ac.jp/>）よりダウンロードすること。

②成績参照画面のコピー

2018年度までの成績がすべて表示されている成績参照画面を出力し、提出すること。

③英語能力証明書のコピー（TOEIC IP可）

履修登録

参加が決定した学生は、秋学期他科目として大学が登録を行う。参加決定後に改めて本科目に関する履修登録申請手続きをする必要はないが、各自必ず当該学期の履修登録状況画面を確認すること。

成績

本科目の成績は「合格」または「不合格」とする。

その他

・本科目は幅広い学生の参加を期待することから、博士課程前期課程の学生も参加することができるが、その修得単位は随意科目となる。

・本科目に関する詳細はグローバル教育センターホームページおよび募集要項で確認すること。

11. 海外インターンシッププログラムについて

科目の概要

大学直営で行うプログラムと他団体が運営する2プログラムを利用する計3種類のプログラムがあり、いずれも事前研修、現地海外インターンシップ、事後報告会の3つから構成される。

スケジュール

具体的な日程については、グローバル教育センターホームページ（<https://ghrd.rikkyo.ac.jp/>）を確認すること。詳細な派遣スケジュールは、派遣地域や派遣先によっても異なるため、海外インターンシ

ッププログラムに参加を希望する場合、自身のスケジュールは余裕をもって確保しておく必要がある。

また、渡航および派遣期間中の遵守事項があるため、応募前によく確認すること。

<8～9月実施> (春学期期間外科目)

2019年4月中旬	募集説明会
5月8日 (水) 17:00	応募締切 ※応募者多数の場合、書類選考
5月中旬	面接、結果通知※日程詳細は申請書参照
6月	履修登録
6月	受入企業／団体との調整
～8月	渡航準備、事前研修
8～9月	現地インターンシップ
9月	事後報告会
9月下旬以降	成績発表

<2020年2～3月実施> (秋学期期間外科目)

2019年9月下旬～10月初旬	募集説明会
10月24日 (木) 17:00	応募締切 ※応募者多数の場合、書類選考
11月中旬	面接、結果通知※日程詳細は申請書参照
11月	履修登録
11～12月	受入企業／団体との調整
～2020年2月	渡航準備、事前研修
2020年2～3月	現地インターンシップ
2020年3月	事後報告会
翌年度4月	成績発表

派遣先情報

8～9月実施は4月中旬、2020年2～3月実施は10月初旬に、具体的な派遣先企業等の情報をグローバル教育センターホームページに掲載する（閲覧にはV-CampusのID及びパスワードが必要）。受入企業／団体によって学年や語学レベル等の条件がある場合があるので注意すること。

履修申請方法

前述のスケジュールに記載の応募締め切りまでに、いずれかの事務室に以下の提出書類を提出すること。

提出場所：池袋キャンパス グローバル教育センター窓口
新座キャンパス 国際センター窓口

提出書類：①申請書

グローバル教育センターホームページよりダウンロードすること。

②成績参照画面のコピー

最新の成績参照画面（当該学期の履修登録内容が反映されたもの）を出力し、提出すること。

③履修登録状況画面のコピー

④語学能力証明書のコピー（受験している場合。TOEIC IP可）

⑤大学宛誓約書

※応募者多数の場合、書類選考を行う。

履修登録

派遣が決定した学生は、各学期期間外科目として大学が「その他」登録を行う。改めて登録手続きをする必要はないが、履修登録後に更新される履修登録状況画面を各自必ず確認すること。

履修登録上限

- ・春学期期間外、秋学期期間外いずれの学期で本科目を履修登録した場合も、全学共通科目総合系科目の年間履修登録上限（12単位）のカウントに含まれる。

例) ◎春学期期間外科目として履修

総合系科目の春学期における履修登録上限である6単位をすでに履修している場合でも、上記のカウントの原則に従い本科目を履修することができる。

◎秋学期期間外科目として履修

総合系科目の秋学期における履修登録上限である6単位をすでに履修している場合でも、上記のカウントの原則に従い総合系科目の年間履修登録上限単位（12単位）および各学部の定める年間の履修登録上限の範囲内で本科目を履修することができる。

※選考の結果合格した場合でも、上記に示された履修登録上限のルールを超えて履修登録ならびに単位の修得をすることはできない。本科目の履修登録時期は、通常の履修登録時期より遅いため、申込をする前に自身でよく確認し、計画的に履修計画を立てること。

成績

本科目の成績は「合格」または「不合格」とする。

その他

- ・募集要項を確認すること。
- ・当該学期に在学し、かつインターンシップ時に日本からの出国、日本への帰国が可能な者のみ参加可。また、選考時に海外滞在中など大学に来ることができない場合は申請・参加不可。
- ・派遣後であっても、国際情勢や現地事情の変化等の事由により派遣中止や途中帰国となる場合がある。渡航に際しては、本学の指定する賠償責任保険及び海外旅行保険に加入すること。
- ・本プログラムは幅広い学生の参加を期待するため、下記(1)～(3)に該当する学生についても参加申込を認め、選考により合格した場合はプログラムに参加することができる。下記注意事項を確認し、希望する場合はグローバル教育センターに相談すること。

(1) 秋学期期間外科目における学部4年次生

参加を認められた場合も履修登録および単位修得をすることはできない。

(2) 学部1～3年次生および春学期期間外科目における学部4年次生で履修登録を希望しない者

履修登録した上で参加することが原則であるが、履修登録上限超過等、特段の理由がある場合履修登録せずプログラム参加申込をすることを認める。参加を認められた場合も単位修得はできず、途中で単位修得を希望することもできない。

(3) 博士課程前期課程1年次生

参加が認められた場合には、履修登録を行うが、その修得単位は随意科目となる。

※(1)～(3)いずれにおいても、プログラム参加に当たっては履修登録の上参加する学部学生と同様、現地海外インターンシップのみならず事前研修、事後報告会、課題提出、および関係各所の諸指示に従うことを必須とする。

12. RSL科目 の履修について

RSL実践系科目（多彩な学び科目群 6.「知識の現場」で開講される科目）について

(1) 履修登録について

抽選登録の履修登録方法に準ずる。

(2) 履修に関する注意点

- ・「RSL-ローカル（南魚沼）」「RSL-グローバル（フィリピン）」は4年次生履修不可。
- ・事前説明会に必ず参加すること。説明会日程は全学共通科目掲示板、池袋キャンパス5号館1階、新座キャンパス7号館前に設置される掲示板で確認すること。
- ・事前・事後学習および学外活動（フィールドワーク）には全日程に参加しなければならない。
- ・原則として履修登録後の辞退は認められない。やむをえない事情で活動を辞退する場合は所属キャンパスのRSLセンターの指示に従い、所定の手続きが必要である。尚、辞退した場合にはキャンセル料が発生する場合がある。
- ・当該年度の定期健康診断を必ず受診していること。受診していない場合は速やかにRSLセンターに相談すること
- ・その他事項は「立教サービスラーニング（RSL）ガイド」および「シラバス」を参照すること。

「RSLゼミナール」について

「多彩な学び」科目群『2.社会への視点』の「RSLゼミナール」は、以下の科目と同一内容であるため、過年度の当該科目単位修得者の履修を推奨しない。

- ・2017年度、2018年度開講の「立教ゼミナール発展編2 RSL-社会基盤としての文化論」

13. 教養の扉を ひらくについ て

聖路加国際大学開講科目「教養の扉をひらく」について

「教養の扉をひらく」は、聖路加国際大学にて春学期木曜の12:40～14:10に授業を実施する。移動の必要上、本学の春学期木曜2～3限に他の科目を履修することはできない。

以下は過年度に開講されていた総合系科目で、今年度は開講されていない科目である。

過年度に、これらの科目について、それぞれの科目の開講年度における「履修上の注意」により修得した単位は、規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。開講キャンパスが移動した場合は、下表には記載していない。

科目群 カテゴリ	科目名	開講年度		
		2016	2017	2018
多彩な学び 1. 人間の探究	Fiat lux：キリスト教霊性と文化	●		
	キャスターが教える”伝える力”	●		
	社会人への階段	●		
	新しい時代を生き抜く力		●	
	キャンパスデザインの思想と立教スピリット		●	●
	キリスト教と民衆文化		●	●
多彩な学び 2. 社会への視点	ヒロシマ・ミナマタ・原発事故後の日本	●		
	大衆文化・社会論	●		
	立教OBOGの「社長の履歴書」	●		
	少女歌劇の100年	●	●	
	武力紛争を生きる人びと		●	
	オリンピックマーケティング		●	
	いのちと暮らしのジェンダー論		●	
	震災復興とコミュニティの再編	●	●	
	テレビという媒体			●
	フィールドから考える現代世界の暴力と平和			●
	キャスターが教える “コミュニケーション力”			●
	戦後社会と原子力			●
	グローバルの可能性			●
	〈トランプ時代〉の解剖学			●
人の移動と人文学			●	
しょうがい者の視点から捉え直す現代社会			●	
Nativeと学ぶ社会開発			●	
多彩な学び 4. 心身への着目	スポーツ観戦論	●		
	オリンピック×学生=レボリューション	●		
	人間と看護	●	●	●
	2020年東京パラリンピック支援を考える		●	●
多彩な学び 5. 自然の理解	持続可能な地域社会を考える	●		
	都市と自然	●	●	
	ヒトと生きものたち	●	●	
多彩な学び 6. 知識の現場	RSL-ローカル（陸前高田）	●	●	
スポーツプログラム	スポーツプログラムA	●	●	
	スポーツプログラムB	●	●	
	スポーツプログラムC	●	●	
	スポーツプログラムD	●	●	
	スポーツプログラムE	●	●	
	スポーツプログラムF	●	●	
	スポーツプログラムG	●	●	
	スポーツプログラムH	●	●	
	スポーツプログラムI	●	●	
	スポーツプログラムJ	●	●	
	スポーツプログラムK	●	●	
	スポーツプログラムL	●	●	

2019年度 総合系科目
開講科目一覧

2016年度以降1年次入学者に適用

学びの精神科目群

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目 ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	世界史の中のキリスト教	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	思想を生み出すキリスト教	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	美術の中のキリスト教	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	音楽の中のキリスト教	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	文学を生み出すキリスト教	2	春	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	国際社会の中の宗教	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	現代社会の中の宗教1	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	現代社会の中の宗教2	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	人文学からの学び(文学)	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	人文学からの学び(思想・教育)	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	人文学からの学び(史学)	2	春	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	芸術への扉	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	グローバル経済社会を考える	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	学びの場としての社会	2	春		1・2・3・4	CMP1100	
	現代文化からみる学び	2	春		1・2・3・4	CMP1100	
	メディアからみる学び	2	春		1・2・3・4	CMP1100	
	社会学からの学び	2		秋	1・2・3・4	CMP1100	
	法と政治の世界	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	・法学部所属学生は履修しても卒業要件単位とはならない
	経営学への招待	2	春	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	現代社会と観光	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	現代社会の諸相	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	自然科学の探究	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	身体科学からの学び	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	現代心理学からの学び	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	アジア地域での平和構築	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	グローバル社会での平和構築	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	大学生の学び・社会で学ぶこと	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	・RSL科目
	人権とジェンダー	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	ライフマネジメントと学生生活	2	春	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	立教大学の歴史	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	西欧キリスト教社会における大学の誕生	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	伝統と革新の大学図書館	2	休講	休講	1・2・3・4	CMP1100	
	キャリアデザイン	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	キリスト教史に学ぶ多文化共生	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	美と生命について：キリスト教の美学	2	春	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	愛について：キリスト教の倫理と哲学	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
教養の扉をひらく	2	春		1・2・3・4	CMP1100	・聖路加国際大学にて実施 ・他に聖路加国際大学生が履修 ・履修定員30名	
University Education in the World	2	春他		1・2・3・4	CMP1101	・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい	
「その他」登録	GL101 (PBLによるリーダーシップ入門)	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	・人数制限科目定員各20名

多彩な学び科目群

1. 人間の探究

配当年次の△は以下に注意

- ・1年次生（4月入学者）：春学期科目は履修不可。
- ・1年次生（9月入学者）：秋学期科目は履修不可。

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	聖書と人間	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2100	
	聖書考古学	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	ジェンダーとキリスト教	2		秋	△・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	イスラームの世界	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	「宗教」とは何か	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	現代社会と人間	2	春	春	△・2・3・4	CMP2100	
	哲学への扉	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	論理的思考法	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2100	
	教育と人間	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2100	
	歴史への扉	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	地域研究への扉	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2100	
	多文化の世界	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	文化を生きる	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	人権思想の根源	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2100	
	手話と人権を考える	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	点字から考える人権	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2100	・人数制限科目定員30名
	アジアの文化とことば	2		秋	△・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	ヨーロッパの文化とことば	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	ラテンアメリカの文化とことば	2	春		△・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	ロシア・東欧の文化とことば	2	春		△・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講
	中東の文化とことば	2		秋	△・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	アフリカの文化とことば	2	秋		△・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講
	イタリアの文化とことば	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	ドイツ語圏の文化	2	春	春	△・2・3・4	CMP2100	
	フランス語圏の文化	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	スペイン語圏の文化	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2100	
	中国語圏の文化	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2100	
	朝鮮語圏の文化	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2100	
	教育学への扉	2	春	春	△・2・3・4	CMP2100	
	現代社会における言葉のもつ意味	2	春		△・2・3・4	CMP2100	
	立教ゼミナール1	2	春・秋		△・2・3・4	CMP2140	・人数制限科目定員30名
	立教ゼミナール発展編 1	2	春		△・2・③・④	CMP3100	・人数制限科目定員30名 ・○付きの数字は推奨年次を表す
	こっち、あっちの人類学	2	春		△・2・3・4	CMP2110	
	睡眠文化論	2	春		△・2・3・4	CMP2110	
	バトス・ロゴス・エトス	2	春		△・2・3・4	CMP2110	
	ボランティア論	2	春		△・2・3・4	CMP2110	
哲学対話 in RIKKYO	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2110		
生・身体・テクノロジー・神	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2110		
仏教の世界	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2100	・J科目	
日本の宗教	2	春	春	△・2・3・4	CMP2100	・J科目	
日本文化と精神性	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2100	・J科目	
Japanese Ethnology	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2131	・F科目 ・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい	

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	World History	4	春		△・2・3・4	CMP2101	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

2. 社会への視点

配当年次の△は以下に注意

- ・1年次生（4月入学者）：春学期科目は履修不可。
- ・1年次生（9月入学者）：秋学期科目は履修不可。

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	入門・経済教室	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2200	
	統計情報で社会・経済を診断する	2	春		△・2・3・4	CMP2200	
	景気・格差問題と統計情報	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2200	
	法と社会	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2200	・法学部所属学生は履修しても卒業要件単位とはならない
	政治と社会	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	・法学部所属学生は履修しても卒業要件単位とはならない
	グローバル社会における法と政治	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	
	現代のビジネスを学ぶ	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2200	
	企業と社会	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2200	
	現代社会と環境	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	
	情報と倫理	2	春	春	△・2・3・4	CMP2200	
	メディアと人間	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2200	
	文化と社会	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	
	現代社会の解読	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2200	
	いのちの尊厳と福祉を考える	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	
	コミュニティをデザインする	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	
	観光学への誘い	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	
	シティズンシップを考える	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	・RSL科目
	市民活動の組織とマネジメント	2	秋		△・2・3・4	CMP2200	・RSL科目
	大学と現代社会	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2200	
	パレスチナ問題の歴史と現在	2		秋	△・2・3・4	CMP2200	
	世界の中のロシア	2	秋		△・2・3・4	CMP2200	
	国際情勢を読み解く	2	春		△・2・3・4	CMP2200	
	民主ラシーとリベラルアーツ	2	秋		△・2・3・4	CMP2200	・RSL科目
	ドイツ語圏の社会	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2200	
	フランス語圏の社会	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2200	
	スペイン語圏の社会	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2200	
	中国語圏の社会	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2200	
	朝鮮語圏の社会	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	
	社会調査入門	2	春他		△・2・3・4	CMP2220	・D科目 ・オンデマンド授業 ・社会学部所属の学生は履修不可
	社会調査の技法	2	秋他		△・2・3・4	CMP2220	・D科目 ・オンデマンド授業 ・社会学部所属の学生は履修不可
	データ分析入門	2	春他		△・2・3・4	CMP2220	・D科目 ・オンデマンド授業
	データの科学	2	秋他		△・2・3・4	CMP2220	・D科目 ・オンデマンド授業
多変量解析入門	2	秋他		△・2・3・4	CMP2220	・D科目 ・オンデマンド授業	
Introduction to Statistics 1	2	春他		△・2・3・4	CMP2221	・D科目 ・オンデマンド授業	
Introduction to Statistics 2	2	秋他		△・2・3・4	CMP2221	・D科目 ・オンデマンド授業	

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	立教ゼミナール2	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2240	・人数制限科目定員30名
	立教ゼミナール発展編 2	2	春	春	△・2・③・④	CMP3200	・人数制限科目定員30名 ・○付きの数字は推奨年次を表す
	RSLゼミナール	2	秋		△・2・③・④	CMP3200	RSL科目
	翻訳・通訳と現代社会	2	秋		△・2・3・4	CMP2210	
	立教OBOGの「社長の履歴書」	2	秋		△・2・3・4	CMP2210	
	グローバルシティ・ソウルを読み解く	2	秋		△・2・3・4	CMP2210	
	市民が動く、社会が変わる	2	秋		△・2・3・4	CMP2210	
	Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題	2		春	△・2・3・4	CMP2211	
	より良き隣人へ：日本植民地研究の最前線	2	春		△・2・3・4	CMP2110	
	文化の居場所を考える	2	秋		△・2・3・4	CMP2110	
	現在形の文化活動から考えるジェンダー論	2	秋		△・2・3・4	CMP2110	
	大衆演劇の世界	2	春		△・2・3・4	CMP2110	
	「観光立国」と日本の成長・地方創生	2		秋	△・2・3・4	CMP2210	
	観光学からみた東京	2		秋	△・2・3・4	CMP2210	
	世界経済と日本	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2200	・J科目
	日本国憲法	2	春・秋	春・秋	△・2・3・4	CMP2200	・J科目 ・法学部所属学生は履修不可
	近代日本社会と人権	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	・J科目
	日本の「多文化」政策を問い直す	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2200	・J科目
	Modern Japanese History 1	2	春		△・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Modern Japanese History 2	2	秋		△・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Politics and Economy 1	2	春		△・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Politics and Economy 2	2	秋		△・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Relations in Asia 1	2	春		△・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Relations in Asia 2	2	秋		△・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Society 1	2	春		△・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Society 2	2	秋		△・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
Tokyo Studies	2	秋		△・2・3・4	CMP2201	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する	

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	Saitama Studies	2		秋	△・2・3・4	CMP2201	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Political Sociology	4	春		△・2・3・4	CMP2201	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Economic Thought	4	秋		△・2・3・4	CMP2201	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい
	University in Modern Society	2	春他		△・2・3・4	CMP2201	・集中科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Career and University Education in the Global World	2	春他		3・4	CMP2201	・集中科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい。

3. 芸術・文化への招待 配当年次の△は以下に注意

- ・1年次生（4月入学者）：春学期科目は履修不可。
- ・1年次生（9月入学者）：秋学期科目は履修不可。

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	文学への扉	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2300	
	表象文化	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	美術の歴史	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2300	
	美術と社会	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	音楽の歴史	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	音楽と社会	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	美術論演習	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2350	・人数制限科目定員30名
	音楽論演習	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2350	・人数制限科目定員30名
	キリスト教美術	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	キリスト教音楽	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	都市と芸術	2		秋	△・2・3・4	CMP2300	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	建築と文化	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	舞踊論	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	映像と社会	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2300	
	身体表現と哲学	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	ドイツ語圏の文学	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	フランス語圏の文学	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2300	
	スペイン語圏の文学	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	中国語圏の文学	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	朝鮮語圏の文学	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2300	
	立教ゼミナール3	2	春・秋		△・2・3・4	CMP2340	・人数制限科目定員30名
	立教ゼミナール発展編 3	2	秋	秋	△・2・③・④	CMP3300	・人数制限科目定員30名 ・○付きの数字は推奨年次を表す
	音楽の生まれる場	2	春		△・2・3・4	CMP2310	
	演芸の世界	2		秋	△・2・3・4	CMP2310	
歌と私と時代と	2	秋		△・2・3・4	CMP2110		
日本の美術	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2300	・J科目	

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	日本の音楽	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2300	・J科目
	日本の演劇	2	春		△・2・3・4	CMP2300	・J科目 ・人数制限科目定員30名
	Japanese Culture 1	2	春		△・2・3・4	CMP2331	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Culture 2	2	秋		△・2・3・4	CMP2331	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Arts A	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2331	・F科目 ・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Japanese Arts B	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2331	・F科目 ・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Literature and Society	4	秋		△・2・3・4	CMP2301	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Culture and Fine Arts	4	秋		△・2・3・4	CMP2301	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

4. 心身への着目

配当年次の△は以下に注意

- ・1年次生（4月入学者）：春学期科目は履修不可。
- ・1年次生（9月入学者）：秋学期科目は履修不可。

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	認知・行動・身体	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2400	
	心の科学	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2400	
	パーソナリティの心理	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2400	
	対人関係の心理	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2400	
	心の健康	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2400	
	身体パフォーマンス	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2400	
	ストレスマネジメント	2	春	春	△・2・3・4	CMP2400	
	癒しの科学	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2400	
	スポーツの科学	2	春1	秋	△・2・3・4	CMP2400	
	健康の科学	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2400	
	栄養の科学	2	春2	秋	△・2・3・4	CMP2400	
	アンチエイジングの科学	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2400	
	スポーツとメディア	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2400	
	スポーツと社会	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2400	
	スポーツと文化	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2400	
	レジャー・レクリエーションと現代社会	2	春	春	△・2・3・4	CMP2400	
	アウトドアの知恵に学ぶ	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2400	
	ストレスから考える私たちの健康	2		春	△・2・3・4	CMP2410	
	立教ゼミナール4	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2440	人数制限科目定員30名
	立教ゼミナール発展編 4	2	春・秋	秋	△・2・③・④	CMP3400	・人数制限科目定員30名 ・○付きの数字は推奨年次を表す
Japanese Mind	2	春		△・2・3・4	CMP2431	・F科目 ・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい	

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	Health and Wellness	4	秋		△・2・3・4	CMP2401	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

5. 自然の理解

配当年次の△は以下に注意

- ・1年次生（4月入学者）：春学期科目は履修不可。
- ・1年次生（9月入学者）：秋学期科目は履修不可。

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	数学の世界	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	宇宙の科学	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	生命の科学	2	春・秋	春・秋	△・2・3・4	CMP2500	
	物質の科学	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	身近な物質の化学	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	化学と自然	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2500	
	化学と社会	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	行動の科学	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	生命の歩み	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	人類の進化	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2500	
	地球の理解	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2500	
	情報科学A	2	春・秋	春	△・2・3・4	CMP2500	
	情報科学B	2	春・秋	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	自然環境の保全	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	生物の多様性	2	春・秋		△・2・3・4	CMP2500	
	地球環境の未来	2	春	春	△・2・3・4	CMP2500	
	自然と人間の共生	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	脳と心	2	秋	春	△・2・3・4	CMP2500	
	オーダーメイド医療最前線	2	秋	秋	△・2・3・4	CMP2500	
	大学と科学技術	2	春	秋	△・2・3・4	CMP2500	
宇宙から地球のみらいを考える	2	秋他		△・2・3	CMP2560	・学外集中科目 ・他に聖路加国際大学学生が履修	
立教ゼミナール5	2	秋		△・2・3・4	CMP2540	・人数制限科目定員30名	
Science Studies	2	秋		△・2・3・4	CMP2531	・F科目 ・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい	
Nature of the Earth	4	春		△・2・3・4	CMP2501	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい	

6. 知識の現場

配当年次の△は以下に注意

- ・1年次生（4月入学者）：多彩な学び「6.知識の現場」のうち、春学期科目は履修不可。
 - ・1年次生（9月入学者）：多彩な学び「6.知識の現場」のうち、秋学期科目は履修不可。
- ※「グローバル・イシュー各論」、「グローバル共通教養総論」、「海外インターンシップ」は履修可。

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
「その他」登録	GL111 (Introduction to Leadership)	2	秋		△・2・3・4	CMP2651	・人数制限科目定員10名
	GL102 (他者のリーダーシップ開発)	2	秋		△・2・3・4	CMP2650	・人数制限科目定員36名
	GL201 (質問力を活用したリーダーシップ開発)	2	秋		△・2・3・4	CMP2650	・人数制限科目定員20名
	GL202 (Leadership through Inquiry)	2	春		△・2・3・4	CMP2651	・人数制限科目定員10名

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
「その他」登録	★GL301 (グローバル・リーダー海外実践)	2	春外・秋外		△・2・3・4	CMP2661	・学外集中科目 ・事前, 事後研修: 池袋キャンパス
	GL302 (Leadership in a changing world)	2	休講		△・2・3	CMP2661	・学外集中科目
抽選登録	グローバル・イシュー各論	2	春・秋		1・2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員30名
	グローバル共通教養総論	2	春・秋		1・2・3・4	CMP2601	・モチベーションパス科目 ・明治大学和泉キャンパス開講科目 ・人数制限科目定員20名
	ソリューション・アプローチA (国際人権系)	2	休講		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・明治大学駿河台キャンパス開講科目 ・人数制限科目定員25名
	ソリューション・アプローチB (開発経済系)	2	春		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員25名
	ソリューション・アプローチC (人道支援系)	2	秋		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員25名
	ソリューション・アプローチD (国際システム系)	2	休講		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・明治大学学外集中科目 ・人数制限科目定員5名
	ソリューション・アプローチE (模擬国連・総合演習系)	2	秋		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・明治大学中野キャンパス開講科目 ・人数制限科目定員20名
	ソリューション・アプローチF (強制移転・移住系)	2	春		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員10名
ソリューション・アプローチG (紛争と平和)	2	秋		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員10名	
「その他」登録	国際協力リテラシー	2	休講		1・2・3・4	CMP2651	・キャリア・パス科目 ・池袋キャンパス, 国際大学, 明治大学駿河台キャンパス開講 ・人数制限科目定員12名
	アクティブ・リサーチ1	4	秋他		2・3・4	CMP2661	・スリランカ ・キャリア・パス科目 ・池袋キャンパス, 明治大学駿河台キャンパス開講 ・人数制限科目定員6名
	アクティブ・リサーチ2	2	休講		2・3・4	CMP2661	・キャリア・パス科目 ・講義: 池袋キャンパス, 明治大学駿河台キャンパス ・研修: 学外 ・人数制限科目定員10名
	国連ユースボランティア	12	秋他		△・2・3・4	CMP2663	・事前, 事後研修: 池袋キャンパス, 学外 ・現地研修: 学外
	陸前高田プロジェクト	2	秋他		△・2・3・4	CMP2661	・事前, 事後研修: 池袋キャンパス ・現地研修: 学外 ・人数制限科目定員10名程度
	海外インターンシップ1	1	休講		1・2・3・4	CMP2663	・事前, 事後研修: 池袋キャンパス ・現地研修: 学外 ・詳細は「3. 履修上の注意」の項を参照のこと
	★海外インターンシップ2	2	春外 秋外		1・2・3・4 1・2・3	CMP2663	・期間外科目 ・事前, 事後研修: 池袋キャンパス ・現地研修: 学外 ・詳細は「3. 履修上の注意」の項を参照のこと
抽選登録	RSL-コミュニティ (埼玉)	2	秋		△・2・3・4	CMP2660	・RSL科目 ・人数制限科目定員15名 ・事前, 事後研修: 池袋キャンパス
	RSL-コミュニティ (池袋)	2	秋他		△・2・3・4	CMP2660	・RSL科目 ・人数制限科目定員20名 ・事前, 事後研修: 池袋キャンパス
	★RSL-ローカル (南魚沼)	2	秋他		△・2・3	CMP2660	・RSL科目 ・人数制限科目定員15名 ・事前, 事後研修: 池袋キャンパス
	★RSL-グローバル (フィリピン)	2	秋他		△・2・3	CMP2663	・RSL科目 ・人数制限科目定員15名 ・事前, 事後研修: 池袋キャンパス
	RSL-プロジェクト・プランニング	2	春他		△・2・3・4	CMP2660	・RSL科目 ・人数制限科目定員50名 ・事前, 事後研修: 池袋キャンパス

★4年次生は、秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。
 明治大学開講科目は、科目ごとに開講キャンパスが異なるので、履修登録の際は注意すること（駿河台・和泉・中野の3キャンパスで開講）。

スポーツ実習科目群

スポーツプログラム

登録方法	科目名	種目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
				池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	スポーツプログラム1 (レクリエーション系)	クライミング	1	春・秋		1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目24名
		はじめてのバレエ		春・秋	春	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目30名
		バドミントン		春・秋		1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目40名
	スポーツプログラム2 (トレーニング系)	トレーニング初級		春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		ソフトボール			春・秋	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目40名
	スポーツプログラム3 (球技系)	テニス			秋	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目40名
		バスケットボール		春・秋	秋	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目30名
		バレーボール		春・秋	秋	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		フラッグフットボール		秋	春	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		アルティメット			春	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目40名
		卓球		春・秋		1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
	スポーツプログラム4 (学外で集中して実施する科目)	クライミング		春他		1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目24名
				秋他		1・2・3		

★4年次生は、秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。

スポーツスタディ

登録方法	科目名	種目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
				池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	スポーツスタディ1 (レクリエーション系)	アダブテッドスポーツ	2	秋	春	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目24名
		レクリエーション系スポーツ		春	春・秋	1・2・3・4	CMP1220 CMP1221	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		太極拳		春・秋	春	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目30名
		はじめての柔道			春・秋	1・2・3・4	CMP1220 CMP1221	人数制限科目30名
	スポーツスタディ2 (トレーニング系)	ウォーター・エクササイズ		春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目20名
		セルフケア・エクササイズ		春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		ダイエットフィットネス		春・秋		1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		トレーニング		春・秋	春	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目30名
		ボディコンディショニング		春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		ボディシェイプ		春・秋		1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目30名
		東洋的フィットネス		春・秋		1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目30名
		はじめてのマラソン		春	春	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目30名
		スポーツスタディ3 (球技系)		ゴルフ		春・秋	1・2・3・4	CMP1220
	サッカー				秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目40名
	テニス			春・秋	春	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目 池袋キャンパス20名 新座キャンパス40名
	フットサル			春・秋	春	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
	卓球				春・秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目40名
	スポーツスタディ4 (学外で集中して実施する科目)	ゴルフ			春他	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目22名
		★スキー			秋他	1・2・3	CMP1220	人数制限科目22名
		ネイチャーキャンプ			春他	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目22名
		馬術			秋他	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目22名

★4年次生は、秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。

スポーツ実習科目に関する注意事項

- 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレティックセンター（池袋キャンパス）／体育館1階（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。
なお、第1回目の授業より、実習が始まるので、運動が出来る服装を準備し、授業に出席すること。
- 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内科目、屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレティックセンター入口（池袋キャンパス）／体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。
- 4月に行われる定期健康診断を必ず受診しておくこと。

言語系科目

2016年度以降 1 年次入学者に適用
(2018・2019年度 3 年次編入学者に適用)

●言語系科目について

- 1 言語系科目とは
- 2 必修科目に関する特別措置
- 3 履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置

●必修科目

- 1 英語
- 2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部，グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）
- 3 日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修以外の外国人留学生のみ）
- 4 指定年次・学期以後の単位修得方法（英語単位認定試験，英語R，英語ディスカッションの再履修）

●自由科目

- 1 自由科目 履修上の注意
- 2 自由科目 科目一覧表
- 3 グローバル教養副専攻 学部展開科目 科目一覧

1 言語系科目とは

言語系科目の特色

言語系科目では、主に少人数クラスでの聞く・話す・読む・書くという基本的技能の訓練を通じて当該言語による専門的または日常的なコミュニケーションを可能にし、異文化対応能力を獲得する。

グローバル化が進む現代の社会を生きるには、様々な文化的背景を持つ人々を他者として認め、互いに理解し合う寛容の態度と能力が欠かせない。それを養う基本は言語である。立教大学の全ての学生は、英語を含めて2つの言語を必修科目として履修する。2つの言語を学ぶ目的は、国際的なコミュニケーションが日常的に行われるようになった現在の世界で必要不可欠な言語である英語の力を磨くとともに、英語以外のもう1つの言語を学び、英語圏以外の国・地域の人々が築き上げてきた社会や文化、ものの考え方などに言語を通して触れ、世界が多文化であることの理解を深めることで、多様な視点を獲得するところにある。

全学共通科目言語系科目は、必修科目と自由科目に分かれる。

1年次では主として必修科目を学ぶ。必修科目を修得した学生には、多様な自由科目が用意されている。

英語の必修科目は、大多数の学生がすでに中学校・高等学校で学んできた知識と経験をもとに、基本的技能の運用能力を鍛える科目である。一方自由科目は、学習をさらに積み重ねることで、英語を通して多文化社会の現状を理解し、英語で議論し発信する能力の獲得をめざす科目である。

英語以外のもう1つの言語は、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）・日本語（原則、文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修以外の外国人留学生のみ）の中から、学生が自らの関心や将来の計画に応じて選択する。多くの学生にとってこれらの諸言語は大学入学後に初めて学習する言語であるため、必修科目は基礎作りからスタートする。一層の学習を望む学生のために、それぞれの諸言語に自由科目が用意されている。

グローバル教養副専攻「Language & Culture Course」は、英語およびそれ以外の言語にそれぞれ用意されている（英語には複数のコースがある）。言語と文化の学習をさらに深めたいと希望する学生は、多様な自由科目の中から指定科目を規定単位以上修得し、グローバル教養副専攻「Language & Culture Course」を修了することができる。

1. 必修科目

言語Aと言語B

1年次で履修する言語A「英語」と、言語B「ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）・日本語（原則、文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修以外の外国人留学生のみ）」の中から選択した1言語」の計2言語が、必修科目として履修しなければならない科目である（学部・学科・専修により選択できない言語がある場合や、特定の言語が指定されている場合がある）。言語Bについては入学手続き時に希望を提出済みであり、時間割計画シートにて通知されるので、それに従うこと。なお、時間割計画シートは、学生証等交付時に配付する。

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）については、すでに一定の学習歴がある者（既習者）に対して、本人の希望があれば、口頭試験および筆記試験をもって、必修科目の全ての単位を認定し、履修を免除することができる。

日本語については、入学前に日本語能力試験1級または日本語能力試験N1に合格し、かつ、プレイスメントテストの結果により大学で学ぶための日本語能力が十分だと認められた場合は、日本語必修科目の全ての単位を認定し、履修を免除することができる。（2019年度以降廃止。）

なお、学習歴把握のため、以下の(1)~(3)のいずれかに該当する者は、4月3日(水)17:00までに所属キャンパスの教務窓口まで申し出ること。

- (1) 入試科目を英語以外の外国語科目で受験した者。
- (2) 中学校・高等学校、あるいは海外などで、英語以外の外国語を主として学習してきた者。
- (3) 外国人留学生入学試験により入学した、英語を母語としない者で、かつ英語学習歴がない者。

2. 自由科目

自由科目の中には、①さらに高度な言語運用能力の育成を目的とする科目、②その言語を使って文化・言語・情報処理に関する、より専門的な知識の修得を目的とする科目、③第3・第4の言語を学ぶとする学生を対象とした入門的な科目がある(必修科目にはないが、ポルトガル語・日本手話も用意されている)。**1 自由科目 履修上の注意**に従い修得した単位は、各学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。また、ドイツ語、フランス語の自由科目の中には、その科目の単位を修得すると次学期以降、文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の専門教育科目に接続できるものもある。

① 英語

英語必修科目を履修したのち、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、言語自由科目が用意されている。必修科目を含め、4年間の継続学習が可能となるように、段階的なカリキュラムとなっている。

② 言語B

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語については、必修科目を修了したのち、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、言語自由科目が用意されている。

2 必修科目に関する特別措置

1. ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語(文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみの既習者)

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語(文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ)を必修科目として履修することになった者で、すでに一定の学習歴がある者は、口頭・筆記試験をもって、当該言語必修科目の単位を認定し(評価はSとする)、履修を免除する場合がある。希望者は下記申請期間中に申請の上、試験を受けること。

申請日 : 4月1日(月) 9:00~17:00

4月2日(火) 9:00~17:00

申請場所: 教務事務センター(池袋: タッカーホール1階/新座: 7号館1階)

提出書類: 入学前に当該言語の検定試験における一定の等級またはスコアを取得している場合(A)と、取得していない場合(B)で提出書類が異なる。下記を参照すること。

口頭・筆記試験日: 4月4日(木) 9:30~11:00または14:00~15:30(いずれかの回に出席すること)

結果発表: 4月6日(土) 10:00 所属キャンパスの教務窓口

A: 検定試験における一定の等級またはスコアを取得している場合

提出書類: ①学習歴記入用紙(申請窓口で配付)

②検定試験の等級またはスコア証明書(原本とコピー各1部)

各言語別の申請基準は下表の通りとする。

【言語別申請基準】

言語	申請基準
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 4級 以上 Goethe-Zertifikat A2 以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 3級 以上 DELF A2 以上 TCF 250点 以上
スペイン語	スペイン語技能検定試験 4級 以上 DELE A2 以上
中国語	中国語検定試験 4級 以上 漢語水平考試 (HSK) 4級、5級、6級 各180点 以上
朝鮮語	「ハングル」能力検定試験 4級 以上 韓国語能力試験 2級 以上
ロシア語	ロシア語能力検定試験4級 以上

※試験受験時期は、原則として2017年4月1日以降とする。ただし、2017年3月31日以前に表の等級またはスコアを取得している学生についても、その内容によっては、口頭・筆記試験の結果をもって当該科目の単位認定を行う場合がある。

※本学出願時に証明書原本を入学センターへ提出した者は、申請時に申し出ること。

B：所定の等級もしくはスコアを取得していない場合

提出書類：①学習歴記入用紙（申請窓口で配付）

口頭・筆記試験の結果により一定の学習歴があることを認められた場合は、指定された期日（8月23日（金）16:00）までに等級またはスコアを取得することを条件に、当該科目の単位認定を行うことがある。口頭・筆記試験時に、担当教員の指示に従うこと。

なお、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）学習経験者（初級修了程度）で、当該言語を入学時の言語選択の際、第1希望にしていたにもかかわらず、抽選に外れた者は、面接の上、言語の変更を認める場合がある。上記申請期間中に、申請窓口まで申し出ること。

2. 文学部への転部・転科（専修）者

文学部文学科ドイツ文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者および文学部文学科フランス文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者で専修指定の言語Bを4単位修得していない者については、当該言語の言語Bの不足単位数分の単位を認定し、履修を免除する。成績は認定とする。

3. 外国人留学生

外国人留学生（外国人留学生入試による入学者）は、原則として言語Aは英語、言語Bはドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）・日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修を除く）から1言語を選択（母語は不可）し、履修する。ただし、言語Bとしてドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）を選択し、その既習者（母語話者は不可）として必修科目に関する特別措置を希望する学生は、**2 必修科目に関する特別措置** 1項を参照すること。

また、言語Bとして日本語を選択する学生で、入学前に日本語能力試験1級または日本語能力試験N1に合格し、かつ、プレイスメントテストの結果により大学で学ぶための日本語能力が十分だと認められた場合は、日本語必修科目のすべての単位を認定し（評価はSとする）、履修を免除する。履修免除を希望する学生は、プレイスメントテスト当日に、日本語能力試験1級または日本語能力試験N1を認定する証明書（合格結果通知書、認定書など。コピー可）を持参すること。必修科目の履修免除者は、全学共通科目掲示板にて発表する。（2019年度以降廃止。）

3

履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置

1. 言語B

言語B必修科目履修免除（単位認定）者は、配当年次に達していない場合でも、1年次から当該言語の自由科目の履修を認める。また、第3の言語として他の言語Bの1言語について1年次で「基礎～語入門」「基礎～語初級」を履修することを認める。

2. 自由科目の履修登録受付

上記1. で、配当年次に達してなくても自由科目の履修が認められた場合は、春学期は、4月4日（木）に実施する口頭・筆記試験において、秋学期は、9月5日（木）～9月9日（月）9：00～16：00に登録申請を教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）で行うこと。

3. 文学部への転部・転科（専修）者

文学部文学科ドイツ文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者および文学部文学科フランス文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した（以下転部等とする）者で、言語自由科目の履修を希望する場合は、以下の通りとする。

<転部等の前に選択していた言語B必修科目単位を全て修得済の場合>

転部等の前に選択していた言語Bの自由科目とドイツ語またはフランス語の自由科目の履修を認める。例えば、転部等の前に言語Bとしてドイツ語またはフランス語以外の言語を選択・履修しており、必修科目単位を全て修得してドイツ文学専修またはフランス文学専修に転部等した場合、転部前に修得した言語とドイツ語またはフランス語の2言語の自由科目の履修を認める。

<転部等の前に選択していた言語B必修科目単位に未修得がある場合>

ドイツ語またはフランス語の自由科目の履修を認める。

転部等の前に選択していた言語Bと同じ言語の自由科目の履修を希望する場合は、各学期の抽選登録期間開始前に所属キャンパスの教務窓口で相談すること。

1 英語

1. カリキュラム
概要

現代社会においては、変化の激しい世界の状況を正しく認識していく力と、各自が生まれ育った文化や社会環境を正確に受け止め、それらを基にして自らの意見を積極的に発信していく能力が必要とされる。さらに、さまざまな分野でグローバル化しているなか、世界に広がる多様な文化を偏見のない視線で分析して受容する力を培うことが要求されている。必修英語では、このようなグローバル社会に対応した総合的かつバランスのとれたコミュニケーション能力を育成することを目的としている。

この目的を実現するために、グローバル社会で必要とされる自らの意見を英語で発信していく能力（話す力、書く力）を積極的に伸ばしつつ、発信する上で必要不可欠な情報収集を英語で的確に行えるよう受信力（読む力、聴く力）の強化を行っていく。発信型授業の一つは、意見交換のスキルの向上を目指す1クラス8名程度の「英語ディスカッション」である。授業は基本的表現の練習から始まり、その日の授業の最後には扱ったトピックについて自分の意見を英語で表現できるように訓練する。もう一つは「英語プレゼンテーション」で、構成法をはじめとしたプレゼンテーション・スキルの習得を集中的に行い、社会問題や異文化理解等の様々なトピックについて自分の意見を口頭で発表する力をつけていく。受信力と発信力を有機的に組み合わせる「英語リーディング&ライティング」では、良質な文章を的確に読む訓練をしながら、アカデミックな作文のルールに従って自分の考えを論理的にまとめる発信力を培っていく。そして受信力の向上に特化した「英語eラーニング」で、PCを用い各自の関心ならびにペースに合わせた学習で効率的に訓練していく。

また、一定以上の英語力をもつ学生には上級クラスが用意されている。上級クラスの「英語ディスカッション」では、討論のスキルを押さえながらより抽象度の高いトピックについて効率的に話し合う力を付ける。更に、英語でアカデミックな論文が書けるよう訓練していく「上級英語1（リーディング&ライティング）」、そして更にアカデミックなテーマで課題に取り組む「上級英語2（プロジェクト英語）」を通して英語で学問領域を学ぶ基礎を築く。

このように、必修英語のクラスをとおして、英語で社会や異文化に関する情報を得、討論し、考え、発信する方法を学びながらオールラウンドな英語運用能力を身につけると同時に、社会情報や異文化を批判的かつ多角的に分析し、理解する能力を身につけることが期待される。

プレイスメントテストの結果により、1・2・3・4の4つのレベルに分かれ、レベル1が上級クラスにあたる。全ての授業は原則として英語で行う。

各科目内容の詳細は『シラバス』を参照すること。

クラスの編成

【英語ディスカッション（英語D1・英語D2）】（春学期・秋学期）

極少人数の学習環境で発言する機会を増やし、スピーキング力を徹底して強化することを目的とするクラス。特に、ディスカッションに必要な基本的表現を習得し、ディスカッションスキルの向上を図る。各授業の後半では、その場で学んだ表現を利用し、ディスカッションの内容を発展させて、自分の考えを適切な英語で述べられるようにする。

②【英語リーディング&ライティング（英語R&W1(R), 英語R&W2(W)）】（春学期・秋学期）

リーディングとライティングとを関連させながら両方の強化を目的とした1クラス20名程度のクラス。春学期は効率的に読むための読解スキルのトレーニングを行い、要約を書く活動も組み合わせることでの確に読む習慣をつけていく。良質な文章を多く読むことでライティング力の基礎づくりも目指す。秋学期はライティングに焦点をあて、書くために読むという位置づけで読解活動も入れながら、基礎的な英語表現からパラグラフの書き方、簡単なエッセイ、そしてリサーチペーパーへと、学生の英語能力に応じた目標の達成を試みる。

③【英語プレゼンテーション（英語P）（春学期または秋学期）】

プレゼンテーション活動を中心とした1クラス20名程度のクラス。語彙力およびリーディング力、リスニング力、スピーキング力の総合的な英語運用能力の育成を目的とする。プレゼンテーションの基本的なスキルの習得とともに、書き手の論理や意図を正確に読みとる訓練をし、読んだ内容についてプレゼンテーションができるようにする。

④【英語eラーニング（英語e）】（春学期または秋学期）

PCを活用した能力別個別英語学習プログラムによるリーディング力およびリスニング力を強化するクラス。自分のペースで学習を進め、弱点を補強し、得意とする部分を伸ばしていく。一人の教員（補助付き）の指導のもと、160名程度の学生が一斉に学習する。毎回、Evaluation Sheetに自分の学習進捗度を記録する。学期末までには、自主的および継続的な外国語学習の習慣を身につける。

⑤【上級英語1（リーディング&ライティング）（上級英1）】（春学期）

週2回の集中クラスで、よりアカデミックな内容を扱いながら、リーディング力とライティング力の両者を伸ばし、本格的なリサーチペーパーの書き方の基礎を学ぶ。各自テーマを設定し、情報収集をし、論文を書く訓練を行う。

⑥【上級英語2（プロジェクト英語）（上級英2）】（秋学期）

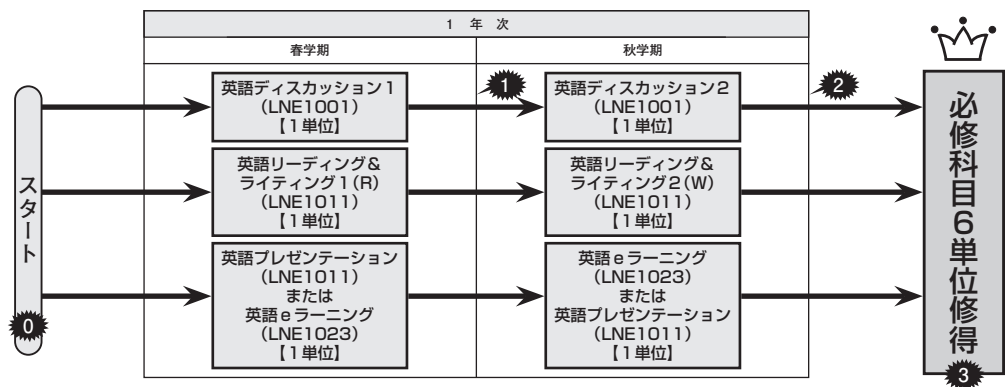
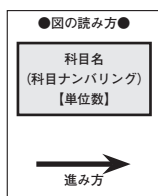
週2回の集中クラスで、グループで設定したアカデミックな課題の達成に向けて情報収集、読解、データ収集やグループディスカッションを進め、グループメンバーと協力、協調しながら完成させ、プレゼンテーションを行う。また、春学期に習得したライティングスキルを応用して各個人がリサーチペーパーを書く。

2. 履修チャート

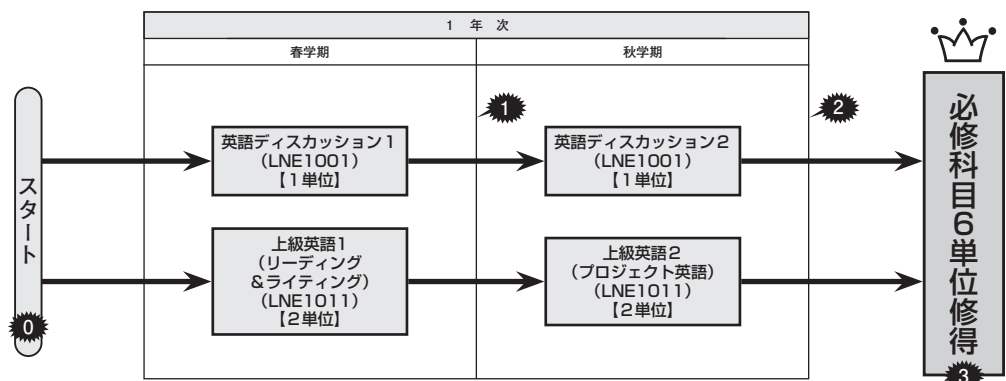
A1

各学期に履修する科目、単位数は以下の通り。

通常クラス



上級クラス



0 <履修クラスの発表について>

- 4月1日（月）に行うプレイメントテストの結果によって履修するクラスが決定する。クラスは、4月7日（日）11：00に履修登録状況画面にて発表する。
- クラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期の履修について>

- 1年次秋学期開始時には、英語ディスカッションのクラスの再編成を行う。履修するクラスは、9月5日（木）11：00に履修登録状況画面にて発表する。なお、英語ディスカッションについてはクラスの再編成によって履修する曜日・時限も変わる場合があるので注意すること（履修登録状況画面参照）。
- 11月30日（土）に1年次生全員を対象とする英語力伸長度測定テスト（TOEIC[®] L&R IP）を実施する。1年次生は必ず受験すること。

<1年次春学期科目が不合格になったら>

- 1年次春学期に履修した科目が不合格であっても、1年次秋学期の科目を履修すること。

2 <1年次科目が不合格になったら>

- 1年次に履修した科目が不合格であった場合（英語ディスカッションを除く）は、2年次春学期以降、英語単位認定試験を受験、もしくは英語再履修クラス（「以下、英語R」）を履修すること。英語単位認定試験を受験した、または、「英語R」を履修したにも関わらず、単位を修得できなかった場合は、次学期以降に行われる英語単位認定試験を再度受験または「英語R」を履修し、不足単位がなくなるまでこれを繰り返す。英語ディスカッションが不合格となった場合は、2年次以降、英語ディスカッション1については夏期（8月実施）、英語ディスカッション2については冬期（2月実施）に集中科目として再履修すること。



2020年度以降、英語ディスカッションの再履修は廃止する。必修科目の不足単位は全て英語単位認定試験、もしくは「英語R」で修得すること。

3 <必修科目を修得したら>

- 必修の6単位を修得（英語単位認定試験および「英語R」で修得した場合も含む）後は、自由科目を履修し、さらに高度な運用能力を身につけることができる。

英語力伸長度
測定テストの受験

2019年度に在学する学生は以下の日程で英語力伸長度測定テスト（TOEIC[®] L&R IP）を受験することができる。1年次生は原則として全員受験すること。

受験の結果、規定以上のスコアを獲得できた際には、基準点が定められている言語自由科目の履修資格判定の申請に利用することができる。詳細は別途全学共通科目掲示板で発表する。

1年次生

自宅宛に発送（10月下旬）される受験票を確認のうえ、受験すること。

受験会場等の詳細は、全学共通科目のホームページ、全学共通科目掲示板にて確認すること。

【日程】秋学期：11月30日（土）

※2年次生以上の日程は、自由科目の項を参照のこと。

1. カリキュラム

必修科目として履修するドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語で開講される科目は履修段階に応じておおむね以下のようになっている。各言語によって多少の違いがあるので詳細は『シラバス』を参照すること。

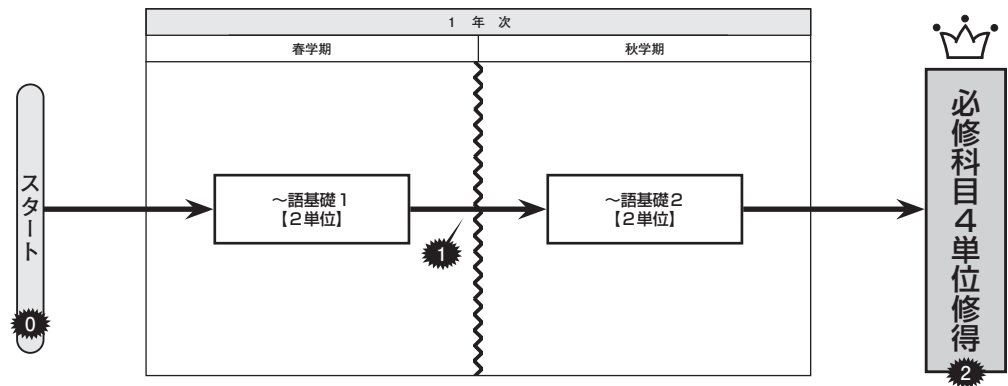
登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング
自動登録	～語基礎1	2	春	1	ドイツ語：LNG1010 フランス語：LNF1010 スペイン語：LNS1010
	～語基礎2	2	秋	1	中国語：LNC1010 朝鮮語：LNK1010 ロシア語：LNR1010

2. 履修チャート

B1

各学期に履修する科目，単位数は以下の通り。科目名で「～語」と記載されているところは，各自の履修言語に従い，ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語と読み替えること。

●図の読み方●
科目名
【単位数】
〰️関門あり
(合格しないと進めない)



不合格になった場合は、「言語B-不合格になったら」を参照のこと。

0

<言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>

- 履修する言語およびクラスは，学生証等交付の際に個別に配付される『時間割計画シート』で確認すること。
- 言語およびクラスを変更することはできない。

1

<1年次秋学期のクラスについて>

- 「～語基礎2」は「～語基礎1」に合格しないと履修できない。
「～語基礎1」の合否については，9月5日（木）に成績参照システム画面で確認すること。
- 「～語基礎1」合格者は，春学期と同じクラス番号のクラスで「～語基礎2」を履修する。

2

<自由科目について>

- 必修科目を履修しながら，または，必修科目の単位修得後，自由科目を履修することができる。必修科目の単位修得後，さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために，言語自由科目が用意されている。

3 日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修以外の外国人留学生のみ^{*}）

※グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生のうち、申請により認められた場合は日本語の履修を許可する。
必修科目として履修する日本語で開講される科目は履修段階に応じておおむね以下のようにになっている。詳細は『シラバス』を参照すること。

1. カリキュラム

登録方法	科目名	科目名（英文）	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング
自動登録	大学生の日本語A	Academic Japanese A	1	春	1	LNJ1010 ^{*1}
	大学生の日本語B	Academic Japanese B	1	春	1	
	大学生の日本語C	Academic Japanese C	1	秋	1	
	大学生の日本語D	Academic Japanese D	1	秋	1	

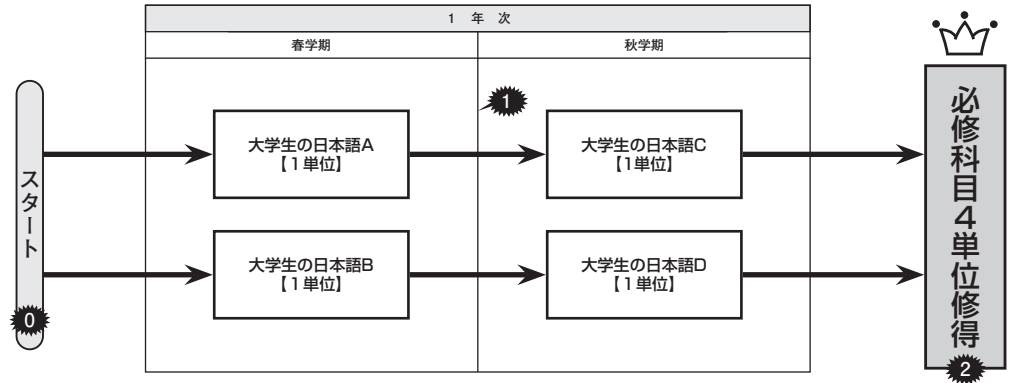
*1 グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生の「大学生の日本語」のナンバリングはLNJ1013とする。

2. 履修チャート

J1

各学期に履修する科目、内容、単位は以下の通り。

● 図の読み方 ●
科目名
【単位数】
関門なし
(合格しなくても進める)



0 <言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>

- 3月28日（木）に行う日本語プレイスメントテストの結果によって履修するクラスが決定する。クラスは、4月7日（日）11：00に履修登録状況画面にて発表する。
- 言語およびクラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期の履修について>

- 1年次秋学期開始時は、日本語プレイスメントテストの結果に従って指定されたクラスで「大学生の日本語C」および「大学生の日本語D」を履修すること。自動登録されたクラスは、履修登録状況画面にて確認すること。

<1年次春学期科目が不合格になったら>

- 1年次春学期に履修した科目が不合格であっても、1年次秋学期の科目を指定されたクラスで履修すること。

2 <自由科目について>

- 必修科目の単位修得後、自由科目を履修することができる。

※秋入学の場合は、1年次1学期目に秋学期の科目を履修し、1年次2学期目に春学期の科目を履修すること。



不合格になった場合は、「言語B-不合格になったら」を参照のこと。

英語

1. 英語必修科目(英語ディスカッションを除く^{*})が不合格となったら

以下のいずれかにより, 2年次以降に未修得となった単位を修得すること。

①英語単位認定試験を受験し, 単位を修得する。→ **1 英語単位認定試験** 参照

②英語再履修クラス「英語R」を受講し, 単位を修得する。→ **2. 英語再履修クラス「英語R」の**

履修 参照

英語必修科目不合格者の単位修得にあたっては, 英語単位認定試験と英語再履修者クラス「英語R」とでは, 受験(もしくは履修)できる回数が異なるため, 修得できる単位数が異なることに注意すること。

2. 英語ディスカッションが不合格となったら

2年次以降, 英語ディスカッション1については夏期(8月実施), 英語ディスカッション2については冬期(2月実施)に集中科目として再履修する。→ **3 英語ディスカッションの再履修** 参照



2020年度以降, 英語ディスカッションの再履修は廃止する。必修科目の不足単位は全て英語単位認定試験, もしくは「英語R」で修得すること。

1 英語単位認定試験

英語単位認定試験は, 英語必修科目(英語ディスカッションを除く^{*})の不足単位の修得を目的とした試験であり, 全学共通カリキュラム運営センターが定めた期日に行う試験である。

受験者は, 英語単位認定試験説明会に参加すること。詳細は全学共通科目掲示板で確認すること。

なお, 休学等による未履修の必修科目がある場合, 試験に合格してもその科目の単位に充当することはできない。

1. 対象者

以下のすべてを満たす者。

- (1) 英語必修科目(英語ディスカッションを除く^{*})の修得単位が4単位に満たない者。
- (2) 2年次生以上の者。
- (3) Rikkyo English Online (REO) の指定ユニット(課題I, 課題II)を期日までに終了した者。
- (4) 当該学期の「英語R」を履修登録していない者。

※2020年度以降, 英語ディスカッションの未修得単位も英語単位認定試験の対象とする。

2. 実施概要およびスケジュール

英語単位認定試験は, 年2回, 6月と11月に実施する。各回につき2種類の試験を実施し, それぞれの試験につき異なる課題が課される。

行 事	6月実施	11月実施
説明会	3月22日(金) 池袋 10:00~11:00 新座 8202教室 N852教室	7月10日(水) 池袋・新座 10:00~11:00 教室は全学共通科目掲示板にて発表
試験時間・試験場発表	4月3日(水) 全学共通科目掲示板	9月12日(木) 全学共通科目掲示板
事前学習期間 *学習期間は所属学部により異なる。	(課題I) 4月6日(土) 9:00~5月1日(水) 9:00 文・理・社会・異文化・GLAP 〃 12:00 〃 12:00 経済・法・経営 〃 15:00 〃 15:00 観光・コミ福・現代心理 (課題II) 5月4日(土) 9:00~5月29日(水) 9:00 文・理・社会・異文化・GLAP 〃 12:00 〃 12:00 経済・法・経営 〃 15:00 〃 15:00 観光・コミ福・現代心理	(課題I) 9月14日(土) 9:00~10月6日(日) 9:00 文・理・社会・異文化・GLAP 〃 12:00 〃 12:00 経済・法・経営 〃 15:00 〃 15:00 観光・コミ福・現代心理 (課題II) 10月8日(火) 9:00~10月30日(水) 9:00 文・理・社会・異文化・GLAP 〃 12:00 〃 12:00 経済・法・経営 〃 15:00 〃 15:00 観光・コミ福・現代心理
受験対象者発表	6月4日(火) 全学共通科目掲示板	11月5日(火) 全学共通科目掲示板
試験日	6月8日(土) 英語単位認定試験A 英語単位認定試験B	11月9日(土) 英語単位認定試験C 英語単位認定試験D
合格者発表	7月1日(月) 全学共通科目掲示板	12月2日(月) 全学共通科目掲示板
成績証明書への記載	[2019年度在籍者] 9月5日(木) ~	[2020年度在籍者] 4月1日(水) ~ [卒業合格発表対象者] 卒業式終了後~

注1) 履修登録は不要であり、各学部の定める履修登録上限単位数には含まれない。

注2) 英語単位認定試験の結果について内容的な問い合わせがある場合は、合格発表後1週間を期日として、教務事務センター(池袋: タッカーホール1階/新座: 7号館1階)に申し出ること。

3. 修得できる単位数および成績

1つの試験の合格につき1単位を修得できる。科目対応はしていない。1回の英語単位認定試験では、不足単位数にかかわらず上表の通り2試験(各1単位、計2単位)まで受験できる。ただし、試験に合格した場合に認定される単位数は不足単位数分のみとする。合格した場合に成績参照画面ならびに証明書に記載される科目名は、「英語単位認定試験~(1単位)」となる(~にはA, B, C, Dのうち合格した試験が記される)。評価は「C」とする。

4. 英語単位認定試験の受験資格

Rikkyo English Online (REO) にアップロードされている教材のうち、指定のユニット(課題I, 課題II)を期日までに終了させることが、英語単位認定試験の受験資格となっているので注意すること。各学期の各試験につき、2回的事前学習期間を設ける。所定の期日までに全てのユニットを終えることが受験資格を得る要件となる。指定ユニットおよびそれぞれの学習完了指定期日等については、各学期の始めに、REOの画面上で確認すること。

5. 受験手続

受験希望者は、試験当日、学生証を持って試験場に行くこと。
試験時間、試験場は全学共通科目掲示板に掲示するので、事前に確認しておくこと。

6. 試験問題形式

リーディングとリスニングの総合問題(文法・語彙含む。マークシート形式)。
持ち込みは不可とする。
問題はRikkyo English Online (REO) にアップロードされている「スーパー英語」の教材のうち、事前学習において指定されたユニットをベースに出題される。(詳細は4. 英語単位認定試験の受験資格を参照すること。)

7. 受験上の注意

- (1) 試験当日は、学生証・HBの鉛筆・消しゴム・ペンまたはボールペンを必ず持参すること。
- (2) 遅刻者の入室は許可しない。ただし、試験開始後15分以内の遅刻者は、監督者の許可を得て入室できるものとする。なお、交通機関の遅延による遅刻の場合は、試験開始後30分まで、入室を許可することもある(交通機関発行の遅延証明書の提出が必要)。
- (3) 試験当日、学生証を忘れた学生には臨時学生証(500円)を発行するので、所属キャンパスの教務窓口へ時間に余裕を持って申し出ること。

8. 追試験

英語単位認定試験は、追試験を行わない。

9. 不正行為

- (1) 試験は学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。
- (2) 受験中不正行為を行った者は、直ちに退場させられる。
- (3) 英語単位認定試験を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績は全て不合格となる。
- (4) 不正行為を行った者の当該試験期間の成績は、筆記試験以外の方法のみによって成績評価をする科目（レポート・レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目）について有効とする。ただし、処分決定後は、不正行為以後の全ての受験資格を喪失する。
- (5) 春学期末または秋学期末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。
- (6) 不正行為を行った者の処分は、当該学生の所属学部教授会が決定する。
- (7) 不正行為に対する処分は、訓告、停学、退学の3種類とする。
不正行為の処分は、原則として停学とする。

2 英語再履修クラス「英語R」の履修

英語必修科目（英語ディスカッションを除く^{*}）について、再履修クラス「英語R」を履修することができる。このクラスでは、基礎的な英語力を身につけることを目的とする。このため、1回のみ履修を許可することとし、このクラスを履修したことで修得できる単位は1単位までとする。また、「英語R」を履修した場合、当該学期の英語単位認定試験を受験することはできないため、間違えないよう手続きをすること。

1. 対象者

以下のすべてを満たす者。

- (1) 英語必修科目（英語ディスカッションを除く^{*}）の修得単位が4単位に満たない者。
 - (2) 2年次生以上の者。
 - (3) 春学期は3月、秋学期は9月に開催予定の説明会に出席した者。
- *2020年度以降、英語ディスカッションの未修得単位も「英語R」の対象とする。

2. 実施概要およびスケジュール

行事	春学期	秋学期
説明会	3月22日（金） 池袋 10:00～11:00 新座 8202 N852	7月10日（水） 池袋・新座 10:00～11:00 教室は全学共通科目掲示板にて発表
履修登録申請	3月22日（金）～3月25日（月）16:30	9月5日（木）～9月9日（月）16:00
	教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）	
履修許可者発表	3月30日（土）	9月17日（火）
	履修登録状況画面で発表	

3. 履修に関する注意事項

- (1) 履修登録および履修許可
履修希望者は、説明会に必ず出席し、説明会で配付する「履修希望届」に必要事項を記入の上、期日までに提出すること。締切日時を過ぎてからの提出は、一切受け付けない。
- (2) 成績評価方法・基準
『シラバス』を参照のこと。
- (3) 修得できる単位数および評価
「英語R」を履修した場合は、当該学期の英語単位認定試験を受験することはできない。「英語R」は1クラスしか履修できないため、履修した場合の当該学期の英語（ディスカッション科目を除く

く*) の修得可能な単位は 1 単位 となる。合格した場合に成績参照画面ならびに証明書に記載される科目名は、「英語R (1 単位)」となる。評価は「C」とする。不足単位が2 単位以上ある場合は、次学期以降に **1 英語単位認定試験** を受験し、不足単位を修得すること。

- (4) 重複履修
すでに「英語R」にて単位修得している場合は、「英語R」を再度履修することはできない。
- (5) 履修登録上限単位
「英語R」は、「その他登録」となり、履修登録上限単位数に含まれる。
- (6) 履修取消およびクラス変更
いかなる理由があっても「英語R」の履修取消、クラス変更はできない。

3 英語ディスカッションの再履修

2 年次以降、春学期「英語ディスカッション1」不合格者は夏期（8 月実施）、秋学期「英語ディスカッション2」不合格者は冬期（2 月実施）に、集中科目として再履修する。再度「英語ディスカッション1 / 2」が不合格となった場合も、同じように履修する。授業の日程は下記の通り。

「英語ディスカッション1」春学期：2019年8月1日（木）～8月7日（水）（土日は除く）

「英語ディスカッション2」秋学期：2020年2月17日（月）～2月21日（金）

または2020年2月25日（火）～2月29日（土）

いずれの日も1 時限8：50～10：30、2 時限10：45～12：25、3 時限13：40～15：20で行う。通常の時間割とは異なるので注意すること。

クラスは指定され、自動登録される。各学期の授業開始前に履修登録状況画面を確認すること。
※英語ディスカッション2 を再履修する4 年次生の成績発表は追試験結果発表と同じ2020年3月13日（金）となる。



2020年度以降、英語ディスカッションの再履修は廃止する。必修科目の不足単位は全て英語単位認定試験、もしくは「英語R」で修得すること。

言語B

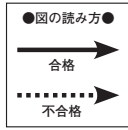
ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語については、不合格になった場合、不合格となった科目の指定されたクラスで再履修することにより、未修得となった単位を修得する。以下に注意すること。

- 春学期開講科目、秋学期開講科目とも、それぞれの授業開始前に各自の履修するクラス・担当者を履修登録状況画面で発表する。春・秋学期でクラス・担当者が変わる場合があるので充分注意すること。
- 秋学期開講科目について、履修するクラスは秋学期授業開始前に発表されるが、所属学部別に指定される曜日・時限が「シラバス・時間割検索システム」に記載されているので、1 年間の履修計画を立てる際に、確認しておくこと。それぞれの学期に再履修可能な科目は、下表の通り。履修方法の詳細については、再履修チャート記号を参照すること。

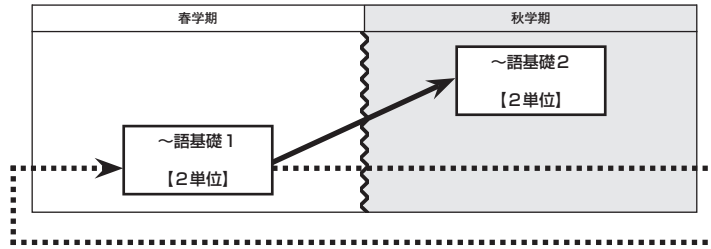
年次・学期 科目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		不合格になったら (再履修チャート記号)
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
～語基礎1	◎	×	●	×	●	×	●	×	X1 (日本語はX3)
「～語基礎1」に合格しないと「～語基礎2」を履修することはできない。 ただし、日本語については「大学生の日本語A」「大学生の日本語B」の合格・不合格にかかわらず「大学生の日本語C」「大学生の日本語D」を履修することができる。									
～語基礎2	×	◎	×	●	×	●	×	●	X2 (日本語はX3)

- ◎……配当年次・学期
●……再履修クラスが指定され、自動登録される
×……当該学期には開講されていないため履修不可

1. 「～語基礎1」
が不合格にな
ったら
(日本語を除く)



X1

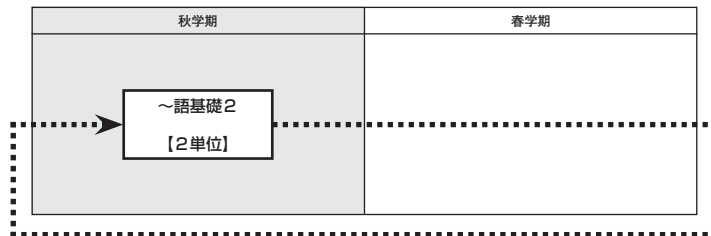


- 「～語基礎1」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「～語基礎1」を再履修する。再度「～語基礎1」が不合格となった場合も、同じように再履修する。合格するまで、秋学期に開講される「～語基礎2」を履修することはできない。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

2. 「～語基礎2」
が不合格にな
ったら
(日本語を除く)



X2

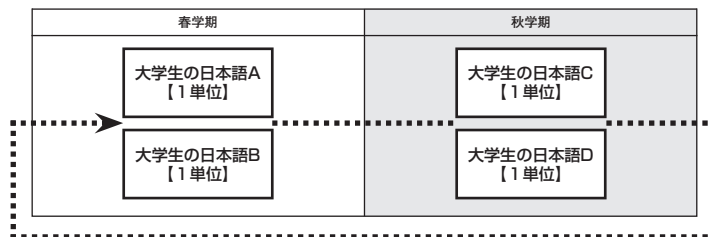


- 「～語基礎2」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「～語基礎2」を再履修する。再度「～語基礎2」が不合格となった場合も、同じように再履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

3. 「大学生の日本語A」
「大学生の日本語B」
「大学生の日本語C」
「大学生の日本語D」
が不合格になったら



X3



- 「大学生の日本語A」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「大学生の日本語A」を再履修する。「大学生の日本語B」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「大学生の日本語B」を再履修する。再度「大学生の日本語A」もしくは「大学生の日本語B」が不合格となった場合も、同じように再履修する。合格・不合格に関わらず、秋学期に開講される「大学生の日本語C」「大学生の日本語D」を履修できる。
- 「大学生の日本語C」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「大学生の日本語C」を再履修する。「大学生の日本語D」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「大学生の日本語D」を再履修する。再度「大学生の日本語C」もしくは「大学生の日本語D」が不合格となった場合も、同じように再履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

1 自由科目 履修上の注意

1. 自由科目の履修について 自由科目には、履修資格が定められている科目や履修者決定のための選抜を行う科目もあるので、「科目一覧表」をよく読み履修計画を立てること。
2. 同一科目の重複履修について 同一科目は、1学期に1つしか履修できない。ただし、学期を変えれば2度以上履修することができるが、その場合には最初に単位を修得した1科目のみが所属学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。
- 同一科目とは、科目の名称（番号および括弧内の名称を含む）、単位数が同一のものである。したがって、担当者が同じでも科目の名称が一部でも異なる場合には別科目となる。逆に担当者や授業の内容が異なっても、科目の名称が同じであれば、同一科目である。

(例) 「English through Movies A」(担当教員A)と「English through Movies B」(担当教員A)は別科目である。

「TOEFL 2 (reading)」(担当教員A)と「TOEFL 2 (listening)」(担当教員A)は別科目である。

「Current English 1 (reading)」(担当教員A)と「Current English 1 (reading)」(担当教員B)は同一科目である。
3. 自由科目の修得単位の扱いについて
- (1) 言語系科目の自由科目として修得した単位は、言語Aあるいは言語Bの必修科目としては認定されない。
- (2) 重複履修等の規定に従い修得した単位は、所属学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。
- (3) 留学認定科目は以下のとおりとし、自由科目に算入する。
- 英語
- ・留学認定英自N●＝インディペンデント・モジュール
 - ・留学認定英自A●＝アドバンスト・モジュール
 - ・留学認定英自H●＝オナーズ・モジュール
- (●は単位数)
- ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語
- ・留学認定～自K●＝基礎科目群
 - ・留学認定～自C●＝コア科目群
- (～は言語名, ●は単位数)
4. グローバル教養副専攻について 各コース・モデルで指定された言語教育科目を履修し、規定の単位数以上を修得すると、本人の申請に基づき、グローバル教養副専攻の修了が認定される。詳細は「Ⅸグローバル教養副専攻」の項を参照のこと。
5. 自由科目(英語)の履修について 自由科目(英語)は必修科目単位修得者のみが履修できる(英語海外文化研修, 短期英語研修プログラムを除く)。
- 以下の日程で説明会を実施するので、履修を考えている者は参加すること。
- 3月22日(金) 13:00～13:40 (池袋: 8202教室 新座: N852教室)
- 3月26日(火) 13:00～13:40 (池袋: 7102教室 新座: N852教室)

6. 自由科目
(ドイツ語, フランス語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語)の履修について

自由科目(ドイツ語, フランス語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語)は, 原則その言語の必修科目単位修得者のみが履修できる(ただし, 必修科目に関する特別措置対象は除く)。

7. 英語力伸長度測定テストの受験

2019年度に在学する学生は以下の日程で英語力伸長度測定テスト(TOEIC® L&R IP)を受験することができる。受験の結果, 規定以上のスコアを獲得できた際には, 基準点が定められている言語自由科目の履修資格判定の申請に利用することができる。詳細は別途全学共通科目掲示板で発表する。

2年次生以上

受験にあたっては事前に申込が必要となるため, 自宅宛に発送(4月度は2月中旬, 12月度は10月下旬)される受験案内はがきを確認すること。受験会場等の詳細は, 全学共通科目ホームページ, 全学共通科目掲示板にて確認すること。

【日程】春学期: 4月13日(土)

秋学期: 12月7日(土)

※1年次生の日程は, 必修科目の項を参照のこと。

言語自由科目(英語)

*科目名の後にある()内数字は単位数

ステージ	ステージ1		ステージ2	ステージ3	ステージ4
プログラム	必修科目		自由科目		
履修年次	1年次春学期	1年次秋学期	2年次~4年次		
コース・科目名	英語ディスカッション1(1) 英語R&W1(1) 英語プレゼンテーションまたは英語ラーニング(1) または上級英語1(2)	英語ディスカッション2(1) 英語R&W2(1) 英語プレゼンテーションまたは英語ラーニング(1) または上級英語2(2)	基準点/TOEFL® iBT60点・TOEFL® ITP (Level1)500点・TOEIC®(またはTOEIC® IP)570点・GTEC250点 IELTS5.5 インテンシブ・モジュール インディペンデント・モジュール	基準点/TOEFL® iBT76点・TOEFL® ITP (Level1)540点・TOEIC®(またはTOEIC® IP)700点・GTEC300点 IELTS6.0 アドバンスト・モジュール	基準点/TOEFL® iBT87点・TOEFL® ITP (Level1)570点・TOEIC®(またはTOEIC® IP)785点・GTEC325点・IELTS6.5 オナーズ・モジュール

()内の数字は単位数 ※必修科目単位修得者のみ自由科目の履修を認める。
 ※各モジュールの科目を履修する場合, 上表に提示された基準点を取得していることを目安とし, 履修登録前に履修資格判定のための申請手続きなどが必要となる。
 ※TOEIC® SW, TOEIC® SW IPは対象としない。GTECはListeningとReadingの合計点のみを対象とする。IELTSはアカデミック・モジュールのみを対象とする。

自由科目(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)

*科目名の後にある()内数字は単位数

スキル科目	言語B必修科目		自由科目			
	1年次春学期	1年次秋学期	基礎科目		コア科目(基礎科目4単位修得後に履修)	
			(2年次~)春学期	(2年次~)秋学期	(3年次~)春学期	(3年次~)秋学期
~語基礎1(2)	~語基礎2(2)	~語中級1(2)	~語中級2(2)	上級~語コミュニケーション1(2) 上級~語ライティング1(2) 上級~語リスニング・リーディング1(2) 上級~語演習1(2)	上級~語コミュニケーション2(2) 上級~語ライティング2(2) 上級~語リスニング・リーディング2(2) 上級~語演習2(2)	
		~語スタンダード1(1)	~語スタンダード3(1)			
		~語スタンダード2(1)	~語スタンダード4(1)			
~語海外言語文化研修(中級)(2)夏期(集中) 中国語海外言語文化研修春(中級)(2)冬期(集中)			~語海外言語文化研修(上級)(2)夏期(集中) 中国語海外言語文化研修春(上級)(2)冬期(集中)			

※~語は, ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語とそれぞれ読み替える。
 ※原則として, 必修科目修了後に自由科目履修が認められる(「基礎~語入門」「基礎~語初級」は同じ言語の自由科目を履修するための必修科目と同等に扱う)。また, 原則として基礎科目修了後にコア科目に進む(先修制)が, 所定の要件を満たしていればスキップ制度を利用できる。

*1・2年次春学期に基礎科目4単位を修得し終えた場合の措置

春学期に基礎科目を4単位修得し, 秋学期からコア科目の履修を希望する1・2年次生は, 秋学期履修登録時に事前申請を行うことで履修を認める場合がある。希望者は9月5日(木)~9日(月)に申請書と成績参照画面をプリントアウトしたものを提出すること。

なお, 申請書は教務事務センター(池袋: タッカーホール1階/新座: 7号館1階)で配付する。

自由科目履修関連スケジュール等

①2016年度以降 1年次入学者

英語	申請内容	履修資格判定申請、スキップ制度適用申請(インテンシブ・モジュール,アドバンスト・モジュール,オナーズ・モジュール)
	必要手続	英語自由科目専用Web(https://emp.rikkyo.ac.jp)にて履修資格判定申請,スキップ制度適用申請の手続を行うこと。
	申請受付期間	【英語自由科目専用Web】 <春学期>3月19日(火)10:00~3月28日(木)23:59,<秋学期>9月5日(木)10:00~9月8日(日)23:59
	結果発表・日時	<春学期>3月30日(土)16:00,<秋学期>9月10日(火)16:00 英語自由科目専用Web画面
	備考	履修を希望する者は,履修登録申請も必ず行うこと。
	申請内容	履修登録申請(インテンシブ・モジュール,アドバンスト・モジュール,オナーズ・モジュール)
	必要書類・手続	英語自由科目専用Web上に履修登録申請手続を行うこと。 インディペンデント・モジュール科目は抽選登録期間に履修登録システムより申請すること。
	申請受付期間・場所	【英語自由科目専用Web】 <春学期>3月19日(火)10:00~3月28日(木)23:59,<秋学期>9月5日(木)10:00~9月8日(日)23:59
結果発表・日時	<春学期>3月30日(土)16:00,<秋学期>9月10日(火)16:00 英語自由科目専用Web画面	

ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 朝鮮語	申請内容	履修資格判定申請、スキップ制度適用申請(第3言語としての言語自由科目履修含む)
	必要書類・手続	①言語自由科目【ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語】スキップ制度申請書兼履修希望科目申請書 ②語学力,スコア等を証明する証明書など(原本とそのコピー) ※ ③成績参照画面を印刷したもの
	申請受付期間・場所	<春学期>3月19日(火)~3月29日(金),<秋学期>9月5日(木)~9月9日(月) 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階) 書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。
	結果発表・日時	<春学期>4月1日(月)13:00,<秋学期>9月11日(水)10:00 全学共通科目掲示板
	申請内容	履修登録申請
	必要書類・手続	抽選登録期間に履修登録システムより申請すること。 ※ただし配当年次に達していないが自由科目の履修が認められた者は登録受付をWebサイトではなく,教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)で行う。希望者は下記のとおり申請すること。
	申請受付期間・場所	<春学期>3月19日(火)~3月29日(金),<秋学期>9月5日(木)~9月9日(月) 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階) 書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。 上段の※印対象者(配当年次に達していないが自由科目の履修が認められた者)は申請期間・手続が異なるため注意すること。それ以外の者は抽選登録期間を確認すること。
結果発表・日時	<春学期>,<秋学期>ともに履修登録システムより結果を確認すること。	

自由科目(ドイツ語, フランス語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語)履修関連申請スケジュール等

2019年度1年次入学者(必修科目に関する特別措置対象者で2年次以上対象の自由科目履修希望者のみ)

ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 朝鮮語	申請内容	履修資格判定申請、スキップ制度適用申請
	必要書類・手続	①全学共通科目言語B既習者学習歴記入用紙【ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語】 ②語学力,スコア等を証明する証明書など(原本とそのコピー) ※
	申請受付期間・場所	<春学期>4月1日(月)~4月2日(火) 口頭および筆記試験:4月4日(木) 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階) 書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。
	結果発表・日時	<春学期>4月6日(土)10:00 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)
	申請内容	履修登録申請
	必要書類・手続	<春学期>①全学共通科目言語B既習者学習歴記入用紙【ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語】 ②語学力,スコア等を証明する証明書など(原本とそのコピー) ※ <秋学期>ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語の必修科目特別措置(履修免除)者用履修希望申請書兼スキップ制度申請書
	申請受付期間・場所	<春学期>必修科目に関する特別措置における口頭・筆記試験の際に,担当教員と相談すること。 <秋学期>下記の期間に履修登録希望科目を教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)まで届け出ること。 9月5日(木)~9月9日(月) 書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。
	結果発表・日時	<春学期>4月6日(土)10:00 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階) <秋学期>9月11日(水)10:00 全学共通科目掲示板
備考	秋学期は入学時に必修科目に関する特別措置が認められた者のみ申請可。	

※語学力,スコアなどの証明書の有効期限は2年(テスト受験日が,春学期申請時は2017年4月1日以降,秋学期申請時は2017年9月1日以降のもの)とする。ただし,言語Bで2017年3月31日以前(秋学期に申請する者は2017年8月31日以前)にスコアを修得している学生についても等級またはスコアによってはスキップ制度を適用し基礎科目群の履修をすることなくコア科目群の履修を認める場合がある。

8. 履修資格判定
(英語)

(1) 英語

下表の申請基準を満たしている者は、春学期・秋学期の定められた期間に、英語自由科目専用Webより履修資格判定申請を行うことで該当ステージから履修することができる。ただし、履修資格を認められたステージよりも下位のステージの科目も履修することができる（例：ステージ1からステージ3にスキップを認められた者は、ステージ2の科目の履修資格も有する。同様にステージ2からステージ4にスキップを認められた者は、ステージ3の履修資格も有する。またステージ1からステージ4へのスキップを認められた者は、ステージ2、3の履修資格も有する）。

モジュール	申請基準
インテンシブ・モジュール	TOEFL® iBT60点, TOEFL® ITP (Level1) 500点
	TOEIC® (またはTOEIC® IP) 570点* ¹
	GTEC 250点* ²
	IELTS 5.5* ³
インディペンデント・モジュール	英語必修科目単位修得済
アドバンスト・モジュール	TOEFL® iBT 76点以上, TOEFL® ITP (Level1) 540点以上
	TOEIC® (またはTOEIC® IP) 700点以上* ¹
	GTEC 300点以上* ²
	IELTS 6.0以上* ³
オナーズ・モジュール	TOEFL® iBT 87点以上, TOEFL® ITP (Level1) 570点以上
	TOEIC® (またはTOEIC® IP) 785点以上* ¹
	GTEC 325点以上* ²
	IELTS 6.5以上* ³

* 1 TOEIC® SWテスト, TOEIC® SW IPテストは対象としない。

* 2 GTECはListeningとReadingの合計点のみを対象とし, SpeakingとWritingの得点は対象としない。

* 3 IELTSはアカデミック・モジュールのみを対象とし, ジェネラル・トレーニング・モジュールは対象としない。

9. 履修資格判定・スキップ制度について
(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)

(1) ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語

以下のAまたはB, およびCに該当する者は、春学期・秋学期の定められた期間に次表の申請基準を満たすことを証明できる証明書等（コピー不可）を提示した上で、そのコピーと申請書を提出し認定されることにより、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語における自由科目基礎科目群の履修をすることなく、コア科目を履修することができる。

A：言語系科目必修単位修得済の者または1年次に履修免除が認められた者。

B：スキップ制度申請期間前までに派遣留学制度または認定校留学制度による単位認定申請を行い、認定の判定を受ける見込みまたは受けた者。

C：次表の申請基準いずれかを満たしている者。ただし、各試験受験時期は原則として春学期に申請する者は2017年4月1日以降、秋学期に申請する者は2017年9月1日以降とする。

※2017年3月31日以前（秋学期に申請する者は、2017年8月31日以前）に表の等級またはスコアを取得している学生についても、等級またはスコアによっては基礎科目群の履修をすることなくコア科目の履修を認める場合がある。

【言語別申請基準】

言語	申請基準
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験3級以上
	ドイツ語基礎統一試験 (ZD) またはGoethe-Zertifikat B1
	ヨーロッパ言語共通参照枠A2以上の語学コース (45分×50以上) 受講証明書
	文学部文学科ドイツ文学専修「ドイツ語基礎演習1～3」修了
フランス語	実用フランス語技能検定試験準2級以上
	DELF A2以上
	TCF350点以上
	ヨーロッパ言語共通参照枠A2以上の語学コース (45分×50以上) 受講証明書 文学部文学科フランス文学専修「フランス語基礎演習1～3」修了
スペイン語	スペイン語技能検定試験3級以上
	DELE A2以上
	ヨーロッパ言語共通参照枠A2以上の語学コース (45分×50以上) 受講証明書* ¹
中国語	中国語検定試験3級以上
	漢語水平考試 (HSK) 4級 210点以上, 5級 6級 180点以上
朝鮮語	「ハングル」能力検定試験3級以上
	韓国語能力試験3級以上

*1 ヨーロッパ言語共通参照枠と異なるレベル設定の証明書の場合、レベル対照表もしくは使用教材など補足資料を提出すること。

(2) スキップ制度適用の申請および発表

スキップ制度適用を希望する者は、必要書類を持参のうえ、定められた期間に申請すること。

(3) スキップ制度の認定を受けた者で配当年次に達していない場合でも自由科目の履修が認められた場合は、登録受付を教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）で行う。

春・秋学期とも自由科目履修資格判定申請と同日程で行うので希望者は教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）まで申し出ること。

10. 第3言語としてのドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語の言語自由科目履修について

必修科目として選択した言語とは異なる言語の自由科目基礎科目の履修を希望する者（「基礎～語入門」、「基礎～語初級」およびそれに準ずる留学認定科目を修得した者を除く）は、必修科目履修免除（単位認定）の基準を満たしていると認められた場合、履修できる。自由科目コア科目の履修を希望する者は、スキップ制度適用の基準を満たしていると認められた場合に履修できる。

2 自由科目 科目一覧表

1. 英語

グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力や、海外の大学に留学するために必要な語学力など、一人ひとりが望むレベルに到達できるよう、継続的・系統的に学べる科目を展開する。

〈履修上の注意〉

- (1) インテンシブ・モジュール、アドバンスト・モジュールおよびオナーズ・モジュールは、履修資格を判定するため、履修を希望する者は、定められた期間に英語自由科目専用Webにて申請すること。
- (2) インディペンデント・モジュールは「TOEIC 1」、「TOEIC 2」、「TOEFL 2」、「IELTS」の「資格系科目」とそれ以外の「資格系以外科目」の履修申請の上限単位数がそれぞれ各学期6単位、合わせて12単位までとなっているため申請時に注意すること。なお、「英語海外文化研修」と「国際交流制度短期英語研修プログラム」は6単位の上限には含まない。

※インテンシブ・モジュールにおける、春学期に開講される2科目8単位（週4回）および秋学期に開講される2科目8単位（週4回）のセット履修のルールについては、2019年度以降廃止。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	モジュール	定員	クラス数	※
「その他」登録		English Intensive A (Global World)	4	春 (週2回)	2・3・4	LNE2011	英語必修科目単位修得済であり、TOEFL® iBT 60点 (TOEFL® ITP Level 1) 1500点、TOEIC® (または TOEIC® IP) 570点、IELTS 5.5 または GTEC 250点以上の能力を有する者。	インテンシブ・モジュール	25名	3	
		English Intensive B (Academic Language Skills)	4	春 (週2回)					25名	3	
		English Intensive C (Integrated Language Skills)	4	秋 (週2回)					25名	3	
		English Intensive D (Intercultural Understanding)	4	秋 (週2回)					25名	3	
抽選登録	2	English Communication 1	4	春・秋 (週2回ずつ)		LNE2001	英語必修科目単位修得済	インディペンデント・モジュール(資格系以外科目)	10名	春3 秋2	
		English Communication 2	4	春・秋 (週2回ずつ)					10名	春3 秋2	☆
		Pleasure Reading	2	春		LNE2011			25名	2	
		Speech	2	春・秋					25名	春1 秋1	☆
		Debate	2	春・秋					25名	春1 秋1	☆
		Presentation	2	春・秋					25名	春1 秋1	☆
		Current English 1 (reading)	2	春・秋					25名	春2 秋2	
		Current English 2 (reading)	2	春・秋					25名	春2 秋2	☆
		Current English 1 (listening)	2	春・秋					25名	春3 秋2	
		Current English 2 (listening)	2	春・秋					25名	春2 秋2	☆
		Japanese Studies through English	2	春・秋					25名	春2 秋2	
		Language and History	2	春					25名	1	
		English through Movies A	2	春	25名				1		
		English through Movies B	2	春	25名				1		
		English through Movies D	2	秋	25名				1		
		English through Movies E	2	秋	25名				1		
		World Cultures	2	秋	25名				1		
English through Dramas	2	秋	25名	1							
Advertisement English	2	秋	25名	1							

※☆印のある科目は、インディペンデント・モジュール レベルII科目

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	モジュール	定員	クラス数	※				
抽選登録	2	TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	2	春・秋	2・3・4	LNE2011	英語必修科目単位修得済	インディペンデント・モジュール(資格系科目)	25名	春2・秋2	☆				
		TOEFL 2 (reading)	2	春・秋					25名	春2・秋2	☆				
		TOEFL 2 (listening)	2	春・秋					25名	春2・秋2	☆				
		TOEFL 2 (speaking and writing)	2	春・秋					25名	春2・秋2	☆				
		TOEIC 1 (reading)	2	春・秋					25名	春4・秋4					
		TOEIC 1 (listening)	2	春・秋					25名	春3・秋3					
		TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	2	春・秋		25名			春4・秋4						
		TOEIC 2 (reading)	2	春・秋		25名			春2・秋2	☆					
		TOEIC 2 (listening)	2	春・秋		25名			春2・秋2	☆					
		TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	2	春・秋		25名			春2・秋2	☆					
		IELTS	2	春		25名			1						
		「その他」登録	3	Lecture and Discussion A		4			春(週2回ずつ)	LNE2011	TOEFL® iBT76点(TOEFL® ITP[Level 1]540点), TOEIC®(またはTOEIC® IP)700点, IELTS6.0またはGTEC 300点以上の能力を有する者。	アドバンスト・モジュール	25名	1	
				Lecture and Discussion B		4			春(週2回ずつ)				25名	1	
Lecture and Discussion C	4			春(週2回ずつ)	25名	1									
Lecture and Discussion E	4			秋(週2回ずつ)	25名	1									
Lecture and Discussion F	4			秋(週2回ずつ)	25名	1									
Lecture and Discussion G	4			秋(週2回ずつ)	25名	1									
Discussion and Debate	2			春・秋	25名	春1・秋1									
Advanced Academic Vocabulary	2			春・秋	25名	春1・秋1									
Current English 3 (Comprehensive)	2			春・秋	25名	春2・秋2									
Academic Studies (advanced presentation)	2			春・秋	25名	春1・秋1									
Academic Studies (advanced writing)	2			春・秋	25名	春1・秋1									
Career Studies (English for vocational purposes)	2			春・秋	25名	春1・秋1									
4	University Lecture A			2	春	LNE3011	TOEFL® iBT87点(TOEFL® ITP[Level 1]570点), TOEIC®(またはTOEIC® IP)785点, IELTS6.5またはGTEC 325点以上の能力を有する者。	オナーズ・モジュール	25名				1		
	University Lecture B		2	春	25名				1						
	University Lecture D		2	秋	25名				1						
	University Lecture E		2	秋	25名				1						

※☆印のある科目は、インディペンデント・モジュール レベルII科目

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	モジュール	定員	クラス数	※
「その他」登録		English Intensive A (Global World)	4	春 (週2回)	2・3・4	LNE2011	英語必修科目単位修得済であり、TOEFL® iBT 60点 (TOEFL® ITP [Level 1] 500点)、TOEIC® (または TOEIC® IP) 570点、IELTS 5.5 または GTEC 250点以上の能力を有する者。	インテンシブ・モジュール	25名	2	
		English Intensive B (Academic Language Skills)	4	春 (週2回)					25名	2	
		English Intensive C (Integrated Language Skills)	4	秋 (週2回)					25名	2	
		English Intensive D (Intercultural Understanding)	4	秋 (週2回)					25名	2	
抽選登録	2	English Communication 1	4	春・秋 (週2回ずつ)		LNE2001	英語必修科目単位修得済	インディペンデント・モジュール (資格系以外科目)	10名	春2 ・ 秋1	
		English Communication 2	4	春・秋 (週2回ずつ)					10名	春2 ・ 秋1	☆
		Speech	2	春					25名	1	☆
		Debate	2	秋					25名	1	☆
		Presentation	2	春					25名	1	☆
		Current English 1 (reading)	2	春・秋					25名	春1 ・ 秋1	
		Current English 2 (reading)	2	春・秋					25名	春1 ・ 秋1	☆
		Current English 1 (listening)	2	春・秋					25名	春1 ・ 秋1	
		Current English 2 (listening)	2	春・秋					25名	春1 ・ 秋1	☆
		Japanese Studies through English	2	春・秋					25名	春1 ・ 秋1	
		English through Movies C	2	春		25名			1		
		English through Movies F	2	秋		25名			1		
		World Heritage Sites	2	春		25名			1		

※☆印のある科目は、インディペンデント・モジュール レベルII科目

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	モジュール	定員	クラス数	※		
抽選登録	2	TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	2	春・秋	2・3・4	LNE2011	英語必修科目単位修得済	インディペンデント・モジュール(資格系科目)	25名	春1・秋1	☆		
		TOEFL 2 (reading)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆		
		TOEFL 2 (listening)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆		
		TOEFL 2 (speaking and writing)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆		
		TOEIC 1 (reading)	2	春・秋					25名	春2・秋2			
		TOEIC 1 (listening)	2	春・秋		25名			春2・秋2				
		TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	2	春・秋		25名			春3・秋3				
		TOEIC 2 (reading)	2	春・秋		25名			春1・秋1	☆			
		TOEIC 2 (listening)	2	春・秋		25名			春1・秋1	☆			
		TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	2	春・秋		25名			春1・秋1	☆			
		IELTS	2	春		25名			1				
「その他」登録	3	Lecture and Discussion D	4	春(週2回ずつ)	2・3・4	LNE2011	TOEFL® iBT76点(TOEFL® ITP[Level 1]540点), TOEIC®(またはTOEIC® IP)700点, IELTS6.0またはGTEC 300点以上の能力を有する者。	アドバンスト・モジュール	25名	1			
		Lecture and Discussion H	4	秋(週2回ずつ)					25名	1			
		Discussion and Debate	2	春					25名	1			
		Advanced Academic Vocabulary	2	春					25名	1			
		Current English 3 (Comprehensive)	2	春・秋					25名	春1・秋1			
		Academic Studies (advanced presentation)	2	秋					25名	1			
		Academic Studies (advanced writing)	2	春					25名	1			
		Career Studies (English for vocational purposes)	2	春・秋					25名	春1・秋1			
	4	University Lecture C	2	春		LNE3011			TOEFL® iBT87点(TOEFL® ITP[Level 1]570点), TOEIC®(またはTOEIC® IP)785点, IELTS6.5またはGTEC325点以上の能力を有する者。	オナーズモジュール	25名	1	
		University Lecture F	2	秋							25名	1	

※☆印のある科目は、インディペンデント・モジュール レベルII科目

英語海外文化研修

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

人数制限を行う

登録方法	ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	モジュール	定員	クラス数
「その他」登録	2	英語海外文化研修	4	その他	1・2・3・4	LNE2031	下記のいずれかに該当する者。 ①1年次生 ②英語必修科目単位修得済の2～4年次生	インディペンデント・モジュール	約50名	1
<p>注意</p> <p>1) 募集人数は1～4年次生50名程度。 2) 春学期の土曜日に事前研修、秋学期の指定日に報告会などが池袋キャンパスで実施され、これらへの参加状況も含めて成績が評価される。成績発表は通年・秋学期科目と同時期となる。 3) 履修を希望する学生は、全学年とも、下記日程で開催の説明会に『シラバス』を読んだ上で参加すること。</p> <p>説明会：池袋…4月4日（木）11：15～12：15 7101教室（7号館1階） 出願：池袋・新座…4月1日（月）～4月11日（木）（窓口開室時間内） 提出場所：教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階） 選考結果発表：4月15日（月）10：00 全学共通科目掲示板</p> <p>* 「英語海外文化研修」の単位については、履修登録上は1学期あたり2単位（春学期2単位・秋学期2単位）として計算する。各自所属する学部・学科の履修規定により履修登録上限単位数が設定されている場合には履修計画を立てる際に注意すること。</p>										

国際交流制度短期英語研修プログラムについて

2017年度より立教大学学生国際交流制度のプログラムに参加し履修登録申請をした学生は、各大学の短期英語研修で修得した単位が、所定の手続きにより全学共通科目言語系科目「自由科目（英語）」の単位として認められる。この単位は、各学部の規定の範囲内で、卒業要件単位として認められる。

登録方法	ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	コース	定員	クラス数
「その他」登録	2	ビクトリア夏ESL2	2	春外	1・2・3・4	LNE2031	インディペンデント・モジュール（資格系以外科目）	約30名	1
		ハワイ夏ESL1	1		1・2・3・4			約20名	1
		ダブリン夏ESL3	3		1・2・3・4			約25名	1
		ダブリン春ESL3	3	秋外	1・2・3			約25名	1
		シドニー春ESL3	3		1・2・3			約25名	1
		ビクトリア春ESL2	2		1・2・3			約20名	1
		ハワイ春ESL1	1		1・2・3			約20名	1
<p>注意</p> <p>1) 履修を希望する学生は、国際センターで配付する募集要項を必ず確認すること。 2) 夏季実施は、4月上旬に説明会を行い、4月上旬に出願が締め切られる。 春季実施は、7月上旬に説明会を行い、8月下旬に出願が締め切られる。 なお、説明会への参加は任意である。 3) 成績は「合」「否」のいずれかで評価し、成績発表は夏季実施は10月、春季実施は5月の予定である。</p> <p>* 上記科目の単位は、履修登録申請を行った年間の履修登録上限単位数に算入される。</p>									

2. ドイツ語

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
抽選登録	ドイツ語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNG2013	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	2
	ドイツ語スタンダード2	1	春					30名	2
	ドイツ語スタンダード3	1	秋					30名	2
	ドイツ語スタンダード4	1	秋					30名	2
	ドイツ語中級1	2	春 (週2回)	2	秋 (週2回)	30名	4	30名	4
	ドイツ語中級2	2	秋 (週2回)						
	上級ドイツ語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNG3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
	上級ドイツ語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
	上級ドイツ語ライティング1	2	春					30名	1
	上級ドイツ語ライティング2	2	秋					30名	1
	上級ドイツ語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
	上級ドイツ語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
	上級ドイツ語演習1	2	春					30名	1
	上級ドイツ語演習2	2	秋					30名	1
	言語情報処理論(ドイツ語)	2	秋	1・2・3・4	LNG2013	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
抽選登録	基礎ドイツ語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNG1010	必修科目がドイツ語以外の者。	必修科目に併せて行う	5名	池袋:6 新座:2
	基礎ドイツ語初級	2	秋 (週2回)			必修科目がドイツ語以外の者。 「基礎ドイツ語入門」の単位修得済。	必修科目に併せて行う	5名	池袋:6 新座:2

「基礎ドイツ語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
その他	ドイツ語海外言語文化研修(中級)	2	春他	1・2・3・4	LNG2033	「ドイツ語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計15名	1
	ドイツ語海外言語文化研修(上級)	2	春他	3・4	LNG3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群		1

注意 ドイツ語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…4月4日(木) 11:15~12:15 A304教室(11号館3階)
 出願：池袋・新座…4月1日(月)~4月11日(木)(窓口開室時間内)
 提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階)
 選考結果発表：4月15日(月) 10:00 全学共通科目掲示板

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
抽選登録	ドイツ語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNG2013	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
	ドイツ語スタンダード2	1	春					30名	1
	ドイツ語スタンダード3	1	秋					30名	1
	ドイツ語スタンダード4	1	秋					30名	1
	ドイツ語中級1	2	春 (週2回)	2	秋 (週2回)	30名	2	30名	2
	ドイツ語中級2	2	秋 (週2回)						
	上級ドイツ語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNG3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
	上級ドイツ語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
	上級ドイツ語ライティング1	2	春					30名	1
	上級ドイツ語ライティング2	2	秋					30名	1
	上級ドイツ語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
	上級ドイツ語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
	上級ドイツ語演習1	2	春					30名	1
	上級ドイツ語演習2	2	秋					30名	1
	言語情報処理論(ドイツ語)	2	春	1・2・3・4	LNG2013	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

3. フランス語

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数				
抽選登録	フランス語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNF2013	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	2				
	フランス語スタンダード2	1	春					30名	2				
	フランス語スタンダード3	1	秋					30名	2				
	フランス語スタンダード4	1	秋					30名	2				
	フランス語中級1	2	春 (週2回)					30名	4				
	フランス語中級2	2	秋 (週2回)					30名	4				
	上級フランス語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNF3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1				
	上級フランス語コミュニケーション2	2	秋					30名	1				
	上級フランス語ライティング1	2	春					30名	1				
	上級フランス語ライティング2	2	秋					30名	1				
	上級フランス語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1				
	上級フランス語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1				
	上級フランス語演習1	2	春					30名	1				
	上級フランス語演習2	2	秋					30名	1				
	言語情報処理論(フランス語)	2	春					1・2・3・4	LNF2013	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
抽選登録	基礎フランス語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNF1010	必修科目がフランス語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名	池袋：6 新座：2
	基礎フランス語初級	2	秋 (週2回)			必修科目がフランス語以外の者。 「基礎フランス語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名	池袋：6 新座：2

「基礎フランス語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
その他登録	フランス語海外言語文化研修(中級)	2	春他	1・2・3・4	LNF2033	「フランス語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計20 ~30名	1
	フランス語海外言語文化研修(上級)	2	春他	3・4	LNF3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群		1
<p>注意 フランス語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、「シラバス」をよく読んだ上で、必ず参加すること。</p> <p>説明会：池袋…4月4日(木) 11:15~12:15 A301教室(11号館3階) 出願：池袋・新座…4月1日(月)~4月11日(木)(窓口開室時間内) 提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階) 選考結果発表：4月15日(月) 10:00 全学共通科目掲示板</p>									

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数				
抽選登録	フランス語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNF2013	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1				
	フランス語スタンダード2	1	春					30名	1				
	フランス語スタンダード3	1	秋					30名	1				
	フランス語スタンダード4	1	秋					30名	1				
	フランス語中級1	2	春 (週2回)					30名	2				
	フランス語中級2	2	秋 (週2回)					30名	2				
	上級フランス語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNF3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1				
	上級フランス語コミュニケーション2	2	秋					30名	1				
	上級フランス語ライティング1	2	春					30名	1				
	上級フランス語ライティング2	2	秋					30名	1				
	上級フランス語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1				
	上級フランス語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1				
	上級フランス語演習1	2	春					30名	1				
	上級フランス語演習2	2	秋					30名	1				
	言語情報処理論(フランス語)	2	春					1・2・3・4	LNF2013	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

4. スペイン語

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
抽選登録	スペイン語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNS2013	「スペイン語基礎1」および「スペイン語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	2
	スペイン語スタンダード2	1	春					30名	2
	スペイン語スタンダード3	1	秋					30名	2
	スペイン語スタンダード4	1	秋					30名	2
	スペイン語中級1	2	春 (週2回)	3・4	LNS3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	4
	スペイン語中級2	2	秋 (週2回)					30名	4
	上級スペイン語コミュニケーション1	2	春					30名	1
	上級スペイン語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
	上級スペイン語ライティング1	2	春					30名	1
	上級スペイン語ライティング2	2	秋					30名	1
	上級スペイン語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
	上級スペイン語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
	上級スペイン語演習1	2	春					30名	1
	上級スペイン語演習2	2	秋					30名	1
	言語情報処理論(スペイン語)	2	秋					1・2・3・4	LNS2013

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
抽選登録	基礎スペイン語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNS1010	必修科目がスペイン語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名	池袋:6 新座:2
	基礎スペイン語初級	2	秋 (週2回)			必修科目がスペイン語以外の者。 「基礎スペイン語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名	池袋:6 新座:2

「基礎スペイン語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
その他	スペイン語海外言語文化研修(中級)	2	春他	1・2・3・4	LNS2033	「スペイン語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	約20名	1
	スペイン語海外言語文化研修(上級)	2	春他	3・4	LNS3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	約20名	1
<p>注意 スペイン語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、「シラバス」をよく読んで、必ず参加すること。</p> <p>説明会: 池袋...4月4日(木) 11:15~12:15 A202教室(11号館2階) 出願: 池袋・新座...4月1日(月)~4月11日(木)(窓口開室時間内) 提出場所: 教務事務センター(池袋: タッカーホール1階/新座: 7号館1階) 選考結果発表: 4月15日(月) 10:00 全学共通科目掲示板</p>									

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
抽選登録	スペイン語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNS2013	「スペイン語基礎1」および「スペイン語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
	スペイン語スタンダード2	1	春					30名	1
	スペイン語スタンダード3	1	秋					30名	1
	スペイン語スタンダード4	1	秋					30名	1
	スペイン語中級1	2	春 (週2回)	3・4	LNS3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	2
	スペイン語中級2	2	秋 (週2回)					30名	2
	上級スペイン語コミュニケーション1	2	春					30名	1
	上級スペイン語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
	上級スペイン語ライティング1	2	春					30名	1
	上級スペイン語ライティング2	2	秋					30名	1
	上級スペイン語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
	上級スペイン語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
	上級スペイン語演習1	2	春					30名	1
	上級スペイン語演習2	2	秋					30名	1
	言語情報処理論(スペイン語)	2	春					1・2・3・4	LNS2013

5. 中国語

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
抽選登録	中国語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNC2013	「中国語基礎1」および「中国語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	3
	中国語スタンダード2	1	春					30名	3
	中国語スタンダード3	1	秋					30名	3
	中国語スタンダード4	1	秋					30名	3
	中国語中級1	2	春 (週2回)					30名	4
	中国語中級2	2	秋 (週2回)					30名	4
	上級中国語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNC3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
	上級中国語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
	上級中国語ライティング1	2	春					30名	1
	上級中国語ライティング2	2	秋					30名	1
	上級中国語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
	上級中国語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
	上級中国語演習1	2	春					30名	1
	上級中国語演習2	2	秋					30名	1
	言語情報処理論(中国語)	2	春					1・2・3・4	LNC2013

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
抽選登録	基礎中国語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNC1010	必修科目が中国語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名	池袋：6 新座：2
	基礎中国語初級	2	秋 (週2回)					必修科目が中国語以外の者。 「基礎中国語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う

「基礎中国語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
「その他」登録	中国語海外言語文化研修(中級)	2	春他	1・2・3・4	LNC2033	「中国語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計50名程度	1
	中国語海外言語文化研修(上級)	2	春他	3・4	LNC3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群		1
	中国語海外言語文化研修春(中級)	2	秋他	1・2・3	LNC2033	「中国語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計50名程度	1
	中国語海外言語文化研修春(上級)	2	秋他	3	LNC3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群		1

注意 中国語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…4月4日(木) 11:15~12:15 A203教室(11号館2階)
出願：池袋・新座…4月1日(木)~4月11日(木)(窓口開室時間内)
提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階)
選考結果発表：4月15日(月) 10:00 全学共通科目掲示板

中国語海外言語文化研修春(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…7月9日(火) 12:30~13:15 教室は掲示を確認すること。
新座…7月10日(水) 12:30~13:15 教室は掲示を確認すること。
出願：池袋・新座…7月9日(火)~7月12日(金)(窓口開室時間内)
提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階)
選考結果発表：7月18日(木) 10:00 全学共通科目掲示板

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
抽選	中国語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNC2013	「中国語基礎1」および「中国語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
	中国語スタンダード2	1	春					30名	1
	中国語スタンダード3	1	秋					30名	1
	中国語スタンダード4	1	秋					30名	1
	中国語中級1	2	春 (週2回)					30名	2
	中国語中級2	2	秋 (週2回)					30名	2
	上級中国語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNC3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
	上級中国語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
	上級中国語ライティング1	2	春					30名	1
	上級中国語ライティング2	2	秋					30名	1
	上級中国語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
	上級中国語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
	上級中国語演習1	2	春					30名	1
	上級中国語演習2	2	秋					30名	1
	言語情報処理論(中国語)	2	秋	1・2・3・4	LNC2013	「中国語基礎1」および「中国語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

6. 朝鮮語

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
抽選登録	朝鮮語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNK2013	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
	朝鮮語スタンダード2	1	春					30名	1
	朝鮮語スタンダード3	1	秋					30名	1
	朝鮮語スタンダード4	1	秋					30名	1
	朝鮮語中級1	2	春 (週2回)	3・4	LNK3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	4
	朝鮮語中級2	2	秋 (週2回)					30名	4
	上級朝鮮語コミュニケーション1	2	春					30名	1
	上級朝鮮語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
	上級朝鮮語ライティング1	2	春	1・2・3・4	LNK2013	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位修得済が望ましい。	中級レベル	30名	1
	上級朝鮮語ライティング2	2	秋					30名	1
	上級朝鮮語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
	上級朝鮮語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
	上級朝鮮語演習1	2	春					30名	1
	上級朝鮮語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論(朝鮮語)	2	秋					30名	1	

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
抽選登録	基礎朝鮮語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNK1010	必修科目が朝鮮語以外の者。 必修科目が朝鮮語以外の者。 「基礎朝鮮語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名	池袋：6 新座：2
	基礎朝鮮語初級	2	秋 (週2回)					5名	池袋：6 新座：2

「基礎朝鮮語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
その他	朝鮮語海外言語文化研修(中級)	2	春他	1・2・3・4	LNK2033	「朝鮮語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計30名程度	1
	朝鮮語海外言語文化研修(上級)	2	春他	3・4	LNK3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群		1
<p>注意 朝鮮語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること(各回は同内容のため、いずれかの回に参加すること)。</p> <p>説明会：池袋…4月4日(木) 11:15~12:15 A201教室(11号館2階) 新座…4月3日(水) 12:30~13:00 N212教室(2号館1階) 出願：池袋・新座…4月1日(月)~4月11日(木)(窓口開室時間内) 提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階) 選考結果発表：4月15日(月) 10:00 全学共通科目掲示板</p>									

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
抽選登録	朝鮮語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNK2013	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
	朝鮮語スタンダード2	1	春					30名	1
	朝鮮語スタンダード3	1	秋					30名	1
	朝鮮語スタンダード4	1	秋					30名	1
	朝鮮語中級1	2	春 (週2回)	3・4	LNK3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	2
	朝鮮語中級2	2	秋 (週2回)					30名	2
	上級朝鮮語コミュニケーション1	2	春					30名	1
	上級朝鮮語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
	上級朝鮮語ライティング1	2	春	1・2・3・4	LNK2013	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位修得済が望ましい。	中級レベル	30名	1
	上級朝鮮語ライティング2	2	秋					30名	1
	上級朝鮮語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
	上級朝鮮語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
	上級朝鮮語演習1	2	春					30名	1
	上級朝鮮語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論(朝鮮語)	2	秋					30名	1	

7. ロシア語

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	定員	クラス数
抽選登録	ロシア語セミナーA	1	春	1・2・3・4	LNR2013	「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」の単位修得済が望ましい。	30名	1
	ロシア語セミナーB	1	秋			「ロシア語セミナーA」の単位修得済が望ましい。	30名	1
	ロシア語セミナーC	1	春			「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」の単位修得済が望ましい。	30名	1
	ロシア語セミナーD	1	秋			「ロシア語セミナーC」の単位修得済が望ましい。	30名	1
	ロシア語セミナー1	1	春			ロシア語科目を6単位以上（必修4単位を含む）修得していることが望ましい。	30名	1
	ロシア語セミナー2	1	秋			ロシア語科目を6単位以上（必修4単位を含む）修得していることが望ましい。	30名	1

【基礎からのロシア語～言語Bがロシア語以外の人のための科目～】

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
抽選登録	基礎ロシア語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNR1010	必修科目がロシア語以外の者。	必修クラスに併せて行う。	8名	1
	基礎ロシア語初級	2	秋 (週2回)			必修科目がロシア語以外の者。「基礎ロシア語入門」の単位修得済。	必修クラスに併せて行う。	8名	1

「基礎ロシア語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「セミナー」の履修を推奨する。

8. ポルトガル語

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
抽選登録	ポルトガル語1	1	2019年度 休講	2・3・4	LNP1010	特になし	隔年開講	30名	—
	ポルトガル語2	1	2019年度 休講			「ポルトガル語1」の単位修得済が望ましい。		30名	—
	ポルトガル語3	1	春		LNP2013	「ポルトガル語2」の単位修得済が望ましい。	隔年開講	30名	1
	ポルトガル語4	1	秋			「ポルトガル語3」の単位修得済が望ましい。		30名	1

9. 日本語

(外国人留学生入試による
入学者対象)

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル	定員	クラス数
抽選登録	日本の文化・社会A	1	春	2・3・4	LNJ2010	特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
	日本の文化・社会B	1	秋			特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
	日本の文化・社会C	1	秋			特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
	日本語論文作成法	1	秋			特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
	日本語の諸相A	1	春			特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
	日本語の諸相B	1	秋			特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
	日本語論文読解	1	春		特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1	
	キャリアジャパニーズA	1	春・秋		LNJ3010	特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1
	キャリアジャパニーズB	1	春・秋			特になし	日本語必修科目修了程度	25名	1
	ビジネス日本語(文書)	1	春・秋			特になし	日本語必修科目修了程度	25名	1
	ビジネス日本語口頭A	1	春・秋			特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1
	ビジネス日本語口頭B	1	春・秋			特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル	定員	クラス数
抽選登録	ビジネス日本語(文書)	1	秋	2・3・4	LNJ3010	特になし	日本語必修科目修了程度	25名	1
	日本語論文読解	1	春		LNJ2010	特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
	キャリアジャパニーズA	1	春		LNJ3010	特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1
	キャリアジャパニーズB	1	秋		LNJ3010	特になし	日本語必修科目修了程度	25名	1
	日本語論文作成法	1	秋		LNJ2010	特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
	ビジネス日本語口頭A	1	春		LNJ3010	特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1
	ビジネス日本語口頭B	1	秋		LNJ3010	特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1

10. 日本手話

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル	定員	クラス数
抽選登録	日本手話1	1	2019年度休講	1・2・3・4	LNH1010	特になし	入門	25名	—
	日本手話2	1	2019年度休講			「日本手話1」の単位修得済が望ましい。	初級	25名	—
	日本手話3	1	春		LNH2013	「日本手話2」の単位修得済が望ましい。	中級	20名	1
	日本手話4	1	秋			「日本手話3」の単位修得済が望ましい。		20名	1

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル	定員	クラス数
抽選登録	日本手話1	1	春	1・2・3・4	LNH1010	特になし	入門	25名	1
	日本手話2	1	秋			「日本手話1」の単位修得済が望ましい。	初級	25名	1
	日本手話3	1	2019年度休講		LNH2013	「日本手話2」の単位修得済が望ましい。	中級	20名	—
	日本手話4	1	2019年度休講			「日本手話3」の単位修得済が望ましい。		20名	—

2019年度グローバル教養副専攻 学部展開科目科目一覧については、グローバル教養副専攻webサイト (<http://s.rikkyo.ac.jp/rmp/>) を確認すること。

グローバル教養副専攻 学部展開科目のシラバス・履修対象年次・履修登録方法等は、各学部の履修要項およびシラバスを確認すること。

学科ごとの 履修規定 カリキュラム

2019年度以降1年次入学者適用

観光学科

観光学科の専門教育科目

観光学科 学科目表

交流文化学科

交流文化学科の専門教育科目

交流文化学科 学科目表

観光学科の 専門教育科目

専門教育科目は必修科目（専門必修科目）、選択科目（学科選択科目1・2、学部共通科目、他学科選択科目）、自由科目（学部自由科目、関連基礎科目）から構成される。

専門教育科目の特色

企業経営や地域計画、自治体行政など様々な場面で新しい観光のあり方を構想し、観光ビジネスの革新、地域振興に寄与しうるリーダーの育成を目指す。そのため、「観光ビジネスの経営」と「観光による地域振興」という2つの視点から旅行業、宿泊業、運輸業（航空・鉄道等）などの経営や地域の観光施策等についての学びに加えて、新たな観光価値創造の可能性を模索し、事業化していくための方策、環境や社会・文化的背景に配慮した観光地づくりのあり方も学修する。

1 観光学科の専門教育科目

- | | |
|--------------------------------------|---|
| <p>1. 必修科目
1-(1)
専門必修科目</p> | <p>専門必修科目は、学修・研究活動の基礎となる知識やスキルを学び、同時に観光学の研究領域の概要を理解するための入門的な学修を行う。原則として1年次で履修する。</p> |
| <p>2. 選択科目
2-(1)
学科選択科目1</p> | <p>学科選択科目1は、観光学科固有の領域を学ぶための知識、分析手法、思考方法を学ぶ基礎的専門科目群の中で、基礎的なものならびに応用的な内容を展開する科目群である。2年次までに履修することを推奨する。</p> |
| <p>2-(2)
学科選択科目2</p> | <p>学科選択科目2は、観光学科固有の領域を学ぶための知識、分析手法、思考方法を学ぶ基礎的専門科目群の中で、学科選択科目1における学修を基礎とし、それを発展させた、より高度で専門的、個別的な科目群である。</p> |
| <p>2-(3)
学部共通科目
他学科選択科目</p> | <p>学部共通科目は、演習や新領域科目からなる科目群である。
他学科選択科目は、他学科（交流文化学科）の学科選択科目1・2である。他学科の配当年次に合わせて履修できる。
学部共通科目および他学科選択科目は、あわせて10単位を卒業要件単位数とする。</p> |
| <p>3. 自由科目</p> | <p>自由科目には学部自由科目と関連基礎科目があるが、このほかに自由科目の卒業要件単位数に算入できる科目として、卒業要件単位数を超えて修得した学科選択科目1・2、学部共通科目および他学科選択科目（ともに上限なし）、言語自由科目・卒業要件単位数を超えて修得した全学共通科目・他学部科目・5大学間単位互換制度の科目（あわせて上限20単位）がある。</p> |
| <p>3-(1)
学部自由科目</p> | <p>学部自由科目は、演習、卒業論文、インターンシップなどの科目から構成される科目群である。</p> |
| <p>3-(2)
関連基礎科目</p> | <p>関連基礎科目は、観光学部で学ぶ上で基礎となる社会科学および人文科学などの科目群からなり、幅広い基礎学力の涵養を目指す。1年次から履修できる。</p> |

観光学科 2019年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修／選択 ／自由	科目区分	卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A 【全学共通】	6	16	124以上
	言語教育科目 言語B 【全学共通】	4		
	専門必修科目（導入科目（学びの技法）含む）	6		
選択科目	学びの精神 【全学共通】	4	74	
	多彩な学び 【全学共通】	14		
	スポーツ実習 【全学共通】			
	学科選択科目1	16		
	学科選択科目2	30		
	学部共通科目 他学科（*）選択科目	10		
自由科目	学部自由科目	制限なし	34以上	
	関連基礎科目（他学科（*）関連基礎科目含む）			
	学科選択科目1・2、学部共通科目、他学科（*）選択科目の 卒業要件単位数を超えて修得した単位			
	言語自由科目 【全学共通】	0~20		
	学びの精神 【全学共通】 多彩な学び 【全学共通】 スポーツ実習 【全学共通】			}の卒業要件単位数を超えて修得した単位
	他学部科目			
	5大学間単位互換制度（f-Campus）科目			

*他学科とは交流文化学科を指す。

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

観光学部観光学科 学科目表

2019年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
必修科目							
専門必修科目 6単位							
自動登録	観光調査・研究法入門	専任教員 他	2	春	1	TRM1000	必修科目 (学びの技法)
自動登録	観光概論	専任教員	2	春	1	TRM1000	必修科目
自動登録	観光史	千住 一	2	秋	1	TRM1000	必修科目
選択科目							
学科選択科目1 16単位							
HA009	観光事業論	羽生 冬佳	2	春	①・2・3・4	TRS1000	
HA081	観光経済学	麻生 憲一	2	秋	①・2・3・4	TRS1000	
HA008	経営学総論	藤波 美帆	2	秋	①・2・3・4	TRS1100	
	観光行動論		2		②・3・4	TRS2000	
	観光調査法		2		②・3・4	TRS2000	
	観光政策・行政論		2		②・3・4	TRS2000	
	国際観光政策論		2		②・3・4	TRS2000	
	起業論		2		②・3・4	TRS2100	
	投資計画論		2		②・3・4	TRS2100	
	マーケティング総論		2		②・3・4	TRS2100	
	企業情報分析		2		②・3・4	TRS2100	
	組織と人的資源経営		2		②・3・4	TRS2100	
	経営戦略論		2		②・3・4	TRS2100	
	簿記論		2		②・3・4	TRS2100	
	観光計画論		2		②・3・4	TRS2300	
	観光施設論		2		②・3・4	TRS2300	
学科選択科目2 30単位							
	地域経済学		2		②・3・4	TRS2000	
	宿泊産業概論		2		②・3・4	TRS2200	
	宿泊産業組織論		2		②・3・4	TRS2200	
	旅行産業論		2		②・3・4	TRS2200	
	外食産業論		2		②・3・4	TRS2200	
	観光交通論 (鉄道等)		2		②・3・4	TRS2200	
	観光交通論 (国際航空)		2		②・3・4	TRS2200	
	旅行産業演習1 (A)		2		2	TRS2200	
	旅行産業演習1 (B)		2		2	TRS2200	
	宿泊産業演習1 (A)		2		2	TRS2200	
	宿泊産業演習1 (B)		2		2	TRS2200	
	観光地研究演習1 (A)		2		2	TRS2200	
	観光地研究演習1 (B)		2		2	TRS2200	
	エコツーリズム論		2		②・3・4	TRS2300	
	都市観光論		2		②・3・4	TRS2300	
	風土と観光		2		②・3・4	TRS2300	
	市民参加とまちづくり		2		②・3・4	TRS2300	
	ビジネスコミュニケーション		2		②・3・4	TRS2400	
	サービス・マネジメント		2		3・4	TRS3100	
	ホスピタリティ産業経営		2		3・4	TRS3100	
	ホテルアセットマネジメント論		2		3・4	TRS3100	
	コンベンション産業論		2		3・4	TRS3200	
	ITビジネス論		2		3・4	TRS3200	
	産業構造論		2		3・4	TRS3200	
	都市型エンターテイメント論		2		3・4	TRS3200	
	旅行産業演習2 (A)		2		3	TRS3200	

観光学科 2019年度入学者適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
	旅行産業演習2 (B)		2		3	TRS3200	
	宿泊産業演習2 (A)		2		3	TRS3200	
	宿泊産業演習2 (B)		2		3	TRS3200	
	観光地研究演習2 (A)		2		3	TRS3200	
	観光地研究演習2 (B)		2		3	TRS3200	
	政策評価論		2		3・4	TRS3200	
	地域開発論		2		3・4	TRS3300	
	環境・景観論		2		3・4	TRS3300	
	都市計画論		2		2・3・4	TRS3300	
	観光地運営管理論		2		3・4	TRS3300	
	施設・空間造形論		2		3・4	TRS3300	
	観光営業法		2		3・4	TRS3400	
	プロジェクトファイナンス		2		3・4	TRS3400	
	旅行情報システム		2		3・4	TRS3400	
	旅行業経営実務		2		3・4	TRS3400	
	企業金融と会計		2		3・4	TRS3400	
	観光行政法		2		3・4	TRS3400	
学部共通科目（他学科選択科目と合わせて10単位）							
抽選登録	GIS演習	澁谷和樹	2	春	①・2・3・4	TRM1000	人数制限科目（25名）
HA608	観光の社会的広がり	越智郁乃	2	秋	①・2・3・4	TRM1000	
	観光デザイン論		2		3・4	TRM3000	
	観光感性論		2		3・4	TRM3000	
	観光ビジネスプロジェクトA		2		3・4	TRM3100	
	観光ビジネスプロジェクトB		2		3・4	TRM3100	
	観光リスクマネジメント		2		3・4	TRM3100	
他学科選択科目							
他学科の学科選択科目1・2			他学科の単位数・配当年次による				
自由科目							
学部自由科目							
その他	早期体験プログラム	門田岳久 他	2	通年	1	TRM1003	人数制限科目（108名）
	交流文化フィールドワーク論		2		②・3・4	TRM2000	
HA980	観光ビジネス計画論1	フックス・ピーター	2	秋	①・2・3・4	TRM1003	
	観光ビジネス計画論2		2		②・3・4	TRM2003	
抽選登録	観光ビジネスプラン（演習）1	フックス・ピーター	2	秋	①・2・3・4	TRM1003	人数制限科目（20名）
	観光ビジネスプラン（演習）2		2		②・3・4	TRM2003	
	E S P（Investment and Finance）1		2		②・3・4	TRM2003	
	E S P（Investment and Finance）2		2		②・3・4	TRM2003	
	言語と文化現地研修A		1		②・3・4	TRM2003	
	言語と文化現地研修B		1		②・3・4	TRM2003	
	観光特論1（中国語）		2		3・4	TRM3003	
	観光特論2（朝鮮語）		2		3・4	TRM3003	
	観光特論3（英語）		2		3・4	TRM3003	
	観光特論4（英語）		2		2・3・4	TRM3003	
	観光特論5（英語）		2		②・3・4	TRM2003	
	観光特論6（英語）		2		②・3・4	TRM2003	
	演習（2年）A		2		2	TRM2003	
	演習（2年）B		2		2	TRM2003	
	演習（3年）A		2		3	TRM3003	
	演習（3年）B		2		3	TRM3003	
	卒業研究指導A		2		4	TRM4003	
	卒業研究指導B		2		4	TRM4003	

観光学科 2019年度入学者適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
	卒業論文		6		4	TRM4003	
	観光インターンシップA		1		3	TRM3100	
	観光インターンシップB		1		3	TRM3100	
	経団連インターンシップ		2		3	TRM3100	
	観光ビジネス概論		2		②・3・4	TRM2100	
	交通産業特論		2		3・4	TRM3100	
	観光地づくり		2		3・4	TRM3100	
	MICEの理論と実践		2		3・4	TRM3100	
	ガストロノミー（美食）と観光		2		2・3・4	TRM2100	
	観光IT戦略論		2		2・3・4	TRM2100	
関連基礎科目							
その他	データ情報処理	五十嵐 彰	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	教職課程登録者のみ
抽選登録	データ情報処理	五十嵐 彰	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	上記学生以外人数制限科目 (上記と合わせて48名)
HA815	経営学	黄 耀 偉	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
抽選登録	心理学1	近 藤 育 代	2	春	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
抽選登録	心理学2	白 石 智 子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
HA827	生涯学習概論1	小 川 誠 子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA828	生涯学習概論2	小 川 誠 子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA829	社会教育施設論1	小 川 誠 子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA830	社会教育施設論2	小 川 誠 子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA831	社会教育計画1	米 澤 朋 英	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA832	社会教育計画2	米 澤 朋 英	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA833	職業指導概論1	佐々木 尚 毅	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA834	職業指導概論2	佐々木 尚 毅	2	春他	①・2・3・4	TRM1200	集中講義
HA835	商法1	金 澤 大 祐	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA836	商法2	金 澤 大 祐	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA837	自然地理学	中 山 大 地	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA801	文学	岡 部 杏 子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA803	人類学	丹 羽 朋 子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA804	美学	鞍 田 崇	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA805	民法	薬師丸 正二郎	2	春	①・2・3・4	TRM1200	

○付きの数字は推奨年次を表す。

交流文化学科の 専門教育科目

専門教育科目は必修科目（専門必修科目）、選択科目（学科選択科目1・2、学部共通科目、他学科選択科目）、自由科目（学部自由科目、関連基礎科目）から構成される。

専門教育科目の特色

グローバル化、ボーダレス化が急速に進んだ20世紀後半から、人の移動＝交流のもつ社会的・文化的意味はその重要性を増しつつある。国際親善や文化的交流を含む人の移動＝交流を、広い意味での観光現象としてとらえ、その交流的側面が人々の生活や社会に与える影響を考える。また観光がもたらす社会的、文化的影響を明らかにする地域研究の方法を学ぶことによって、異文化への視点を養い、多文化的状況の中で交流の実をあげうる、新しいタイプの国際的人材の育成を目指す。

1 交流文化学科の専門教育科目

- | | |
|---|--|
| 1. 必修科目
1-(1)
専門必修科目 | <p>専門必修科目は、大学での充実した学修・研究活動の基礎となる知識やスキルを学び、同時に観光学の研究領域の概要を理解するための入門的な学修をおこなう。原則として1年次で履修する。</p> |
| 2. 選択科目
2-(1)
学科選択科目1 | <p>学科選択科目1は、交流文化学科固有の領域を学ぶための知識、分析技術、思考方法を学ぶ基礎的専門科目群の中で、基礎的なものならびに応用的な内容を展開する科目群である。2年次までに履修することを推奨する。</p> |
| 2-(2)
学科選択科目2 | <p>学科選択科目2は、交流文化学科固有の領域を学ぶための知識、分析技術、思考方法を学ぶ基礎的専門科目群の中で、学科選択科目1における学修を基礎とし、それを発展させた、より高度で専門的、個別的な科目群である。</p> |
| 2-(3)
学部共通科目
他学科選択科目 | <p>学部共通科目は、演習や新領域科目からなる科目群である。
 他学科選択科目は、他学科（観光学科）の学科選択科目1・2である。他学科の配当年次に合わせて履修できる。
 学部共通科目および他学科選択科目は、あわせて10単位を卒業要件単位数とする。</p> |
| 3. 自由科目 | <p>自由科目には学部自由科目と関連基礎科目があるが、このほかに自由科目の卒業要件単位に算入できる科目として、卒業要件単位数を超えて修得した学科選択科目1・2、学部共通科目および他学科選択科目（ともに上限なし）、言語自由科目・卒業要件単位数を超えて修得した全学共通科目・他学部科目・5大学間単位互換制度の科目（あわせて上限20単位）がある。</p> |
| 3-(1)
学部自由科目 | <p>学部自由科目は、演習、卒業論文、インターンシップなどの、講義形式ではない科目から構成される科目群である。</p> |
| 3-(2)
関連基礎科目 | <p>関連基礎科目は、観光学部で学ぶ上で基礎となる社会科学および人文科学などの科目群からなり、幅広い基礎学力の涵養を目指す。1年次から履修できる。</p> |
| 4. 随意科目 | <p>随意科目として指定される科目は、卒業要件単位に含めることはできない。</p> |
| 4-(1) | <p>〈各教科の指導法〉の科目（*）は、随意科目である。</p> |
| 4-(2) | <p>〈各教科の指導法〉の科目（*）については、成績参照画面上は「講座課程科目」区分に記載・算入される。</p> |
| 4-(3) | <p>* 社会・地理歴史科教育法1、社会・地理歴史科教育法演習1、社会・地理歴史科教育法2、社会・地理歴史科教育法演習2</p> |

交流文化学科 2019年度以降1年次入学者 卒業要件単位表

必修／選択 ／自由	科目区分	卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A 【全学共通】	6	16	124以上
	言語教育科目 言語B 【全学共通】	4		
	専門必修科目（導入科目（学びの技法）含む）	6		
選択科目	学びの精神 【全学共通】	4	74	
	多彩な学び 【全学共通】	14		
	スポーツ実習 【全学共通】			
	学科選択科目1	16		
	学科選択科目2	30		
	学部共通科目 他学科（*）選択科目	10		
自由科目	学部自由科目	制限なし	34以上	
	関連基礎科目			
	学科選択科目1・2、学部共通科目、他学科（*）選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位			
	言語自由科目 【全学共通】	0～20		
	学びの精神 【全学共通】			
	多彩な学び 【全学共通】			
	スポーツ実習 【全学共通】			
他学部科目				
5大学間単位互換制度（f-Campus）科目				

* 他学科とは観光学科を指す。

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

社会・地理歴史科教育法1，社会・地理歴史科教育法演習1，社会・地理歴史科教育法2，社会・地理歴史科教育法演習2は、随意科目である。

観光学部交流文化学科 学科目表

2019年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
必修科目							
専門必修科目 6単位							
自動登録	観光調査・研究法入門	専任教員 他	2	春	1	TRM1000	必修科目 (学びの技法)
自動登録	観光概論	専任教員	2	春	1	TRM1000	必修科目
自動登録	観光史	千住 一	2	秋	1	TRM1000	必修科目
選択科目							
学科選択科目1 16単位							
HB001	交流文化研究1 (地理学の方法)	佐藤大祐	2	秋	①・2・3・4	TRC1100	
HB011	交流文化論	大橋健一	2	秋	①・2・3・4	TRC1200	
HB002	交流文化研究2 (文化人類学の方法)	竹村和朗	2	春	①・2・3・4	TRC1200	
HB003	交流文化研究3 (社会学の方法)	高岡文章	2	秋	①・2・3・4	TRC1300	
HB004	交流文化研究4 (交流文学の方法)	舩谷 鋭	2	春	①・2・3・4	TRC1400	
	観光心理学		2		②・3・4	TRC2000	
	観光地理学1		2		②・3・4	TRC2100	
	観光地理学2		2		②・3・4	TRC2100	
	開発と文化		2		②・3・4	TRC2200	
	観光人類学1		2		②・3・4	TRC2200	
	観光人類学2		2		②・3・4	TRC2200	
	観光と文化		2		②・3・4	TRC2200	
	観光と宗教		2		②・3・4	TRC2200	
	文化政策論		2		②・3・4	TRC2200	
	観光消費論		2		②・3・4	TRC2300	
	観光社会学1		2		②・3・4	TRC2300	
	観光社会学2		2		②・3・4	TRC2300	
	交流文学論		2		②・3・4	TRC2400	
	旅行経験分析法		2		②・3・4	TRC2400	
	言説分析		2		②・3・4	TRC2400	
学科選択科目2 30単位							
	観光教育		2		②・3・4	TRC2000	
	文化地理学		2		②・3・4	TRC2100	
	日本地誌		2		②・3・4	TRC2100	
	外国地誌1		2		②・3・4	TRC2100	
	外国地誌2		2		②・3・4	TRC2100	
	外国地誌3		2		②・3・4	TRC2100	
	外国地誌4		2		②・3・4	TRC2100	
	文化混淆論		2		②・3・4	TRC2200	
	エスニックツーリズム論		2		②・3・4	TRC2200	
	比較文化論		2		②・3・4	TRC2200	
	ヘリテージツーリズム論		2		②・3・4	TRC2200	
	農村観光論		2		②・3・4	TRC2300	
	環境社会学		2		②・3・4	TRC2300	
	紀行文学論		2		②・3・4	TRC2400	
	アジア太平洋観光論		2		②・3・4	TRC2500	
	移住と定着		2		②・3・4	TRC2500	
	途上国の観光事業		2		②・3・4	TRC2500	
	植民地と観光		2		②・3・4	TRC2500	
HB112	米国欧州観光論	ウエノ・ラッセル	2	春他	1・2・3・4	TRC2503	集中講義
	場所論/風景論		2		3・4	TRC3000	
	日本のホスピタリティ		2		3・4	TRC3000	
	レジャー・レクリエーション論		2		3・4	TRC3000	

交流文化学科 2019年度入学者適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
	観光と自然環境		2		3・4	TRC3100	
	観光とジェンダー		2		3・4	TRC3200	
	地域文化と観光		2		3・4	TRC3200	
	観光地域社会論		2		3・4	TRC3300	
	言語と社会		2		3・4	TRC3400	
	トラベルジャーナリズム論		2		3・4	TRC3400	
	トラベルライティング		2		3・4	TRC3400	
	観光と国際協力		2		3・4	TRC3500	
	国際観光と地域交流		2		3・4	TRC3500	
学部共通科目（他学科選択科目と合わせて10単位）							
抽選登録	GIS演習	澁谷和樹	2	春	①・2・3・4	TRM1000	人数制限科目（25名）
HA608	観光の社会的広がり	越智郁乃	2	秋	①・2・3・4	TRM1000	
	観光デザイン論		2		3・4	TRM3000	
	観光感性論		2		3・4	TRM3000	
	観光ビジネスプロジェクトA		2		3・4	TRM3100	
	観光ビジネスプロジェクトB		2		3・4	TRM3100	
	観光リスクマネジメント		2		3・4	TRM3100	
他学科選択科目							
他学科の学科選択科目1・2			他学科の単位数・配当年次による				
自由科目							
学部自由科目							
その他	早期体験プログラム	門田岳久 他	2	通年	1	TRM1003	人数制限科目（108名）
	交流文化フィールドワーク論		2		②・3・4	TRM2000	
HA980	観光ビジネス計画論1	フックス・ピーター	2	秋	①・2・3・4	TRM1003	
	観光ビジネス計画論2		2		②・3・4	TRM2003	
抽選登録	観光ビジネスプラン（演習）1	フックス・ピーター	2	秋	①・2・3・4	TRM1003	人数制限科目（20名）
	観光ビジネスプラン（演習）2		2		②・3・4	TRM2003	
	E S P（Investment and Finance）1		2		②・3・4	TRM2003	
	E S P（Investment and Finance）2		2		②・3・4	TRM2003	
	言語と文化現地研修A		1		②・3・4	TRM2003	
	言語と文化現地研修B		1		②・3・4	TRM2003	
	観光特論1（中国語）		2		3・4	TRM3003	
	観光特論2（朝鮮語）		2		3・4	TRM3003	
	観光特論3（英語）		2		3・4	TRM3003	
	観光特論4（英語）		2		2・3・4	TRM3003	
	観光特論5（英語）		2		②・3・4	TRM2003	
	観光特論6（英語）		2		②・3・4	TRM2003	
	演習（2年）A		2		2	TRM2003	
	演習（2年）B		2		2	TRM2003	
	演習（3年）A		2		3	TRM3003	
	演習（3年）B		2		3	TRM3003	
	卒業研究指導A		2		4	TRM4003	
	卒業研究指導B		2		4	TRM4003	
	卒業論文		6		4	TRM4003	
	観光インターンシップA		1		3	TRM3100	
	観光インターンシップB		1		3	TRM3100	
	経団連インターンシップ		2		3	TRM3100	
	観光ビジネス概論		2		②・3・4	TRM2100	
	交通産業特論		2		3・4	TRM3100	
	観光地づくり		2		3・4	TRM3100	
	MICEの理論と実践		2		3・4	TRM3100	

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
	ガストロノミー（美食）と観光		2		2・3・4	TRM2100	
	観光IT戦略論		2		2・3・4	TRM2100	
関連基礎科目							
その他	データ情報処理	五十嵐 彰	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	教職課程登録者のみ
抽選登録	データ情報処理	五十嵐 彰	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	上記学生以外人数制限科目 (上記と合わせて48名)
HA815	経営学	黄 耀 偉	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
抽選登録	心理学1	近 藤 育 代	2	春	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
抽選登録	心理学2	白 石 智 子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
HA840	地理学1	中 山 大 地	2	春	①・2・3・4	TRC1200	
HA841	地理学2	中 山 大 地	2	秋	①・2・3・4	TRC1200	
HA842	日本史1	高江洲 昌哉	2	春	①・2・3・4	TRC1200	
HA843	日本史2	高江洲 昌哉	2	秋	①・2・3・4	TRC1200	
HA844	外国史1	三 王 昌 代	2	春	①・2・3・4	TRC1200	
HA845	外国史2	鹿 野 美 枝	2	秋	①・2・3・4	TRC1200	
HA846	地誌学	中 牧 崇	2	春	①・2・3・4	TRC1200	
HA827	生涯学習概論1	小 川 誠 子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA828	生涯学習概論2	小 川 誠 子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA829	社会教育施設論1	小 川 誠 子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA830	社会教育施設論2	小 川 誠 子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA831	社会教育計画1	米 澤 朋 英	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA832	社会教育計画2	米 澤 朋 英	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA833	職業指導概論1	佐々木 尚毅	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA834	職業指導概論2	佐々木 尚毅	2	春他	①・2・3・4	TRM1200	集中講義
HA835	商法1	金 澤 大 祐	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA836	商法2	金 澤 大 祐	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA837	自然地理学	中 山 大 地	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA801	文学	岡 部 杏 子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA847	哲学	加 藤 喜 市	2	秋	①・2・3・4	TRC1200	
HA803	人類学	丹 羽 朋 子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA804	美学	鞍 田 崇	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA805	民法	薬師丸 正二郎	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
随意科目（教職課程登録者のみ履修可 卒業要件単位にならない）							
【教職課程登録者対象】 以下の科目は、教職課程登録者のみ履修を可とする。修得した単位は、卒業要件単位に参入されない。 詳細については、学校・社会教育講座の履修要項を参照すること。							
＜各教科の指導法＞ 「社会・地理歴史科教育法1」「社会・地理歴史科教育法2」「社会・地理歴史科教育法演習1」「社会・地理歴史科教育法演習2」							
他学部科目（「教科に関する専門的事項」）							
【教職課程登録者対象】 以下の科目は、教職課程登録者のみ教員免許状取得の要件となる。教職課程登録者でなくとも履修は可とする。修得した単位は、卒業要件単位の自由科目（他学部科目）に算入される。科目の詳細については、コミュニティ福祉学部の履修要項を参照すること。							
＜教科に関する専門的事項＞ 「法学1」「法学2」「政治学」「社会学1」「社会学2」「経済学」							
○付きの数字は推奨年次を表す。							

学科ごとの 履修規定 カリキュラム

2016～2018年度1年次入学者適用

観光学科

観光学科の専門教育科目

観光学科 学科目表

交流文化学科

交流文化学科の専門教育科目

交流文化学科 学科目表

観光学科の 専門教育科目

専門教育科目は必修科目（専門必修科目）、選択科目（学科選択科目1・2、学部共通科目、他学科選択科目）、自由科目（学部自由科目、関連基礎科目）から構成される。

専門教育科目の特色

企業経営や地域計画、自治体行政など様々な場面で新しい観光のあり方を構想し、観光ビジネスの革新、地域振興に寄与しうるリーダーの育成を目指す。そのため、「観光ビジネスの経営」と「観光による地域振興」という2つの視点から旅行業、宿泊業、運輸業（航空・鉄道等）などの経営や地域の観光施策等についての学びに加えて、新たな観光価値創造の可能性を模索し、事業化していくための方策、環境や社会・文化的背景に配慮した観光地づくりのあり方も学修する。

1 観光学科の専門教育科目

- | | |
|--------------------------------------|---|
| <p>1. 必修科目
1-(1)
専門必修科目</p> | <p>専門必修科目は、学修・研究活動の基礎となる知識やスキルを学び、同時に観光学の研究領域の概要を理解するための入門的な学修を行う。原則として1年次で履修する。</p> |
| <p>2. 選択科目
2-(1)
学科選択科目1</p> | <p>学科選択科目1は、観光学科固有の領域を学ぶための知識、分析手法、思考方法を学ぶ基礎的専門科目群の中で、基礎的なものならびに応用的な内容を展開する科目群である。2年次までに履修することを推奨する。</p> |
| <p>2-(2)
学科選択科目2</p> | <p>学科選択科目2は、観光学科固有の領域を学ぶための知識、分析手法、思考方法を学ぶ基礎的専門科目群の中で、学科選択科目1における学修を基礎とし、それを発展させた、より高度で専門的、個別的な科目群である。</p> |
| <p>2-(3)
学部共通科目
他学科選択科目</p> | <p>学部共通科目は、演習や新領域科目からなる科目群である。
他学科選択科目は、他学科（交流文化学科）の学科選択科目1・2である。他学科の配当年次に合わせて履修できる。
学部共通科目および他学科選択科目は、あわせて10単位を卒業要件単位数とする。</p> |
| <p>3. 自由科目</p> | <p>自由科目には学部自由科目と関連基礎科目があるが、このほかに自由科目の卒業要件単位数に算入できる科目として、卒業要件単位数を超えて修得した学科選択科目1・2、学部共通科目および他学科選択科目（ともに上限なし）、言語自由科目・卒業要件単位数を超えて修得した全学共通科目・他学部科目・5大学間単位互換制度の科目（あわせて上限20単位）がある。</p> |
| <p>3-(1)
学部自由科目</p> | <p>学部自由科目は、演習、卒業論文、インターンシップなどの科目から構成される科目群である。</p> |
| <p>3-(2)
関連基礎科目</p> | <p>関連基礎科目は、観光学部で学ぶ上で基礎となる社会科学および人文科学などの科目群からなり、幅広い基礎学力の涵養を目指す。1年次から履修できる。</p> |

観光学科 2016～2018年度1年次入学者 卒業要件単位表

必修／選択 ／自由	科目区分	卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A 【全学共通】	6	16	124以上
	言語教育科目 言語B 【全学共通】	4		
	専門必修科目（導入科目（学びの技法）含む）	6		
選択科目	学びの精神 【全学共通】	4	74	
	多彩な学び 【全学共通】	14		
	スポーツ実習 【全学共通】			
	学科選択科目1	16		
	学科選択科目2	30		
	学部共通科目 他学科（*）選択科目	10		
自由科目	学部自由科目	制限なし	34以上	
	関連基礎科目			
	学科選択科目1・2、学部共通科目、他学科（*）選択科目の 卒業要件単位数を超えて修得した単位			
	言語自由科目 【全学共通】	0～20		
	学びの精神 【全学共通】 多彩な学び 【全学共通】 スポーツ実習 【全学共通】			}の卒業要件単位数を超えて修得した単位
	他学部科目			
	5大学間単位互換制度（f-Campus）科目			

*他学科とは交流文化学科を指す。

- ◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。
- ◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

観光学部観光学科 学科目表

2016～2018年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
必修科目							
専門必修科目 6単位							
自動登録	観光調査・研究法入門	専任教員 他	2	春	1	TRM1000	必修科目 (学びの技法)
自動登録	観光概論	専任教員	2	春	1	TRM1000	必修科目
自動登録	観光史	千住 一	2	秋	1	TRM1000	必修科目
選択科目							
学科選択科目1 16単位							
HA009	観光事業論	羽生 冬佳	2	春	①・2・3・4	TRS1000	
HA081	観光経済学	麻生 憲一	2	秋	①・2・3・4	TRS1000	
HA008	経営学総論	藤波 美帆	2	秋	①・2・3・4	TRS1100	
HA085	観光行動論	橋本 俊哉	2	秋	②・3・4	TRS2000	
HA086	観光調査法	相澤 孝文	2	春	②・3・4	TRS2000	
HA118	観光政策・行政論	梅川 智也	2	春	②・3・4	TRS2000	
HA119	国際観光政策論	村上 雅巳	2	秋	②・3・4	TRS2000	
HA030	起業論	フックス・ピーター	2	秋	②・3・4	TRS2100	
HA047	投資計画論	フックス・ピーター	2	秋	②・3・4	TRS2100	
HA087	マーケティング総論	東 徹	2	春	②・3・4	TRS2100	
HA360	企業情報分析	野田 健太郎	2	春	②・3・4	TRS2100	
HA361	組織と人的資源経営	村上 綱実	2	春	②・3・4	TRS2100	
HA362	経営戦略論	二木 真	2	秋	②・3・4	TRS2100	隔週開講
HA366	簿記論	井出 健二郎	2	春	②・3・4	TRS2100	
HA363	観光計画論	羽生 冬佳	2	秋	②・3・4	TRS2300	
HA365	観光施設論	林 憲吾	2	春	②・3・4	TRS2300	
学科選択科目2 30単位							
HA082	地域経済学	麻生 憲一	2	春	②・3・4	TRS2000	
HA385	宿泊産業概論	平 浩一郎	2	春	②・3・4	TRS2200	
HA350	宿泊産業組織論	池尾 健	2	秋	②・3・4	TRS2200	
HA387	旅行産業論	野澤 肇	2	春	②・3・4	TRS2200	
HA095	外食産業論	丹治 朋子	2	春	②・3・4	TRS2200	
HA103	観光交通論 (鉄道等)	味水 佑毅	2	秋	②・3・4	TRS2200	
HA104	観光交通論 (国際航空)	岡村 克彦	2	秋	②・3・4	TRS2200	
抽選登録	旅行産業演習1 (A)	野澤 肇	2	春	2	TRS2200	人数制限科目 (20名)
自動登録	旅行産業演習1 (B)	野澤 肇	2	秋	2	TRS2200	同一年度「旅行産業演習1 (A)」履修者のみ対象
その他	宿泊産業演習1 (A)	近藤 寛和	2	春	2	TRS2200	
自動登録	宿泊産業演習1 (B)	近藤 寛和	2	秋	2	TRS2200	同一年度「宿泊産業演習1 (A)」履修者のみ対象
その他	観光地研究演習1 (A)	梅川 智也	2	春	2	TRS2200	
自動登録	観光地研究演習1 (B)	梅川 智也	2	秋	2	TRS2200	同一年度「観光地研究演習1 (A)」履修者のみ対象
HA106	エコツーリズム論	海津 ゆりえ	2	秋	②・3・4	TRS2300	
HA107	都市観光論	杜 国慶	2	春	②・3・4	TRS2300	
HA970	風土と観光	小野 良平	2	秋	②・3・4	TRS2300	
HA971	市民参加とまちづくり	西川 亮	2	秋	②・3・4	TRS2300	
HA120	ビジネスコミュニケーション	池尾 健	2	春	②・3・4	TRS2400	
HA333	サービス・マネジメント	東 徹	2	秋	3・4	TRS3100	
HA352	ホスピタリティ産業経営	韓 志昊	2	春	3・4	TRS3100	
HA386	ホテルアセットマネジメント論	平 浩一郎	2	秋	3・4	TRS3100	
HA345	コンベンション産業論	岡村 篤	2	秋	3・4	TRS3200	隔週開講
HA389	ITビジネス論	野田 健太郎	2	秋	3・4	TRS3200	
HA392	産業構造論	鈴木 康永	2	秋	3・4	TRS3200	
HA960	都市型エンターテイメント論	山口 有次	2	春他	3・4	TRS3200	集中講義
その他	旅行産業演習2 (A)	野澤 肇	2	春	3	TRS3200	

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
自動登録	旅行産業演習2 (B)	野澤 肇	2	秋	3	TRS3200	同一年度「旅行産業演習2 (A)」履修者のみ対象
その他	宿泊産業演習2 (A)	井門 隆夫	2	春	3	TRS3200	
自動登録	宿泊産業演習2 (B)	井門 隆夫	2	秋	3	TRS3200	同一年度「宿泊産業演習2 (A)」履修者のみ対象
その他	観光地研究演習2 (A)	梅川 智也	2	春	3	TRS3200	
自動登録	観光地研究演習2 (B)	梅川 智也	2	秋	3	TRS3200	同一年度「観光地研究演習2 (A)」履修者のみ対象
抽選登録	政策評価論	長谷川 明彦	2	秋	3・4	TRS3200	人数制限科目 (48名)
HA347	地域開発論	北川 泰三	2	春	3・4	TRS3300	
HA348	環境・景観論	小野 良平	2	春	3・4	TRS3300	
HA349	都市計画論	西川 亮	2	春	2・3・4	TRS3300	
HA375	観光地運営管理論	梅川 智也	2	秋	3・4	TRS3300	
HA080	施設・空間造形論	鞍田 崇	2	春	3・4	TRS3300	
HA305	観光営業法	薬師丸 正二郎	2	秋	3・4	TRS3400	
HA316	プロジェクトファイナンス	五十嵐 誠	2	春	3・4	TRS3400	
HA338	旅行情報システム	野口 洋平	2	秋	3・4	TRS3400	
HA344	旅行業経営実務	野澤 肇	2	秋	3・4	TRS3400	
HA388	企業金融と会計	井出 健二郎	2	秋	3・4	TRS3400	
HA391	観光行政法	小池 修司	2	秋	3・4	TRS3400	
学部共通科目 (他学科選択科目と合わせて10単位)							
抽選登録	GIS演習	澁谷 和樹	2	春	①・2・3・4	TRM1000	人数制限科目 (25名)
HA608	観光の社会的広がり	越智 郁乃	2	秋	①・2・3・4	TRM1000	
HA602	観光デザイン論	マーク伊東	2	春	3・4	TRM3000	
HA603	観光感性論	橋本 俊哉	2	春	3・4	TRM3000	
抽選登録	観光ビジネスプロジェクトA	那須 一貴	2	春	3・4	TRM3100	人数制限科目 (24名)
自動登録	観光ビジネスプロジェクトB	那須 一貴	2	秋	3・4	TRM3100	同一年度「観光ビジネスプロジェクトA」履修者のみ対象
HA604	観光リスクマネジメント	小池 修司	2	春	3・4	TRM3100	
他学科選択科目							
他学科の学科選択科目1・2			他学科の単位数・配当年次による				
自由科目							
学部自由科目							
その他	早期体験プログラム	門田 岳久 他	2	通年	1	TRM1003	人数制限科目 (108名) 2018年度1年次休学者は履修可
HB415	交流文化フィールドワーク論	小西 公大	2	春	②・3・4	TRM2000	
HA980	観光ビジネス計画論1	フックス・ピーター	2	秋	①・2・3・4	TRM1003	
HA981	観光ビジネス計画論2	フックス・ピーター	2	春	②・3・4	TRM2003	
抽選登録	観光ビジネスプラン (演習) 1	フックス・ピーター	2	秋	①・2・3・4	TRM1003	人数制限科目 (20名)
その他	観光ビジネスプラン (演習) 2	フックス・ピーター	2	春	②・3・4	TRM2003	
HA984	E S P (Investment and Finance) 1	フックス・ピーター	2	春	②・3・4	TRM2003	
HA985	E S P (Investment and Finance) 2	フックス・ピーター	2	秋	②・3・4	TRM2003	
その他	言語と文化現地研修A	杜 国慶 他	1	春	②・3・4	TRM2003	
自動登録	言語と文化現地研修B	豊田 三佳 他	1	秋	②・3・4	TRM2003	同一年度「言語と文化現地研修A」履修者のみ対象
抽選登録	観光特論1 (中国語)	張 碧 恵	2	春	3・4	TRM3003	人数制限科目 (20名)
抽選登録	観光特論2 (朝鮮語)	鄭 玉 姫	2	春	3・4	TRM3003	人数制限科目 (20名)
抽選登録	観光特論3 (英語)		2	休講	3・4	TRM3003	人数制限科目 (20名)
抽選登録	観光特論4 (英語)	ウエノ・ラッセル	2	春他	2・3・4	TRM3003	人数制限科目 (20名)・集中講義
抽選登録	観光特論5 (英語)	藤田 玲子	2	秋	②・3・4	TRM2003	人数制限科目 (30名)
HA518	観光特論6 (英語)	韓 志 昊	2	秋	②・3・4	TRM2003	
その他	演習 (2年) A	麻生 憲一 東 徹 韓 志 昊 羽生 冬佳 井手 拓郎 永井 恵一	2	春	2	TRM2003	

観光学科 2016～2018年度入学者適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
その他	演習（2年）A	西川 亮 野田 健太郎 小野 良平 澁谷 和樹 庄司 貴行 杜 国慶 石橋 正孝 門田 岳久 葛野 浩昭 舛谷 鋭 松村 公明 大橋 健一 佐藤 大祐 千住 一 高岡 文章 李 崗	2	春	2	TRM2003	
自動登録	演習（2年）B	麻生 憲一 東 徹 韓 志昊 羽生 冬佳 井手 拓郎 永井 恵一 西川 亮 野田 健太郎 小野 良平 澁谷 和樹 庄司 貴行 未定 石橋 正孝 門田 岳久 葛野 浩昭 舛谷 鋭 丸山 宗志 大橋 健一 佐藤 大祐 千住 一 高岡 文章 豊田 三佳	2	秋	2	TRM2003	同一年度「演習（2年）A」履修者のみ対象
その他	演習（3年）A	麻生 憲一 東 徹 韓 志昊 羽生 冬佳 橋本 俊哉 鞍田 崇 西川 亮 野田 健太郎 小野 良平 澁谷 和樹 庄司 貴行 杜 国慶 石橋 正孝 門田 岳久 葛野 浩昭 羽生 敦子	2	春	3	TRM3003	

観光学科 2016～2018年度入学者適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
その他	演習（3年）A	松村公明 越智郁乃 大橋健一 佐藤大祐 千住一 高岡文章 李崗	2	春	3	TRM3003	
自動登録	演習（3年）B	麻生憲一 東徹 韓志昊 羽生冬佳 橋本俊哉 鞍田崇亮 西川亮 野田健太郎 小野良平 澁谷和樹 庄司貴行 未定 石橋正孝 門田岳久 葛野浩昭 羽生敦子 丸山宗志 越智郁乃 大橋健一 佐藤大祐 千住一 高岡文章 豊田三佳	2	秋	3	TRM3003	同一年度「演習（3年）A」履修者のみ対象
その他	卒業研究指導A	麻生憲一 東徹 韓志昊 羽生冬佳 橋本俊哉 李崗 野田健太郎 小野良平 庄司貴行 杜国慶 石橋正孝 門田岳久 葛野浩昭 福島康博 松村公明 越智郁乃 大橋健一 佐藤大祐 千住一 高岡文章 鈴木涼太郎 須永和博	2	春	4	TRM4003	
自動登録	卒業研究指導B	麻生憲一 東徹	2	秋	4	TRM4003	同一年度「卒業研究指導A」履修者のみ対象

観光学科 2016~2018年度入学者適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
自動登録	卒業研究指導B	韓 志 昊 羽 生 冬 佳 橋 本 俊 哉 李 崗 野 田 健太郎 小 野 良 平 庄 司 貴 行 澁 谷 和 樹 石 橋 正 孝 門 田 岳 久 葛 野 浩 昭 福 島 康 博 丸 山 宗 志 越 智 郁 乃 大 橋 健 一 佐 藤 大 祐 千 住 一 高 岡 文 章 鈴 木 涼 太 郎 豊 田 三 佳	2	秋	4	TRM4003	同一年度「卒業研究指導A」履修者のみ対象
自動登録	卒業論文	麻 生 憲 一 東 徹 韓 志 昊 羽 生 冬 佳 橋 本 俊 哉 李 崗 野 田 健太郎 小 野 良 平 庄 司 貴 行 澁 谷 和 樹 石 橋 正 孝 門 田 岳 久 葛 野 浩 昭 福 島 康 博 丸 山 宗 志 越 智 郁 乃 大 橋 健 一 佐 藤 大 祐 千 住 一 高 岡 文 章 鈴 木 涼 太 郎 豊 田 三 佳	6	秋	4	TRM4003	卒業研究指導Bと同時履修
その他	観光インターンシップA	東・柳川・清野	1	春	3	TRM3100	
自動登録	観光インターンシップB	東・柳川・清野	1	秋	3	TRM3100	同一年度「観光インターンシップA」履修者のみ対象
その他	経団連インターンシップ	野 田・森 島	2	通年	3	TRM3100	一般社団法人日本経済団体連合会寄付講座
HA901	観光ビジネス概論	丹 治 朋 子	2	春	②・3・4	TRM2100	立教観光クラブ寄付講座
抽選登録	交通産業特論	森 紀 人	2	春	3・4	TRM3100	株式会社A N A 総合研究所寄付講座
HA377	観光地づくり	吉澤・守屋・菅野・中野・後藤	2	春	3・4	TRM3100	公益財団法人日本交通公社寄付講座
抽選登録	MICEの理論と実践	関 口 陽 介	2	秋	3・4	TRM3100	日本コンベンションサービス株式会社寄付講座 人数制限科目(50名), 隔週開講
HA942	ガストロノミー(美食)と観光	小 山 伸 二	2	春	2・3・4	TRM2100	辻調理師専門学校寄付講座
HA943	観光IT戦略論	角 谷 恭 一	2	春	2・3・4	TRM2100	株式会社NTTデータ寄付講座
関連基礎科目							
その他	データ情報処理	五十嵐 彰	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	教職課程登録者のみ

観光学科 2016～2018年度入学者適用

科目 コード	科目名	担当者	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	備 考
抽選登録	データ情報処理	五十嵐 彰	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	上記学生以外人数制限科目 (上記と合わせて48名)
HA811	法学1	小野 義典	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA812	法学2	小野 義典	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA813	政治学	藤井 達夫	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA814	経済学	石井 優子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA815	経営学	黄 耀 偉	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
抽選登録	社会学1	入江 公康	2	春	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
抽選登録	社会学2	入江 公康	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
抽選登録	心理学1	近藤 育代	2	春	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
抽選登録	心理学2	白石 智子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
HA820	地理学1	中山 大地	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA821	地理学2	中山 大地	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA822	日本史1	高江洲 昌哉	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA823	日本史2	高江洲 昌哉	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA824	外国史1	三王 昌代	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA825	外国史2	鹿野 美枝	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA826	地誌学	中牧 崇	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA827	生涯学習概論1	小川 誠子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA828	生涯学習概論2	小川 誠子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA829	社会教育施設論1	小川 誠子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA830	社会教育施設論2	小川 誠子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA831	社会教育計画1	米澤 朋英	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA832	社会教育計画2	米澤 朋英	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA833	職業指導概論1	佐々木 尚毅	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA834	職業指導概論2	佐々木 尚毅	2	春他	①・2・3・4	TRM1200	集中講義
HA835	商法1	金澤 大祐	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA836	商法2	金澤 大祐	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA837	自然地理学	中山 大地	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA801	文学	岡部 杏子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA802	哲学	加藤 喜市	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA803	人類学	丹羽 朋子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA804	美学	鞍田 崇	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA805	民法	薬師丸 正二郎	2	春	①・2・3・4	TRM1200	

○付きの数字は推奨年次を表す。

交流文化学科の 専門教育科目

専門教育科目は必修科目（専門必修科目）、選択科目（学科選択科目1・2、学部共通科目、他学科選択科目）、自由科目（学部自由科目、関連基礎科目）から構成される。

専門教育科目の特色

グローバル化、ボーダレス化が急速に進んだ20世紀後半から、人の移動=交流のもつ社会的・文化的意味はその重要性を増しつつある。国際親善や文化的交流を含む人の移動=交流を、広い意味での観光現象としてとらえ、その交流的側面が人々の生活や社会に与える影響を考える。また観光がもたらす社会的、文化的影響を明らかにする地域研究の方法を学ぶことによって、異文化への視点を養い、多文化的状況の中で交流の実をあげうる、新しいタイプの国際的人材の育成を目指す。

1 交流文化学科の専門教育科目

- | | |
|--|--|
| <p>1. 必修科目</p> <p>1-(1)</p> <p>専門必修科目</p> | <p>専門必修科目は、大学での充実した学修・研究活動の基礎となる知識やスキルを学び、同時に観光学の研究領域の概要を理解するための入門的な学修をおこなう。原則として1年次で履修する。</p> |
| <p>2. 選択科目</p> <p>2-(1)</p> <p>学科選択科目1</p> | <p>学科選択科目1は、交流文化学科固有の領域を学ぶための知識、分析技術、思考方法を学ぶ基礎的専門科目群の中で、基礎的なものならびに応用的な内容を展開する科目群である。2年次までに履修することを推奨する。</p> |
| <p>2-(2)</p> <p>学科選択科目2</p> | <p>学科選択科目2は、交流文化学科固有の領域を学ぶための知識、分析技術、思考方法を学ぶ基礎的専門科目群の中で、学科選択科目1における学修を基礎とし、それを発展させた、より高度で専門的、個別的な科目群である。</p> |
| <p>2-(3)</p> <p>学部共通科目</p> <p>他学科選択科目</p> | <p>学部共通科目は、演習や新領域科目からなる科目群である。</p> <p>他学科選択科目は、他学科（観光学科）の学科選択科目1・2である。他学科の配当年次に合わせて履修できる。</p> <p>学部共通科目および他学科選択科目は、あわせて10単位を卒業要件単位数とする。</p> |
| <p>3. 自由科目</p> | <p>自由科目には学部自由科目と関連基礎科目があるが、このほかに自由科目の卒業要件単位数に算入できない科目として、卒業要件単位数を超えて修得した学科選択科目1・2、学部共通科目および他学科選択科目（ともに上限なし）、言語自由科目・卒業要件単位数を超えて修得した全学共通科目・他学部科目・5大学間単位互換制度の科目（あわせて上限20単位）がある。</p> |
| <p>3-(1)</p> <p>学部自由科目</p> | <p>学部自由科目は、演習、卒業論文、インターンシップなどの、講義形式ではない科目から構成される科目群である。</p> |
| <p>3-(2)</p> <p>関連基礎科目</p> | <p>関連基礎科目は、観光学部で学ぶ上で基礎となる社会科学および人文科学などの科目群からなり、幅広い基礎学力の涵養を目指す。1年次から履修できる。</p> |

交流文化学科 2016～2018年度1年次入学者 卒業要件単位表

必修／選択 ／自由	科目区分	卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A 【全学共通】	6	16	124以上
	言語教育科目 言語B 【全学共通】	4		
	専門必修科目（導入科目（学びの技法）含む）	6		
選択科目	学びの精神 【全学共通】	4	74	
	多彩な学び 【全学共通】	14		
	スポーツ実習 【全学共通】			
	学科選択科目 1	16		
	学科選択科目 2	30		
	学部共通科目 他学科（*）選択科目	10		
自由科目	学部自由科目	制限なし	34以上	
	関連基礎科目			
	学科選択科目1・2、学部共通科目、他学科（*）選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位			
	言語自由科目 【全学共通】	0～20		
	学びの精神 【全学共通】			
	多彩な学び 【全学共通】			
	スポーツ実習 【全学共通】			
他学部科目				
5大学間単位互換制度（f-Campus）科目				

*他学科とは観光学科を指す。

- ◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。
- ◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

観光学部交流文化学科 学科目表

2016~2018年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
必修科目							
専門必修科目 6単位							
自動登録	観光調査・研究法入門	専任教員 他	2	春	1	TRM1000	必修科目 (学びの技法)
自動登録	観光概論	専任教員	2	春	1	TRM1000	必修科目
自動登録	観光史	千住 一	2	秋	1	TRM1000	必修科目
選択科目							
学科選択科目1 16単位							
HB001	交流文化研究1 (地理学の方法)	佐藤大祐	2	秋	①・2・3・4	TRC1100	
HB011	交流文化論	大橋健一	2	秋	①・2・3・4	TRC1200	
HB002	交流文化研究2 (文化人類学の方法)	竹村和朗	2	春	①・2・3・4	TRC1200	
HB003	交流文化研究3 (社会学の方法)	高岡文章	2	秋	①・2・3・4	TRC1300	
HB004	交流文化研究4 (交流文学の方法)	舩谷 鋭	2	春	①・2・3・4	TRC1400	
HB055	観光心理学	中村 哲	2	春	②・3・4	TRC2000	
HB063	観光地理学1	呉羽正昭	2	春	②・3・4	TRC2100	
HB064	観光地理学2	松村公明	2	春	②・3・4	TRC2100	
HB029	開発と文化	内藤順子	2	春	②・3・4	TRC2200	
HB073	観光人類学1	葛野浩昭	2	春	②・3・4	TRC2200	
HB074	観光人類学2	須永 和博	2	秋	②・3・4	TRC2200	
HB085	観光と文化	大橋健一	2	春	②・3・4	TRC2200	
HB086	観光と宗教	門田岳久	2	秋	②・3・4	TRC2200	
HB105	文化政策論	小西公大	2	秋	②・3・4	TRC2200	
HB024	観光消費論	須永 和博	2	春	②・3・4	TRC2300	
HB083	観光社会学1	新井克弥	2	秋	②・3・4	TRC2300	
HB084	観光社会学2	高岡文章	2	春	②・3・4	TRC2300	
HB109	交流文学論	舩谷 鋭	2	秋	②・3・4	TRC2400	
HB107	旅行経験分析法	小林 実	2	秋	②・3・4	TRC2400	
HB108	言説分析	石橋正孝	2	秋	②・3・4	TRC2400	
学科選択科目2 30単位							
HB136	観光教育	鈴木涼太郎	2	秋	②・3・4	TRC2000	
HB137	文化地理学	松井圭介	2	春	②・3・4	TRC2100	
HB305	日本地誌	中牧 崇	2	春	②・3・4	TRC2100	
HB313	外国地誌1	松村公明	2	春	②・3・4	TRC2100	
HB314	外国地誌2	石井久生	2	春	②・3・4	TRC2100	
HB315	外国地誌3	未定	2	秋	②・3・4	TRC2100	
HB316	外国地誌4	大塚直樹	2	春	②・3・4	TRC2100	
HB116	文化混淆論	今泉良太	2	秋	②・3・4	TRC2200	
HB119	エスニックツーリズム論	葛野浩昭	2	春	②・3・4	TRC2200	
HB329	比較文化論	吉田ゆか子	2	秋	②・3・4	TRC2200	
HB127	ヘリテージツーリズム論	加藤久子	2	春	②・3・4	TRC2200	
HB126	農村観光論	嵩 和雄	2	秋	②・3・4	TRC2300	
HB339	環境社会学	湯浅陽一	2	秋	②・3・4	TRC2300	
HB135	紀行文学論	石橋正孝	2	秋	②・3・4	TRC2400	
HB111	アジア太平洋観光論	越智郁乃	2	春	②・3・4	TRC2500	
HB115	移住と定着	今泉良太	2	春	②・3・4	TRC2500	
HB117	途上国の観光事業	安田 慎	2	秋	②・3・4	TRC2500	
HB118	植民地と観光	千住 一	2	春	②・3・4	TRC2500	
HB112	米国欧州観光論	ウエノ・ラッセル	2	春他	1・2・3・4	TRC2503	集中講義
HB346	場所論/風景論	室井康成	2	秋	3・4	TRC3000	
HB375	日本のホスピタリティ	安原眞琴	2	春	3・4	TRC3000	
HB377	レジャー・レクリエーション論	宮入恭平	2	秋	3・4	TRC3000	

交流文化学科 2016~2018年度入学者適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
HB374	観光と自然環境	中井達郎	2	秋	3・4	TRC3100	
HB337	観光とジェンダー	豊田三佳	2	秋	3・4	TRC3200	
HB357	地域文化と観光	宮下克也	2	春	3・4	TRC3200	
HB359	観光地域社会論	秋山綾	2	春	3・4	TRC3300	
HB368	言語と社会	石橋正孝	2	春	3・4	TRC3400	
HB373	トラベルジャーナリズム論	田中真知	2	春	3・4	TRC3400	
HB376	トラベルライティング	抜井ゆかり	2	春	3・4	TRC3400	
HB381	観光と国際協力	下田恭美	2	秋	3・4	TRC3500	
HB370	国際観光と地域交流	澁谷和樹	2	秋	3・4	TRC3500	
学部共通科目（他学科選択科目と合わせて10単位）							
抽選登録	GIS演習	澁谷和樹	2	春	①・2・3・4	TRM1000	人数制限科目（25名）
HA608	観光の社会的広がり	越智郁乃	2	秋	①・2・3・4	TRM1000	
HA602	観光デザイン論	マーク伊東	2	春	3・4	TRM3000	
HA603	観光感性論	橋本俊哉	2	春	3・4	TRM3000	
抽選登録	観光ビジネスプロジェクトA	那須一貴	2	春	3・4	TRM3100	人数制限科目（24名）
自動登録	観光ビジネスプロジェクトB	那須一貴	2	秋	3・4	TRM3100	同一年度「観光ビジネスプロジェクトA」履修者のみ対象
HA604	観光リスクマネジメント	小池修司	2	春	3・4	TRM3100	
他学科選択科目							
他学科の学科選択科目1・2			他学科の単位数・配当年次による				
自由科目							
学部自由科目							
その他	早期体験プログラム	門田岳久 他	2	通年	1	TRM1003	人数制限科目（108名） 2018年度1年次休学者は履修可
HB415	交流文化フィールドワーク論	小西公大	2	春	②・3・4	TRM2000	
HA980	観光ビジネス計画論1	フックス・ピーター	2	秋	①・2・3・4	TRM1003	
HA981	観光ビジネス計画論2	フックス・ピーター	2	春	②・3・4	TRM2003	
抽選登録	観光ビジネスプラン（演習）1	フックス・ピーター	2	秋	①・2・3・4	TRM1003	人数制限科目（20名）
その他	観光ビジネスプラン（演習）2	フックス・ピーター	2	春	②・3・4	TRM2003	
HA984	E S P（Investment and Finance）1	フックス・ピーター	2	春	②・3・4	TRM2003	
HA985	E S P（Investment and Finance）2	フックス・ピーター	2	秋	②・3・4	TRM2003	
その他	言語と文化現地研修A	杜国慶 他	1	春	②・3・4	TRM2003	
自動登録	言語と文化現地研修B	豊田三佳 他	1	秋	②・3・4	TRM2003	同一年度「言語と文化現地研修A」履修者のみ対象
抽選登録	観光特論1（中国語）	張碧恵	2	春	3・4	TRM3003	人数制限科目（20名）
抽選登録	観光特論2（朝鮮語）	鄭玉姫	2	春	3・4	TRM3003	人数制限科目（20名）
抽選登録	観光特論3（英語）		2	休講	3・4	TRM3003	人数制限科目（20名）
抽選登録	観光特論4（英語）	ウエノ・ラッセル	2	春他	2・3・4	TRM3003	人数制限科目（20名）・集中講義
抽選登録	観光特論5（英語）	藤田玲子	2	秋	②・3・4	TRM2003	人数制限科目（30名）
HA518	観光特論6（英語）	韓志昊	2	秋	②・3・4	TRM2003	
その他	演習（2年）A	麻生憲一 東徹 韓志昊 羽生冬佳 井手拓郎 永井恵一 西川亮 野田健太郎 小野良平 澁谷和樹 庄司貴行 杜国慶 石橋正孝 門田岳久	2	春	2	TRM2003	

交流文化学科 2016~2018年度入学者適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
その他	演習(2年)A	葛野浩昭 舩谷鋭 松村公明 大橋健一 佐藤大祐 千住一 高岡文章 李崗	2	春	2	TRM2003	
自動登録	演習(2年)B	麻生憲一 東徹 韓志昊 羽生冬佳 井手拓郎 永井恵一 西川亮 野田健太郎 小野良平 澁谷和樹 庄司貴行 未定 石橋正孝 門田岳久 葛野浩昭 舩谷鋭 丸山宗志 大橋健一 佐藤大祐 千住一 高岡文章 豊田三佳	2	秋	2	TRM2003	同一年度「演習(2年)A」履修者のみ対象
その他	演習(3年)A	麻生憲一 東徹 韓志昊 羽生冬佳 橋本俊哉 鞍田崇 西川亮 野田健太郎 小野良平 澁谷和樹 庄司貴行 杜国慶 石橋正孝 門田岳久 葛野浩昭 羽生敦子 松村公明 越智郁乃 大橋健一 佐藤大祐 千住一 高岡文章 李崗	2	春	3	TRM3003	
自動登録	演習(3年)B	麻生憲一	2	秋	3	TRM3003	同一年度「演習(3年)A」履修者のみ対象

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
自動登録	演習（3年）B	東 徹 韓 志 昊 羽 生 冬 佳 橋 本 俊 哉 鞍 田 崇 西 川 亮 野 田 健太郎 小 野 良 平 澁 谷 和 樹 庄 司 貴 行 未 定 石 橋 正 孝 門 田 岳 久 葛 野 浩 昭 羽 生 敦 子 丸 山 宗 志 越 智 郁 乃 大 橋 健 一 佐 藤 大 祐 千 住 一 高 岡 文 章 豊 田 三 佳	2	秋	3	TRM3003	同一年度「演習（3年）A」履修者のみ対象
その他	卒業研究指導A	麻 生 憲 一 東 徹 韓 志 昊 羽 生 冬 佳 橋 本 俊 哉 李 崗 野 田 健太郎 小 野 良 平 庄 司 貴 行 杜 国 慶 石 橋 正 孝 門 田 岳 久 葛 野 浩 昭 福 島 康 博 松 村 公 明 越 智 郁 乃 大 橋 健 一 佐 藤 大 祐 千 住 一 高 岡 文 章 鈴 木 涼 太 郎 須 永 和 博	2	春	4	TRM4003	
自動登録	卒業研究指導B	麻 生 憲 一 東 徹 韓 志 昊 羽 生 冬 佳 橋 本 俊 哉 李 崗 野 田 健太郎 小 野 良 平 庄 司 貴 行 澁 谷 和 樹	2	秋	4	TRM4003	同一年度「卒業研究指導A」履修者のみ対象

交流文化学科 2016~2018年度入学者適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
自動登録	卒業研究指導B	石橋正孝	2	秋	4	TRM4003	同一年度「卒業研究指導A」履修者のみ対象
		門田岳久					
		葛野浩昭					
		福島康博					
		丸山宗志					
		越智郁乃					
		大橋健一					
		佐藤大祐					
		千住一					
		高岡文章					
		鈴木涼太郎					
豊田三佳							
自動登録	卒業論文	麻生憲一	6	秋	4	TRM4003	卒業研究指導Bと同時履修
		東徹					
		韓志昊					
		羽生冬佳					
		橋本俊哉					
		李尚					
		野田健太郎					
		小野良平					
		庄司貴行					
		澁谷和樹					
		石橋正孝					
		門田岳久					
		葛野浩昭					
		福島康博					
		丸山宗志					
		越智郁乃					
大橋健一							
佐藤大祐							
千住一							
高岡文章							
鈴木涼太郎							
豊田三佳							
その他	観光インターンシップA	東・柳川・清野	1	春	3	TRM3100	
自動登録	観光インターンシップB	東・柳川・清野	1	秋	3	TRM3100	同一年度「観光インターンシップA」履修者のみ対象
その他	経団連インターンシップ	野田・森島	2	通年	3	TRM3100	一般社団法人日本経済団体連合会寄付講座
HA901	観光ビジネス概論	丹治朋子	2	春	②・3・4	TRM2100	立教観光クラブ寄付講座
抽選登録	交通産業特論	森紀人	2	春	3・4	TRM3100	株式会社ANA総合研究所寄付講座
HA377	観光地づくり	吉澤・守屋・菅野・中野・後藤	2	春	3・4	TRM3100	公益財団法人日本交通公社寄付講座
抽選登録	MICEの理論と実践	関口陽介	2	秋	3・4	TRM3100	日本コンベンションサービス株式会社寄付講座 人数制限科目(50名), 隔週開講
HA942	ガストロノミー(美食)と観光	小山伸二	2	春	2・3・4	TRM2100	辻調理師専門学校寄付講座
HA943	観光IT戦略論	角谷恭一	2	春	2・3・4	TRM2100	株式会社NTTデータ寄付講座
関連基礎科目							
その他	データ情報処理	五十嵐 彰	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	教職課程登録者のみ
抽選登録	データ情報処理	五十嵐 彰	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	上記学生以外人数制限科目 (上記と合わせて48名)
HA811	法学1	小野義典	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA812	法学2	小野義典	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA813	政治学	藤井達夫	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA814	経済学	石井優子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA815	経営学	黄耀偉	2	春	①・2・3・4	TRM1200	

交流文化学科 2016~2018年度入学者適用

科目 コード	科目名	担当者	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	備考
抽選登録	社会学1	入江 公康	2	春	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
抽選登録	社会学2	入江 公康	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
抽選登録	心理学1	近藤 育代	2	春	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
抽選登録	心理学2	白石 智子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	人数制限科目
HA820	地理学1	中山 大地	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA821	地理学2	中山 大地	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA822	日本史1	高江洲 昌哉	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA823	日本史2	高江洲 昌哉	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA824	外国史1	三王 昌代	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA825	外国史2	鹿野 美枝	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA826	地誌学	中牧 崇	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA827	生涯学習概論1	小川 誠子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA828	生涯学習概論2	小川 誠子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA829	社会教育施設論1	小川 誠子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA830	社会教育施設論2	小川 誠子	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA831	社会教育計画1	米澤 朋英	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA832	社会教育計画2	米澤 朋英	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA833	職業指導概論1	佐々木 尚毅	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA834	職業指導概論2	佐々木 尚毅	2	春他	①・2・3・4	TRM1200	集中講義
HA835	商法1	金澤 大祐	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA836	商法2	金澤 大祐	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA837	自然地理学	中山 大地	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA801	文学	岡部 杏子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA802	哲学	加藤 喜市	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA803	人類学	丹羽 朋子	2	春	①・2・3・4	TRM1200	
HA804	美学	鞍田 崇	2	秋	①・2・3・4	TRM1200	
HA805	民法	薬師丸 正二郎	2	春	①・2・3・4	TRM1200	

○付きの数字は推奨年次を表す。

観光学研究科に かかわる事項

観光学研究科の教育理念・学位授与方針

科目ナンバリングについて

博士課程前期課程

博士課程後期課程

観光学研究科の教育理念

わが国における観光分野での大学院教育は、1973年に立教大学大学院社会学研究科応用社会学専攻が、観光を主たる研究領域とする大学院生を受け入れたときに始まる。社会学研究科応用社会学専攻を母体に、1998年には観光学研究科観光学専攻が設置され現在に至っている。立教大学大学院観光学研究科観光学専攻は、観光領域で博士号を授与することができるわが国でも数少ない大学院である。

社会学研究科応用社会学専攻から現在の観光学研究科までの45年余りのあいだに、立教大学大学院は、きわめて多くの観光分野の研究者、大学教員を輩出してきた。わが国の大学における観光教育、ことに社会科学を基礎とするその大半は、立教出身者によって支えられているといっても過言ではない。この事情は海外からの外国人留学生の場合も同様である。修了者は中国、韓国ばかりでなく、東南アジアにおいても中心的な観光研究者として、それぞれの国の観光研究、観光教育で主導的な役割を果たしている。

世界的には、観光に関係する大学院教育は観光の産業的な側面を対象とする実践的性格の強い、いわゆるホスピタリティマネジメントと、社会科学を基礎とする観光研究に区分され、多くの場合まったく別個に実施されてきた。立教大学大学院観光学研究科ではこの二つの領域を関連させて位置づけ、同時に教育・研究指導している。これは観光学研究科の教育に現実性を担保し、同時に研究者養成を単なる高度実務教育に堕させないための有効な手段であると考えているからである。

観光学研究科のミッションは、社会的な要請に応え、方法論的な基礎を確立した高い水準の観光研究者や大学教員を継続的に輩出し、わが国における観光研究者と観光研究の水準を一層向上させることである。さらには高度な政策提言能力を備えた実務家の養成も視野に入れている。

観光学研究科のカリキュラムは、研究を行うための基礎的知識と技法の修得の上に立って、複数の学問領域を横断的に理解する視点と、社会の要請を理解して研究対象を明確にすることが出来る能力を養うために系統的に整えられたプログラムであり、観光領域の特徴である複数の視点、分析能力を身につけることができるよう領域横断的に構成されている。

観光学研究科委員長 橋本 俊哉

教育研究上の目的

観光学研究科は、観光学部における一般的ならびに専門的教養の上に、観光学を研究し、その深奥を究め、かつ、キリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与することを目的とする。

学位授与方針

博士課程前期課程

本課程に原則として2年以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した者に、修士（観光学）の学位を授与する。

本課程の修了者は次のいずれかの能力を身につけている。

1. 学際研究分野である観光学の特性に鑑み、研究主題を観光学に見だし、関連諸分野の方法論を用いて自立的に研究をおこなうことができる研究者を目指して博士課程後期課程に進学できる能力。
2. 民間企業・行政機関・国際機関・NGOやNPOなどで高度職業人として活躍できる能力。

博士課程後期課程

本課程に原則として3年以上在学して所定の研究指導を受け、博士の学位申請論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に、博士（観光学）の学位を授与する。

ただし、優れた研究業績をあげた者については、観光学研究科委員会の判定によって、博士課程後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

本課程の修了者は、観光学の分野で自立した研究者として活躍できる能力をもち、かつ次のいずれかの能力を身につけている。

1. 大学および大学院その他の教育・研究機関で教育者・研究者として国際的に活躍できる能力。
2. 観光学分野の高度な研究専門性を活かして民間企業の研究分野・シンクタンク・行政機関の研究所・国際機関・NGOやNPOなどで活躍できる能力。

教育課程の編成・実施方針

博士課程前期課程

必修科目10単位、選択科目20単位の計30単位を修了要件単位とする。

必修科目には、指導教授のもとで研究指導を受ける「観光研究基礎指導」（1年次春学期・秋学期各2単位）、「修士論文指導演習」（2年次春学期・秋学期各2単位）の他、教員複数名で各回を担当する「観光研究演習A・B」（1年次秋学期・2年次春学期各1単位）があり、多様な分野の研究の視点や方法についての理解を深めるとともに、各自の研究スタイルを確立する。これらを通じて、修士論文を作成する。

選択科目は学生の入学前の習熟状況や研究スタイルに対応した柔軟な履修パターンを構築することが可能である。本研究科設置の科目やビジネスデザイン研究科との併置科目に加えて、一定の条件の下、立教大学の他研究科科目を最大8単位まで含むことができる。

博士課程後期課程

指導教授ならびに副指導教授を定め、研究指導を受けながら博士論文を作成する。各種報告会を通じて、指導教授、副指導教授以外の教授からも指導を受け、高い学際性を確保する機会を得る。

科目ナンバリングについて

立教大学では、2016年度より全学部・研究科で科目ナンバリング制度を導入している。科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付与し分類することで学修の段階や順序等を表し、カリキュラムの体系的性を明示する仕組みである。科目ナンバリングを用いて検索をすることで、学びたい分野を探し体系的に履修するための一つのツールとすることができる。また、成績証明書には修得科目ごとに科目ナンバリングが記載され（2016年度以降入学者のみ対象）、体系的に学習した結果を対外的に証明することが可能である。

1 科目ナンバリング構成について

本学の科目ナンバリングはアルファベット3文字と数字4文字の構成となっている。

- ・アルファベット3桁⇒科目の設置学部学科（専修）・研究科を示す。
- ・数字4桁⇒レベル・科目分野分類等を示す。

アルファベット部分			1000番台	100番台	10番台	1番台
A	B	C	1	2	3	0
↓			↓	↓	↓	↓
学科・専攻等			レベル	分野	学部・研究科自由領域	言語

例として、「観光研究基礎指導A」であれば「TRG5003」のように示される。他研究科科目等のナンバリングについては、当該の履修要項を参照すること。

2 アルファベット・数字部分の説明

- ① 科目の設置研究科を示すアルファベット3桁は以下のとおりである。

観光学研究科 TRG

- ② レベル・科目分野分類等を示す数字4桁は以下のとおりとなる。

◆1000番台（レベルコード）

番号	専門科目
5000	大学院博士課程前期課程・修士課程 基礎科目
6000	大学院博士課程前期課程・修士課程 発展科目・研究指導
7000	大学院博士課程後期課程科目 (研究指導を含む)
9000	その他

◆10番台（設定なし）

番号	
00	

◆100番台（科目分野）

番号	科目分野
000	総合
100	行動・文化
200	地域・計画
300	産業・経済

◆1番台（使用言語を示す）

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

博 士 課 程

前 期 課 程

1. 学期・授業
2. 授業時間
3. 休講
4. 補講
5. 授業の欠席について
6. 学校感染症に罹患した場合の措置について
7. 裁判員制度に伴う場合の措置について

学部の「Ⅱ 授業（学習生活）」を参照すること。

1 学位授与の要件および学位名称

1. 学位授与要件 修士学位は、観光学研究科観光学専攻博士課程前期課程に原則として2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して授与される。
2. 学位名称 修了者に対して立教大学が授与する学位は「修士（観光学，立教大学）」とし、英文表記は、[Master of Arts in Tourism] とする。

2 単位制度

1. 単位制度 大学院博士課程前期課程での学修は、すべて単位制になっている。すべての科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録をし、授業を受け、かつ、試験に合格した場合、当該科目の単位が与えられる。
2. 単位の数え方 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

3 修了要件単位

観光学研究科観光学専攻博士課程前期課程を修了するためには下表に示す修了要件単位数以上を修得しなければならない。

2018年度以降1年次入学者に適用

科目区分	修了要件 単位数	備考
必修科目	10単位	1年次5単位，2年次5単位配当
選択科目	20単位	他研究科科目は8単位まで算入することができる
合計	30単位	

2017年度1年次入学者に適用

科目区分	修了要件 単位数	備考
必修科目	18単位	1年次14単位，2年次4単位配当
選択必修科目	4単位	観光研究演習A(1)，A(2)から1科目，B(1)，B(2)から1科目の計2科目（4単位）
選択科目	8単位	他研究科科目は4単位まで算入することができる
合計	30単位	

1 全体についての注意事項

前期課程においては2年間に30単位以上を履修しなければならないが、20単位以上を1年次に、10単位以上を2年次に修得することが望ましい。

1. 履修登録上限

観光学研究科では、履修登録上限を定めていない。

2. 重複履修

〈2018年度以降入学者〉

選択科目については重複履修を認める。ただし、以下の科目を除く。

観光地経営研究，ラグジュアリーブランド・マネジメント1/2，経営財務1/2，ヒューマンリソースマネジメント1/2，マーケティング・エッセentials1/2

〈2017年度入学者〉

各科目とも一度単位を修得した科目については、再度重複して履修することはできない。履修した科目の担当者が交替した場合も、これと同一科目とみなす。

3. 同一曜日時限の履修

各科目は、同一曜日時限に2科目以上にわたり履修をすることはできない。

4. 池袋キャンパス開講科目

同一日の新座キャンパスと池袋キャンパスの授業については、移動の必要上、連続した時限の履修は不可能であるから、その場合の履修登録は認めない。ただし昼休みをはさむ場合を除く。

2 修士論文提出までのスケジュール

時期	行事項目	行事項目説明	履修要項該当頁
〈1年次〉			
4月上旬	入学式・ガイダンス		
	指導教授の決定	入試の際に希望した志望分野・教員を参考に、研究科委員会で指導教授1名を決定する。	Ⅱ-2 ③ 担当教員と指導分野
	履修科目の決定・科目履修登録		Ⅱ-2 ④ 履修規定 Ⅲ履修登録
6～7月	上級生の修士論文中間発表会に参加	1年次生も必ず出席する。	
12月上旬	修士論文構想発表会	1年次生は必ず発表する。	
	副指導教授の決定	各自の研究テーマ設定を踏まえ、研究科委員会で副指導教授1名を決定する。	Ⅱ-2 ③ 担当教員と指導分野
1月中旬	上級生の修士論文発表会に参加	1年次生も必ず出席する。	Ⅱ-2 ⑤ 修士論文
随時	博士後期課程各種発表会に参加	博士論文中間発表会・博士論文予備審査会・博士論文公開発表会には1年次生も必ず出席する。	
〈2年次以上〉			
4月上旬	ガイダンス		
6～7月	修士論文中間発表会	2年次生以上は必ず発表する。	
11月上旬	「修士論文」の仮提出		Ⅱ-2 ⑤ 修士論文
	主査（1名）・副査（2名）の決定	原則、主査は指導教授が、副査のうち1名は副指導教授とする。副査もう1名は論文テーマを踏まえ、研究科委員会で決定する。	
11月下旬～12月中旬	「修士論文」修正指導	主査・副査の指示に従う。	Ⅱ-2 ⑤ 修士論文
1月中旬	「修士論文」提出		Ⅱ-2 ⑤ 修士論文
	修士論文発表会		Ⅱ-2 ⑤ 修士論文
1月中旬～下旬	「修士論文」審査会、最終試験	提出した修士論文についての質疑に回答する。	Ⅱ-2 ⑤ 修士論文
2月下旬	合否判定		
随時	博士後期課程各種発表会に参加	博士論文中間発表会・博士論文予備審査会・博士論文公開発表会には2年次生以上も必ず出席する。	
3月下旬	大学院学位授与式（修士学位授与）		

備考1 休学および特別修了（9月修了）希望者は事前に学部事務5課（新座キャンパス7号館1階）に相談し、研究指導のスケジュール等について確認を行うこと。

備考2 修士論文仮提出後、休学をした場合などは、復学後にあらためて仮提出を含め修士論文を提出する（審査を行う当該学期に必ず提出する）ことを原則とする。

3 担当教員と指導分野

1. 教育指導分野

教育指導分野を次の3分野に大別する。

①観光行動・観光文化に関する研究分野

社会学，心理学および文化人類学を基礎学問領域とし，観光行動の原理・行動の仕組み・行動様式等を解明するとともに，観光が形成し，あるいは影響を与える文化事象について分析し，観光と文化とのかかわりを追求する。

②観光地域・観光地計画に関する研究分野

地理学・地誌学，社会工学および地域社会学を基礎学問領域とし，観光地域および観光資源の条件ならびに観光地域形成の分析を行うとともに，地域特性に適合する観光開発・観光地計画を追求する。

③観光産業・観光事業経営に関する研究分野

経済学，経営学を基礎学問領域とし，観光産業ならびに観光事業経営に関する市場活動・人材開発・財務および消費行動について，事例研究，国際比較あるいは時系列分析等を試み，現実条件に適合する問題解決を追求する。

2. 教育指導分野別担当教員

教育指導分野	担当教員
観光行動・観光文化に関する研究	石橋 正孝 准教授
	橋本 俊哉 教授
	門田 岳久 准教授
	葛野 浩昭 教授
	舩谷 鋭 教授
	松村 公明 教授
	大橋 健一 教授
	千住 一 准教授
	高岡 文章 准教授
	豊田 由貴夫 教授
	豊田 三佳 教授
	越智 郁乃 助教
観光地域・観光地計画に関する研究	羽生 冬佳 教授
	毛谷村 英治 教授
	小野 良平 教授
	佐藤 大祐 教授
観光産業・観光事業経営に関する研究	杜 国慶 教授
	麻生 憲一 教授
	東 徹 教授
	韓 志昊 教授

3. オフィスアワー

オフィスアワーは，それぞれの専任教員が主として担当する授業に関する質問や勉学の相談に応じることを目的として，授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には，オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

※オフィスアワーの時間帯は履修要項の「専任教員プロフィール」を参照すること。

※兼任講師の担当する授業に関する質問は，授業終了後の時間等を利用し質問すること。

4 履修規定

1. 設置科目区分

<2018年度以降入学者に適用>

設置科目は、必修科目、選択科目に区分される。

①必修科目

全ての学生が履修し単位を修得しなければならない科目であり、1年次配当「観光研究基礎指導A」「観光研究基礎指導B」「観光研究演習A」の3科目（5単位）、2年次配当「修士論文指導演習A」「修士論文指導演習B」「観光研究演習B」3科目（5単位）、計6科目10単位が該当する。

必修科目の「観光研究基礎指導A」（2単位）履修者は「観光研究基礎指導B」（2単位）が、「修士論文指導演習A」（2単位）履修者は「修士論文指導演習B」（2単位）が秋学期に自動登録される。「観光研究演習A」（1単位）「観光研究演習B」（1単位）は、いずれも自動登録される。

※原則として、いずれの科目もA→Bの順に履修することとなるが、休学等により所定の開講学期の科目を履修できない場合は、同じアルファベットの科目を振り替えて履修する。その場合、春学期は2019年4月2日（火）～4月11日（木）17：00まで、秋学期は2019年9月12日（木）～9月21日（土）12：30までに新座キャンパス教務事務センターに申し出ること。

例（1年次秋学期に休学した場合）：

観光研究基礎指導A<春学期> → 休学<秋学期> → 観光研究基礎指導A 2回目<春学期>（観光研究基礎指導Bとして振替）

②選択科目

選択科目の単位として認められるものには、次の2種類がある。

イ. 本研究科設置の選択科目を履修し、修得した単位

ロ. 他研究科設置科目を履修し、修得した単位

本研究科設置の選択科目については、当該年度の開講科目・担当者一覧を確認すること。選択科目区分のうち、サテライトと書かれている科目は、社会人入学者で希望者がいる場合、池袋キャンパスで夜間に開講される（〈4. サテライトキャンパス〉の項を参照）。

他研究科科目は合計8単位まで、選択科目として修了要件単位として算入することができる。

<2017年度入学者に適用>

設置科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目に区分される。

①必修科目

全ての学生が履修し単位を修得しなければならない科目であり、1年次配当「観光研究基礎指導A」「観光研究基礎指導B」「観光研究基礎技法」「観光研究法A（統計分析）」「観光研究法B（統計分析）」「観光研究法A（質的分析）」「観光研究法B（質的分析）」の7科目（14単位）、2年次配当「修士論文指導演習A」「修士論文指導演習B」の2科目（4単位）、計9科目（18単位）が該当する。

必修科目の「観光研究基礎指導A」（2単位）履修者は「観光研究基礎指導B」（2単位）が、「修士論文指導演習A」（2単位）履修者は「修士論文指導演習B」（2単位）が秋学期に自動登録される。

※原則として、いずれの科目もA→Bの順に履修することとなるが、休学等により所定の開講学期の科目を履修できない場合は、同じアルファベットの科目を振り替えて履修する。その場合、春学期は2019年4月2日（火）～4月11日（木）17：00まで、秋学期は2019年9月12日（木）～9月21日（土）12：30までに新座キャンパス教務事務センターに申し出ること。

例（1年次秋学期に休学した場合）：

観光研究基礎指導A<春学期> → 休学<秋学期> → 観光研究基礎指導A2回目<春学期>（観光研究基礎指導Bとして振替）

②選択必修科目

1年次配当「観光研究演習A(1)」「観光研究演習A(2)」から1科目（2単位）、「観光研究演習B

(1)「観光研究演習B(2)」から1科目(2単位)の計2科目を履修し、4単位を修得しなければならない。なお、「観光研究演習A(1)」履修者は「同B(1)」が、「観光研究演習A(2)」履修者は「同B(2)」が秋学期に自動登録される。

③選択科目

選択科目の単位として認められるものには、次の2種類がある。

イ. 本研究科設置の選択科目を履修し、修得した単位

ロ. 他研究科設置科目を履修し、修得した単位。

本研究科設置の選択科目の詳細については、当該年度の開講科目・担当者一覧にて確認をすること。選択科目区分のうちサテライトと書かれている科目は、社会人入学者で希望者がいる場合、池袋キャンパスで夜間に開講される(〈4. サテライトキャンパス〉の項を参照)。

他研究科科目は合計して4単位まで、選択科目として修了要件単位に算入することができる。

2. 随意科目

以下は随意科目となり、修了要件単位には算入されない。

- ・ 指定された単位数(2018年度以降1年次入学者は8単位、2017年度1年次入学者は4単位)を超えて修得した他研究科科目
- ・ 観光学部専門科目、他学部科目、全学共通科目・全学共通カリキュラム科目

博士課程前期課程

3. 2019年度開講科目・担当者一覧

◇2018年度以降1年次入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考	
必修科目								
自動登録	観光研究基礎指導A	研究科専任教員	2	春	1	TRG5003	週2時間	
自動登録	観光研究基礎指導B	研究科専任教員	2	秋	1	TRG5003	週2時間	
自動登録	観光研究演習A	越智郁乃 他	1	秋	1	TRG5003		
自動登録	観光研究演習B	越智郁乃 他	1	春	2	TRG6003		
自動登録	修士論文指導演習A	研究科専任教員	2	春	2	TRG6003	週2時間	
自動登録	修士論文指導演習B	研究科専任教員	2	秋	2	TRG6003	週2時間	
自動登録	修士論文	研究科専任教員	-	-	2	TRG6003		
選択科目								
UA570	観光環境・計画学研究(1)	毛谷村 英 治	2	休講	1・2	TRG5200	隔年開講	
UA571	観光環境・計画学研究(2)	小 野 良 平	2	休講	1・2	TRG5200	隔年開講	
UA572	観光環境・計画学研究(3)	羽 生 冬 佳	2	秋	1・2	TRG5200	隔年開講	
UA554	観光経営研究	韓 志 昊	2	秋	1・2	TRG5303		
UA551	観光経済学研究	麻 生 憲 一	2	休講	1・2	TRG5300	隔年開講	
UA559	観光行動研究	橋 本 俊 哉	2	休講	1・2	TRG5100	隔年開講	
UA573	観光社会学研究(1)	大 橋 健 一	2	休講	1・2	TRG5100	隔年開講	
UA574	観光社会学研究(2)	豊 田 三 佳	2	秋	1・2	TRG5100	隔年開講	
UA575	観光社会学研究(3)	高 岡 文 章	2	春	1・2	TRG5100		
UA576	観光人類学研究(1)	豊 田 由 貴 夫	2	休講	1・2	TRG5100	隔年開講	
UA577	観光人類学研究(2)	葛 野 浩 昭	2	春	1・2	TRG5100	隔年開講	
UA578	観光人類学研究(3)	門 田 岳 久	2	秋	1・2	TRG5100		
UA579	観光地理学研究(1)	松 村 公 明	2	春	1・2	TRG5200	隔年開講	
UA580	観光地理学研究(2)	杜 国 慶	2	春	1・2	TRG5200	隔年開講	
UA581	観光地理学研究(3)	佐 藤 大 祐	2	休講	1・2	TRG5200		
UA584	観光文学研究(1)	舛 谷 鋭	2	秋	1・2	TRG5100	隔年開講	
UA587	観光文学研究(2)	石 橋 正 孝	2	休講	1・2	TRG5100	隔年開講	
UA585	観光マーケティング研究	東 徹	2	秋	1・2	TRG5300	隔年開講	
UA586	観光歴史学研究	千 住 一	2	春	1・2	TRG5100		
UA563	観光地経営研究	東 徹	2	秋他	1・2	TRG5300	池袋キャンパス開講・集中講義	
UA672	ラグジュアリーブランド・マネジメント1	庄 司 貴 行	2	春1	1・2	TRG5300	池袋キャンパス開講 授業時間はビジネスデザイン研究科と同一となるので、学部の「II 授業(学習生活)」を参照すること	
UA673	ラグジュアリーブランド・マネジメント2	庄 司 貴 行	2	春2	1・2	TRG5300		
UA676	経営財務1	野 田 健 太 郎	2	春1	1・2	TRG5300		
UA677	経営財務2	野 田 健 太 郎	2	春2	1・2	TRG5300		
UA678	ヒューマン・リソース・マネジメント1	庄 司 貴 行	2	休講	1・2	TRG5300		
UA679	ヒューマン・リソース・マネジメント2	庄 司 貴 行	2	休講	1・2	TRG5300		
UA684	マーケティング・エッセンシャルズ1	斎 藤 明	2	春1	1・2	TRG5300		
UA685	マーケティング・エッセンシャルズ2	斎 藤 明	2	春2	1・2	TRG5300		
UA686	マーケティング・エッセンシャルズ1	斎 藤 明	2	秋1	1・2	TRG5300		
UA687	マーケティング・エッセンシャルズ2	斎 藤 明	2	秋2	1・2	TRG5300		
UA582	観光研究特論A		2	休講	1・2	TRG5000		
UA583	観光研究特論B		2	休講	1・2	TRG5000		
サテライト(社会人学生対応)							隔年開講	
休講	観光研究特殊演習1		4	休講	1・2	TRG5000	社会人入学者が いる場合のみ開講	
休講	観光研究特殊演習2		4	休講	1・2	TRG5000		
休講	観光研究特殊演習3		4	休講	1・2	TRG5000		
休講	観光研究特殊演習4		4	休講	1・2	TRG5000		

博士課程前期課程

◇2017年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
必修科目							
	観光研究基礎指導A		2		1	TRG5003	週2時間
	観光研究基礎指導B		2		1	TRG5003	週2時間
	観光研究基礎技法		2		1	TRG5000	
	観光研究法A（統計分析）		2		1	TRG5000	
	観光研究法B（統計分析）		2		1	TRG5000	
	観光研究法A（質的分析）		2		1	TRG5000	
	観光研究法B（質的分析）		2		1	TRG5000	
自動登録	修士論文指導演習A	研究科専任教員	2	春	2	TRG6003	週2時間
自動登録	修士論文指導演習B	研究科専任教員	2	秋	2	TRG6003	週2時間
自動登録	修士論文	研究科専任教員	-	-	2	TRG6003	
選択必修科目							
	観光研究演習A（1）		2		1	TRG5003	
	観光研究演習B（1）		2		1	TRG5003	
	観光研究演習A（2）		2		1	TRG5003	
	観光研究演習B（2）		2		1	TRG5003	
選択科目							
UA551	観光経済学研究	麻生憲一	2	休講	1・2	TRG5300	
UA552	観光地理学研究	杜国慶	2	春	1・2	TRG5200	
UA553	観光人類学研究	門田岳久	2	秋	1・2	TRG5100	
UA554	観光経営研究	韓志昊	2	秋	1・2	TRG5300	
UA555	観光計画研究	羽生冬佳	2	秋	1・2	TRG5200	
UA556	観光社会学研究	高岡文章	2	春	1・2	TRG5100	
UA557	観光文化研究		2	休講	1・2	TRG5100	
UA558	観光産業研究		2		1・2	TRG5300	2019年度以降廃止科目
UA559	観光行動研究	橋本俊哉	2	休講	1・2	TRG5100	
UA560	観光言語学研究	舩谷鋭	2	秋	1・2	TRG5100	
UA563	観光地経営研究	東徹	2	秋他	1・2	TRG5300	池袋キャンパス開講・集中講義
UA672	ラグジュアリーブランド・マネジメント1	庄司貴行	2	春1	1・2	TRG5300	池袋キャンパス開講 授業時間はビジネスデザイン研究科と同一となるので、学部の「Ⅱ 授業（学習生活）」を参照すること
UA673	ラグジュアリーブランド・マネジメント2	庄司貴行	2	春2	1・2	TRG5300	
UA674	コーポレートファイナンス研究1	野田健太郎	2	春1	1・2	TRG5300	
UA675	コーポレートファイナンス研究2	野田健太郎	2	春2	1・2	TRG5300	
UA678	ヒューマン・リソース・マネジメント1	庄司貴行	2	休講	1・2	TRG5300	
UA679	ヒューマン・リソース・マネジメント2	庄司貴行	2	休講	1・2	TRG5300	
UA684	マーケティング・エッセンシャルズ1	斎藤明	2	春1	1・2	TRG5300	
UA685	マーケティング・エッセンシャルズ2	斎藤明	2	春2	1・2	TRG5300	
UA686	マーケティング・エッセンシャルズ1	斎藤明	2	秋1	1・2	TRG5300	
UA687	マーケティング・エッセンシャルズ2	斎藤明	2	秋2	1・2	TRG5300	
サテライト（社会人学生対応）							
休講	ホスピタリティ産業特殊講義		(4)		1・2	TRG5300	社会人入学者が いる場合のみ開講
休講	観光経営特殊講義1		(4)		1・2	TRG5300	
休講	観光経営特殊講義2		(4)		1・2	TRG5300	
休講	観光経営特殊講義3		(4)		1・2	TRG5300	
休講	観光地域開発特殊講義		(4)		1・2	TRG5200	

必修科目：
観光研究基礎指導A
観光研究基礎指導B

必修科目：
観光研究演習A
観光研究演習B

必修科目：
修士論文
修士論文指導演習A
修士論文指導演習B

必修科目：
観光研究基礎指導A
観光研究基礎指導B

必修科目：
観光研究基礎技法

必修科目：
観光研究法A
観光研究法B

<2018年度以降1年次入学者に適用>

- ①「観光研究基礎指導A」「観光研究基礎指導B」
春学期・秋学期と年間を通して、各指導教授が、研究上の指導と助言を行う演習を展開する。
また、個別指導に加え、指導教授別あるいは研究分野別に適時研究会を開催し、学生の相互理解を図るとともに発表力向上を図る機会を設ける。
- ②「観光研究演習A」「観光研究演習B」
修士論文のテーマ設定に向けて、毎回複数名の教員が出席のもと、各回3名程度・1人当たり3回程度発表を行う。指導教員以外の教員がそれぞれの分野から意見を述べ、学生を交えて議論を交わす。
- ③修士論文作成に向けての指導体制
原則として、「観光研究基礎指導A/B」の指導教授が2年次における「修士論文指導演習A/B」の指導教授となる。
修士論文作成指導に関しては、1年次の12月上旬に行われる修士論文構想発表会をふまえて、研究科委員会により、副指導教授が選定され、指導教授と協力して論文作成指導が行われる。また、提出した修士論文に対して、指導教授が主査として、副指導教授が副査として、審査が行われる。

<2017年度1年次入学者に適用>

- ①「観光研究基礎指導A」「観光研究基礎指導B」
春学期・秋学期と年間を通して、各指導教授が、研究上の指導と助言を行う演習を展開する。
また、個別指導に加え、指導教授別あるいは研究分野別に適時研究会を開催し、学生の相互理解を図るとともに発表力向上を図る機会を設ける。
- ②「観光研究基礎技法」
1年次に必修科目として「観光研究基礎技法」を置く。この科目は、研究計画の立案、研究計画書の書き方、文献・資料検索、書誌表記など、研究に必須のアカデミックマナーに習熟することを目的としており、社会人学生、外国人学生などが早期に研究活動に取り組めるよう支援する。
「観光研究基礎技法」は、学部と異なる大学院での教育になじむことができるよう設定された導入教育である。学部を卒業してしばらくの期間を経た社会人学生、観光学部以外の他の学部の卒業生あるいは研究科の修了者は、講義開始時に講義担当者に申し出ること。担当者は、教育内容をこれらの学生に配慮して修正することもある。
- ③「観光研究法A」「観光研究法B」
1年次春学期に研究方法の基礎を学ぶ「観光研究法A」を2科目置く。科目の内容は、統計分析、質的分析とし、観光の複合性を考慮して必修とする。秋学期には、分析方法のより具体的な展開を学ぶため「観光研究法B」を2科目置く。

選択必修科目：
観光研究演習A
観光研究演習B

必修科目：
修士論文
修士論文指導演習A
修士論文指導演習B

4. サテライトキャンパス

④ 「観光研究演習A」「観光研究演習B」

1年次に分析方法論の異なる複数担当者による「観光研究演習A(1)」「観光研究演習B(1)」「同A(2)」「同B(2)」を置く。選択必修科目としてA・Bからそれぞれひとつを履修しなければならない。この演習では、分析方法論に習熟するとともに、学際的研究の重要性を学ぶ。

⑤ 修士論文作成に向けての指導体制

原則として、「観光研究基礎指導A/B」の指導教授が2年次における「修士論文指導演習A/B」の指導教授となる。

修士論文作成指導に関しては、1年次の12月上旬に行われる修士論文構想発表会をふまえて、研究科委員会により、副指導教授が選定され、指導教授と協力して論文作成指導が行われる。また、提出した修士論文に対して、指導教授が主査として、副指導教授は副査として、審査が行われる。

(1) 夜間開講

観光学研究科博士課程前期課程は、企業・団体等に在職し、勤務しながら勉学に励む社会人を対象に、授業科目の一部を、サテライトキャンパス（池袋キャンパス）において夜間開講する場合があります。

なお、サテライトキャンパスでの受講においては、やむを得ない理由により、授業に欠席あるいは遅刻する場合は、予め指示された方法によって、その旨を連絡することが求められることに留意すること。

(2) 「社会人」の範囲

上記の特別措置の対象となる社会人とは、入学試験出願時における受験資格審査によって「社会人」として認定され、入学後も企業・団体等に在職し、勤務しながら勉学に励む者をいう。

5 修士論文

1. 論文提出手順

「修士論文」の提出（本提出）にあたっては，研究成果を論文としてまとめた段階で提出（仮提出）し，指導教授ならびに副指導教授による点検，加筆・修正等の最終的な指導を受けることを要する。

2. 論文作成書式

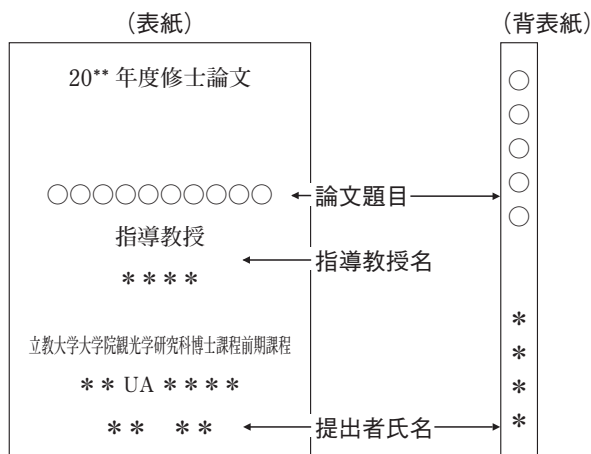
- ・ 提出時期
- ・ 注意事項

(1) 仮提出および本提出に共通する論文作成書式

提出する論文は，ワープロを使用し，A4判用紙に印字することを原則とする。ただし，指導教授から特別の指示がある場合はこの限りではない。

いずれの場合も，本文に使用した用紙に，修了年度，論文題目，指導教授名，学生番号・氏名を明記した「表紙」（下記参照）をつけること。

表紙作成見本



仮提出

(2) 仮提出制度に関する注意

① 仮提出の条件

この制度は，提出する論文の学術的水準をより高めることを目的として導入されているものであって，仮提出される論文は，点検・評価の対象となりうる状態に達していることを必須の条件とする。

② 仮提出の論文部数，提出時期

論文3部を新座キャンパス教務事務センターに提出すること。提出時期は毎年11月とし，日時の詳細は毎年履修要項に明示される。なお，本年度は，次の通りである。

2019年11月7日（木）・8日（金）17：00まで

③ 提出形態

論文3部をそれぞれ紙製ファイルに収録した状態で提出すること。なお，バインダーは用紙が離散するおそれがあるため使用しないこと。また，表紙の体裁は表紙作成見本を参照すること。

④ 修士論文仮提出後，休学をした場合などは，復学後にあらためて仮提出を含め修士論文を提出する（審査を行う当該学期に必ず提出する）ことを原則とする。

本提出

(3) 本提出

① 本提出の論文部数，提出時期

論文4部および論文データ1部を新座キャンパス教務事務センターに提出すること。提出時期は毎年1月中旬とし，日時の詳細は毎年履修要項に明示される。なお，本年度は，次の通りである。

2020年1月9日（木）・10日（金）17：00まで

② 提出形態

提出形態は以下のとおりとする。

ア.紙製ファイル収録	3部
イ.A4用紙に印刷したもの（穴あけと製本は不要，指定の封筒に入れる）	1部
ウ.論文データ（CD-RまたはUSBメモリ，指定の封筒に入れる）	1部

③ 審査手数料の支払

所定の単位を修得した者が在学2年を超えて引き続き在学し，博士課程前期課程在学4年以内に修士論文を提出する場合，審査手数料として¥15,000を支払うこと。

④ 休学および特別修了（9月修了）希望者の修士論文提出

休学者，特別修了（9月修了）希望者は各学期開始前に学部事務5課（新座キャンパス7号館1階）に相談し，論文提出の時期等について確認を行うこと。

3. 審査・試験

(1) 修士論文発表会ならびに修士論文審査会および最終試験

「修士論文」提出者は，修士論文報告会において研究成果の概要を発表するとともに，修士論文審査会および最終試験に出席しなければならない。

修士論文報告会は毎年1月中旬に，修士論文審査会および最終試験は1月中旬から1月下旬に行われるが，日時の詳細は毎年履修要項に明示される。なお，本年度は，次の通りである。

修士論文発表会：2020年1月21日（火）
修士論文審査会および最終試験：2020年1月23日（木）・24日（金）

ただし，特別修了者については別途定める。

(2) 修士論文審査基準

論文審査は次の基準にもとづいて行う。

- 1.研究テーマが明確で独創性があること
- 2.研究内容と方法が明確であること
- 3.論文構成が適切で，論旨展開が論理的で明確であること
- 4.文献・史資料の引証や調査データの利用・提示が明確で適切であること
- 5.調査・研究に対して倫理的配慮がなされていること

修士論文提出に際しての注意

修士論文は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出に当たっては十分余裕を持って臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼するなどの措置を講ずること。ただし、締切日当日に不測の事態により、本人または代理人が提出期限までに提出に來られない場合は、当日の締切時刻以前にその対応について新座キャンパス教務事務センターに問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故や交通機関の大幅な遅延などの場合をいう。

※プリンター等、機器の故障は不測の事態には含まれないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生の
レポート・卒業論文・修士論文の提出について

上記に該当した場合は以下の指示に従うこと。

1. 提出期間に本人が出校停止中である場合は、代理人を立て、当該の期間内に提出することを原則とする。代理人による不備は、依頼した本人の責任となる。
2. 1. において代理人を立てることができない場合は、締切時刻以前に新座キャンパス教務事務センターに連絡し、指示を受けること。

〈以下の全てに該当する場合、後日の提出を認める場合がある〉

- ① 上記2. に該当する学生であること。
- ② 医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」の提出によって、締切日当日に学校感染症に罹患して出校停止中であった事実が証明できること。
- ③ 「出校可能となった日の翌日（窓口対応可能日）」に提出すること。

6 平和・コミュニティ研究機構提供科目

立教大学平和・コミュニティ研究機構（以下、「研究機構」）は、従来の平和研究の視野をより拡大し、安全・公正・人権の原理に立つ持続的コミュニティのあり方を探求しつつ、「平和」の条件を研究するセンターとして2004年3月に設立された。研究機構は、大学院博士課程前期課程にも授業科目を提供し、専門性と広い視野および現実関心を養い、国際関係、人の安全保障、持続的開発、市民社会的協力、移動と多文化共生などのテーマを相互関連的に学ぶ方途を大学院生に提供するものである。

詳細は平和・コミュニティ研究機構のホームページ（<http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/ipcs/>）を参照のこと。平和・コミュニティ研究機構提供科目は、自専攻で開講されている科目以外は他専攻・他研究科科目の扱いとなる。

- | | |
|------------|---|
| 1. 履修登録方法 | 履修登録方法は、開講研究科の定める方法によりおこなうこと。 |
| 2. 修得単位の扱い | 所属する研究科各専攻の履修規定による。 |
| 3. その他 | (1) 本研究機構提供科目は年度により担当者、科目内容が変更になる場合がある。
(2) 平和・コミュニティ関連の研究に関心を持つ大学院生は、研究機構が別途に行う「セミナー」および「フォーラム」にも積極的に参加し、研究を深める機会とされたい。 |

7 「観光地経営研究」について

立教大学では2008～2009年度に経済産業省からの委託を受けて、「観光地を革新する“観光地経営専門家”育成プログラム」事業を行った。このプログラムは、地域経営の視点から組織的に観光地全体を視野に入れて革新する観光地経営の知識・スキルを持った観光地経営専門家の育成を目指したものである。

この「観光地経営専門家育成プログラム」は地域づくりや観光ビジネスに関する経験をはじめ、様々なキャリアを持った社会人対象の観光研究所の講座であり、秋学期の9月下旬から12月上旬の週末（土曜日もしくは日曜日）に開講される予定である。観光学研究科博士課程前期課程在籍者で「観光地経営研究」を履修する者は飯山フィールドワーク（有料）にも参加することになる。

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 履修登録方法・受講登録方法 | 「観光地経営研究」は科目コード登録により履修が可能となるが、「観光地経営専門家育成プログラム」の申込みは別途必要となる。
詳細は以下の連絡先に問い合わせること。 |
| 2. 修得単位の扱い | 「観光地経営研究」は、観光学研究科博士課程前期課程において選択科目として配当されている。 |
| 3. 費用 | 飯山フィールドワークの参加には別途費用がかかる。詳細は以下の連絡先に問い合わせること。 |
| 4. シラバス、授業時間・教室、試験方法等 | 「観光地経営研究」の内容はシラバスを参照すること。
なお、授業日程、開講時間、教室等は春学期中に観光学研究科掲示板に掲示するが、詳細は以下の連絡先に問い合わせること。 |

問合せ先：立教大学観光研究所「観光地経営専門家育成プログラム」担当

1 科目名の変更

なし。

2 科目の新設

*過去に追加された科目は、下表のとおりである。

追加年度	科目名	科目区分
2019年度	マーケティング・エッセンシャルズ1	2018年度以降1年次入学者適用 選択科目
	マーケティング・エッセンシャルズ2	2017年度1年次入学者適用 選択科目
2018年度	ヒューマン・リソース・マネジメント1	2017年度1年次入学者適用
	ヒューマン・リソース・マネジメント2	選択科目

1 派遣留学制度による単位認定

本研究科の学生が、国際交流制度による派遣留学生（在学留学生）として外国の大学等で修得した科目の単位を認定する場合がある。単位認定を希望する者は、以下の手続きにより申請すること。審査のうえ、認定の可否を決定する。

- (1) 申請時期・方法は学部に準ずる（学部の「Ⅲ-4 履修規定（単位認定）」1 派遣留学制度による単位認定の項を参照）。
- (2) 認定を受けた科目の単位は、2018年度以降1年次入学者は8単位、2017年度1年次入学者は4単位を限度として修了要件単位に算入できる。それぞれ認定上限の単位を超えて認定された単位については随意科目とし、修了要件単位に算入されない。なお、科目毎の単位数は留学先大学の授業時間を考慮して決定する。
㊦ 認定の上限については、「立教大学大学院学則第5章第28条」を参照すること。
- (3) 認定を受けた科目の科目区分は、選択科目とする。
- (4) 成績評価は「認定」とする。

2 認定校留学制度による単位認定

本研究科の学生が認定校留学制度により在学留学中に外国の大学等で修得した科目の単位は、国際交流制度による派遣留学生の単位認定に準じて扱う。

3 入学前に修得した単位の認定

本研究科の学生が、入学前に他の大学院等で修得した科目の単位を認定することがある。単位認定を希望する者は、以下の手続きにより申請すること。審査のうえ、認定の可否を決定する。

- (1) 申請時期・方法は学部に準ずる（学部の「Ⅲ-4 履修規定（単位認定）」4 入学前に修得した単位の認定の項を参照）。
- (2) 認定を受けた科目の単位は、2018年度以降1年次入学者は10単位、2017年度1年次入学者は8単位を限度として修了要件単位に算入できる。
㊦ 認定の上限については、「立教大学大学院学則第2章第15条」を参照すること。
- (3) 認定を受けた科目は、本研究科で開講されている選択科目の科目名に振り替えて認定する。
- (4) 成績評価は「認定」とする。

履修登録とは、本年度履修する科目を所定の期日に届け出る手続きである。登録期間は年2回、4月と9月にあり、履修登録をしていない科目は履修することができない。

履修登録に関して質問のある場合は、事前に新座キャンパス教務事務センターで相談すること。

履修登録を行うにあたっては、指導教授と協議を行ったうえで科目を選定すること。

4月期登録

通年および春学期開講科目(春学期1開講科目, 春学期2開講科目を含む)について履修登録すること。

9月期登録

秋学期開講科目(秋学期1開講科目, 秋学期2開講科目を含む)のみ履修登録すること。

履修登録済みの通年科目の取消は認められない。

1. 履修登録の方法

履修登録の方法、およびその後の手続きについては、観光学部の履修登録方法を適用する。

☞ 学部の「V 履修登録」を参照

2. 他研究科科目 ・平和コミュニ ニティ研究機 構科目

(1) 他研究科科目

① 他研究科科目の履修を希望する場合は、予め、各研究科掲示板(ただし、池袋キャンパス開講科目については、新座7号館1階脇の移動掲示板)に掲示してある「他研究科学生履修不許可科目」一覧で履修の可否を確認しておくこと。

② 履修登録で届け出たそれらの科目は、当該他研究科からの承認を受け、はじめて正式に履修許可となる。履修の可否については研究科委員会審議後、下記の時期に掲示板で発表する。

<4月期登録> 5月下旬 <9月期登録> 10月下旬

③ 不許可となった場合、時間割のその部分は「空き時間」となり、新たな科目の追加によってこれを埋めることはできない。履修登録の際はこの点に留意のうえ登録すること。

(2) 平和・コミュニティ研究機構科目

平和・コミュニティ研究機構科目については、「II-2 履修規定(履修についての注意事項)」

6 平和・コミュニティ研究機構科目 の項を参照すること。

3. 学部科目 (随意科目とし て履修)

(1) 観光学部専門科目

学部の「V 履修登録」を参照し、履修登録すること。

(2) 他学部科目, 全学共通科目・全学共通カリキュラム科目

各履修要項の指示に従うこと。

他学部科目については学部の「III-2 履修規定(履修についての注意事項)」(5 他学部・他学科科目)の項も参照すること。

なお、学部科目は履修することはできるが、随意科目となり、修了要件単位には算入されない。

- (1) 成績の評価は、試験（筆記試験・レポート試験）または平常点（テスト・レポート・口頭試問等）により科目担当者がこれを行う。
- (2) 履修登録をしていない科目については試験を受けることができない。
- (3) 授業科目の成績は以下の基準に従い、S, A, B, Cを合格, D, 欠を不合格とする。
- ⊙単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。

〈成績の評価〉

評価		評価基準	成績証明書 の表示
合格	S (100～90点)	当該科目の目標をほぼ完全に達成していると認められる	S
	A (89～80点)	当該科目の目標を十分に達成していると認められる	A
	B (79～70点)	当該科目の目標の基幹部分は達成しているものと認められる	B
	C (69～60点)	当該科目の目標のうち最低限は達成していると認められる	C
不合格	D (59～0点)	当該科目の目標に及ばない	表示 されない
	欠席	試験未受験等により評価できないもの ^{注1)}	

注1) 筆記試験・口頭試問を欠席した場合、また試験発表掲示にレポート試験と発表されているレポート（学部の「VI 試験・成績」5 レポート の項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

次のように表示される科目もある（修士論文は合格の場合、「合」と表記される）。

評価	成績証明書
合格	合
不合格	表示されない
認定	認
Q ^{注1)}	表示されない

注1) 成績確定前に、休学および在学留学したもの

- (4) 合格した科目については所定の単位を与える。
- (5) 定期試験・成績に関する注意
定期試験・成績に関する事項は、学部の「VI 試験・成績」を参照すること。なお、成績の発表、成績評価調査の申請の記載については、「特別卒業申請者」は「特別修了申請者」に、「卒業合格発表対象者」は「修了発表対象者」に読み替えて適用する。
- (6) 「観光学部専門教育科目試験規則」の準用
特に記載されていない事項については、「観光学部専門教育科目試験規則」を準用する。

1. 修了年月日
 2. 修了合否の発表
 3. 特別修了(9月修了)とは
- 本学の修了年月日は、当該年度3月31日付とする。
- 修了合否は2020年2月28日(金)に成績参照システムにて発表する。必ず本人が修了の合否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。
- ☎電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない。
- 「特別修了(9月修了)」とは以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属研究科が行う修了判定で合格した場合、年度途中の9月19日付で修了することができる制度である。
- 〈特別修了(9月修了)申請条件〉
1. 所定の受付期間に、所定の書式(特別修了願)によって保証人連署をもって願い出ていること
 2. 大学院修士課程または大学院博士課程前期課程であること
 3. 申請時において、在学4学期目以降の学生であること^{*1}
 ただし、在学学期数に関しては、経済学研究科・法学研究科・観光学研究科・コミュニティ福祉学研究科大学院特別進学生制度の対象学生、経営学研究科5年間一貫プログラム・IDDプログラム、異文化コミュニケーション研究科TESOL-Jの対象学生またはキリスト教学研究科ウィリアムズコースの対象学生については、在学2学期目以降で足りるものとする
 4. 申請時において、所属研究科の修了に必要な要件を満たす見込^{*2}のある学生であること
 5. 申請学期において、在学中であること^{*3}
 6. 申請時において、当該年次の「学費^{*4}その他の納入金」の全額または分納1を納めていること
- この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。特別修了願を提出し特別修了を許可された場合の「学費^{*4}その他の納入金」は、学費^{*4}その他の納入金の2分の1額とする。
- ※1: 休学中の期間は、在学年数ならびに在学学期数に含まれない
 ※2: 当該年度春学期中に、所属研究科の修了に必要な要件を満たす見込がある学生
 ※3: 休学中・停学中でないこと
 ※4: 学費とは、授業料(在籍料含む)、教育充実費、実験・実習費をいう。
 ※5: 特別修了を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が特別修了の申請条件として納入すべき金額に不足する場合は、特別修了願を受理しない。
- (1) 特別修了願配付
- 配付期間 2019年6月1日(土)8:50~7月15日(月)17:30
 配付場所 教務窓口(巻頭参照)
- (2) 特別修了願受付期間・許可者発表・学位授与式
- 受付期間 2019年7月1日(月)8:50~7月15日(月)17:30
 *受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。
- 受付場所 教務窓口(巻頭参照)
- 許可者発表 2019年9月5日(木)
 成績参照システムに発表する
 発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。
- 学位授与式 2019年9月19日(木) 時間については、許可者発表日にあわせて成績参照システムに発表する。

4. 修業年限短縮修了
(早期修了)
- 「大学院特別進学生制度」においては、観光学部学生が、学部4年次に観光学部学生のままで観光学研究科博士課程前期課程の講義を履修し、所定の条件を満たした場合、博士課程前期課程進学後1年で課程を修了することができる。
- ☞ 学部の「Ⅻ 大学院特別進学生制度」を参照すること。

1. 学生証
2. 学籍
3. 休学・復学
4. 退学
5. 再入学
6. 学費

学部の「Ⅷ 学生証・学籍・学費」を参照すること。

博 士 課 程

後 期 課 程

1 学位授与の要件および学位名称

1. 学位授与の要件

博士学位は、原則として3年以上博士課程後期課程に在学し、この間に博士学位論文作成に関する所定の研究指導を受け、博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して授与される。

ただし、優れた研究業績をあげた者については、観光学研究科委員会の判定によって、博士課程後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
2. 授与する学位名称

修了者に対して立教大学が授与する学位は「博士（観光学，立教大学）」とし、英文表記は、「Doctor of Philosophy in Tourism」とする。

2 研究指導分野と担当教員

1. 研究指導分野

観光研究にかかわりを有する人文科学、自然科学、社会科学の学術的成果をふまえて、「観光事象と観光事業に関する学際的研究（観光事象ならびに観光事業の文化・社会・経済的構造と観光の機能・役割および効果に関する学際的研究）」を基本的指導分野とし、観光研究の学術的深化を図る。

なお、「研究指導」のナンバリングは「TRG7003」とする。

2. 担当教員と研究指導領域

観光学専攻博士課程後期課程担当教員

担当教員	研究指導領域	研究指導の要点
麻生 憲一 教授	観光経済学研究	経済学的視点から、観光現象に対する理論的、実証的研究を行う。
東 徹 教授	観光マーケティングの研究	マーケティングの視点から、観光、サービス、地域振興に関する研究を指導する。
韓 志昊 教授	ホスピタリティ・マーケティング研究	ホスピタリティ産業におけるマーケティング研究を指導する。
羽生 冬佳 教授	観光地域計画研究	観光地域づくりに関し、魅力要素の確立や空間の変化と観光行動との関わりについて研究を指導する。
橋本 俊哉 教授	観光行動研究	回遊行動を中心とした観光レクリエーション場面での行動特性に関する研究を指導する。
石橋 正孝 准教授	観光文学研究	近代以降の人の移動と言語表現の関わりについて、紀行文学を中心に、文学研究の観点から研究指導する。
門田 岳久 准教授	移動・観光現象のエスノグラフィ	研究対象は限定しませんが、指導可能なのは文化人類学・民俗学の視点と方法に基づいた研究を目指す大学院生です。
毛谷村英治 教授	観光施設研究	施設の空間構成を機能面から研究する指導を行うだけでなく、空間の演出方法について具体的に研究指導する。
葛野 浩昭 教授	文化表象と観光現象の人類学的研究	文化や民族へ向けられた「人類学のみなざし」／「観光学のみなざし」に関する研究を指導する。
舛谷 鋭 教授	観光文化と文学	観光文学を中心に、華僑華人など、交流文化について研究指導する。
松村 公明 教授	観光地域変容研究	観光客流動からみた拠点都市と交通後背地の変容に関する地理学的研究を指導する。
大橋 健一 教授	観光文化論研究	文化現象としての観光に関し、文化動態論の観点から研究を指導する。
小野 良平 教授	風景・景観保全論研究	観光地を始めとする地域の風景・景観の価値評価、保全計画にかかわる研究を指導する。
佐藤 大祐 教授	観光地理学研究	観光地の形成過程や施設の立地、地域振興などについての研究を指導する。
千住 一 准教授	観光の歴史学的研究	観光現象の変遷過程について、歴史学（特に近代史）の観点から研究指導を行う。
高岡 文章 教授	観光社会学	観光という行為と現象について、社会学の観点から研究指導をおこなう。
杜 国慶 教授	都市観光と観光地理学研究	地理学の空間概念に基づき、地理情報科学（GIS）を利用して、観光事象の研究を指導する。
豊田由貴夫 教授	観光の文化人類学的研究	文化現象としての観光に関して、文化人類学の観点から研究を指導する。
豊田 三佳 教授	観光社会学	観光現象を社会的に分析し、持続可能な観光開発と地域社会に関する研究を指導する。
越智 郁乃 助 教	観光の権力構造研究	文化人類学・民俗学的視座による権力構造分析で、近現代の観光がはらむ諸問題を読み解く研究の指導をする。

3. オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれの専任教員が主として担当する授業に関する質問や勉学の相談に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

※オフィスアワーの時間帯は履修要項の「専任教員プロフィール」を参照すること。

※兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間等を利用し質問すること。

3 研究指導体制

1. 指導教授の選定

博士課程後期課程に入学した学生は、それぞれの学生の専攻分野、研究主題ならびに研究方法に基づいて、研究指導を受ける指導教授（1名）を選定し、併せて指導教授と協議の上、副指導教授（1名）を選定する。原則として指導教授および副指導教授により在学期間継続して、各学期週2時間研究指導が行われる。
2. 研究指導の基本的考え方

博士課程後期課程においては、修士論文に示された研究成果を踏まえて、学術的に深化させることを基本とするが、同時に研究視点の多面化を図り、幅広い知識の修得と多様な研究方法論を学修することを目標とする。併せて、データ処理ならびにデータ解析に関する技術の向上を図る。さらに、観光研究の国際化に対応するため、語学力水準の向上、特に英語以外の外国語に習熟することを目指すものとする。

上記したような学修成果をあげるために、特に後期課程1年次においては、専門領域が異なる分野の教員から、さらに必要によっては他研究科に属する教員からも、研究に関する助言を積極的に得ることが期待される。
3. 「研究題目・指導教授届」の提出

博士課程後期課程に在籍する全ての学生は、毎年度初めに「研究題目・指導教授届」を、指導教授および副指導教授の承認を得たうえで、下記の日時まで提出しなければならない。

 - イ. 提出日時

4月2日（火）～11日（木） 9:00～17:00
 - ロ. 提出場所

学部事務5課（新座キャンパス7号館1階）

※ただし、休学等により、春学期に提出できなかった場合は、9月12日（木）～9月21日（土）までに提出すること。
4. 授業科目の履修

博士課程後期課程では、博士課程前期課程に設置されている科目について、研究に必要とされる場合は履修することができる。履修を希望する者は指導教授と相談のうえ、「履修希望届」を提出すること。詳細は年度初めのガイダンスで案内する。履修登録に関して質問のある場合は、事前に学部事務5課（新座キャンパス7号館1階）で相談すること。
5. 「期末研究報告書」の提出

毎学期末に、学期ごとの研究実績に基づいて、所定の書式による「期末研究報告書」を作成し、学部事務5課（新座キャンパス7号館1階）へ提出すること。提出期限等については、年度始めのガイダンスで通知する。
6. 学会への参加、研究発表および論文投稿等の勧奨

後記するように、博士学位申請論文提出の前段階として位置づけられている「予備審査会」の開催申請資格の一つとして所定の研究業績を求めていることに鑑み、複数の学会に参加し、研究発表および論文投稿等の機会を有効に活用するように勧奨する。なお、学会発表に関しては「大学院学生学会発表奨励金制度」を活用すること（詳細は学生部（新座キャンパス7号館2階）に問い合わせること）。
7. 予備審査会ならびに博士学位申請論文への準備

博士学位申請論文提出の前段階である予備審査会ではすでに執筆がほぼ完了した論文を審査の対象とするが、それに先だち博士論文の構想ならびに研究上の課題などに対して研究科教員等が助言する発表会、大学院学生が主催するワークショップが年数回開催される。博士課程後期課程学生はこの発表会およびワークショップを積極的に利用することが望まれる。詳しくは別途掲示等で伝達する。

4 成績

年度初め（在學生は前年度2月）に指導教授と相談のうえ提出する「研究計画書」と、年間2回提出する「期末研究報告書」、および日常的な研究指導における研究報告や質疑応答、中間発表、学会の参加と研究発表、論文投稿などの業績をもとに総合的な評価を行う。これらにより当該学期の研究指導を修了したと評価された場合、その成績は「認」となる。

研究指導の成績は下記の日程で成績参照システムに発表する。電話・メールによる成績の問い合わせには一切応じない。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。なお、博士課程前期課程の科目を履修した場合、その科目の試験・成績については、博士課程前期課程「IV 試験・成績」を参照すること。

春学期：2019年9月5日（木） ・ 秋学期：2020年3月13日（金）

5 博士論文提出および学位授与

1. 博士学位授与
までの基本
スケジュール

博士論文の提出、学位授与に至る基本スケジュールを次の通りとする。各項目の詳細は年度初めのガイダンスで確認すること。ただし、**1** 学位授与の要件および学位名称 に記した「優れた研究業績をあげた者」については適用されない。

① 「期末研究報告書」の提出

各学期の学修経過および研究成果を指導教授、副指導教授の承認を得て学部事務5課（新座キャンパス7号館1階）に提出すること。

提出時期は、7月および1月の年2回とし、書式はA4判用紙にワープロで印字し、発表論文の「抜刷」、研究報告等のコピーを添付すること。

② 「博士論文中間発表会」の開催

博士課程後期課程の学生は、年に2回（6月および12月を予定）開催される「博士論文中間発表会」において、研究経過の発表を行い講評を受ける必要がある。1年次は12月の回に、2年次は2回のうちいずれかの回に発表する。3年次以上は各自の研究の進捗に応じて、次項に記す「予備審査会」発表者資格判定の申請前までに最低1回発表する。

③ 「予備審査会」発表者資格の判定

以下の条件をすべて満たす者は、「予備審査会」発表者資格判定の申請を行うことができる。

- ・ 博士課程後期課程に2年（4学期）以上在籍して研究指導を受けている
- ・ 「期末研究報告書」を4回以上提出している
- ・ 「博士論文中間発表会」で3回以上発表している
- ・ 「予備審査会発表者資格に関する各『基準』内規」に定められた基準を満たす

「予備審査会」発表者資格判定の申請がなされた場合は、研究科の複数名の教員により発表者資格の有無について判定が行われ、資格を有すると認められた者については予備審査会の開催申請を行うことができる。

④ 「予備審査会」の開催および判定

「予備審査会」の開催申請がなされた場合は、研究科委員会により開催の可否判定が行われ、可と認められた者については予備審査会を開催する。

「予備審査会」終了後、予備審査委員会により博士学位申請論文提出の可否に関する判定が行われ、研究科委員会の了承を受けて判定結果が申請者に伝達される。

⑤ 「博士学位」の申請

博士学位申請論文の提出が可と判定された者は、博士学位申請論文ならびに学位申請書類一式を、学部事務5課（新座キャンパス7号館1階）に提出する。なお、提出する論文は仮製本とする。

⑥「公開発表会」の開催

博士学位の申請がなされ、研究科委員会により申請が受理されると審査委員会が組織され、審査が開始される。審査の過程で開催される「公開発表会」は、研究科所属教員ならびに在籍学生および学内外関係者に公開する形式をとる。

⑦最終試験

審査の過程で、審査委員会から論文の修正要求があった場合には、指示に従い論文を修正し、修正要求が充たされたと判断された後、審査委員会により最終試験が実施される。最終試験は、論文、それに関連ある科目について口頭または筆答によって行う。最終試験終了後、審査委員会において学位授与の可否に関する判定が行われる。

⑧学位授与の決定

審査委員会の報告を受け、研究科委員会および大学院委員会の議を経て学位授与の可否を決定する。

2. 学位申請期限

学位授与は3月と9月の年2回行われる。

〈博士学位の申請期限（論文提出期限）〉

学位の授与を希望する時期	申請期限（論文提出期限）*
2019年9月	2019年5月中旬頃
2020年3月	2019年11月末頃

※詳細な日程は、別途配付する「2019年度 課程博士学位審査 日程」を確認すること。

3. 「論文」提出に関する諸規程

①「予備審査会」の開催に関する規定

「予備審査会」の開催申請は「博士学位の申請ならびに審査手続きに関する規程」によって行われるものとし、「予備審査会発表者資格に関する各『基準』内規」に定められた発表者資格を有することを必要条件とする。

上記した「規程」および「内規」は、博士課程後期課程在籍者に対して、年度初めに開催されるガイダンスにおいて配付・説明される。

②博士学位申請論文の提出ならびに審査に関する諸規定

上記した「予備審査会」の結果、博士学位申請論文の提出を認められた者についての博士学位申請手続きおよび審査方法ならびに最終試験実施要領に関しては、「立教大学学位規則」、「立教大学博士学位申請手続要領」、「立教大学学位論文審査手数料規則」、「学位論文取扱い事務に関する内規」、「博士学位申請ガイドブック」のそれぞれ定めるところによる。

4. 学位論文審査基準

論文審査は次の基準にもとづいて行う。

1. 研究テーマが明確で専門的かつ独創的であること
2. 研究内容と方法が適切で専門的であること
3. 論文の構成が適切で、論旨展開が論理的で明晰であること
4. 文献・史資料の引証や調査データの利用・提示が明確で適切であること
5. 当該研究分野において独創的な学術貢献をなしていること
6. 調査・研究に対して高い倫理性を有していること

5. 修業年限短縮修了（早期修了）

大学院学則第6条（優れた研究業績を上げた者）の規定による、標準修業年限を短縮し修了することができる制度である。本制度を申請するためには、次のいずれかを満たす必要がある。詳細については4月に開催する観光学研究科ガイダンスにて説明する。

- (1) 学位論文を構成する内容の全部または一部が、学位申請者が筆頭著者である論文として、査読付き学術雑誌に3編以上掲載または受理されていること。
- (2) 研究分野に関係して公刊された著作物等を有することを原則とし、(1)と同等以上の研究業績を有し

ていること。

6 学生証・学籍・学費

1. 学生証
2. 学籍
3. 休学・復学
4. 退学
5. 再入学
6. 学費

学部の「Ⅶ 学生証・学籍・学費」を参照すること。

諸規則

- 1 立教大学学則（抜粋）
- 2 立教大学大学院学則（抜粋）
- 3 立教大学学位規則（抜粋）
- 4 観光学部専門教育科目試験規則
- 5 立教大学博士学位申請手続要領（抜粋）
- 6 博士学位論文取扱い事務に関する内規（抜粋）
- 7 立教大学大学院学位論文審査手数料規則
- 8 立教大学大学院学費その他納入金内規
- 9 立教大学大学院学生会発表奨励金内規
- 10 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学学生交流に関する覚書
- 11 明治大学，立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書

1 立教大学学則（抜粋）

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学は、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし、学校教育法（昭和22年法律第26号）により学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めることを目的とする。

2 学部ごとの、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表7のとおりとする。

(設置)

第2条 本大学に学部及び大学院を置く。

(学部、学科等)

第3条 略

(修業年限)

第4条 1年次から同一学部・学科・専修に在学する者の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

2 2年次に編入学又は転部・転科した者の当該学部・学科の修業年限は3年とする。ただし、在学年数は7年を超えることができない。

3 3年次に編入学又は転部・転科・転専修した者の当該学部・学科・専修の修業年限は2年とする。ただし、在学年数は6年を超えることができない。

(学士の学位)

第5条 1年次から同一学部・学科・専修に4年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

2 2年次に編入学又は転部・転科した場合、当該学部・学科に3年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

3 3年次に編入学又は転部・転科・転専修した場合、当該学部・学科・専修に2年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

4 学部・学科において授与する学士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

学 部	学 科	専攻分野名
文 学 部	キ リ ス ト 教 学 科	文学
	史 学 科	
	教 育 学 科	文学
経 済 学 部	文 学 科	学術
	経 済 学 科	経済学
	会計ファイナンス学科	
理 学 部	経 済 政 策 学 科	理学
	数 学 科	
	物 理 学 科	
社 会 学 部	化 学 科	社会学
	生 命 理 学 科	
	社 会 学 科	社会学
現 代 文 化 学 科		
法 学 部	メ ディ ア 社 会 学 科	法学
	法 学 科	
	政 治 学 科	政治学
観 光 学 部	国 際 ビ ジ ネ ス 法 学 科	法学
	観 光 学 科	観光学
	交 流 文 化 学 科	
コ ミ ュ ニ ティ 福 祉 学 部	福 祉 学 科	コミュニティ福祉学
	コ ミ ュ ニ ティ 政 策 学 科	スポーツウエルネス学
	ス ポー ツ ウ エ ル ネ ス 学 科	
経 営 学 部	経 営 学 科	経営学
	国 際 経 営 学 科	心理学
	心 理 学 科	
現 代 心 理 学 部	映 像 身 体 学 科	映像身体学
	異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科

(学年)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2期とする。

春学期 4月1日から9月19日まで

秋学期 9月20日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）で規定する休日

(3) 本大学創立記念日 5月5日

(4) 春季休業 2月上旬から3月下旬まで

(5) 夏季休業 7月下旬から9月中旬まで

(6) 冬季休業 12月下旬から翌年1月上旬まで

2 前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることがある。

第2章 教育課程

第1節 単位

第9条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第10条 学生は、第13条から第18条の6に定める所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

2 授業科目は、全学共通科目及び専門教育科目は配当年次の指定科目を除き全学次において履修させる。

第10条の2 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

第10条の3 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が行う短期大学又は高等専門学校等の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第1項及び第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第10条の4 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が本大学に入学する前に、大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が本大学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転部等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第10条の2第1項及び第2項並びに前条第1項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第11条 小学校、中学校、高等学校教諭1種免許状取得希望者は、各学部・学科・専修に配置された教科に関する専門教育科目及び文学部教育学科に配置された小学校、中学校、高等学校教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門教育科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

2, 3, 4 略

第12条 学芸員の資格を取得しようとする者は、各学部・学科所定の単位のほか、第19条に定められた博物館に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

博物館に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

2 司書の資格及び司書教諭の資格を取得しようとする者は、第19条に定められた図書館に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

図書館に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

3 社会教育主事の資格を取得しようとする者は、第19条に定められた社会教育に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

社会教育に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

第13条～第19条 略

第3章 試験

第20条 削除

第21条 試験は、各授業科目について行い、合格、不合格を定める。

2 試験成績は、100点を満点とし、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

3 試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与える。

第22条 忌引その他の事由により試験を受けることができなかった者のために、追試験を行うことがある。

第23条 休学中は、試験を受けることができない。

第4章 入学、編入学、休学、復学、退学、再入学及び除籍(入学)**第24条 略**

第24条の2 立教新座高等学校、立教池袋高等学校及び日本聖公会関係の各高等学校又は本大学の推薦入学者制度の指定を受けた高等学校の卒業者中当該学校長の推薦した者については、前条の規定にかかわらず選抜試験の一部又は全部を免除することができる。

(編入学)

第25条 2年次以上に編入学又は転部・転科・転専修を許可する者は、別に定める本大学の編入学又は転部・転科・転専修の資格を有し、かつ、本大学で行う選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

第26条 第24条による入学資格を有しない外国人であって在外公館の推薦ある者は、審査の上、学修を許可することができる。

2 前項により学修を許可された者は、第5条を除き本学則を準用する。

(入学期)

第27条 入学期は、学年又は学期の初めとする。

第250条の2に規定する特別外国人学生の入学時期は、各年の4月1日又は9月1日とすることができる。

3 略**(入学志願手続)**

第28条 入学志願者は、入学願書、出身学校長証明の調査書、写真を提出し、かつ、別表2の1若しくは別表2の2による入学検定料を納めなければならない。

(入学手続)

第29条 選抜試験に合格した者で本大学に入学しようとする者は、保証人を定め、所定の期日までに保証書を提出し、その他指定された手続をしなければならない。

2 本大学は、前項の手続を完了した者に対して入学を許可する。

第30条 保証人は、本人在学中に係る一切の事項についてその責に任じ、本人の父母又はこれに代わるべき者でなければならない。

第31条 保証人が死亡し又は前条の要件を欠いた時は、遅滞なく新たな保証人を定め更に保証書を提出しなければならない。

(休学及び復学)

第32条 病気その他やむを得ない事由により満2か月以上就学することができないときは、保証人連署をもって願い出て許可を受け当該学期間休学することができる。なお、その事実を証明する書面の提出を求めることがある。

2 休学中の期間は、在学年数に算入しない。

3 休学回数は、通算して8回を超えることができない。

4 休学者は、第1項により休学した期間終了後、学期の初めにおいて復学する。

(退学)

第33条 病気その他の事由により退学しようとする場合は、保証人連署をもって願い出て許可を受けなければならない。

(再入学)

第34条 願いにより退学した者が再入学を願い出るときは、学年又は学期の初めにおいて原年次に入学を許可することができる。

第35条 再入学を許可された者は、第29条に規定する手続をしなければならない。

(除籍)

第36条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

(1) 第4条各項のただし書に定める在学年数を超えた者

(2) 学費を納めない者

第36条の2 入学、編入学、休学、退学及び再入学の許可並びに除籍は、教授会の議を経て、総長がこれを行う。

第5章 留学

第37条 本大学の学生が本大学との間にあらかじめ学生の相互交流を目的とする協定、又は本大学からの留学に関する協議が成立している外国の大学、又はこれに相当する高等教育機関等及び本大学が認めた同等の大学、機関の授業科目を履修するため当該大学等への留学を希望するときは、審査の上、本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2 前項による留学は、本大学における学籍上の扱いを在学のままとする留学(以下「在学留学」という。)及び休学とする留学(以下「休学留学」という。)の2種とする。

第38条 在学留学の許可を受けた者については、その許可を受けた期間を本大学における在学年数に算入する。

第39条 在学留学の許可を得た者が、留学した大学等において修得した単位

又は成果のうち、教授会が適当と認めたものは、第10条の2第2項に基づき、本大学の卒業に必要な単位として認定することができる。

第40条 第32条の規定は、休学留学のための休学に準用する。

第6章 学費その他

第41条 選抜試験に合格した者で本大学に入学しようとする者は、別表2の3及び別表2の4による学費を指定された入学手続期間内に納めなければならない。

2 学生は、別表2の4による学費を毎学年授業開始後の指定の期日までに納めなければならない。

3 第1項及び前項に定める学費のうち授業料、教育充実費及び実験・実習費は、春学期・秋学期に分納するものとする。

第42条 学費とは、入学金、授業料(在籍料を含む。)、教育充実費及び実験・実習費をいう。

第43条 学費は、休学中も別に定める額を納めなければならない。

第44条 学年の途中で退学する場合も、学費は別に定める額を納めなければならない。

第45条 既に納めた学費その他の納入金は、次項及び第3項に定めた場合を除いて、返還しない。

2 選抜試験に合格し学費その他の納入金を納めた者のうち、やむを得ない事由により、所定の手続きに則り入学辞退願を提出した者については、入学金を除く学費その他の納入金を返還するものとする。

3 出願時に卒業見込みや所定単位修得見込みなどで選抜試験に合格し、学費その他の納入金を納めた後に、卒業不可や所定単位未修得などが確定し、入学資格要件を満たすことができなくなった者には、届け出により入学金を含む学費その他の納入金を返還するものとする。

第46条 在学中の学費その他について変更のあった場合には、新たに定められた額に基づいて納めなければならない。

第47条 教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門科目及び学芸員・司書・司書教諭・社会教育主事の資格取得に必要な科目を履修する者は、別表3による受講料を納めなければならない。

第48条 削除

第49条 証明書等の交付を受ける者は、別表5による手数料を納めなければならない。

第50条 学費滞納者には、当該年次の単位認定、研究指導の認定及び学位の授与を行わない。

第6章の2 特別外国人学生**(特別外国人学生)**

第50条の2 本大学と協定のある外国の大学から派遣される学生及び政府その他の機関から本大学に委託される外国人学生は、審査の上、特別外国人学生として入学を許可することができる。

第50条の3 入学を許可された特別外国人学生は、所定の手続をし、かつ、別に定める納入金を納めなければならない。

(単位の認定)

第50条の4 特別外国人学生が履修した授業科目については、所定の単位を与えることができる。

(学則の準用)

第50条の5 特別外国人学生については、第5条を除き本学則を準用する。

第50条の6 略**第7章 科目等履修生・特別聴講学生・短期プログラム受講生****(科目等履修生)**

第51条 各学部及び全学共通科目所定の授業科目中その1授業科目又は教授業科目の学修を願い出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

2 教職課程、学芸員課程、司書課程及び社会教育主事課程の所定の授業科目の学修を願い出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

3 科目等履修生として学修を願い出る者は、別表6による選考料を納めなければならない。

4 科目等履修生が、その履修した授業科目に合格した場合には、所定の単位を与える。

(特別聴講学生)

第51条の2 本大学と協定のある他大学学生及び他の教育機関の学生・生徒が、本大学の授業科目の学修を願い出るときは、特別聴講学生として許可することができる。

2 特別聴講学生が、その聴講した科目に合格した場合には、所定の単位を与える。

(短期プログラム受講生)**第51条の3 略****(登録料及び受講料)**

第52条 第51条第1項及び第2項で科目等履修生として学修を許可された者は、別表6による登録料及び受講料を指定された期間内に納めなければならない。

第53条 削除

(学則の準用)

第54条 科目等履修生、特別聴講学生については、第5条を除き本学則を準用し、第51条、第51条の2及び第52条で規定した以外の事項については別に定める細則による。

第54条の2 略

第8章 賞罰

第55条 品行方正学業優等の者又は善行により本大学の名誉を揚げた者は、これを表彰する。

第56条 本大学の規則に違反し、又は本大学の教育方針に背いた者は、これを懲戒する。

2 懲戒は、訓告、停学及び退学の3種とする。

3 退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 学業を怠り成業の見込みのないと認められる者
- (2) 性行不良で改善の見込みのないと認められる者
- (3) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 停学は、行為により以下の各号が適用される場合がある。

- (1) 停学期間を在学年数に算入しない。
- (2) 当該年度の卒業を認めない。

5 停学中は以下の各号が適用される。

- (1) 停学中は、大学からの指示がある場合を除き、原則として大学に来ることはできない。
- (2) 当該科目の授業時数の2分の1以上の期間にわたって停学であった場合は、当該科目の単位修得は認められない。
- (3) 停学中は休学を願い出ることできない。
- (4) 停学中は第37条による留学はできない。

第57条 賞罰は、教授会の議を経て、総長がこれを行う。

第9章 教職員組織 略

第10章 教授会 略

第11章 附属施設

第1節 礼拝堂

第78条 礼拝堂は、本大学の建学精神の象徴であつて教職員及び学生が日本聖公会の信仰と法憲・法規に基づいてキリスト教生活を営むことを目的とする。

第79条 礼拝堂においては、次の行事を行う。

- (1) 礼拝
- (2) 本学の諸式典
- (3) キリスト教講演
- (4) 聖書研究
- (5) その他のキリスト教行事

第2節 図書館

第80条 本大学図書館は、池袋図書館、新座図書館、及び新座保存書庫をもつて構成する。

第81条～第84条 略

第3節 診療所

第85条 診療所は、教職員並びに学生の保健衛生思想の向上、疾病の予防並びに診療を行うことを目的とする。

第86条 本診療所の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 定時並びに不定時健康診断の実施
- (2) 治療の実施
- (3) 保健衛生に関する講演会の開催
- (4) その他必要と認めた事項

第4節 学生相談所

第87条 略

第88条 学生相談所は、学生が当面する問題について、カウンセリングを行うことを目的とする。

第89条 略

第5節 研究所等

第90条 この大学に、研究所、センターその他の附属教育研究機関（以下「研究所等」という。）を置く。

第91条 前条の研究所等については、別に定める。

附則 略

2 立教大学大学院学則（抜粋）

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学院は、学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に、専門の学術を研究し、その深奥を究め、かつ、キリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与することを目的とする。

2 研究科ごとの、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表8のとおりとする。

(課程)

第2条 本大学院は、修士課程、博士課程及び専門職学位課程とする。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業等を担うための卓越した能力を培うものとする。

3 博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

4 専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養うものとする。

(研究科・専攻等)

第2条の2 略

(課程の区分と修業年限)

第3条 本大学院の標準修業年限は、修士課程2年、博士課程5年とし、博士課程は、これを2年の前期課程及び3年の後期課程に区分する。

2 前期課程は、これを修士課程として取り扱う。

3 第1項にかかわらず、キリスト教学研究科キリスト教学専攻博士課程前期課程のうち実務経験を有する者を対象としたコースの標準修業年限は1年とする。

(収容定員)

第4条 略

第4条の2 削除

(修士課程並びに前期課程の修了要件及び修士の学位の専攻分野)

第5条 修士課程又は前期課程に2年以上在学して授業を受け、30単位以上を修得し、かつ、学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を受けた上、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、第3条第3項に規定するコース及び優れた研究業績を上げた者については、修士課程又は前期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の場合において、当該修士課程又は前期課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3 本大学院において授与する修士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

研究科	専攻	専攻分野名
文学研究科	英米文学専攻	文学
	史学専攻	
	教育学専攻	教育学
	日本文学専攻	文学
	フランス文学専攻	
	ドイツ文学専攻	
	比較文明学専攻	比較文明学
経済学研究科	超域文化学専攻	文学
	経済学専攻	経済学 会計学
理学研究科	物理学専攻	理学
	化学専攻	
	数学専攻	
	生命理学専攻	
社会学研究科	社会学専攻	社会学
法学研究科	法学政治学専攻	法学 政治学
観光学研究科	観光学専攻	観光学
コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻	コミュニティ福祉学 スポーツウエルネス学
ビジネスデザイン研究科	ビジネスデザイン専攻	経営管理学
21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻	社会デザイン学
異文化コミュニケーション研究科	異文化コミュニケーション専攻	異文化コミュニケーション学
経営学研究科	経営学専攻	経営学
	国際経営学専攻	国際経営学 公共経営学

現代心理学研究科	心理学専攻	心理学
	臨床心理学専攻	臨床心理学
	映像身体学専攻	映像身体学
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻	神学
		文学
		実践神学

(博士課程の修了要件及び博士の学位の専攻分野)

第6条 博士課程に5年（修士課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については博士課程に3年（修士課程を修了した者にあつては当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

2 標準修業年限が1年以上2年未満の修士課程を修了した者、及び前条第1項のただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了要件は、博士課程に修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については博士課程に3年（修士課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

3 専門職学位課程を修了した者が博士課程の後期課程に入学した場合は、博士課程後期課程に3年（法科大学院の課程を修了した者にあつては2年）以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については、博士課程後期課程に1年（標準修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者については、博士課程の3年から当該専門職学位課程の標準修業年限を減じた期間）以上、在学すれば足りるものとする。

4 前3項の規定にかかわらず、第20条第5号の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士課程後期課程に入学した場合は、博士課程後期課程に3年以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については博士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

5 前4項の規定にかかわらず、本大学院の博士課程を経ないで論文を提出し博士の学位を請求した者で、論文の審査及び最終試験に合格し、かつ、専攻学術に関し、前4項の規定により本大学院の博士課程を修了した者と同様に広い学識を有することを確認された者に、博士の学位を授与することができる。

6 本大学院において授与する博士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

研究科	専攻	専攻分野名
文学研究科	英米文学専攻	文学
	史学専攻	
	教育学専攻	教育学
	日本文学専攻	文学
	フランス文学専攻	
	ドイツ文学専攻	
	比較文明学専攻	比較文明学
経済学研究科	超域文化学専攻	文学
	経済学専攻	経済学 会計学
理学研究科	物理学専攻	理学
	化学専攻	
	数学専攻	
	生命理学専攻	
社会学研究科	社会学専攻	社会学
法学研究科	法学政治学専攻	法学 政治学
観光学研究科	観光学専攻	観光学
コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻	コミュニティ福祉学 スポーツウエルネス学
ビジネスデザイン研究科	ビジネスデザイン専攻	経営管理学
21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻	社会デザイン学
異文化コミュニケーション研究科	異文化コミュニケーション専攻	異文化コミュニケーション学
経営学研究科	経営学専攻	経営学
	国際経営学専攻	国際経営学 公共経営学
現代心理学研究科	心理学専攻	心理学
	臨床心理学専攻	臨床心理学
	映像身体学専攻	映像身体学

キリスト教学研究科	キリスト教学専攻	神学
		文学

(学位論文等の審査及び試験)

第7条 学位論文及び特定の課題についての研究の成果の審査並びに最終試験等については、別に定める。

(最長在学年数)

第8条 本大学院における最長在学年数は、修士課程及び前期課程にあっては4年、後期課程にあっては6年とする。

(研究室)

第9条 本大学院の目的を達成し、学生の研究指導を行うため、各研究科にその専攻部門に応じて研究室を置く。

2 研究室に関する規程は、別に定める。

(学年及び学期)

第10条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学年を分けて次の2期とする。

春学期 4月1日から9月19日まで

秋学期 9月20日から翌年3月31日まで

(休業日)

第11条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)で規定する休日

(3) 本大学創立記念日 5月5日

(4) 春季休業 2月上旬から3月下旬まで

(5) 夏季休業 7月下旬から9月中旬まで

(6) 冬季休業 12月下旬から翌年1月上旬まで

2 前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることがある。

第2章 教育課程

(教育方法)

第12条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

(教育方法の特例)

第12条の2 次の研究科に、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う修士課程及び博士課程を置き、次の専攻を置く。

経済学研究科 経済学専攻 前期課程

観光学研究科 観光学専攻 前期課程

ビジネスデザイン研究科

ビジネスデザイン専攻 博士課程

21世紀社会デザイン研究科

比較組織ネットワーク学専攻 博士課程

(履修方法等)

第13条 各研究科における授業科目及び単位数並びに研究指導等の履修方法は、各研究科において定め、別表1のとおりとする。

(単位の認定)

第14条 授業科目を履修した者に対しては、試験の上、その合格者に所定の単位を与える。

(他大学院等における授業科目の履修及び研究指導)

第15条 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、本学の平和・コミュニティ研究機構及び他大学院とあらかじめ協議の上、同機構及び当該大学院の授業科目を履修させることができる。

2 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に、他大学院において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学院に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、他大学院等とあらかじめ協議の上、後期課程の学生が当該大学院等において研究指導を受けることを認めることができる。

4 第1項及び第2項の規定により修得した授業科目の単位は、合わせて10単位を超えない範囲で本大学院博士課程前期課程又は修士課程の修了に必要な単位数に算入することができる。

(教育職員免許状の種類)

第15条の2 略

第3章 教員組織 略

第4章 入学、休学、復学、再入学、退学、及び除籍

(修士課程及び前期課程への入学)

第19条 修士課程又は前期課程に入学を許可する者は、次の各号の一に該当し、かつ、選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構において、学士の学位を取得した者

(3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

(5) 日本国内において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 外国の大学等(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上の課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

(7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(8) 文部科学大臣の指定した者

(9) 本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

(後期課程への進学又は編入学)

第20条 後期課程に進学又は編入学を許可する者は、次の各号の一に該当し、かつ、選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

(1) 修士の学位を有する者

(2) 専門職学位を有する者

(3) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(5) 日本国内において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(6) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

(7) 外国の学校、学校教育法施行規則第156条第3号の指定を受けた教育施設または国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(8) 文部科学大臣の指定した者

(9) 本大学院において、修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

(入学の時期)

第21条 入学の時期は、学年又は学期の初めとする。

2 第36条の2に規定する特別外国人学生の入学時期は、各年の4月1日又は9月1日とすることができる。

3 略

(入学志願手続)

第22条 入学志願者は、別表2による入学検定料を納入し、所定の手続をしなければならぬ。

(入学手続)

第23条 選抜試験に合格した者で本大学院に入学しようとする者は、保証人を定め、所定の期日までに保証書を提出し、その他指定された手続をしなければならない。

2 本大学院は、前項の手続を完了した者に対して入学を許可する。

(休学及び退学等)

第24条 病気その他の事由によって休学又は退学しようとする者は、保証人連署をもって願出で、許可を受けなければならない。なお、その事実を証明する書面を求めることがある。

2 休学の期間は、当該学期間とし在学年数に算入しない。

3 休学回数は、通算して修士課程及び博士課程前期課程は4回、博士課程後期課程は6回を超えることができない。

4 休学者は、第2項により休学した期間終了後、学期の初めにおいて復学する。

5 第1項により退学した者が再入学を願出たときは、学年又は学期の初めにおいて許可することができる。再入学を許可された者は、前条に規定する手続をしなければならない。

(除籍)

第25条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

(1) 第8条に規定する最長在学年数を超えた者

(2) 学費を納めない者

第25条の2 入学、休学、再入学及び退学の許可並びに除籍は、研究科委員会の議を経て、総長がこれを行う。

第5章 留学

第26条 本大学院の学生が本大学院との間にあらかじめ学生の相互交流を目

的とする協定、又は本大学院からの留学に関する協議が成立している外国の大学、又はこれに相当する高等教育機関等及び本学が認めた同等の大学、機関の授業科目を履修し、又は研究指導を受けるため当該大学等への留学を希望するときは、審査の上、本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2 前項による留学は、本大学院における学籍上の扱いを在学のままとする留学（以下「在学留学」という。）及び休学とする留学（以下「休学留学」という。）の2種とする。

第27条 在学留学の許可を受けた者については、その許可を受けた期間を本大学院における在学年数に算入する。

第28条 在学留学の許可を得た者が、留学した大学等において修得した単位又は成果のうち、研究科委員会が適当と認めたものは、本大学院の課程の修了に必要な単位として認定することができる。ただし、認定し得る単位数は、10単位を限度とする。

第29条 第24条の規定は、休学留学のための休学に準用する。

第6章 学費その他

第30条 選抜試験に合格した者で本大学院に入学しようとする者は、別表3の1及び別表3の2による学費を指定された入学手続期間内に納めなければならない。

2 学生は別表3の2による学費を毎学年授業開始後の指定の期日までに納めなければならない。

3 第1項及び前項に定める学費のうち授業料、教育充実費及び実験・実習費は、春学期・秋学期に分納するものとする。

4 学費とは、入学金、授業料（在籍料を含む。）、教育充実費及び実験・実習費をいう。

第31条 学費は、休学中も別に定める額を納めなければならない。

第32条 学年の途中で退学する場合も、学費は別に定める額を納めなければならない。

第33条 既に納めた学費その他の納入金は、次項及び第3項に定めた場合を除いて、返還しない。

2 選抜試験に合格し学費その他の納入金を納めた者のうち、やむを得ない事由により、所定の手続きに則り入学辞退願を提出した者については、入学金を除く学費その他の納入金を返還するものとする。

3 出願時に卒業見込みや所定単位修得見込みなどで選抜試験に合格し、学費その他の納入金を納めた後に、卒業不可や所定単位未修得などが確定し、入学資格要件を満たすことができなくなった者には、届け出により入学金を含む学費その他の納入金を返還するものとする。

第34条 在学中の学費その他について変更のあった場合には、新たに定められた額に基づいて納めなければならない。

第35条 証明書等の交付を受ける者は、別表4による手数料を納めなければならない。

第36条 学費滞納者には、当該年次の単位認定、研究指導の認定及び学位の授与を行わない。

第6章の2 特別外国人学生

（特別外国人学生）

第36条の2 本大学院と協定のある外国の大学から派遣される学生及び政府その他の機関から本大学院に委託される外国人学生は、審査の上、特別外国人学生として入学を許可することができる。

第36条の3 入学を許可された特別外国人学生は、所定の手続きをし、かつ、別に定める納入金を納めなければならない。

（単位の認定）

第36条の4 特別外国人学生が履修した授業科目については、所定の単位を与えることができる。

（学則の準用）

第36条の5 特別外国人学生については、第5条及び第6条第1項から第4項までを除き本学則を準用する。

第36条の6 略

第7章 特別聴講学生、科目等履修生、研究生、研修生、短期プログラム受講生

（特別聴講学生）

第37条 本大学院と単位互換制度の協定のある他大学院学生が、本大学院の授業科目の学修又は研究指導を願い出るときは、特別聴講学生として許可することができる。

2 前項により聴講を許可された者は、別表5による特別聴講料を納入し、所定の手続きをしなければならない。

3 特別聴講学生が、その聴講した科目に合格した場合には、所定の単位を与えることができる。

（科目等履修生）

第38条 各研究科所定の授業科目中その1授業科目又は数授業科目の学修を願い出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

2 公共団体又はその他の機関により本大学院の授業科目の学修を委託された者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

3 科目等履修生として学修を願い出る者は、別表6による選考料を納めなければならない。

4 科目等履修生として学修を許可された者は、別表6による登録料、受講料及び委託料を納めなければならない。

5 科目等履修生が、その履修した授業科目に合格した場合には、所定の単位を与えることができる。

6 本条で規定した以外の事項については、別に定める細則による。

（研究生）

第38条の2 大学院博士課程後期課程の正規の学生の研究に支障のない範囲において、次の者を選考の上、研究生として受け入れを許可することができる。ただし、専任の職務についている者は除くものとする。

(1) 本大学院の博士課程後期課程において所定の研究指導を受け、博士の学位を取得した者で、引き続き研究を希望する者

(2) 本大学院の博士課程後期課程において所定の研究指導を受け、在学6年経過後に退学した者で、引き続き研究を希望する者

2 前項により研究生として受け入れを許可された者は、別表7による登録料を納入し、所定の手続きをしなければならない。

第38条の3 専門職大学院に関しては、別に定める。

（研修生）

第38条の4 本大学院の博士課程前期課程において所定の研究指導を受け、修士の学位を取得し、本大学院の博士課程後期課程への進学の準備をする者を、大学院博士課程前期課程の正規の学生の研究に支障のない範囲において選考の上、研修生として受け入れを許可することができる。

2 前項により研修生として受け入れを許可された者は、別表7による登録料を納入し、所定の手続きをしなければならない。

（短期プログラム受講生）

第38条の5 略

第39条 削除

（学則の準用）

第40条 特別聴講学生、科目等履修生、研究生及び研修生については、第5条、第6条第1項から第4項までを除き本学則を準用する。

第40条の2 略

附則

本学則に規定する事項のほかは立教大学学則を準用する。

3 立教大学学位規則（抜粋）

（目的）

第1条 この規則は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第1項から第4項まで並びに学位規則（昭和28年文部省令第9号）並びに立教大学学則（以下「学則」という。）及び立教大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）に基づき、立教大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

（専攻分野の名称）

第2条 本学の学部・学科において授与する学士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

学部名	学 科	専攻分野名
文 学 部	キリスト教学科 史 学 科 教 育 学 科	文学
	文 学 科	文学 学術
経 済 学 部	経 済 学 科 会計ファイナンス学科 経 済 政 策 学 科	経済学
	数 学 科 物 理 学 科 化 学 科 生 命 理 学 科	理学
社 会 学 部	社 会 学 科 現 代 文 化 学 科 メ ディア 社 会 学 科	社会学
	法 学 科	法学
法 学 部	政 治 学 科 国 際 ビジネス 法 学 科	政治学 法学
	観 光 学 科 交 流 文 化 学 科	観光学
コミュニティ福祉学部	福 祉 学 科 コミュニティ政策学科	コミュニティ福祉学
	スポーツウエルネス学科	スポーツウエルネス学
経 営 学 部	経 営 学 科 国 際 経 営 学 科	経営学
	心 理 学 科 映 像 身 体 学 科	心理学 映像身体学
現代心理学部	異文化コミュニケーション学科	異文化コミュニケーション学

2 本学大学院において授与する修士及び博士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

研究科名	専攻分野名	
	修 士	博 士
文 学 研 究 科	修士（文学）	博士（文学）
	修士（教育学）	博士（教育学）
	修士（比較文学）	博士（比較文学）
経 済 学 研 究 科	修士（経済学）	博士（経済学）
	修士（会計学）	博士（会計学）
理 学 研 究 科	修士（理学）	博士（理学）
社 会 学 研 究 科	修士（社会学）	博士（社会学）
法 学 研 究 科	修士（法学）	博士（法学）
	修士（政治学）	博士（政治学）
観 光 学 研 究 科	修士（観光学）	博士（観光学）
コミュニティ福祉学研究科	修士（コミュニティ福祉学）	博士（コミュニティ福祉学）
	修士（スポーツウエルネス学）	博士（スポーツウエルネス学）
ビジネスデザイン研究科	修士（経営管理学）	博士（経営管理学）
21世紀社会デザイン研究科	修士（社会デザイン学）	博士（社会デザイン学）
異文化コミュニケーション研究科	修士（異文化コミュニケーション学）	博士（異文化コミュニケーション学）

経 営 学 研 究 科	修士（経営学）	博士（経営学）
	修士（国際経営学）	
	修士（公共経営学）	
現 代 心 理 学 研 究 科	修士（心理学）	博士（心理学） 博士（臨床心理学） 博士（映像身体学）
	修士（臨床心理学）	
	修士（映像身体学）	
キリスト教学研究科	修士（神学）	博士（神学） 博士（文学）
	修士（文学）	
	修士（実践神学）	

3 本学専門職大学院において授与する学位を次のとおりとする。

研究科名	学位名
法務研究科	法務博士（専門職）

（学位授与の要件）

第3条 本学を卒業した者には、学則第5条第1項、第2項及び第3項の定めるところにより、前条所定の学士の学位を授与する。

2 本学大学院の修士課程又は前期課程を経た者には、大学院学則第5条第1項及び第2項の定めるところにより、前条所定の修士の学位を授与する。

3 本学大学院の後期課程を経た者には、大学院学則第6条第1項から第4項までの定めるところにより、前条所定の博士の学位を授与する。

4 本学大学院の後期課程を経ない者には、大学院学則第6条第5項の定めるところにより、前条所定の博士の学位を授与する。

5 本学専門職大学院の専門職学位課程を経た者には、立教大学専門職大学院学則第5条の定めるところにより、前条所定の学位を授与する。

（学位申請論文の提出）

第4条 修士の学位申請論文（以下「論文」という。）は、各研究科の定めるところにより、総長に提出するものとする。

2 本学大学院の後期課程に在学する者が、博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書、研究業績一覧、論文の要旨、履歴書及び別に定める論文審査手数料を添えて、論文を総長に提出するものとする。

3 本学大学院の後期課程を経ない者が、博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書、研究業績一覧、論文の要旨、履歴書及び別に定める論文審査手数料を添え、学位の専攻分野名を指定して論文を総長に提出するものとする。

4 本学大学院の後期課程に3年以上在学して退学した者が、博士の学位の授与を申請する場合は、前項の規定によるものとする。

5 総長は、学位の授与の申請が前4項のうちの1項に規定する要件を具備するときは、これを受理する。受理した申請は原則として、その取下げを認めない。

6 第1項、第2項及び第3項の規定により提出した論文並びに論文審査手数料は、返還しない。

7 大学院学則第5条第2項で定める「特定の課題についての研究の成果」は、本規則及び本条第1項の規定を準用する。

（論文）

第5条 前条の規定により提出する主論文は1篇とし、修士の学位申請の場合は1部、博士の学位申請の場合は、PDF版1部・くろみ製本版3部を提出することを原則とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

2 審査のため必要があるときは、審査委員会は、参考論文、論文の訳文、模型又は標本等の審査資料を提出させることができる。

（論文の審査付託）

第6条 第4条第5項の規定により論文が受理されたときは、総長は、申請された学位に該当する研究科委員会にその論文の審査を付託する。

（審査委員会）

第7条 前条の規定により論文の審査を付託された研究科委員会は、申請された学位に該当する専攻の教員を含む3名以上からなる審査委員会を設ける。

2 審査委員会は、主査1名と複数の副査により構成する。

3 審査委員会は、審査のため必要があると認めるときは、研究科委員会の議を経て、論文に関連する専門の教員等を審査委員会の副査に加えることができる。

4 審査委員会の主査は、申請された学位に該当する専攻に所属する教員から選出する。ただし、募集を停止した専攻においては別に定める。

（論文の審査及び試験）

第8条 審査委員会は、論文の審査並びに最終試験を行う。

2 最終試験は、論文、それに関連ある科目並びに2種類の外国語について口頭又は筆答によって行う。

3 審査委員会は、論文の審査の結果、その内容が著しく不良であると認める

ときは、最終試験を行わない。

4 第3条第4項による審査の場合は、本条第2項のほかに専攻学術に関し本学大学院後期課程を経て学位を授与された者と同様の学識を有することを認定しなければならない。

(試験の免除)

第9条 第4条第1項、第2項及び第4項の規定により学位を申請する者は、前条第2項に規定する外国語の試験を免除する。

(審査期間)

第10条 審査委員会は、修士の学位についてはその学期末までに、第4条第2項によって申請される博士の学位については申請のあった学期末までに、第4条第3項又は第4条第4項によって申請される博士の学位については申請受理後1年以内に、それぞれの論文の審査及び最終試験を終了しなければならない。ただし、博士の学位については、特別の事由のあるときは、研究科委員会の議を経て、その期間を更に1年以内に限り延長することができる。

(審査委員会の報告)

第11条 審査委員会の主査は、論文の審査並びに最終試験を終了したときは、直ちに論文の内容の要旨、論文審査の要旨及び最終試験の結果の要旨に学位授与の可否の意見を添え、研究科委員会に文書で報告しなければならない。ただし、必要に応じて副査の1名に文書の起草を依頼することができる。

2 審査委員会は、第8条第3項の規定に従って最終試験を行わなかった場合は、その旨を研究科委員会に文書で報告しなければならない。

(研究科委員会の審議)

第12条 研究科委員会は、前条の報告に基づき、第3条第2項及び第3項によるものについては、大学院学則に従って、学位授与の可否を審議し、同条第4項によるものについては、その論文及び最終試験の合否並びに博士の学位授与の可否について審議し、議決をする。

2 前項の議決は、委員全員の3分の2以上の出席を必要とし、出席委員の4分の3以上の賛成がなければならない。ただし、公務又は出張のため出席することができない委員は、委員の数に算入しない。

(研究科委員長の報告)

第13条 研究科委員会が前条の議決をしたときは、その研究科委員長は、論文とともに、論文の内容の要旨、論文審査の要旨及び最終試験の結果の要旨に学位授与の可否の意見を添え、文書で総長に報告しなければならない。

第13条の2 削除

(学位授与の決定)

第14条 総長は、前条の報告に基づいて大学院委員会を招集し、その審議を経て学位授与の可否を決定する。

2 大学院委員会において前項の審議の議決をするには、第12条第2項を適用する。

(学位の授与)

第15条 総長は、前条の決定に基づいて学位を授与すべき者には、所定の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(学位論文の要旨等の公表)

第16条 本学は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3か月以内に、その学位論文の内容の要旨及び審査の結果の要旨を「立教大学学術リポジトリ」により公表しなければならない。

(学位論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、その学位論文を「立教大学学術リポジトリ」により公表しなければならない。ただし、既に公表したときは、この限りでない。

2 博士の学位を授与された者は、前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。

なお、この場合、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前項の規定により学位論文を公表する場合は、立教大学審査論文である旨を明記しなければならない。

(学位の名称の使用)

第18条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、本学名を「立教大学学士(〇〇学)」、「立教大学修士(〇〇学)」、「立教大学博士(〇〇学)」、「立教大学法務博士(専門職)」又は

「 $\left. \begin{array}{l} \text{学士(〇〇学)} \\ \text{修士(〇〇学)} \\ \text{博士(〇〇学)} \\ \text{法務博士(専門職)} \end{array} \right\}$ (立教大学)」のように付記するものとする。

(学位授与の取消)

第19条 学位を授与された者が、その名誉を汚す行為をしたとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、総長は、大学院委員会の議を経て、学位の授与を取消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表しなければならない。

2 前項の議決をするには、第12条第2項を適用する。

(登録)

第20条 本学において博士の学位を授与したときは、総長は、学位簿に登録し、3か月以内に、別表1の様式による学位(博士)授与報告書を電子メールにより文部科学大臣に提出しなければならない。

(学位記の様式)

第21条 学位記の様式は、別表2のとおりとする。

学位規則第3条第4項に関する諒解事項

立教大学学位規則第3条第4項の規則により学位を申請する者に対しては、外国語については研究科委員会が特別の事由があると認めるときは、1種類若しくは2種類を免除することができる。

4 観光学部専門教育科目試験規則

施行 1998年4月1日
改正 2001年2月9日
改正 2003年2月7日
改正 2003年6月24日
改正 2004年3月2日
改正 2007年2月16日
改正 2008年2月26日
改正 2009年3月3日
改正 2010年3月2日
改正 2011年3月2日
改正 2014年2月25日
改正 2015年4月1日
改正 2016年4月1日
改正 2017年4月1日
改正 2018年4月1日

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、観光学部専門教育科目の試験について定める。

第2章 試験

(試験の種類)

第2条 試験の種類は、定期試験、時間重複特別試験及び追試験とする。

(試験の時期・試験場)

第3条 定期試験は、春学期に講義が終了する科目については春学期末（7月中旬～下旬）、秋学期に終了する科目については秋学期末（1月中旬～2月上旬）に行う。

2 削除

3 時間重複特別試験及び追試験は、春学期末、秋学期末の定期試験終了後に行う。

4 試験の日時及び試験場は、その都度観光学部掲示板に掲示する。

(試験の方法)

第4条 試験の方法は、筆記試験、レポート試験、口頭試問のいずれかとする。

2 身体等の障害およびそれに準ずる事由で通常の筆記試験を受験することが基だしく困難な場合には、筆記試験に代わる方法で定期試験を実施することがある。適用の可否、方法及び実施時期等については、担当教員の了解を得て、教授会がこれを決定する。

第5条 削除

(受験資格の喪失)

第6条 次の者は、受験資格を失う。

- (1) 学生証の不携帯者（ただし、「臨時学生証」所持者を除く）
- (2) 履修届未提出者
- (3) 当該試験期に休学中・停学中の者
- (4) 担当教員のあらかじめ指示した必要要件を欠く者
- (5) 削除

(出校停止による受験不可)

第6条の2 インフルエンザ、麻疹等、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）に定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種又は第2種に罹患中の者は試験を受験することはできない。

(時間重複特別試験)

第7条 観光学部専門教育科目の試験が、他学部において受験すべき試験と時間的に重複する場合は、他学部の試験を受験するものとし、観光学部の専門教育科目の受験は時間重複特別試験で受験するものとする。時間重複特別試験を受験できる者は、第3項に定められた所定の届出をし、受験を許可された者に限る。

2 以下の場合に時間重複特別試験を実施する。

- (1) 観光学部専門教育科目の定期試験が、他学部において受験すべき試験と時間的に重複するために受験できない者。
 - (2) 池袋キャンパスとの校地移動時間不足により、新座キャンパスで受験すべき観光学部専門教育科目の試験を受験できないと認められた者。
- 3 時間重複特別試験に必要な手続きは以下のとおりとする。
- (1) 申請：第2項の事由が発生した場合には、当該学期の試験期間開始1週間前までに、所定の試験時間重複特別試験受験申請書を教務事務センターに提出しなければならない。ただし、試験時間が変更されたことにより第2項の事由が発生した場合には、試験実施日の翌日から2日以内に所定の試験時間重複特別試験受験申請書を教務事務センターに提出しなければならない。
 - (2) 許可：時間重複特別試験受験の許可は掲示で行う。
- 4 時間重複特別試験の施行については、観光学部専門教育科目試験規則第8条から第15条までを準用する。

第3章 筆記試験の施行

(受験者の入場)

第8条 受験者は、所定の日の定刻までに試験場の前に集まり、試験監督者の

指示にしたがって入場しなければならない。

(学生証の携帯・掲示)

第9条 受験者は、学生証を携帯し、入場の際に試験監督者に提示しなければならない。

2 受験中は学生証を試験監督の見やすい机の上に提示しておかなければならない。

(遅刻者)

第10条 遅刻者の入場は認めない。ただし、試験開始後15分以内の遅刻者に限り、試験監督者は入場を許可することがある。

2 交通機関の遅延による遅刻で、交通機関発行の遅延証明書を出した場合

には、試験開始後15分以上経過後も入場を許可することがある。

(座席指定)

第11条 受験者は、座席が指定されている場合には、その指定された座席に着席しなければならない。

(使用許可物)

第12条 教科書、参考書又はノートの類は、その使用が許可されたものを除き、指定の場所に置かなければならない。教科書、参考書又はノートの類の使用が許可された場合にも、試験場に入場した後はそれらを授受してはならない。

2 前項の規定に違反した場合は、当該科目の試験は零点とする。

(発言等の禁止)

第13条 受験者は、試験監督者の許可なくして、発言し、文房具を授受し、また場外に出ることができない。

(受験者の退場)

第14条 受験者は、試験開始後30分間及び試験終了前10分間は、退場することができない。

(退室命令)

第15条 試験場においてはすべて試験監督者の指示に従わなければならない。

2 試験監督者の指示に従わない者については、試験監督者は第14条第1項に関わらず退場を命ずることができる。

第16条 削除

第17条 削除

第18条 削除

第4章 追試験

(追試験)

第19条 病気その他やむをえない事由により、定期試験を受験することができなかった者には追試験を行うことがある。

(追試験の受験資格)

第20条 追試験を受験できる者は、定期試験を別表「追試験受験申請書添付書類」に記載されている事由で受験できなかった者に限る。

(追試験の施行科目)

第21条 必修科目、先修科目及び選択科目で、定期試験の科目に限り、追試験を実施する。

(追試験受験申請書の提出)

第22条 追試験を受験する者は、当該科目の筆記試験実施日の翌日から1週間以内（翌日の同じ曜日を含む。なお、締切日が窓口業務を行わない日の場合は次に窓口業務を行う日までとし、以下この章における日付の満了日について同じ。）に、別表「追試験受験申請書添付書類」に記載されている書類を添付の上、所定の追試験受験申請書を教務事務センターに提出しなければならない。

2 前項の手続きを行ったものについて、追試験受験の許可は掲示で行う。

3 別表「追試験受験申請書添付書類」の(2)に該当する者は、追試験受験申請書の提出に先立って、電話で教務事務センターに連絡しなければならない。

(追試験の受験手続き)

第23条 削除

第24条 削除

(再試験)

第25条 定期試験において不合格となった科目について再試験は行わない。

第5章 不正行為

(受験資格の喪失)

第26条 筆記試験中不正行為を行ったものは、当該試験期における全学共通科目英語単位認定試験、全学共通カリキュラム英語単位認定試験および筆記試験全科目の受験資格を喪失させ、その成績はすべて不合格とする。

(不正行為者の退場命令)

第27条 試験監督者は、不正行為を発見した場合は、直ちに退場を命ずることがができる。

(処分の決定)

第28条 不正行為を行った者の処分は、教授会がこれを決定する。(処分の種類)

第29条 処分は、訓告、停学、退学の3種類とする。

〈別表：追試験受験申請書添付書類〉

	試験欠席事由	添付すべき証明書類 事由によっては、立教大学が記入用紙を作成する場合がある
(1)	入院またはそれに準ずる登校不能（風邪・下痢等の一時的な疾病は含まない）ただし、必修科目については欄外*を参照	入院先機関の発行する入院証明書 ^{注1)}
(2)	インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種の罹患による登校不能 ^{注2)}	医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」 ^{注3)} 、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治療証明書」 ^{注4)}
(3)	忌引（保証人、配偶者および3親等以内の血族または姻族に限る）（法事は含まない） ^{注5)}	本人と保証人の署名・捺印のある書類（様式は自由、本人との続柄を明記）およびその事実を明らかにするもの（死亡に関する公的証明書もしくは会葬礼状等）
(4)	交通機関の30分以上の遅延	交通機関発行の遅延証明書
(5)	重大な災害による登校不能	官公庁発行の被災証明書
(6)	学校・社会教育講座の各種実習・体験等	実習・体験期間証明書
(7)	就職試験（就職試験の日程が変更できない場合に限る。セミナー、複数企業の合同説明会、OB・OG訪問等は含まない）	本人が受験したことを証明する受験先機関発行の証明書（就職試験の場所、日時を明記、社印が押印されていること）
(8)	他大学大学院入学試験	受験票のコピー
(9)	日本代表としてのスポーツ公式競技への参加	派遣元団体が大学に宛てた公文書
(10)	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭、または裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭の場合、出頭した裁判所で出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」、裁判員に選任された場合、裁判員職務従事期間についての「証明書」
(11)	上記10事項に準ずる事由 ^{注6)}	

* 必修科目については、医師の診断書がある病気・けがによる登校不能についても欠席事由とする。

注1) 上記(1)の場合の入院証明書・医師の診断書は、試験を欠席した日の入院・病気・けがを証明する内容であること。

注2) 上記(2)に該当した場合には、速やかに所属キャンパスの教務窓口へ連絡し指示を受けること。なお、罹患中に試験を受験した場合には、その試験は無効となる。

注3) 上記(2)に該当した場合の医師の診断書において、罹患時と治癒時の受診医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合があるので注意が必要である。受診医療機関を変更する場合は、罹患時に受診した医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」を必ず取得しておくこと。こうすることにより、罹患時に取得した「診断書」と治癒時に受診した医療機関が発行する「治癒日と登校可能日の記載がある『診断書』」の2種類をもって「罹患期間についての証明」とすることが可能となる。

注4) 上記(2)に該当した場合の「治療証明書」の書式は、SPIRIT 教務部ページからダウンロードすること。

注5) 3親等以内の血族または姻族とは次を指す。

血族—父母・子、祖父母・兄弟姉妹・孫、曾祖父母・伯叔父母・甥姪・曾孫
姻族—配偶者の父母・子の配偶者・配偶者の子（配偶者の前婚における子など）、配偶者の祖父母・配偶者の兄弟、姉妹・孫の配偶者・配偶者の孫（配偶者の前婚における孫など）・兄弟姉妹の配偶者、配偶者の曾祖父母・配偶者の伯叔父母・配偶者の甥姪・曾孫の配偶者・配偶者の曾孫（配偶者の前婚における曾孫など）・甥姪の配偶者・伯叔父母の配偶者

注6) 原則として、事前の届出に対して審査を行うので、所属キャンパスの教務窓口へ問い合わせること。

5 立教大学博士学位申請手続要領（抜粋）

改正 2017年4月1日

1 博士の学位授与を申請する場合は、論文（PDF版1部（媒体自由、PDF/A形式を推奨）、くろみ製本版3部）（原則としてA4判の大きさとする。）に7の申請関係書類（各3部・うち2部はコピー可）を添えて、申請する研究科のあるキャンパスの教務事務センター又は独立研究科事務室に提出すること。

なお、次の研究科の博士学位申請論文については、仮製本の形での提出も可とし、部数については、各研究科で定める。この場合のPDF版の提出は不要とする。

（課程博士の場合）

全ての研究科

（論文博士の場合）

文学研究科、理学研究科、社会学研究科、観光学研究科、コミュニティ福祉学研究科、ビジネスデザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科、現代心理学研究科、キリスト教学研究科

仮製本で提出した申請者は、審査委員会から論文の修正要求があった場合は、指示に従い論文を修正し、修正要求が満たされたと判断された後、PDF版1部（媒体自由、PDF/A形式を推奨）、くろみ製本版（部数は各研究科が指示する。）を提出すること。その手続については、各研究科の指示に従うこと。

2 論文（主論文）の表紙には、PDF版、くろみ製本版ともに、論文題目及び申請者名を記入すること。

3 論文が受理された場合は、「立教大学大学院学位論文審査手数料規則」に定める所定の審査手数料を、指示に従って納入すること。

4 最終試験の日時については、学部事務課又は独立研究科事務室から申請者に通知する。

5 学位授与の可否については、教務事務センター又は独立研究科事務室から申請者に通知する。

6 一度納入した論文審査手数料は、返却しない。

7 学位申請関係書類

下記の申請関係書類は、横書きにして、インクは黒又は青を使用し、数字は算用数字を用いること。

(1) 学位申請書

・学位申請書には、申請する学位の専攻分野名及び立教大学学位規則第8条第2項により受験する外国語を明記すること。

(2) 論文題目

・主論文の題目が外国語の場合は、日本語訳をつけること。
・参考論文とは審査に当たって参考としてほしい本人の論文をいう。

(3) 論文要旨

・主論文の題目が外国語の場合は、日本語訳をつけること。
・論文要旨は、日本語の場合は4,000字以内、外国語の場合は2,000語以内とする。

(4) 履歴書

・学歴は、高等学校又は同程度の学校の入学から年次を追って記入すること。
・年号は西暦で記入すること。
・本籍地欄は外国人の場合は国籍を記入すること。

(5) 研究業績一覧

(6) 最終学校の卒業（修了）証明書（最終学校が本学の場合及び本学在学学生は不要）

(7) 立教大学学術リポジトリ登録申請書

（注）学位授与申請後、学位授与までの間に現住所を変更した場合は、速やかにその都度申請した研究科のあるキャンパスの教務事務センター又は独立研究科事務室に報告すること。

6 博士学位論文取扱い事務に関する内規（抜粋）

改正 2017年4月1日

立教大学大学院学則及び立教大学学位規則に定めるもののほか、学位論文の取扱い事務に関しては、以下のとおりとする。

（提出日）

1 学位申請論文提出期日は、各研究科の定めるところによる。

（受理）

2 ① 学位申請のため提出された関係書類及び論文は、教務事務センターが受理した後、各学部事務課に届ける。

② 各学部事務課は、当該研究科委員長に関係書類及び論文を提示・報告し、指示を受ける。

③ 独立研究科においては、①②とも独立研究科事務室が行う。

（審査）

3 各研究科は、審査委員会を設置し、総長に受理及び審査委員の報告を行う。

4 審査終了後、審査委員会は審査報告書を作成し、各研究科委員会での審議を行う。

5 研究科委員長は、研究科委員会での審議結果を総長に報告し、大学院委員会での審議を依頼する。

6 大学院委員会の審議結果及び授与式の申請者本人への通知は教務事務センター又は独立研究科事務室が行う。

（授与）

7 博士の学位授与は、3月及び9月とする。

8 学位記の作成は教務事務センターが行う。

（文科省への報告）

9 文部科学省への博士の学位授与報告は独立研究科事務室が行う。

（論文等の保管）

10 ① 博士の学位が授与された者の学位論文については、PDF版とくろみ製本版1部は本学図書館に保管する。くろみ製本版の残りの部数の取り扱いについては各研究科の定めるところによる。

② 学位授与の審査に関する諸関係書類及び学位論文審査報告書は、各1部を学部事務課又は独立研究科事務室で保管する。

7 立教大学大学院学位論文審査手数料規則

改正 2018年4月1日

（目的）

第1条 この規則は、立教大学学位規則に定めるもののほか、立教大学大学院（以下「大学院」という。）修士課程又は博士課程前期課程及び同後期課程を経た者、並びに博士課程後期課程を経ない者が学位申請論文（以下「論文」という。）を提出する場合に納入すべき審査手数料について定める。

2 この規則における論文は、立教大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第5条第2項で定める「特定の課題についての研究の成果」を含むものとする。

（修士論文）

第2条 大学院修士課程又は博士課程前期課程に在学して、大学院学則第5条に定める所定の単位を修得し終える学期までに論文を提出する場合、審査手数料は無料とする。

2 大学院修士課程若しくは博士課程前期課程に在学して、所定の単位を修得した者が在学2年を超えて、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超えて引き続き在学し、在学4年以内に論文を提出する場合、審査手数料は1万5千円とする。

（博士論文）

第3条 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終える学期までに論文を提出する場合、審査手数料は無料とする。

2 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、在学3年を超える者が引き続き在学し、在学6年以内に論文を提出する場合、審査手数料は3万円とする。

3 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた上退学した者が、博士課程後期課程入学後6年以内（休学中の期間を除く。）に論文を提出する場合、審査手数料は4万5千円とする。

4 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた上退学した者が、博士課程後期課程入学後6年（休学中の期間を除く。）を経過した後に論文を提出する場合、審査手数料は6万円とする。

5 大学院博士課程後期課程を経ない者又は大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えることなく退学した者が論文を提出する場合、審査手数料は20万円とする。

6 本学専任教職員が論文を提出する場合（第3項及び第4項に該当する場合を除く。）、審査手数料は10万円とする。

8 立教大学大学院学費その他納入金内規

題名改正 2010年4月1日
改正 2014年4月1日

(趣旨)

第1条 この内規は、立教大学大学院（以下「大学院」という。）学則に定めるもののほか、修士課程並びに博士課程前期課程及び同後期課程における当該年次納入すべき学費その他納入金について定める。

(定義)

第2条 この内規において学費とは、授業料（在籍料を含む。）、教育充実費及び実験・実習費をいう。

2 この内規において当該年次とは、4月入学者は当該年度春学期及び秋学期の期間をいい、9月入学者は当該年度秋学期及び翌年度春学期の期間をいう。

(修士課程及び博士課程前期課程のうち4月に入学した者)

第3条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において在学2年を超える者、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超える者が、大学院学則第5条に定める所定の単位修得のため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第5条に定める所定の単位を修得し引き続き秋学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、春学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし9月19日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の単位を修得した者)

第4条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において所定の単位を修得した者が在学2年を超えて、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超えて引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし、9月19日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(修士課程及び博士課程前期課程のうち、9月に入学した者)

第5条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において在学2年を超える者、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超える者が、大学院学則第5条に定める所定の単位修得のため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第5条に定める所定の単位を修得し引き続き翌春学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、秋学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし3月31日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の単位を修得した者)

第6条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において所定の単位を修得した者が在学2年を超えて、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超えて引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし、3月31日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(博士課程後期課程のうち4月に入学した者)

第7条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院博士課程後期課程において在学3年を超える者で大学院学則第6条に定める研究指導を受けるため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額その他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、引き続き秋学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、春学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし9月19日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の研究指導を受け終えた者)

第8条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院博士課程後期課程において大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、在学3年を超える者

が引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし、9月19日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。ただし、9月19日までに博士學位申請論文が受理され、3月31日に修了した者は、前項の学費の2分の1額及び学位授与までの在籍期間所定の在籍料並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

(4月に入学した者のうち所定の研究指導を受け終えた後学位授与が翌春学期以降に及ぶ者)

第9条 4月に入学し、かつ、大学院博士課程後期課程在学中の者が所定の研究指導を受け終えた後、3月31日までに博士學位申請論文が受理され、その学位授与が翌春学期以降になった場合は、翌春学期から学位授与までの期間の学費として在籍期間に応じ所定の在籍料及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

(博士課程後期課程のうち9月に入学した者)

第10条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院博士課程後期課程において在学3年を超える者で大学院学則第6条に定める研究指導を受けるため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額その他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、引き続き翌春学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、秋学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし3月31日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の研究指導を受け終えた者)

第11条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院博士課程後期課程において大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、在学3年を超える者が引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし、3月31日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。ただし、3月31日までに博士學位申請論文が受理され、9月19日に修了した者は、前項の学費の2分の1額及び学位授与までの在籍期間所定の在籍料並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

(9月に入学した者のうち所定の研究指導を受け終えた後学位授与が翌秋学期以降に及ぶ者)

第12条 9月に入学し、かつ、大学院博士課程後期課程在学中の者が所定の研究指導を受け終えた後、9月19日までに博士學位申請論文が受理され、その学位授与が翌秋学期以降になった場合は、翌秋学期から学位授与までの期間の学費として在籍期間に応じ所定の在籍料及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

附則

- 1 この内規は、2010年4月1日から施行する。
- 2 「立教大学大学院授業料に関する申し合わせ事項」(昭和36年4月1日施行)は、廃止する。

附則

この内規は、2011年4月1日から施行する。

附則

この内規は、2014年4月1日から施行する。

9 立教大学大学院学生学会発表奨励金規程

改正 2017年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、立教大学大学院に在籍する学生の学会における発表・報告等（以下「学会発表」という。）を奨励することを目的として支給する立教大学大学院学生学会発表奨励金（以下「奨励金」という。）について定める。

(奨励金の支給制限)

第2条 この奨励金は、支給を申請した学生について年3回に限り支給するものとする。

2 年3回のうち、国内での学会発表に対する申請は2回に限り、海外での学会発表に対する申請は1回に限る。

(支給対象)

第3条 奨励金の支給対象は、次の各号のいずれかでの学会発表とする。

- (1) 学会取扱い規程第3条の手続きにより登録された学術団体が開催する会合
- (2) 前号による登録をしていない学術団体のうち、学会取扱い規程第2条第

1号又は第2号に定める基準に該当するものであって、当該研究科委員会が承認した学術団体が開催する会合

(3) 海外で開催されるもののうち、前2号に該当しない場合は、当該研究科委員会が前号に準ずるものとして承認した学術団体が開催する会合（支給額）

第4条 支給額は、学会発表の場所により、次の各号のとおりとする。

- (1) 東京都、神奈川県、埼玉県又は千葉県 一律1万円
- (2) 前号以外の国内 一律3万円
- (3) 海外 一律5万円

(奨励金の申請)

第5条 この奨励金の申請は、所定の申請書によるものとし、当該研究科委員長の承認を得なければならない。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て総長が行う。

10 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学学生交流に関する覚書

学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、立教大学及び早稲田大学は「学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学大学間交流に関する協定書」に基づき、互恵の精神を以て相互に多様な授業科目を開放し、学生が相互履修することについて、本覚書を締結する。

1. 受入

各大学は、協定大学の学生が指定された授業科目の履修を希望するときは、協定に基づき当該学生を受け入れることができる。

2. 受入学生の身分

各大学は、前項によって受け入れた学生を、特別聴講学生と称する。ただし、受入大学において別に定める場合はこの限りでない。

3. 対象者

各大学に在学する2年次以上の学部学生を対象とする。

4. 受入学生数

この協定により各大学が受け入れる特別聴講学生数は、5大学で協議の上決定する。

5. 個人情報提供及び保護

- (1) 各大学は、相互履修を希望する自大学の学生の学籍に関する必要情報を相互に提供するものとする。
- (2) 前項により得た情報は、5大学間学生交流に関する目的以外に使用してはならない。

6. 履修期間

特別聴講学生の履修期間は、当該学生の履修科目に必要と定められた期間とする。

7. 履修科目の範囲および単位数

- (1) 各大学の提供科目数は、5大学で協議の上調整する。
- (2) 各大学は、それぞれの大学が開講する科目のうち特別聴講学生が履修できる授業科目を提供科目として選定し、相互に通知する。
- (3) 各提供科目毎の特別聴講学生受入人数は、当該科目を設置する大学の定めるところによる。
- (4) 特別聴講学生が同一年度内に履修できる単位数の上限は、5大学で協議の上決定する。

8. 申請及び承認手続き

特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生は、定められた期間に所定の申請手続きをとり、学生を受け入れる大学の許可を得るものとする。

9. 履修方法・成績評価等

- (1) 特別聴講学生の履修方法、成績評価等については、当該科目を設置する大学の定めるところによる。
- (2) 特別聴講学生が修得した単位の認定に関わる事項は、学生の所属大学が定めるところによる。

10. 図書館の相互利用に係る便宜

各大学は、特別聴講学生の勉学に資するため、特別聴講学生の大学図書館の利用に関して配慮するものとする。

11. 施設・設備利用の便宜

前条によるほか、特別聴講学生が提供科目を履修するに際し、当該科目を設置する大学の施設及び設備の利用が必要と認められる場合には、特別聴講学生に対し、当該大学の定めるところによりその利用について便宜を図るものとする。

12. 学費等

- (1) 各大学は、特別聴講学生の授業履修に係る授業料等については、これを相互に免除するものとする。
- (2) 授業の履修に必要な実験・実習費等特別な経費については、当該授業科目を設置する大学の定めるところによる。

13. 協議

本覚書に定めるもののほか、協定の実施に関する必要事項は、5大学の協議により定める。

14. その他

- (1) 本覚書の改廃は5大学の協議を経て行う。
- (2) 本覚書は2001年4月1日から施行し、2004年3月31日まで有効とする。ただし、有効期限の6か月前までに申し出がない場合は、さらに1年間延長するものとし、以後についても同様とする。

11 明治大学、立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書

明治大学、立教大学及び国際大学（以下「3大学」という。）は、学長及び総長により締結した「国際協力人材の育成に関する協定」（以下「協定」という。）第3条に基づき、共同教育プログラムの履修等関連事項について、この覚書を締結する。

（受入）

第1条 各大学は、この覚書に基づき、3大学の学生が指定された授業科目の履修を希望するときは、当該学生を受け入れることができる。

（受入学生）

第2条 各大学は、前条によって受け入れた学生を、特別聴講学生と称する。ただし、受入大学において別に定める場合はこの限りでない。

（受入学生数）

第3条 各大学が受け入れる特別聴講学生数は、授業科目ごとに受入大学が決定する。

（個人情報提供及び保護）

第4条 特別聴講学生の個人情報提供及び保護は、次のとおりとする。

- (1) 各大学は、特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生の学籍に関する必要情報をそれぞれの大学に提供するものとする。
- (2) 前項により得た情報は、3大学間の単位互換に関する目的以外に使用してはならない。

（履修期間）

第5条 特別聴講学生の履修期間は、当該学生が履修する授業科目に必要と定められた期間とする。

（履修科目の範囲及び履修上限単位数）

第6条 特別聴講学生が履修できる授業科目の範囲及び履修できる単位の上限は、次のとおりとする。

- (1) 各大学が提供する授業科目数は、3大学で協議の上調整する。
- (2) 各大学は、共同教育プログラムのうち、特別聴講学生が履修できる授業科目を提供科目として選定し、互いに通知する。
- (3) 特別聴講学生が同年度内に履修できる単位数の上限は、3大学で協議の上決定する。

（履修申請）

第7条 特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生は、定められた期間に所定の申請手続きをとり、受入大学の許可を得るものとする。

（履修方法、試験方法及び成績評価等）

第8条 特別聴講学生の授業科目の履修方法、試験方法及び成績評価等は、次のとおりとする。

(1) 特別聴講学生の履修方法、試験方法及び成績評価については、当該科目を設置する大学の定めるところによる。

(2) 特別聴講学生が修得した単位の認定に関わる事項は、学生の所属大学が定めるところによる。

（授業料等）

第9条 特別聴講学生の授業料等は、徴収しない。ただし、実験・実習費等特別な経費については、当該授業科目を設置する大学の定めるところによりこれを徴収することができる。

2 前項の規定にかかわらず、国際大学が受け入れる特別聴講学生の授業料等については別途協議するものとする。

（授業担当教員に対する給与、手当、交通費等）

第10条 特別聴講学生の履修する授業科目を担当する教員の給与、手当及び交通費等については、原則として、当該科目を開講する大学の規程による。

（利用の施設）

第11条 特別聴講学生が履修に必要な施設・設備の利用については、受入大学の定めるところにより、その利用について便宜を図るものとする。

（この覚書の効力）

第12条 この覚書の有効期間は、協定の有効期間満了の6か月前までに3大学のいずれかの大学から他方の大学に対して書面による覚書破棄通告を行わない限り、協定の有効期間に準ずるものとする。

2 この覚書の失効日時点で受入大学において授業科目を履修中の特別聴講学生は、当該失効日の影響を受けず、当初予定していた授業科目の履修期間を満了できるものとする。

（その他）

第13条 この覚書に定めるもののほか、協定の実施に関する必要事項は、3大学の協議により定める。

2 この覚書3通を作成し、それぞれの当事者記名の上、それぞれ1通を保有する。

附 則

この覚書は、2013年（平成25年）4月1日から施行する。

個人情報 保護

プライバシーポリシー
立教大学における個人情報の取扱いについて

プライバシーポリシー

立教大学における個人情報の取扱について

最終更新日 2017年6月1日

〈個人情報に関する基本的な考え方〉

立教大学（以下「大学」という。）では、個人情報保護の重要性を認識し、その適切な管理を行うことが重要な社会的責務であると考えています。個人情報に関する法令等を遵守すると共に、「立教大学個人情報保護規程」に基づいた、以下のプライバシーポリシーに従って個人情報の保護に努めております。

1. 個人情報とは

現在大学に在籍している、及び過去において在籍した学生、大学院学生、受験生、保証人、教職員等に関する情報であって、個人が識別されるものをいいます。

2. 個人情報の収集について

個人情報は適正かつ公正な手段によって収集し、不正な手段によっては情報を収集しません。また、収集にあたっては、自明の場合を除き、その利用目的を明らかにします。

3. 個人情報の利用目的

大学の正課・正課外等教育研究活動及びそれに付随する必要なサービスの提供並びに校務のために利用します。より具体的な利用目的は、別表に定める他、情報収集の際に明示します。

4. 情報の提供について

大学では、以下の場合を除き、情報を外部に提供することはありません。

- (1) 大学の業務に必要な不可欠な場合
- (2) 情報主体が同意している場合
- (3) 法令による場合
- (4) 情報主体の身体・生命等を保護するため、緊急かつ止むを得ない場合
- (5) 情報の同一性確認を求める公的機関からの依頼がある場合
- (6) 学術研究に利用する場合

5. 情報の管理方法

立教大学では、個人情報を正確、最新のものにするよう適切な措置を講じています。また、個人情報の漏洩、紛失、誤用、改ざん、不正アクセス等を防止するための合理的な保護措置をとっています。

業務委託、事業継承及び共同利用にあたっては、機密保持条項を含む契約を締結し、委託先に対し、情報に関する厳重管理を求め、目的以外の利用を行わせないようにしています。

なお、上記の保護措置及び管理措置を実施するために、大学に「個人情報保護統括管理責任者」及び各部局・部署等に「個人情報管理責任者、個人情報取扱責任者」を定めています。

6. 情報の開示・訂正

個人情報の開示は、「立教大学個人情報保護規程、同施行細則」に基づいて行われます。個人情報の内容に誤りがあった場合には速やかに訂正いたします。

7. 不服の申し立て

大学の個人情報の取扱いについて不服がある場合は、「個人情報保護審査会」に申し立てることができます。個人情報保護審査会への申し立ては大学の主要窓口で受付いたします。

別表（「3. 個人情報の利用目的」関係）

利用区分	利用業務
教育研究	1 入学関係（出願・入学手続） 2 学籍関係（学生証交付、名簿作成等の学籍管理、休学・復学・退学等の諸手続き等） 3 授業関係（履修相談、履修登録・通知、授業・実習・試験運営、成績処理・通知*1・管理、学修効果確認、卒業判定、学位記授与等々） 4 各種証明書等の発行 5 図書館の利用及び各種図書館サービスの提供 6 教学に関わる調査・統計資料作成*2 7 学術研究に関わる調査*3・統計資料作成*2 8 実習関係（教育実習、介護等体験、博物館実習、図書館実習等） 9 教員免許状申請 10 大学内への掲示等による大学各部局からの連絡・問い合わせ 11 卒業後の学籍・成績関係情報の在籍記録保存、各種証明書等作成・発行

教育学術交流・留学等支援	1 他大学・大学院との単位互換制度関係（国の内外を問わない） 2 学生からの申し込みを受けて行う留学のための各種アテンド 3 海外文化研修・海外語学研修、学部単位の留学制度を利用する学生の派遣及び受入の準備のための情報授受 4 学生および保証人に送付する各種関係書類の発送 5 学生および保証人に対し当該プログラム実施の為にを行う連絡・問合せ 6 学生が希望する、私費外国人留学生奨学金の選考結果を利用する学内外の奨学金選考及び推薦資料の作成等に関する事務
学生生活支援	1 学生生活全般の指導・助言 2 学生対象の各種福利厚生業務（奨学金・学生健康保険互助組合・留学生総合住宅補償・学生食堂・アルバイト紹介・部屋紹介・遺失物・臨時託児所等） 3 学生団体及び個人の課外活動支援（クラブ・サークル活動、キャンプ等） 4 学生生活支援（相談業務、オリエンテーション、課外教育プログラム、遺失物対応等） 5 学生生活に係る調査・統計資料作成*2 6 大学の教育活動への協力依頼(入試業務、ハンドブック作成等) 7 学生の保険加入及び異動管理*4
キャリア支援	1 進路・就職支援等の相談
情報・通信	1 V・Campus等各種情報サービスの提供 2 学内コンピュータ施設利用時の利用者認証及び利用者に応じたログオン環境の提供
財務	1 学費納付のための業務 2 経理処理上必要な手続き（内容確認及び証憑書類としての照合） 3 給与等の振込口座登録
人事・福利厚生	1 勤務員の人事管理 2 給与の支給等、税・社会保険納付、福利厚生 3 各種調査・統計資料作成*2 4 立教学院年金諸事務
保健・診療	1 診療所における診療関連業務 2 診療所における日本医師会が医療機関に定める個人情報の利用 3 診療所における学生健康保険互助組合加入者が補助を受ける場合の学生健康保険互助組合への請求 4 保健室における救急対応 5 保健室における健康診断を含む健康相談等の健康管理 6 保健室における利用者が立教学院診療所利用時において必要なサービスを受けるための連携業務 7 保健室における他部局からの健康診断受診状況照会への回答 8 保健室における他部局からの健康診断証明書発行可否照会への回答
広報・発信	1 卒業後の本学及び校友会に関する情報提供*5 2 保証人への季刊誌の送付 3 保証人への教育懇談会開催通知 4 寄付に関するお知らせの送付

*1 入学時に提出いただいた同意書に基づき、学生本人（大学院学生含む。以下同じ）の学修効果の確認、休学・復学・退学等の確認のため、大学に届け出ている保証人に、個人情報を提供します。ただし、満年齢が20歳に達した学生については、保証人への情報提供を行わない場合があります。情報の提供を希望しない学生は、教務関係窓口*にその旨申し出てください。

*2 統計資料の作成に際しては、個人情報が入り混じった形で数値化等の加工をした上で行います。

*3 学術上の調査・研究にかかわると判断できる場合で、当該情報が生存する個人の個人情報に関係しないと判断できるときは、教務部内規により故人の個人情報を開示することがあります。

*4 保険加入に際し、学外機関への個人情報の提供が必要な場合は、学生本人にその旨をお知らせし、同意を得て行います。

5 大学を通じた校友会関係情報の送付については、在学時は教務関係窓口、卒業後は校友会関係窓口*で変更することができます。

※各窓口の担当部署

教務関係窓口…教務事務センター、独立研究科事務室、法務研究科事務室
 校友会関係窓口…渉外課

各種案内

- 1 教務部案内（新座キャンパス）
- 2 パソコン教室，貸出パソコン利用案内
- 3 V-Campus案内
- 4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置
- 5 地震発生時の心得
- 6 台風の接近が予想される場合の措置
- 7 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応
- 8 緊急連絡システムについて

1 教務部案内

1. 教務部事務

教務部は、以下の事項を取り扱う。

- (1) 学籍の管理
- (2) 入学・休学・退学・卒業に関する事項
- (3) 授業に関する事項
 - ① クラス編成
 - ② 時間割の作成
 - ③ 教室配当
 - ④ 履修科目の登録
- (4) 試験及び学業成績に関する事項
- (5) 所管事項に関する文書の受信・発信
 - ① 保証人・国籍の変更、氏名変更、住所変更届等の受理
 - ② 学生証、在学・卒業・修了・成績等各種証明書、学割等の発行
- (6) その他教務事務に関する一切の事項
 教務部では、業務を次のように分担している。
 - ① 教務事務センター（池袋キャンパス：タッカーホール1階、新座キャンパス：7号館1階）
 学部学生、大学院学生の履修・授業・成績・試験・休学・退学に関する事項、保証人・国籍の変更、氏名変更・住所変更届に関する事項、学生証、通学定期乗車券発行控に関する事項、在学・卒業・修了・成績等の各種証明書の発行
 - ② 学校・社会教育講座事務室（池袋キャンパス：2号館1階、新座キャンパス：7号館1階）
 学部学生、大学院学生の教職課程・学芸員課程・司書課程（司書教諭を含む）・社会教育主事課程関係の受講登録、履修・授業・試験・成績、各課程における実習・体験、各課程資格取得・申請に関する事項、各課程修了・単位修得等の各種証明書の発行
 - ③ 独立研究科事務室（池袋キャンパス：11号館4階）
 ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者）、経済学研究科（社会人コース）の大学院学生の履修・授業、試験・成績、休学・退学、保証人・国籍の変更、氏名変更届、住所変更届に関する事項
 - ④ 法務研究科事務室（池袋キャンパス：11号館4階）
 法務研究科の大学院学生の履修・授業、試験・成績に関する事項

証（学割証）、健康診断証明書の各証明書は、教務事務センター内の証明書発行機により即時発行。それ以外の証明書は翌日（翌日が窓口閉室日の場合は、翌日以降の窓口開室日）の12：00以降。

注1）調査書の作成には多少日数がかかる。出願先の所定用紙を持参のうえ、教務事務センター窓口へ申し出ること。

注2）健康診断証明書の発行について

1. 発行開始日：（4月入学者）2019年5月10日（金）
 （9月入学者）2019年10月15日（火）

※それ以前の発行はできない。

2. 下記に該当する場合は発行はできない。
 - ・本学が実施した定期健康診断を受けていない。
 - ・定期健康診断時に未検の検査項目がある、また保健室から指示された再検査、診察などを受けていない。

注3）学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）は1年間に1人10枚まで、有効期間は発行日から3ヶ月である。

注4）博士課程後期課程の成績証明書、修了見込証明書が必要な場合は、教務事務センター窓口へ申し出ること。発行は翌日（翌日が窓口閉室日の場合は翌日以降の窓口開室日）の12：00以降。

また、博士課程後期課程の英文成績証明書は原則作成していない。

※証明書発行機での交付には学生証が必要である。

※上記以外の証明書が必要な場合は、所属キャンパスの教務事務センター窓口へ申し出ること。

（注）学生氏名文字（漢字）について

学生証に記載されている学生氏名の文字（漢字）は、原則としてJIS規格の文字を使用し、在学中発行の諸証明書及び学位記、卒業後の諸証明書などの発行に用いる。JISに無い文字については、JIS準拠のものに改めるが、不都合がある場合は、所属キャンパスの教務事務センター窓口へ申し出ること。

2. 諸届・各種証明書の発行

- (1) 諸届
 諸届とも教務事務センター窓口にて所定の届出用紙がある。
 所属キャンパスの教務事務センターに提出すること。
 - ① 保証人変更届
 保証書を添え、保証人連署・捺印の上届出ること。
 - ② 国籍変更（帰化）届
 詳細は前記窓口でたずねること。
 - ③ 氏名変更届
 住民基本台帳記載事項の証明書若しくはそれに代わるものを添え、届出ること。
 - ④ 住所変更届
 本人または保証人の住所、電話番号、本人のメールアドレス、通学区間（最寄駅）を変更した場合に届出ること。
- (2) 各種証明書の発行

証明書の種類	和文料金	英文料金	発行にかかる日数
在学証明書	300円	400円	即時
卒業（見込）証明書			
修了（見込）証明書			
成績証明書			
調査書			注1
健康診断証明書		400円	注2
学割証 注3	無料		即時

在学、成績（注4）、卒業見込、修了見込（注4）、学校学生生徒旅客運賃割引

2 パソコン教室、貸出パソコン利用案内

<パソコン教室の利用について>

立教大学では池袋・新座キャンパスにそれぞれ、パソコン教室があります。

授業で使用されていない時間は、自由な自習利用が可能です。

開室時間などについては、以下のURLから確認することができます。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/room>

	池袋キャンパス	新座キャンパス
場所	8号館3F 8301, 8302, 8303, 8304 4F 8402, 8403, 8404 5F 8501, 8502, 8503, 8504 8505, 8506	8号館2F N821, N822, N823, N824 3F N831, N832, N833, N834, N835, N836
開室時間	月～金曜日：8：35～21：00 土曜日：8：35～17：00 日曜・祝日、そのほか本学の定めた休日は閉室です。 長期休暇中など開室時間が上記と異なる場合、以下のURLでお知らせします。 https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/calendar	
利用環境	<p>パソコン教室のパソコンを使うには、V-Campus IDとパスワードが必要です。 パソコン教室では、以下のようなことが行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで情報を収集する ・レポートやプレゼンテーション資料を作成する ・授業支援システムを使って予習・復習・課題を提出する ・Webメールを使用する ・自分のホームページを作成する ・ファイルやホームページを印刷する ・作成したデータを保管する <p>設置台数 https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/SitePages/list.aspx</p> <p>ソフト OS（日・英） Windows 10 Windows 8.1 アプリケーションソフト Microsoft Office（Word, Excel, PowerPointなど）をはじめ、授業で使用するアプリケーションソフトがインストールされています。教室ごとに異なりますので、詳しくは下記のURLにてご確認ください。 https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/application</p>	

<貸出パソコンについて>

立教大学では、教育・研究活動を支援するため、学生向けにノートパソコン等の貸し出しを行っています。

貸出期間は当日内です。貸出場所、貸出時間などについては、下記のURLから確認することができます。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/SitePages/rental.aspx>

3 V-Campus案内

パソコンやインターネット、メールなどのITに関するサービスは「メディアセンター（池袋8号館4F、新座8号館2F）」で管理を行っています。詳しい情報は以下のホームページでご覧になることができます。

「立教大学V-Campusポータルサイト SPIRIT (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/>)」

V-Campus IDとパスワードについて

メールや学内PCを利用する際には、ID（学生番号）とパスワードが必要です。このIDを「V-Campus ID」と呼んでいます。

V-Campus IDで利用できるサービス

V-Campus IDは、授業やゼミのほか、各種の教務関連情報を確認するためにも利用します。

- ・パソコン、ネットワークの利用
 - 1) 学内パソコン（パソコン教室、ラーニングスペース）の利用
 - 2) 学内無線LANへの接続
- ・V-Campus
 - 1) SPIRIT（ポータルサイト）
 - 2) SPIRIT Gmail
 - 3) メールングリストの作成
 - 4) Blackboard（授業支援システム）
 - 5) V-Campusアカウント設定
 - 6) V-Campusホームディレクトリ
 - 7) V-Campusホームページ（FTP接続）
 - 8) V-Campus Web設定
- ・英語教材
 - 1) Rikkyo English Online（REO）
 - 2) ALC NetAcademy
 - 3) 英語ディスカッション
- ・Eラーニング
 - 1) Blackboardセルフラーニング
- ・図書館関連
 - 1) MyLibrary
- ・教務関連
 - 1) 履修登録状況の確認
 - 2) 履修登録／成績参照システム
 - 3) グローバル教養副専攻専用Web
 - 4) 休講情報（自宅からの閲覧時）
- ・学修・キャリア支援
 - 1) 立教時間
- ・その他
 - 1) 学内イントラネットへのアクセス
 - 2) Mobile V-Campusの利用登録
 - 3) SPIRIT Mobile


V-Campus IDとパスワードの発行

入学時に学生証と一緒に配付しています。それ以外の方も、パソコン教室のカウンターで学生証を提示することで即時発行を行なっています。

V-Campus IDはさまざまな場面で利用されるものですから、パスワードの扱いは十分に注意してください。詳しくは立教大学 V-Campusポータルサイト SPIRIT をご覧ください。

<このほかのパスワード>

上記のほか、f-Campus科目登録を利用するには、別のパスワードが必要となります。

f-Campus科目登録  <http://www.f-campus.org/>

4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置

大学は、大規模な地震の発生が予想され、大規模地震対策特別措置法に基づき地震防災対策強化地域判定会の招集が確認された場合には、授業を休講とし、次の措置をとります。

1. 在宅中および通学途中の者は、登校を中止してください。
2. 在学中の者は、大学からの連絡及び指示に従ってください。
3. 警戒宣言解除後の授業の再開については、以下のとおりとします。
 - (1) 警戒宣言が午前5時までに解除された場合は、平常どおり授業を行います。
 - (2) 警戒宣言が午前9時までに解除された場合は、午前中の授業を休講と

し、午後からの授業を行います。

- (3) 警戒宣言が午前9時までに解除されない場合は、当日の授業を全日休講とします。なお、全日休講の場合は、大学の諸業務（窓口業務を含む）を行いません。

注：地震防災対策強化地域判定会

大規模地震対策特別措置法第3条1項に規定する地震防災対策強化地域に係る大規模な地震の発生のおそれに関する判定を行うために、気象庁長官の要請によって招集される判定会をいう。

5 地震発生時の心得

建物は大きな地震にも耐えられる構造となっています。震災が発生した場合は次の事項に注意し、安全確認したうえで冷静に避難してください。

1. 地震が起きたら、すぐに外へ飛び出すことは危険です。慌てず指示があるまで教室内で待機するとともに、頭上からの落下物等に対して、頭を守る等の対応をして下さい。
 - ・机の下などに身を伏せ、しばらく様子を見て下さい。
 - ・固定してない机の下に身を隠す場合は、机の足をしっかり握ってください。
 - ・頭上からの落下物（蛍光灯・窓ガラスなど）に注意し、上着その他のもので頭をおおってください。
2. 火災により被害は倍増します。初期消火にできるだけ協力してください。

3. 避難の際は、ブロック塀の倒壊や商店の看板落下などに特に注意してください。

4. 本学院の小・中・高校生も同時に避難することになりますので、避難・救出に協力し、安全地帯を早く確認してください。
5. 交通機関の不通により、帰宅できないときは、本学の避難場所に於て、状況の判明するまで待機してください。
6. 本学の避難場所は建物内および構内空地（瓦やガラスなどの落下物に注意）です。
7. 学内の非常放送により連絡することもありますので注意してください。
8. 教職員や消防士などの指示に従ってください。

6 台風の接近が予想される場合の措置

台風の接近等により、授業を平常どおり行うことができないと判断された場合は、休講などの特別措置をとります。特別措置の内容については、掲示、ホームページ等または電話で確認してください。

[立教大学ホームページ](http://www.rikkyo.ac.jp/)

<http://www.rikkyo.ac.jp/>

[立教大学 Twitter](https://www.twitter.com/rikkyouniv)

<https://www.twitter.com/rikkyouniv>

[立教大学公式Facebookページ](https://www.facebook.com/RikkyoUniversity)

<https://www.facebook.com/RikkyoUniversity>

- * 試験期間についても前記と同様の措置をとることがあります。
- * 大学の窓口業務、諸施設の利用については、ホームページおよび掲示でお知らせします。

7 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応

授業中のキャンパスが警戒対象となった場合、身の安全確保を第一に行動してください。なお、大学からは避難行動等の混乱による事故防止を主目的として、直ちに一斉放送を行います。

なお、放送時間は、池袋キャンパス・新座キャンパス共に、①授業期間中の月～土及び祝日授業日は8：30～22：00、②休日及び休業期間中は8：30～19：00とします。

《参考》

内閣官房国民保護ポータルサイト <http://www.kokuminhogo.go.jp/>

8 緊急連絡システムについて

1. 緊急連絡システム

(※本システムは本学学生および専任教職員を対象としています。)

緊急連絡システムとは、大規模地震が発生した際に、大学から自動的にみなさんの携帯電話等のメールアドレス宛てにメールを送信し、みなさんの安否を確認するシステムです。送信する宛先は、入学時または履修登録時に届け出ていただいたアドレスですが、在学中に変更した場合は、必ず教務関係窓口（教務事務センター〈池袋〉、教務事務センター〈新座〉、独立研究科事務室、セカンドステージ大学事務室）に届け出てください（教職員は人事部人事課に届け出てください）。

なお、この緊急連絡システムが正常に機能するかを確認するために、年1～2回のテストを実施します。

また、この緊急連絡システムを利用して、緊急時の全学休講など重要なお知らせをすることもあります。

2. 連絡方法

大規模地震が発生したら、次のいずれかの方法で安否の状況を大学に報告してください（下図参照）。

携帯電話等が使用可能な場合

みなさんの携帯電話等に送られてきた大学からのメールに返信してください。

携帯電話等が使用できない場合

- キャンパス内または周辺にいる場合……

防災のしおりの巻末にある「安否確認カード」を池袋キャンパス警備室、新座キャンパス門衛所に設置された「安否確認投入箱」に投函してください。

- キャンパス外にいる場合……

下記の「大規模災害時の大学内主要連絡先」に電話連絡してください（郵送も可）。

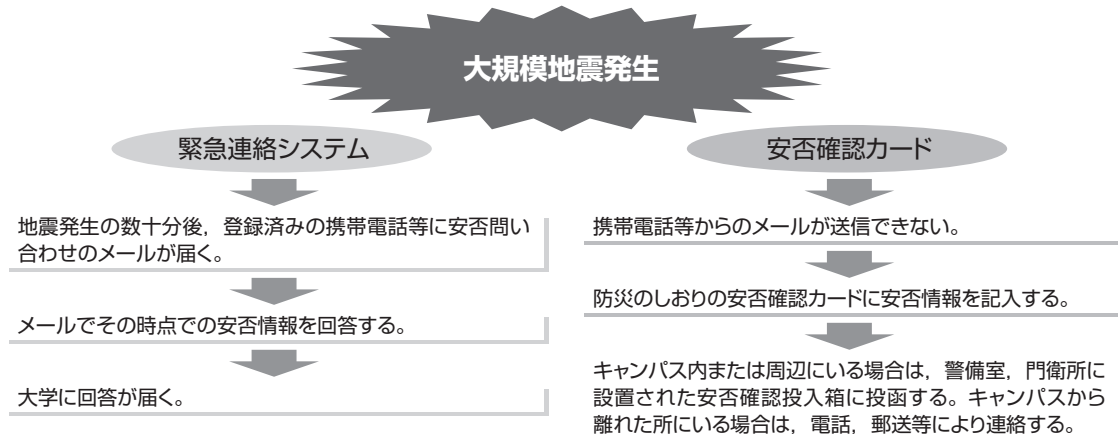
池袋キャンパス 東京都豊島区西池袋3-34-1

総務部総務課	03-3985-2253
学生部	03-3985-2437
警備室（24時間）	03-3985-2288

新座キャンパス 埼玉県新座市北野1-2-26

総務部（新座）	048-471-6674
学生部	048-471-6673
新座キャンパス門衛所（24時間）	048-471-6600

安否確認方法の流れ



【災害時伝言板サービス】

携帯電話各社では「災害時伝言板サービス」の利用ができます。災害発生時に家族との連絡がとれるように準備しておくことをお勧めします。

※利用についての詳細は各社のホームページをご覧ください。

※毎月1日や防災週間等に体験版の利用ができます。

- NTT docomo

<https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>

- au

<https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengen/>

- SoftBank

<http://www.softbank.jp/mobile/service/dengen/>

- Y!mobile

<http://www.ymobile.jp/service/dengen/>

教 員 一 覧

専任教員プロフィール・
担 当 科 目 一 覧

科 目 担 当 者 一 覧
(観光学部専門教育科目)

専任教員プロフィール・担当科目一覧

観 光 学 部 長	橋本 俊哉
観 光 学 科 長	麻生 憲一
交 流 文 化 学 科 長	佐藤 大祐
研 究 科 委 員 長	橋本 俊哉
観 光 学 専 攻 前 期 課 程 専 攻 主 任	小野 良平
観 光 学 専 攻 後 期 課 程 専 攻 主 任	小野 良平

観光学科

【専任】

担当授業科目の*印は全学共通科目

麻生 憲一 (アソウ ケンイチ)	教 授	研究室：N5504 ☎048-471-7404
オフィスアワー	火曜日 12:25~13:10	
E-mail アドレス	asoh@rikkyo.ac.jp	
担 当 授 業 科 目	観光概論 観光調査・研究法入門 観光経済学 地域経済学 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光経済学研究 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研 究 分 野	さまざまな観光現象を経済学的手法を用いて研究を行っている。特に、近年では観光振興や防災拠点としての「道の駅」の役割を研究の中心としている。	
主 な 著 書 ・ 論 文	『現代社会とツーリズム』（東海大学出版会・2001年）、『競争時代における観光からの地域づくり戦略』（同文館出版・2006年）、『観光研究レファレンスデータベース日本編』（ナカニシヤ出版・2011年）、『観光学ガイドブック』（ナカニシヤ出版・2014年）、『公共インフラと地域振興』（中央経済社・2015年）以上共編著	

東 徹 (アズマ トオル)	教 授	研究室：N5605 ☎048-471-7461
オフィスアワー	火曜日 12:25~13:25	
E-mail アドレス	azumat@rikkyo.ac.jp	
担 当 授 業 科 目	観光概論 観光インターンシップA/B マーケティング総論 サービス・マネジメント 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光地経営研究 観光マーケティング 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研 究 分 野	マーケティングの視点から、観光、サービス、地域振興に関する様々なテーマ（ex.観光まちづくり、商店街問題、地域ブランドなど）にアプローチしている。	
主 な 著 書 ・ 論 文	『旅行産業論』（共著 公益財団法人日本交通公社 2016年）、『新現代観光総論』（共著 学文社 2015年）、『観光まちづくりへの進化』『地域経済の進化と多様性』（泉文堂 2013年）、『地域ブランド戦略の展開』『新時代の観光—課題と挑戦—』（同文館出版 2007年）、『観光地づくりにおける持続可能性と地域イニシアティブ』『観光の新たな潮流』（同文館出版 2003年）、『現代マーケティングの基礎知識（改訂版）』（共編著 創成社 2017年）	

韓 志昊 (ハン ジョホ)	教授	研究室：N5604 ☎048-471-7463
オフィスアワー	月曜日 13:25~15:05	
E-mail アドレス	hanjiho@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光調査・研究法入門 早期体験プログラム ホスピタリティ産業経営 観光特論6(英語) 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光経営研究 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	Hospitality Marketing, Hospitality SMEs, Research Methods	
主な著書・論文	日本におけるロケ地めぐり観光研究の動向と用語の整理 共著, 立教大学観光学部紀要, 第17号, 45-51, 2015年	

羽生 冬佳 (ハニユウ フユカ)	教授	研究室：N5602 ☎048-471-7469
オフィスアワー	水曜日 12:25~13:25	
E-mail アドレス	fhanyu@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光調査・研究法入門 観光概論 観光事業論 観光計画論 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光環境・計画学研究(3) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	観光地域計画, 観光地化の過程と地域社会への影響, 観光資源の管理・活用, 空間の変化と観光行動の関連	
主な著書・論文	『観光の新しい潮流と地域』(放送大学教育振興会, 2011年3月) 『韓国の伝統集落の持続的な保護に向けた観光マネジメントのあり方(共著)』(『観光研究』2013年9月)	

橋本 俊哉 (ハシモト トシヤ)	教授	研究室：N5619 ☎048-471-7452
オフィスアワー	月曜日 12:30~13:20	
E-mail アドレス	hashi@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光概論 観光行動論 観光感性論 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	観光行動論(観光・レクリエーション空間における行動特性研究), 観光感性論, 観光地の災害復興	
主な著書・論文	『観光行動論』(編著 原書房 2013年) 『自然散策が及ぼす心理的・生理的効果の性格特性による比較』(共著 観光学部紀要 2014年) 『観光地の「災害弾力性」試論』(単著 観光学部紀要 2016年)	

毛谷村 英治 (ケヤムラ エイジ)	教授	研究室：N5613 ☎048-471-7438
オフィスアワー	火曜日・水曜日 12:25~13:10 *2019年度春・秋学期研究休暇	
E-mail アドレス	keyamura@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光施設論 施設・空間造形論 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光環境・計画学研究(1) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	観光に供せられる施設や空間の計画・造形手法ならびに演出技法, ホテル建築の変容と都市文化, 旧植民地の都市建築, テーマパークにおける空間演出技法	
主な著書・論文	「A Study on Facility Planning at International Expositions」 (Six International symposium on Asia Pacific Architecture 2005年) 『駅ホテルの建築計画と公的役割の歴史の変遷及び将来像の研究』 (共著, 東日本鉄道文化財団助成研究報告書 2001年)	

野田 健太郎 (ノダ ケンタロウ)	教授	研究室：N5506 ☎048-471-7467
オフィスアワー	火曜日 12:25~13:10	
E-mail アドレス	kenoda@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光調査・研究法入門 経団連インターンシップ 企業情報分析 ITビジネス論 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 経営財務1/2	
研究分野	事業継続計画 (BCP), 企業の社会的責任 (CSR), 企業情報分析, 財務会計	
主な著書・論文	『戦略的リスクマネジメントで会社を強くする』(中央経済社 2017年)『事業継続計画による企業分析』(中央経済社 2013年)「事業継続計画の開示が株主資本コストに与える影響」(現代ディスクロージャー研究 2012年)「事業継続計画と経営者業績予想の関係」(共著 経営財務研究 2011年)『事業継続マネジメントを理解する本』(日刊工業新聞社 2006年)	

小野 良平 (オノ リョウヘイ)	教授	研究室：N5616 ☎048-471-7442
オフィスアワー	水曜日 14:00~15:00	
E-mail アドレス	wono@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光概論 環境・景観論 風土と観光 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光環境・計画学研究(2) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	観光地等における地域の風景・景観の評価論・保全計画論	
主な著書・論文	『復興の風景像・ランドスケープの再生を通じた復興支援のためのコンセプトブック』(マルモ出版 2012年) 『森林風景計画学』(地球社 2008年) 『公園の誕生』(吉川弘文館 2003年)	

齋藤 明 (サイトウ アキラ)		准教授	研究室：N5515 ☎048-471-6783
オフィスアワー	火曜日 12:25~13:25		
E-mail アドレス	後日掲示		
担当授業科目	*観光学への誘い マーケティング・エッセンシャルズ1/2		
研究分野	マーケティング論, 消費者行動論, 旅行者の消費および情報行動研究		
主な著書・論文	『マーケティング・オン・ビジネス』(共著 新世社 2016年) 『訪日台湾人観光客の日本での買物への態度と買物行動 - 「なぜ日本で買うのか」に関する探索的研究 - 』(単著 『産業経済研究』 2018年)		

庄司 貴行 (ショウジ タカユキ)		教授	研究室：N5502 ☎048-471-7415
オフィスアワー	火曜日 12:25~13:25		
E-mail アドレス	tashoji@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	組織と人的資源経営 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 ラグジュアリーブランド・マネジメント1/2 ヒューマン・リソース・マネジメント1/2		
研究分野	経営組織論, 産業社会学, 人的資源管理論, 観光産業における商品開発組織の研究		
主な著書・論文	『ビジネスクリエーターとビジネスデザイン』(創成社, 2006年) 『ホテルアセットマネジメント—原理と実践』(監訳)(立教大学出版会, 2014)		

杜 国慶 (ト コッケイ)		教授	研究室：N5507 ☎048-471-7399
オフィスアワー	火曜日 12:25~13:10 *2019年度秋学期長期海外出張		
E-mail アドレス	guoqingd@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	言語と文化現地研修A/B 都市観光論 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光地理学研究(2) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B		
研究分野	都市観光, 地理情報システム (GIS), 観光地理学		
主な著書・論文	『Tourism and Urban Transformation』(有斐閣アカデミア, 2006), 『Cities in Global Perspective: Diversity and Transition』(立教大学, 2005) 『Spatial analysis on sightseeing visit destination in metropolitan area: A case study of Chinese tourists' Tokyo visiting』 (『Urban Changes in Different Scales: Systems and Structures』, 2006)		

西川 亮 (ニシカワ リョウ)	助 教	研究室：N5607 ☎048-471-7393
オフィスアワー	火曜日 12:25~13:00, 金曜日 12:25~13:00	
E-mail アドレス	r.nishikawa@rikkyo.ac.jp	
担 当 授 業 科 目	観光調査・研究法入門 早期体験プログラム 都市計画論 市民参加とまちづくり 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B	
研 究 分 野	都市計画, 観光計画, 観光まちづくり, 観光に関わる人物史, 文化遺産の保全と活用	
主な著書・論文	「観光地経営の視点と実践」(共著, 丸善出版, 2013年), 「西山外三の観光計画論に関する研究」(共著, 都市計画学会, 2017年), 「戦前の別府市における都市計画に関する研究」(共著, 建築学会, 2017年), 「欧州評議会による「文化の道」政策に関する研究」(共著, 都市計画学会, 2010年)	

澁谷 和樹 (シブヤ カズキ)	助 教	研究室：N5607 ☎048-471-7393
オフィスアワー	水曜日 12:25~13:25	
E-mail アドレス	後日掲示	
担 当 授 業 科 目	観光調査・研究法入門 早期体験プログラム 国際観光と地域交流 GIS演習 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B	
研 究 分 野	訪日旅行者行動の地理学的研究, 大都市圏における観光行動・余暇活動研究	
主な著書・論文	「訪日外国人旅行者にみられる都道府県間流動の空間構造」(立教観光学研究紀要, 2017) 「外出時間にみた大都市圏郊外住民の余暇活動の空間構造—町田駅周辺住民を対象に一」(地理空間, 2016) 「富士山麓における別荘地の開発と利用形態」(共著, 地学雑誌, 2015)	

【特任】

野澤 肇 (ノザワ ハジメ)	教授	研究室：N 5 5 1 4 ☎048-471-7468
オフィスアワー	月曜日 10:00~17:00	
E-mail アドレス	5060577@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	旅行産業論 旅行業経営実務 旅行産業演習1 (A)/(B) 旅行産業演習2 (A)/(B)	
主な業績	(株)日本交通公社入社、JTB欧州本社社長等を経て(株)JTB総合研究所社長	
主な著書・論文	『観光のビジネスモデル』共著 (2011年, 学芸出版社) 『旅行業の扉 JTB100年のイノベーション』共著 (2013年, 碩学社)	

梅川 智也 (ウメカワ トモヤ)	特任教授	研究室：N 5 5 0 3 ☎048-471-7414
オフィスアワー	金曜日 12:30~13:00, 17:15~18:00	
E-mail アドレス	umekawa@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光地研究演習1 (A)/(B) 観光地研究演習2 (A)/(B) 観光政策・行政論 観光地運営管理論	
主な業績	全国の観光地の活性化や観光計画の策定、観光地経営、観光まちづくりなどに取り組む。国土交通省、観光庁、文化庁など各種委員、筑波大学大学院客員教授、日本観光研究会副会長。技術士 (建設部門/都市及び地方計画)。	
主な著書・論文	<ul style="list-style-type: none"> ・『観光学全集 第7巻 「観光計画論」』梅川智也編著, 原書房, 2018 ・『観光地経営の視点と実践』(公財)日本交通公社編著, 丸善出版, 2013, ・『観光まちづくりーまち自慢からはじまる地域マネジメント』西村幸夫編著, 学芸出版社, 2009 他 	

交流文化学科

【専任】

門田 岳久 (カドタ タケヒサ)	准教授	研究室：N5611 ☎048-471-7426
オフィスアワー	月曜日 12:25~13:25	
E-mail アドレス	kadota@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	早期体験プログラム 交流文化研究2(文化人類学の方法) 観光と宗教 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光人類学研究(3) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	①宗教とツーリズムの関係、経験消費としての聖地巡礼に関する現代民俗学的研究 ②ローカルガバナンスと地域文化運動に関する実践人類学	
主な著書・論文	『巡礼ツーリズムの民族誌—消費される宗教経験』(森話社, 2013年) 『〈人〉に向きあう民俗学』(編著, 森話社, 2014年) 『文明史のなかの文化遺産』(共著, 臨川書店, 2017年) 『東アジア観光学』(共著, 垂紀書房, 2017年)	

葛野 浩昭 (クズノ ヒロアキ)	教授	研究室：N5511 ☎048-471-7390
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00	
E-mail アドレス	hkuzuno@jcom.zaq.ne.jp	
担当授業科目	観光調査・研究法入門 早期体験プログラム 観光人類学1 エスニックツーリズム論 演習(2年)B 演習(3年)B 演習(4年)B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光人類学研究(2) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	文化人類学研究(先住少数民族の文化的復興・自治運動, 北欧社会, などの研究)	
主な著書・論文	『サンタクローズの大旅行』(単著, 岩波新書, 1998年), 『文化人類学研究:先住民の世界』(共編著, 放送大学大学院, 2005年), 『家畜の文化』(共著, 岩波書店, 2009年), 『観光文化学』(共著, 新曜社, 2007年), 『資源化する文化』(共著, 弘文堂, 2007年), 『世界の食文化②極北』(共著, 農文協, 2005年)	

舩谷 鋭 (マスタニ サトシ)	教授	研究室：N5618 ☎048-471-7448
オフィスアワー	火曜日 12:25~13:25	
E-mail アドレス	masutani@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光調査・研究法入門 言語と文化現地研修A/B 交流文化研究4(交流文学の方法) 交流文学論 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光文学研究(1) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B *観光立国と日本の成長・地方創生	
研究分野	観光文学研究, マレーシア華文学(馬華文学), 華僑・華人研究	
主な著書・論文	『東南アジア文学への招待』(段々社 2001年), 『Why does it say 'Mahua Literatute'?』(NUS-JSPS 2002年), 『マレーシア, シンガポールの華語系華文学について』(『域外の文化』2004年), 『馬華文学与国家文学』(『全球語境, 多元対話, 馬華文学』2004年), 『アジアにおけるオーラルヒストリー』(日本オーラルヒストリー研究 2007年), 『レッドツーリズムとは何か』(暮らしと観光 2009年) 『シンガポールを知るための65章』(明石書店 2014年) 『観光文学研究とエコクリティシズム』(紀要 2017年)	

松村 公明 (マツムラ コウメイ)	教授	研究室：N5513 ☎048-471-7457
オフィスアワー	月曜日 13:25~15:05 *2019年度秋学期研究休暇	
E-mail アドレス	matsumurak@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光地理学2 外国地誌1 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光地理学研究(1) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	観光地理学・都市地理学・フランス地誌。ゲートウェイとしての都市、観光による都市空間の変遷に関する地理学的研究。おもなフィールドは、日本の地方都市とフランス、ベトナムの都市地域。	
主な著書・論文	『文化ツーリズム学』(共編著、朝倉書店、2016年)、『改革開放後の中国僑郷－在日老華僑・新華僑の出身地の変容』(共著、明石書店、2014年)、『旧サイゴン困窮地区における行政機能の変遷と都市景観の特色』(共著、立教大学観光学部紀要、16、2014年)、『日本の地誌4 東北』(共著、朝倉書店、2008年)、『EU統合下におけるフランスの地方中心都市－リヨン・ルール・トゥールーズ』(共著、古今書院、2003年)	

大橋 健一 (オオハシ ケンイチ)	教授	研究室：N5617 ☎048-471-7447
オフィスアワー	月曜日 12:30~13:10	
E-mail アドレス	ohashik@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光概論 言語と文化現地研修A/B 交流文化論 観光と文化 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光社会学研究(1) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	観光現象の文化人類学的・社会学的研究	
主な著書・論文	『「観光のまなざし」の転回』(共著、春風社、2004年)、『観光文化学』(共著 新曜社 2007年)、『よくわかる観光社会学』(共著 ミネルヴァ書房 2011年)、『文化ツーリズム学』(共著 朝倉書店 2016年)、『流動する移民社会』(共著 昭和堂 2016年)	

佐藤 大祐 (サトウ ダイスケ)	教授	研究室：N5505 ☎048-471-7402
オフィスアワー	月曜日 13:20~15:00	
E-mail アドレス	dsato@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	言語と文化現地研修A/B 交流文化研究1(地理学の方法) 観光地理学1 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光地理学研究(3) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	海岸や高原のリゾートを対象に、余暇文化の起源や堆積のプロセスを、文化の伝播と受容、それに伴う地域の形成という視点から研究している。	
主な著書・論文	1. 「文化ツーリズムとスポーツ観光」『よくわかる観光学3 文化ツーリズム学』(朝倉書店 2016年) 2. 「富士山麓における別荘地の開発と利用形態」(地学雑誌 2015年) 3. 「Summering in Japanese hill stations : an analysis of villa ownership in modern Karuizawa」(Annals of Leisure Research 2014年)	

千住 一 (センジュ ハジメ)		准教授	研究室：N 5 6 1 2 ☎048-471-7435
オフィスアワー	月曜日 13:25~15:05		
E-mail アドレス	senju@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	観光調査・研究法入門 観光史 早期体験プログラム 植民地と観光 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光歴史学研究 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B *観光学から見た東京N		
研究分野	近代日本における観光政策の成立と展開 近代日本における植民地と観光の関係性		
主な著書・論文	『日本植民地研究の論点』(共著, 岩波書店, 2018年) 『1930年のおみやげ』(『観光学評論』6巻2号, 2018年) 『博覧会絵はがきとその時代』(共著, 青弓社, 2016年) 『観光学ガイドブック』(共著, ナカニシヤ出版, 2014年)		

高岡 文章 (タカオカ フミアキ)		教授	研究室：N 5 6 0 6 ☎048-471-7459
オフィスアワー	月曜日 13:25~15:05		
E-mail アドレス	tkkfmk@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	観光調査・研究法入門 観光社会学2 交流文化研究3(社会学の方法) 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光社会学研究(3) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B		
研究分野	観光社会学, あるいは都市・地域・文化・社会をめぐる諸問題の探究		
主な著書・論文	『ポケモンGOからの問い—拡張される世界のリアリティ』(共著, 新曜社, 2018年) 『観光とメディアとルート—ルート観光論へ向けて』(『観光学評論』第2号1巻, 2014年) 『よくわかる観光社会学』(共著, ミネルヴァ書房, 2011年) 『観光社会学のアクチュアリティ』(共著, 晃洋書房, 2010年)		

豊田 由貴夫 (トヨダ ユキオ)		教授	研究室：N 5 6 0 9 ☎048-471-7453
オフィスアワー	月曜日 12:25~13:25, 金曜日 12:25~13:25		
E-mail アドレス	ytoyoda@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	開発と文化 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光人類学研究(1) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B *睡眠文化論		
研究分野	文化人類学, オセアニア地域研究		
主な著書・論文	『睡眠文化を学ぶ人のために』(共著 世界思想社 2008年) 『展示の政治学』(共著 水声社 2009年), 「民衆知と専門知の相克—パプアニューギニアの農業を例として」 (AIIIC Journal 2011年) 『Recontextualizing Disney』(Social Science Japan Journal, 2014年)		

豊田 三佳 (トヨタ ミカ)	教授	研究室：N5512 ☎048-471-7392
オフィスアワー	月曜日 12:30~13:15 *2019年度春学期長期海外出張	
E-mail アドレス	toyotamika@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	言語と文化現地研修A/B 観光とジェンダー 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	開発社会学, 東南アジア地域研究, 退職者の国際移動 (ロングステイツーリズム), 医療ツーリズム	
主な著書・論文	'Confronting economic precariousness through international retirement : Japan's old-age 'economic refugees' and Germany's exported grannies' in Jillian M. Rickly-Boyd, Kevin Hannam and Mary Mostafanezhad(eds.) <i>Tourism and Leisure Mobilities : Politics, Work and Play</i> Routledge, pp.134-146 2017年	

石橋 正孝 (イシバシ マサタカ)	准教授	研究室：N5607 ☎048-471-7458
オフィスアワー	水曜日 12:25~13:25	
E-mail アドレス	masatakaishibashi@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光調査・研究法入門 早期体験プログラム 言説分析 言語と社会 紀行文学論 演習(2年)A/B 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光文学研究(2) 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	19世紀フランス文学。主な研究対象は、ジュール・ヴェルヌの連作〈驚異の旅〉の特質および生成過程、同時代の出版界の実態、旅と文学の関係など。	
主な著書・論文	『大西巨人 闘争する秘密』(左右社 2010年), <i>Le Projet Verne et le système Hetzel (Encrage 2015年)</i> , 『驚異の旅』または出版をめぐる冒険——ジュール・ヴェルヌとピエール＝ジュール・エツェル』(左右社 2013年), 『あらゆる文士は娼婦である』(共著 白水社 2016年), 「なぜシャーロック・ホームズは「永遠」なのか：コンテンツツーリズム論序説」(『群像』2017年12月号)	

越智 郁乃 (オチ イクノ)	助教	研究室：N5608 ☎048-471-7455
オフィスアワー	月・火曜日 12:25~13:25	
E-mail アドレス	ochiiku@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	観光調査・研究法入門 早期体験プログラム 観光の社会的広がり アジア太平洋観光論 演習(3年)A/B 演習(4年)A/B 卒業研究指導A/B 卒業論文 観光研究演習A/B 観光研究基礎指導A/B 修士論文指導演習A/B	
研究分野	文化人類学, 民俗学, 葬墓制, 慰霊観光, 国境域観光, アート・ツーリズム, まちづくり, 持続可能な開発, 沖縄, 新潟, 横浜, 台湾, ドイツ, フランス	
主な著書・論文	『動く墓—沖縄都市移住者の祖先祭祀—』(単著 2018年 森話社) 『境域の人類学—八重山・対馬にみる「越境」—』(共著 2017年 森話社) 「芸術作品を通じた人のつながりの構築と地域活性化の可能性—新潟市における芸術祭と住民活動を事例に—」(『アジア社会文化研究』2014年) 『生をつなぐ家—親族研究の新たな地平』(共著 2013年 風響社)	

2019年度観光学部科目担当者一覧 (氏名ABC順)

専任教員

<観光学科>

教授	麻生 憲一
教授	東 徹
教授	韓 志昊
教授	羽生 冬佳
教授	橋本 俊哉
教授	毛谷村 英治 (2019年度研究休暇)
教授	野田 健太郎
教授	小野 良平
准教授	斎藤 明
教授	庄司 貴行
教授	杜 国慶 (2019年度秋学期長期海外出張)
助教	西川 亮
助教	澁谷 和樹
特任教授	野澤 肇
特任教授	梅川 智也

<交流文化学科>

准教授	石橋 正孝
准教授	門田 岳久
教授	葛野 浩昭
教授	舩谷 鋭
教授	松村 公明 (2019年度秋学期研究休暇)
教授	大橋 健一
教授	佐藤 大祐
准教授	千住 一
教授	高岡 文章
教授	豊田 由貴夫
教授	豊田 三佳 (2019年度春学期長期海外出張)
助教	越智 郁乃

<兼任講師>

法学部	薬師丸 正二郎
社会情報教育研究センター	五十嵐 彰

客員教授

フックス・ピーター
平 浩一郎

兼任講師

相澤 孝文
秋山 綾
新井 克弥
張 碧惠
藤井 達夫
藤波 美帆
藤田 玲子
福島 康博
二木 真
後藤 健太郎
羽生 敦子
長谷川 明彦
林 憲吾
井出 健二郎
井出 拓郎
五十嵐 誠
井門 隆夫
池尾 健太
今泉 良太
入江 公康
石井 久生
石井 一成
石井 優子
鄭 玉姫
角谷 恭一
海津 ゆりえ
菅野 正洋
金澤 大祐
嵩 和雄
加藤 久子
加藤 喜市
北川 泰三
小林 実司
小池 修司
近藤 寛和
近藤 育代
小西 公大
鞍田 正昭
呉 羽正
李 伊東
マーク 伊東
丸山 宗志
松井 圭介
味水 佑毅
宮入 恭平
宮下 克也
森 紀人
森 島 聡

守屋 邦彦
村上 雅巳
村上 綱実
村室 康成
永井 恵一
内藤 順子
中井 達郎
中牧 崇
中村 哲
中野 文彦
中山 大地
中那 一貴
丹羽 朋子
野口 洋平
抜井 ゆかり
小川 誠子
岡部 杏子
岡村 篤
岡村 克彦
小野 義典
大塚 直樹
小山 伸二
斎藤 薫
三王 昌代
佐々木 尚毅
清野 隆
関口 陽介
鹿野 美枝
下田 恭美
白石 智子
須永 和博
鈴木 涼太郎
鈴木 康永
高江洲 昌哉
竹村 和郎
田中 真知
丹治 朋子
梅原 裕子
ウエノ・ラッセル
黄 耀偉
山口 有次
柳川 悦子
安田 慎
安原 眞琴
吉澤 清良
米澤 朋英
吉田 ゆかり
湯 浅陽一

案内図

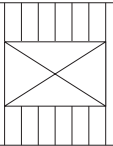
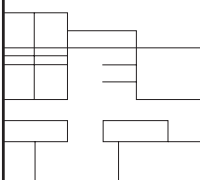
専任教員研究室一覧

構内案内図・教室案内図
(新座キャンパス)


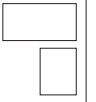
構内案内図・教室案内図
(池袋キャンパス)

(観光学部)

(5階)

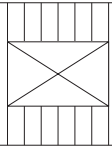
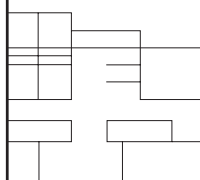
N5509		N5510
N5508		観光 リソースセンター
7399 N5507 杜		7390 N5511 葛野
7467 N5506 野田		7392 N5512 豊田(三)
		ラウンジ
7402 N5505 佐藤		7457 N5513 松村
7404 N5504 麻生		7468 N5514 野澤
7414 N5503 梅川		6783 N5515 斎藤・平
7415 N5502 庄司		N5516
		N5517 作業室

ブリッジ

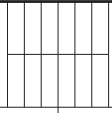
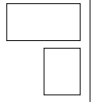
		7380 N5518 観光学部 事務室
		7375 (FAX 7379)
N5501 教育研究支援室 留学サポートセンター (FAX 048-471-4538)		7374 N5519 観光学部長室
		7382 N5520 会議室

(6階)

048-471-内線

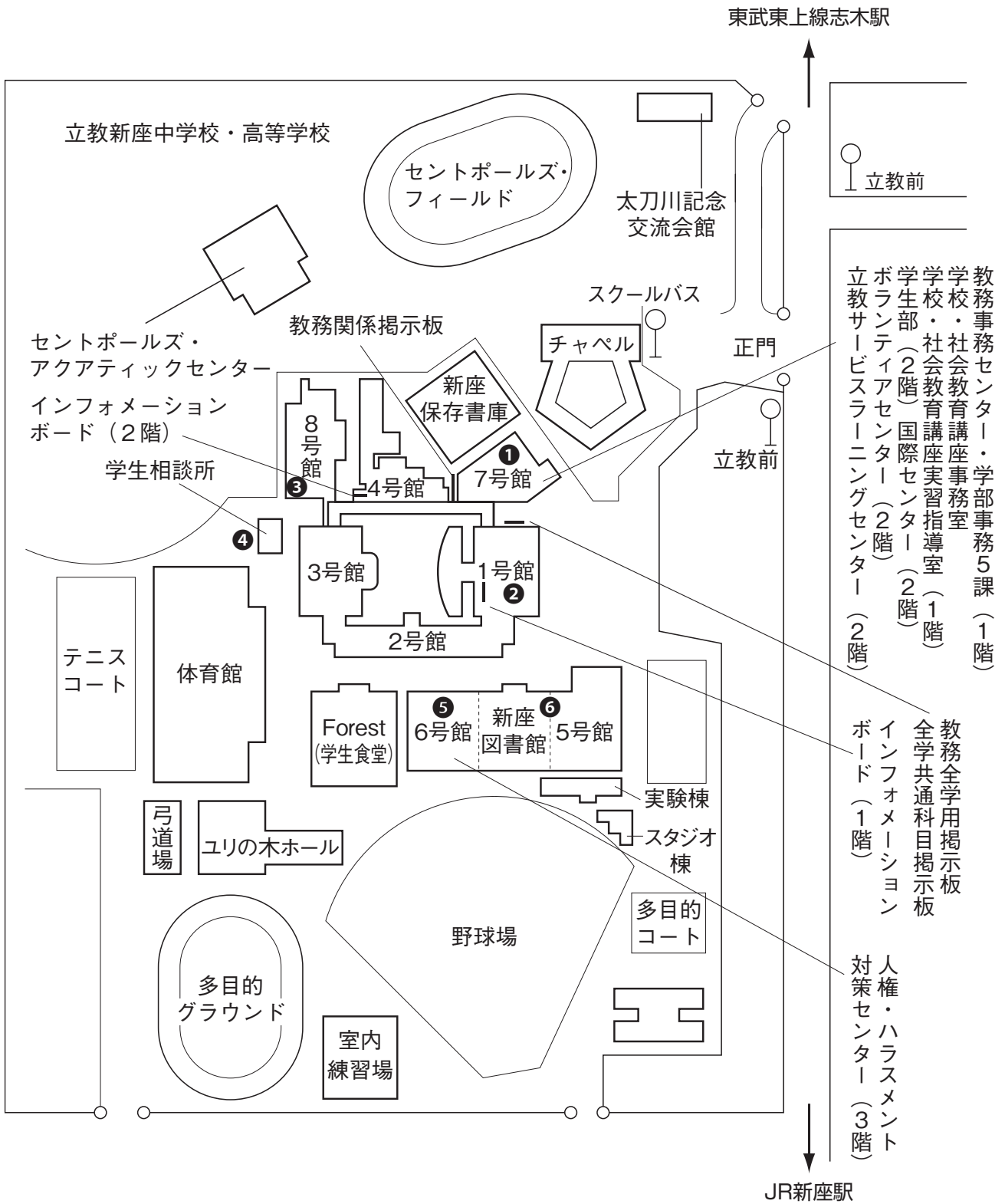
7453 N5609 豊田(由)		N5610
7455 N5608 助教室(越智)		7426 N5611 門田
7393 N5607 助教室(西川・澁谷)		7435 N5612 千住
7459 N5606 高岡		7438 N5613 毛谷村
		吹抜
7461 N5605 東		N5614
7463 N5604 韓		7458 N5615 石橋
7466 N5603 フックス		7442 N5616 小野
7469 N5602 羽生		7447 N5617 大橋
		7448 N5618 舛谷
		7452 N5619 橋本

ブリッジ

		7010 パントリー
		
7425		N5601 会議室

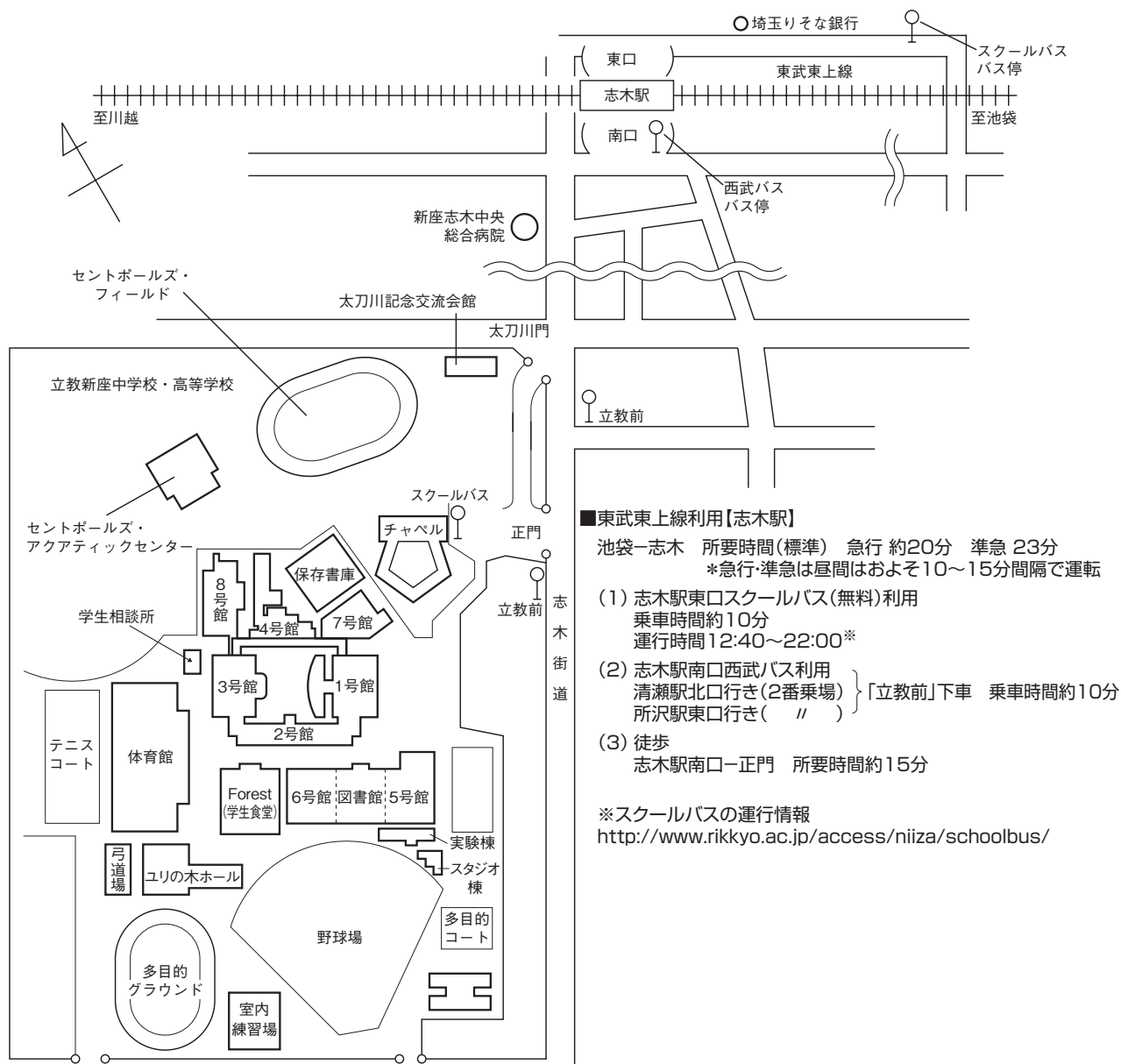
構内案内図（新座キャンパス）

キャンパス案内図



※黒丸の数字は「こんなときは」(208頁)上の位置を示す。

新座キャンパス構内案内図・交通案内図



■東武東上線利用【志木駅】
 池袋-志木 所要時間(標準) 急行 約20分 準急 23分
 *急行・準急は昼間はおよそ10~15分間隔で運転

- (1) 志木駅東口スクールバス(無料)利用
 乗車時間約10分
 運行時間12:40~22:00*
- (2) 志木駅南口西武バス利用
 清瀬駅北口行き(2番乗場) } 「立教前」下車 乗車時間約10分
 所沢駅東口行き(") }
- (3) 徒歩
 志木駅南口-正門 所要時間約15分

※スクールバスの運行情報
<http://www.rikkyo.ac.jp/access/niiza/schoolbus/>

■JR武蔵野線利用【新座駅】

- (1) 新座駅南口スクールバス(無料)利用
 乗車時間約10分
 運行時間7:30~22:00*
 (西武バス3番乗場付近)
- (2) 新座駅南口西武バス利用
 志木駅南口(北野入口経由)行き(1番乗場)
 「立教前」下車 乗車時間約10分
- (3) 徒歩
 新座駅-正門 所要時間約25分

■西武池袋線利用【清瀬駅】
 清瀬駅北口西武バス利用
 志木駅南口行き(2番乗場)
 「立教前」下車 乗車時間約30分

案内図

新座キャンパス教室案内図

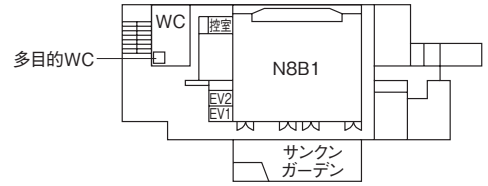
教室番号の見方



Nは新座を示す。
号館
階
番号
※ただしTは体育館を示す。

地下1階

8号館

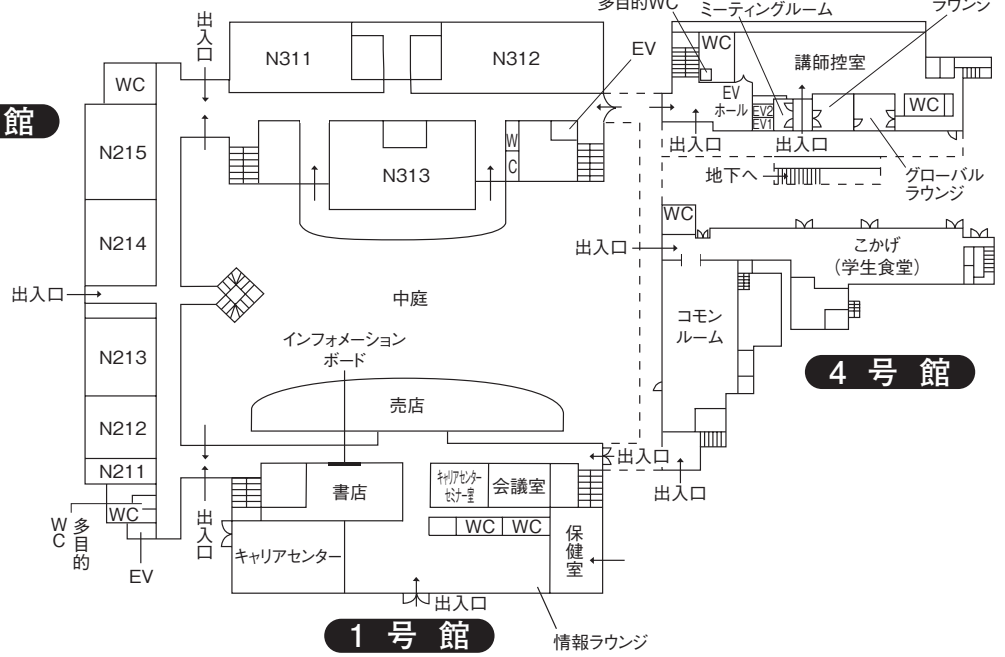


1階

2号館

3号館

8号館

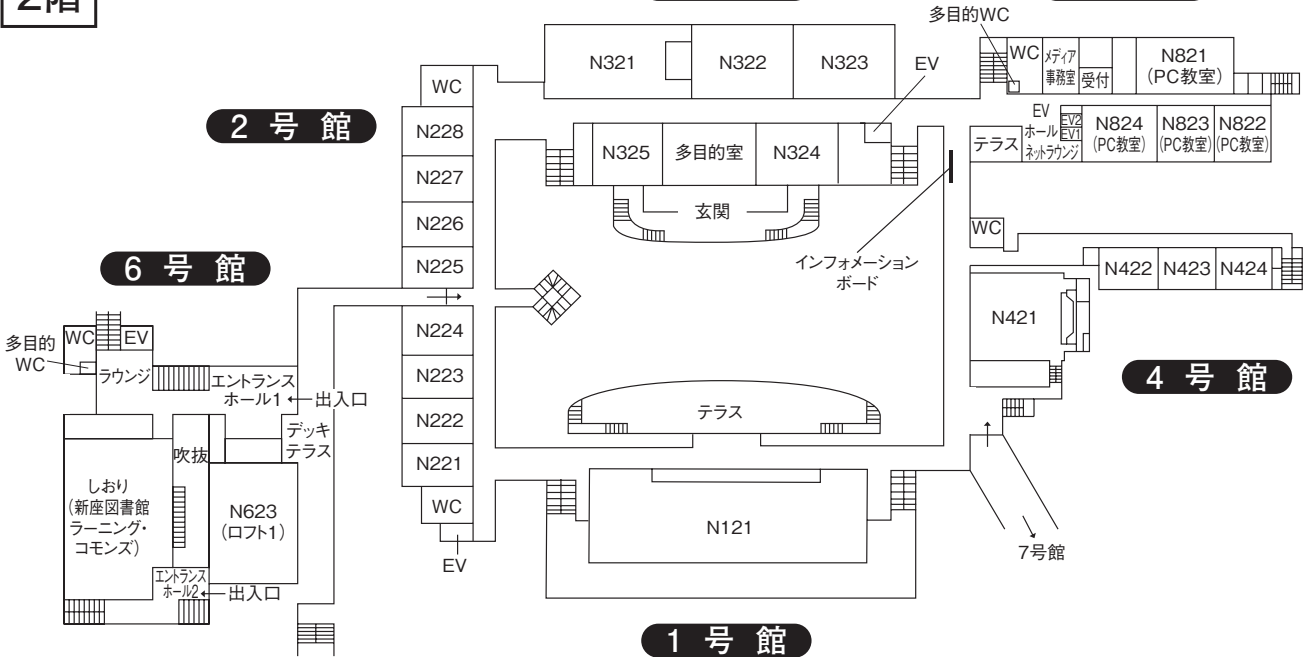


2階

2号館

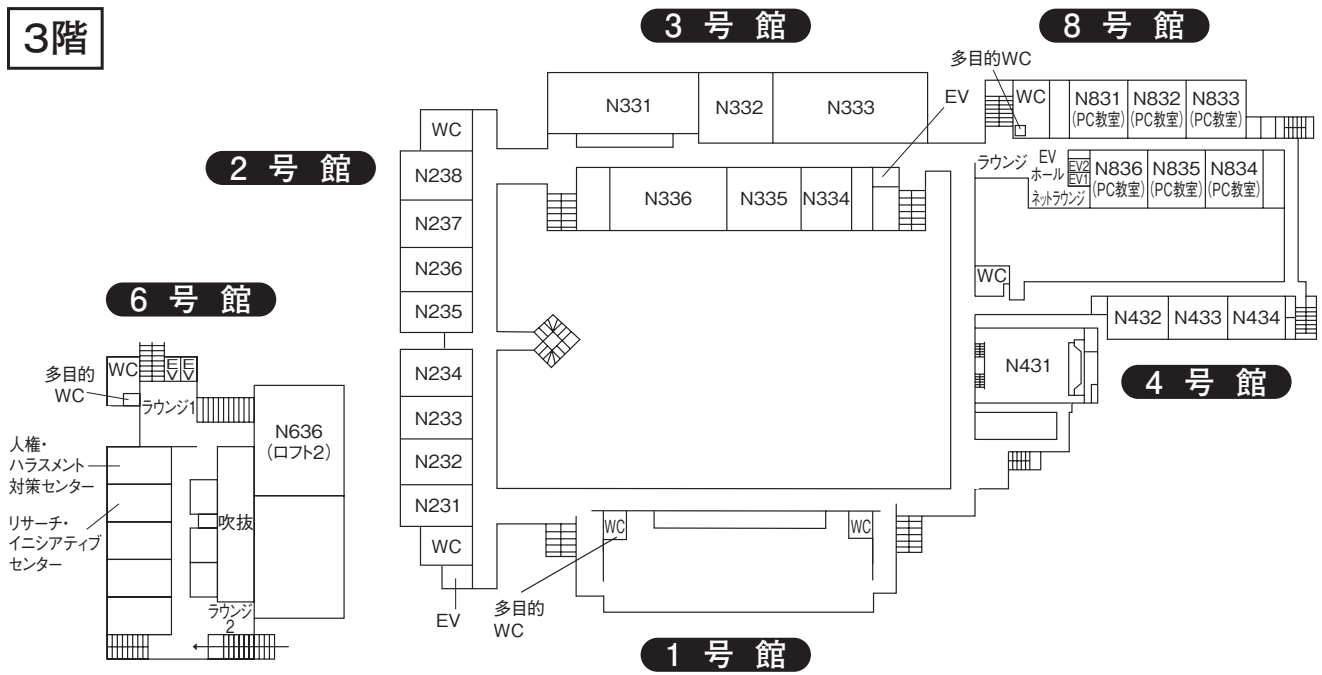
3号館

8号館

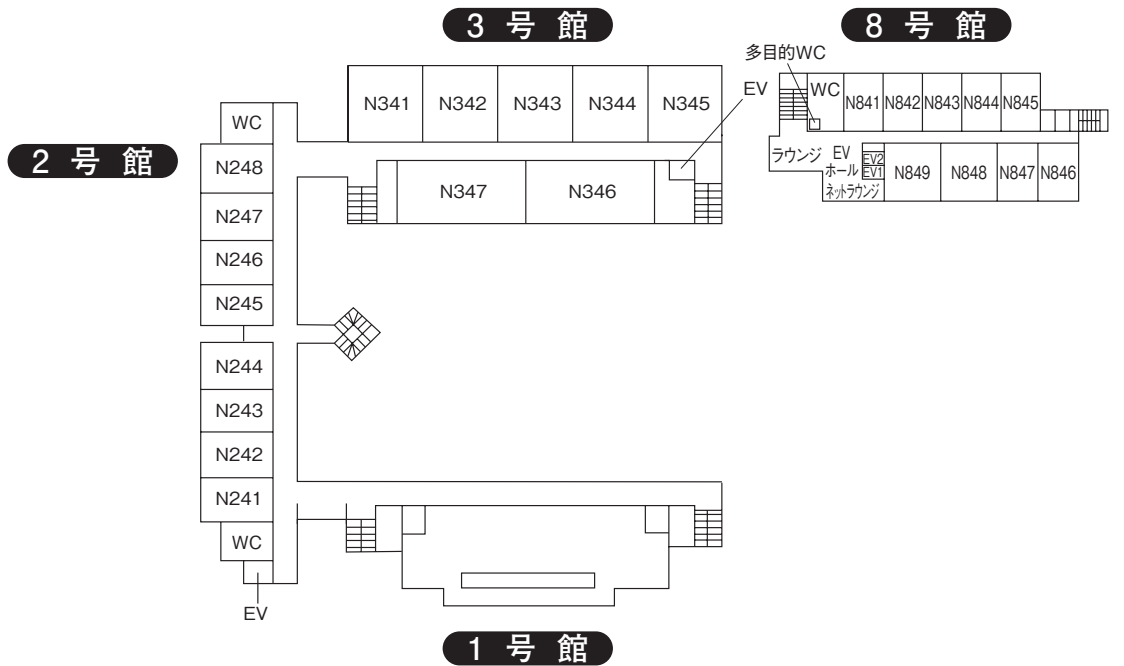


新座キャンパス教室案内図

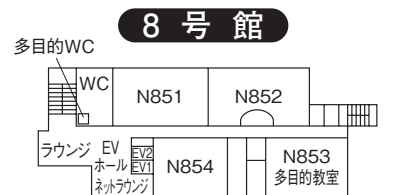
3階



4階



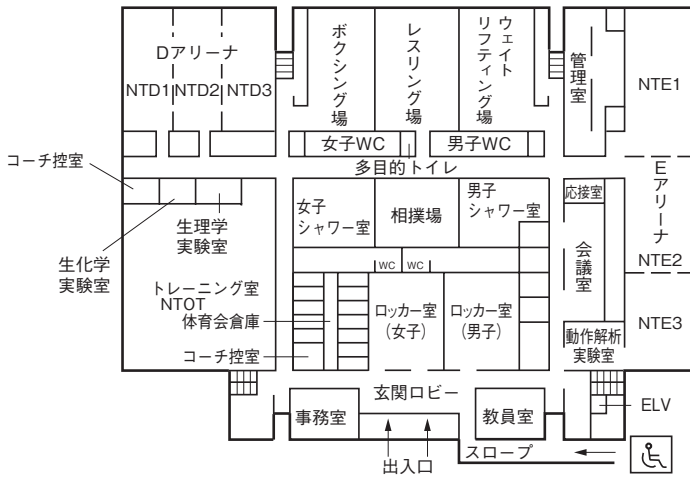
5階



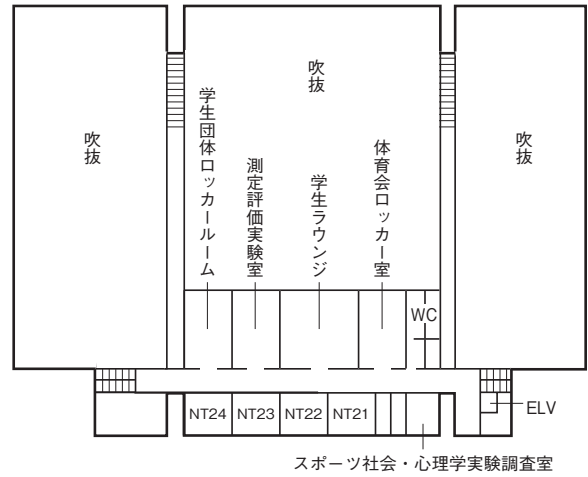
案内図

新座キャンパス体育館

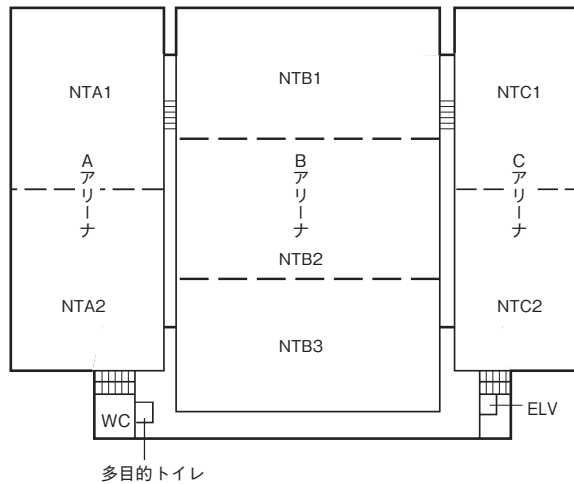
体育館 1階



体育館 2階



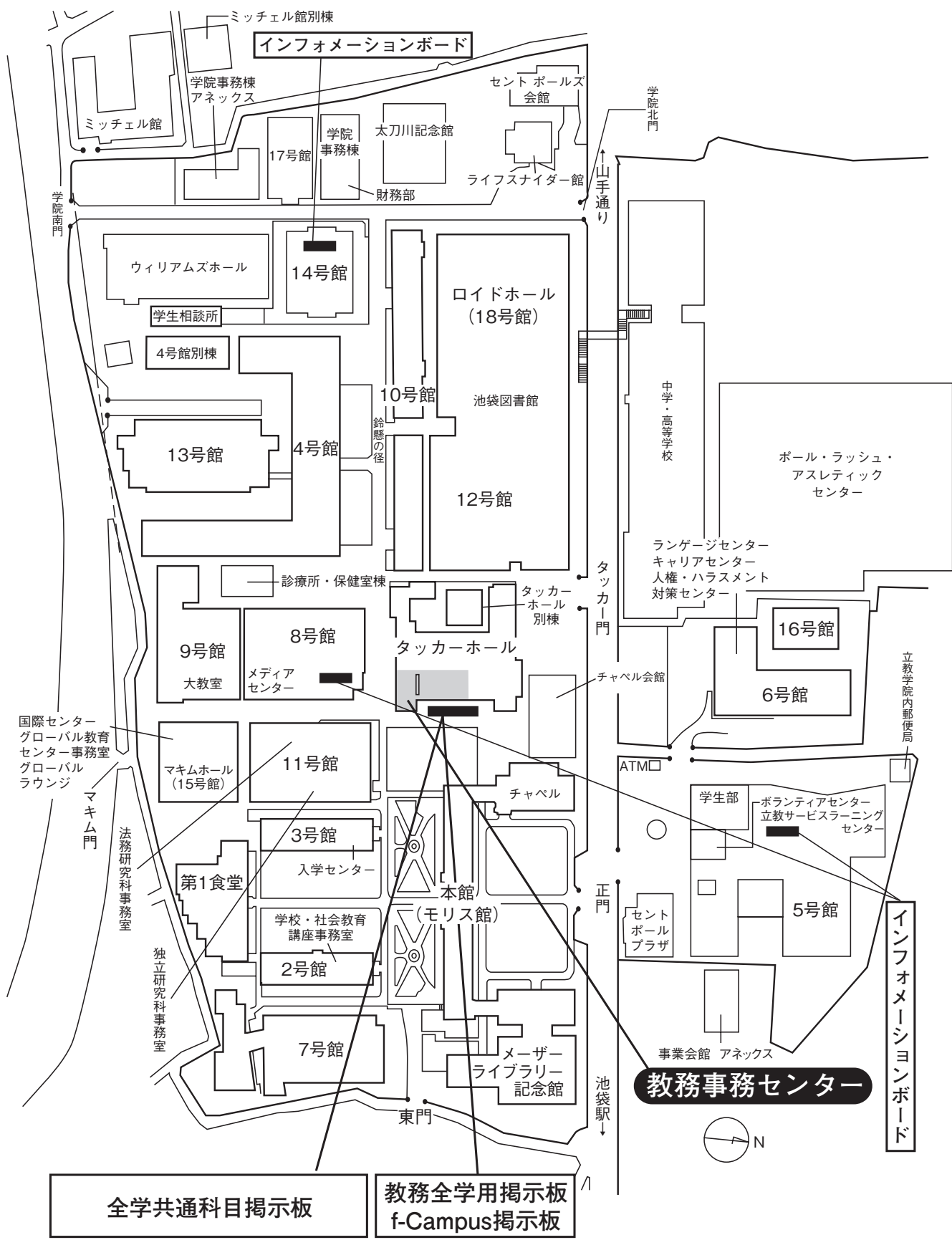
体育館 3階



※その他の新座キャンパス屋外施設

- ・テニスコート (NZT1)
- ・多目的グラウンド (NZA1)
- ・セントポールズ・アクアティックセンター (NPL1)

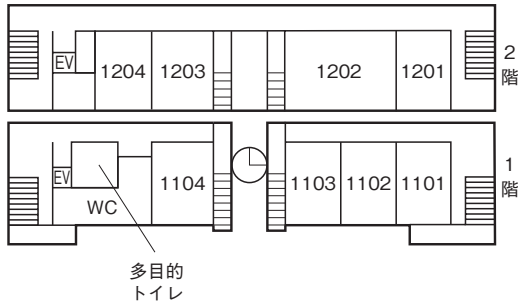
池袋キャンパス構内案内図



案内図

池袋キャンパス教室案内図

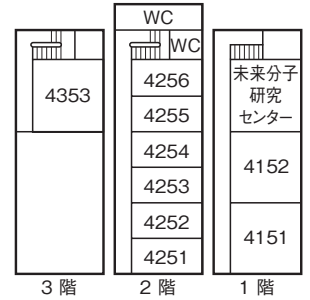
本館



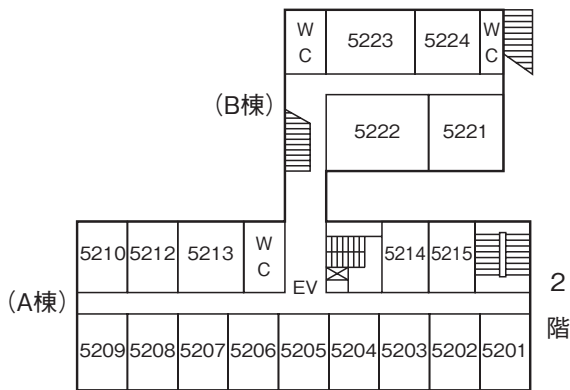
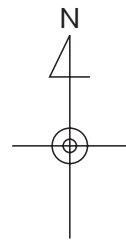
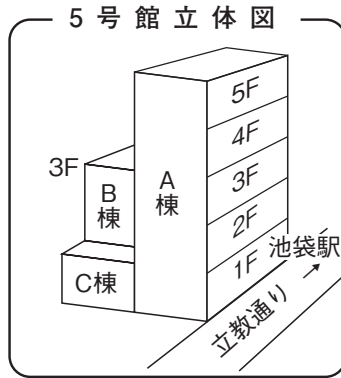
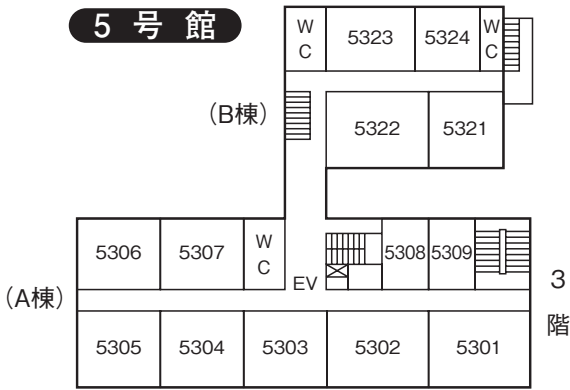
4号館



4号館別棟



5号館



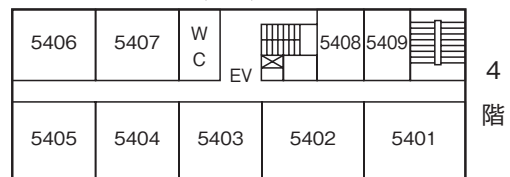
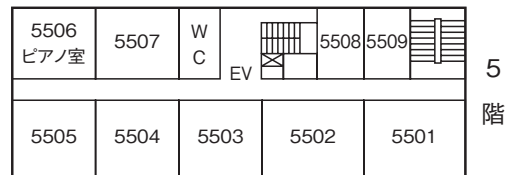
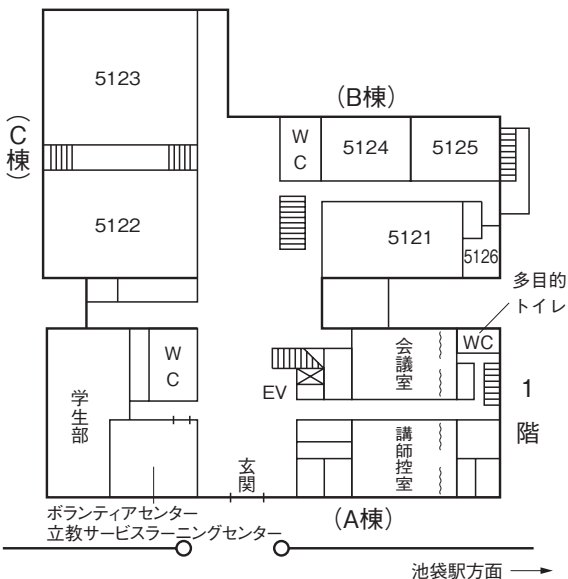
教室番号の見方



号館を示す。ただし 1…本館
X…10号館
A…11号館
D…14号館
M…マキムホール (15号館)
S…事業会館 アネックス
P…ポール・ラッシュ・アスレティックセンター
(例……5323→5号館3階B棟)

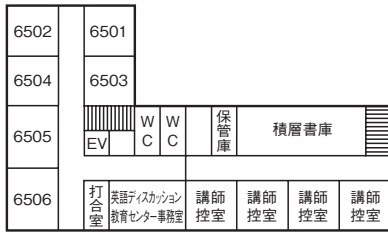
階を示す。

その階の東南隅の教室を01として右廻りの順に番号を与える。
5号館 B棟 C棟について20番台で表示する。

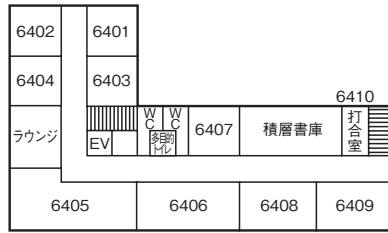


6号館

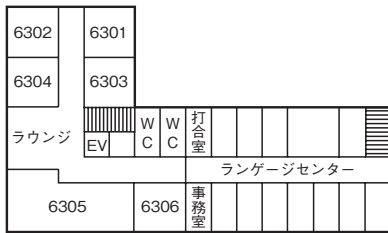
5階



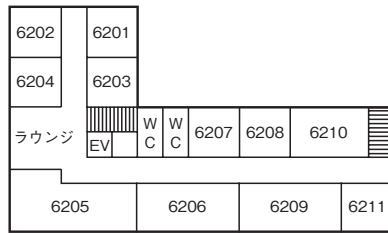
4階



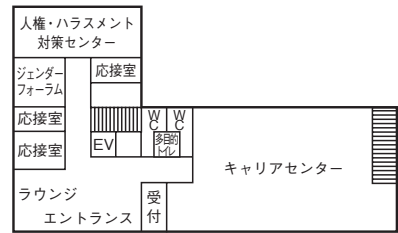
3階



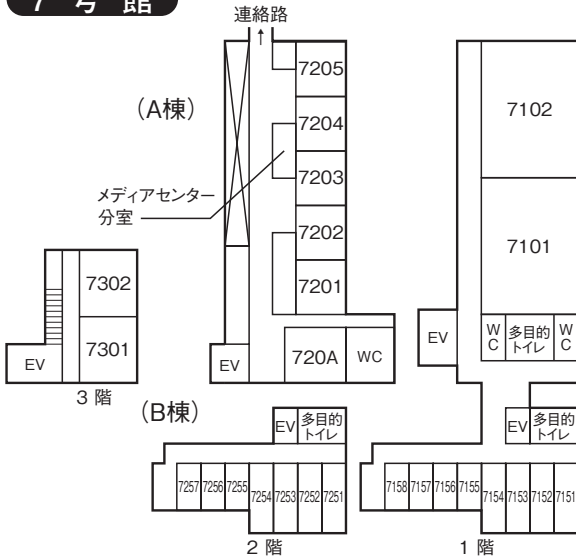
2階



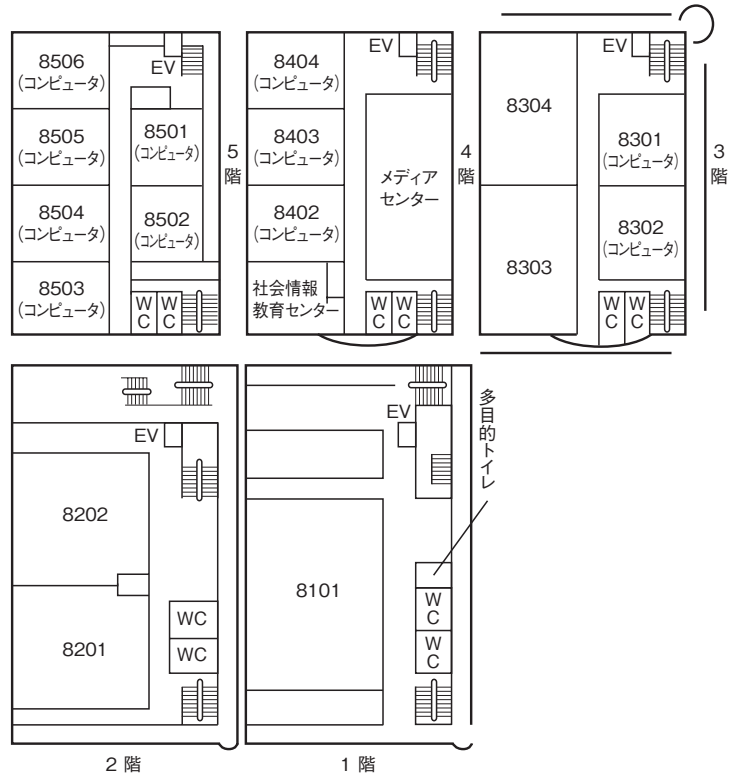
1階

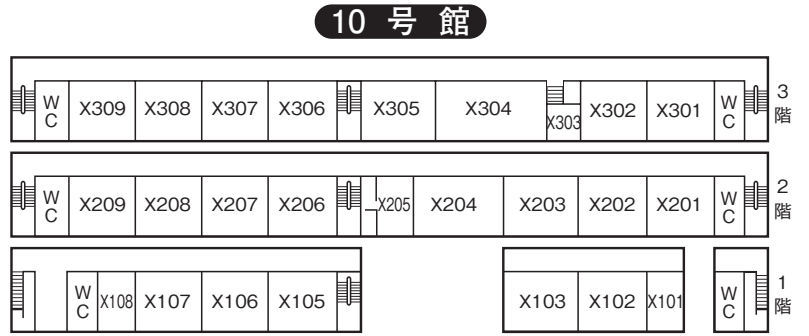
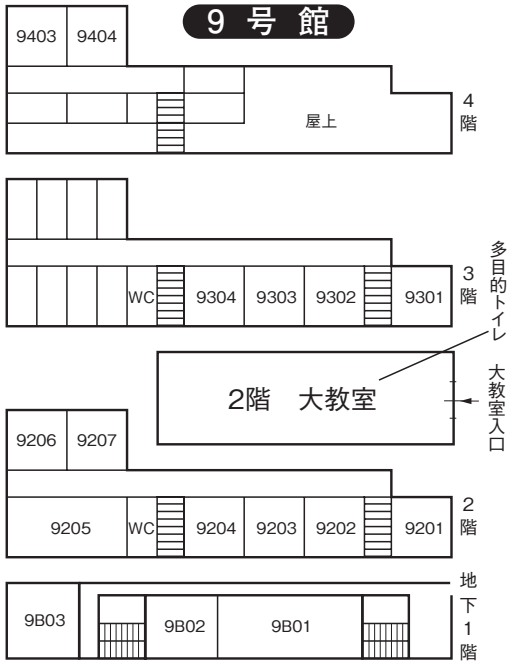


7号館

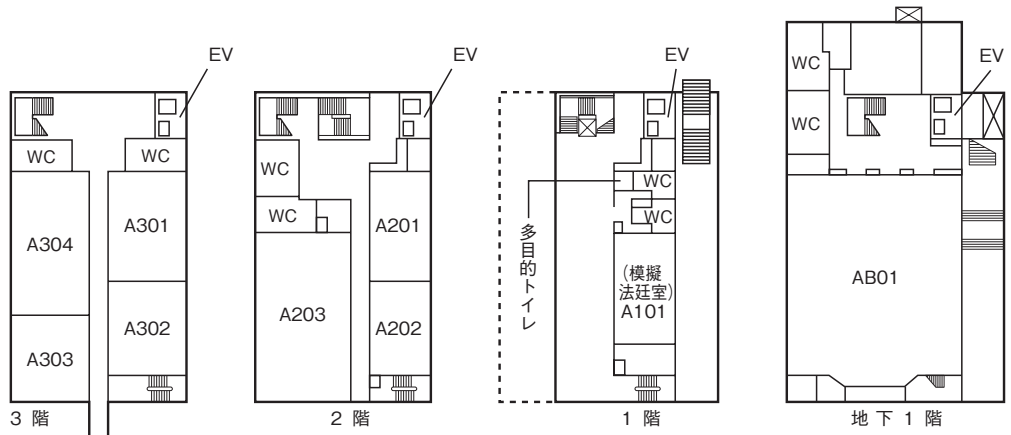


8号館

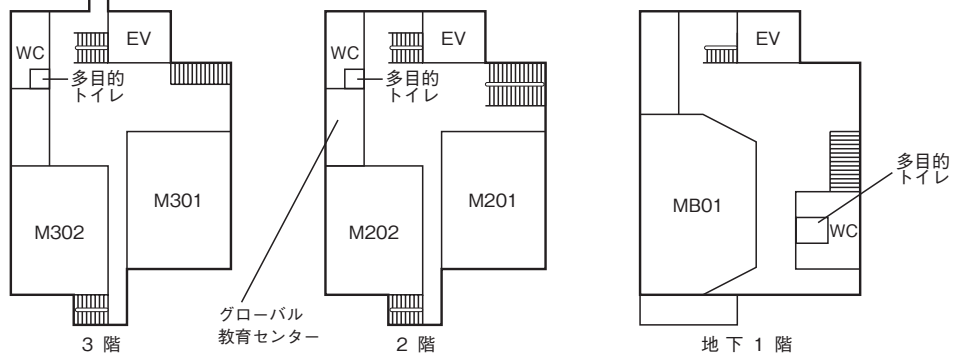




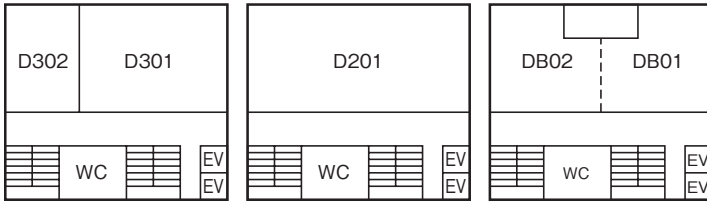
11号館



マキムホール (15号館)



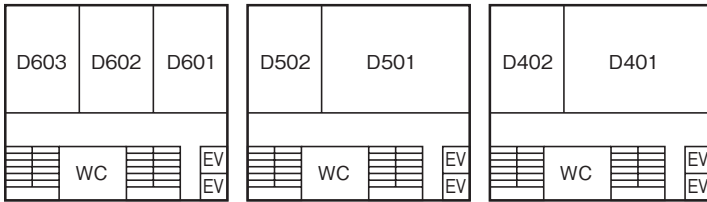
14号館



3階

2階

地下1階

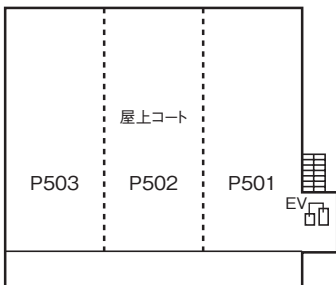


6階

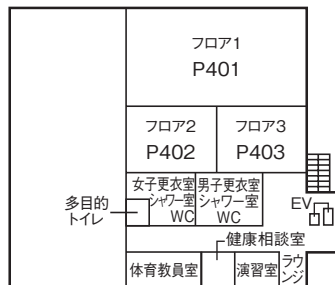
5階

4階

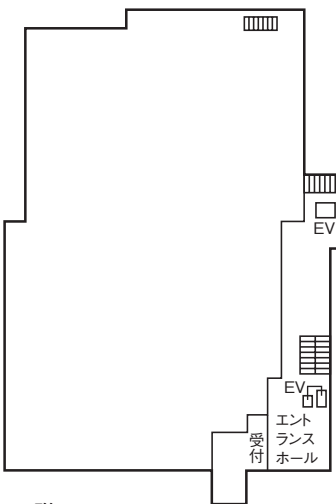
ポール・ラッシュ・アスレチックセンター



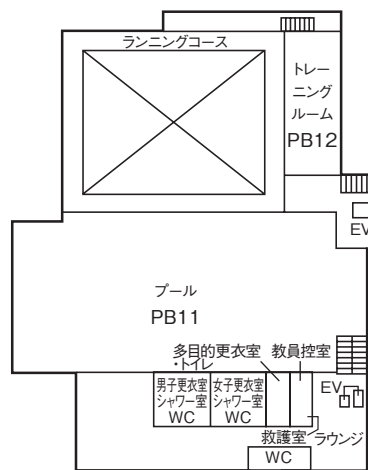
5階



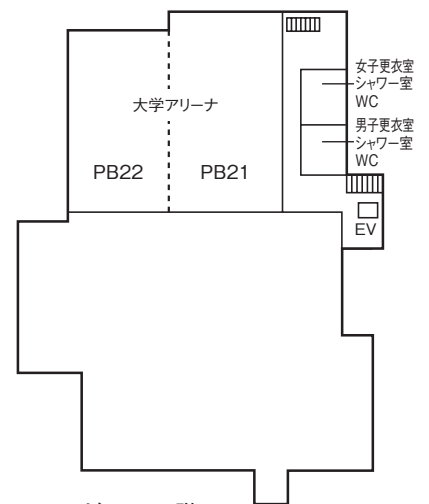
4階



1階



地下1階



地下2階

こんなときは		黒丸の数字は☞構内案内図（新座キャンパス）上の位置を示す
学籍事項（住所・電話番号・保証人・氏名等）に変更があった	教務事務センター（新座7号館1階）①	
奨学金を受けたい	学生部・国際センター（新座7号館2階）①	
落とし物をした・学内で盗難にあった	学生部（新座7号館2階）①	
進路・就職・インターンシップについて相談したい	キャリアセンター（新座1号館1階）②	
転部・転科について知りたい 立教大学大学院への進学について知りたい	入学センター （池袋キャンパス：3号館1階）	
学内でからだの具合が悪くなった	保健室（新座1号館1階）②	
大学での活動中にけがをした（学生健保・学研災の手続き等）	学生部（新座7号館2階）①	
パソコンやメールを使いたい	メディアセンター（新座8号館2階）③	
学校・社会教育の資格を取得するには	学校・社会教育講座事務室（新座7号館1階）①	
こまったとき、悩んだときは	学生相談所④	
ハラスメントについて悩んだときは	人権・ハラスメント対策センター（新座6号館3階）⑤	
学費について知りたい	財務部経理課（池袋キャンパス：立教学院事務棟1階）	
留学制度について知りたい	国際センター（新座7号館2階）①	
図書館を利用したい *シラバスに記載の参考書等は、原則として図書館で利用できる。	新座図書館⑥	

2019年4月

立 教 大 学 観 光 学 部
立教大学大学院観光学研究科

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
立教大学新座キャンパス教務事務センター
☎048-471-6942



学生番号：

氏名：

履修要項は再交付しないので保管に注意すること